

大阪狭山市
子どもの育ちと子育てに関する
アンケート調査結果報告書

令和6年5月

大阪府 大阪狭山市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の種類と実施方法	1
3. 調査票の配布と回収状況	1
4. 報告書の見方について	2
(1) 年齢・学年の定義	2
(2) 数値の基本的な取り扱いについて	2
(3) その他事項について	2
5. 調査対象者の属性・家族状況等	3
(1) 小学校区について	3
(2) 回答者の続柄について	3
(3) 子どもの年齢・学年について	4
(4) 子どもの人数について	4
(5) 望む子どもの数について	5
(6) もう1人以上の子どもが欲しいと思うか	6
(7) どのような環境が整えばもう1人以上の子どもがほしいか	6
第2章 子育て家庭を取り巻く環境	7
1. 子育ての環境について	7
(1) 子どもと一緒に住んでいる人や祖父母の住まいの状況	7
(2) 子育ての主な担い手	7
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人	8
(4) 子育てや教育についての相談先の有無	9
(5) 子育ての相談先	9
2. 保護者の就労状況	11
(1) 母親・父親の就労状況	11
(2) 就労日数・就業時間・出勤時間・帰宅時間	14
(3) フルタイムへの転換希望	17
(4) 働きたいという希望	18
(5) 働きたい理由	21
3. 子育てに対する意識	22
(1) 近所で日常的に子どもの話や世間話をする人の有無	22
(2) 子育てに対する感じ方	23

(3) 子育てに必要な支援・対策	24
(4) 子育てに関して日ごろ悩んでいること、気になること	25
(5) 子育てが地域の人に支えられていると感じるか	27
4. 子どもの生活習慣について	32
(1) 朝ごはんを食べるか	32
(2) 1日1回は家族と一緒に食事をするか	33
(3) 平日のテレビ、タブレット、スマートフォン等の1日あたりの平均視聴時間	33
(4) 就寝時刻	34
(5) 子どもの普段の過ごし方	34
第3章 サービス利用の現状と今後の利用希望	37
1. 平日に定期的に利用しているサービスについて	37
(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	37
(2) 平日の定期的な教育・保育事業を利用しない理由	39
(3) 平日の定期的な教育・保育事業の現在の利用日数〔日／週〕	41
(4) 現在利用している施設の場所	42
(5) 施設やサービスを利用している理由	43
2. 平日に定期的に利用したい教育・保育事業について	44
(1) 平日に定期的に利用したい施設やサービス	44
(2) 幼稚園の強い入園希望	45
3. 休日、長期休業中における定期的な教育・保育事業の利用希望について	45
(1) 土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	45
(2) 長期休業中の幼稚園の利用希望	47
4. 不定期の一時保育の利用について	48
(1) 過去1年間に利用した子どもを預けるサービス	48
(2) 保育所などでの預かり保育の利用希望	50
(3) 子どもを預ける場合に望ましい子育て支援サービス	53
(4) 短期入所生活援助事業の利用希望	54
5. 地域の子育て支援拠点事業やサービスの利用状況について	57
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況	57
(2) 地域子育て支援拠点事業の利用希望	59
(3) 地域子育て支援拠点事業において利用したいサービス	60
(4) 子育て支援サービスの認知度・利用度	61
6. 子どもが双子または3人以上いる場合に必要な支援やサービスについて	63
(1) 子育ての負担を軽減するのに有効な支援やサービス	63
7. 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望について	65
(1) 教育・保育事業所へ定期的に通っているか	65

(2) 「こども誰でも通園制度（仮称）」の認知度	65
(3) 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望	66
(4) 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用を開始したい子どもの年齢	67
(5) 「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用したい理由	68
(6) 「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用する場合に利用したい事業所	68
8. 病気になったときの対応について	70
(1) 子どもが病気で通常の事業が利用できなかった過去1年間の経験	70
(2) 子どもが病気の際の過去1年間の対処方法（就学前児童）	70
(3) 子どもが病気の際の過去1年間の対処方法（就学児童）	72
(4) 子どもが病気の際における病児・病後児保育事業の利用希望	74
(5) 子どもが病気の際に病児・病後児保育事業の利用を希望する場合の望ましいサービス	77
(6) 子どもが病気の際に病児・病後児保育事業を利用したいとは思わない理由	77
(7) 過去1年間の子どもの一時預かり先	78
(8) 短期入所生活援助事業の利用希望	80
9. 放課後の過ごし方について	82
(1) 放課後の利用希望場所と利用希望日数	82
(2) 放課後児童会の利用希望と利用したい時間帯	86
10. 放課後児童会の利用について	88
(1) 平日の放課後児童会の利用有無	88
(2) 平日の放課後児童会の利用状況	91
(3) 平日に放課後児童会を利用している理由	95
(4) 土曜日・日曜日・祝日の放課後児童会の利用希望について	95
(5) 土曜日・日曜日・祝日において、放課後児童会を毎週ではなくたまに利用したい理由	98
(6) 現在通っている放課後児童会に希望すること	98
(7) 小学4年生以降の放課後の過ごし方について望むこと	99
(8) 平日に放課後児童会を利用していない理由	100
(9) 放課後児童会の利用希望	101
第4章 育児休業制度の利用状況等	107
1. 育児休業制度の利用状況について	107
(1) 育児休業の取得状況	107
(2) 育児休業取得後の職場復帰状況	111
(3) 育児休業取得後の職場復帰時期	111
(4) 希望する育児休暇取得期間	113
2. 仕事と子育ての両立について	114

(1) 子どもと一緒に過ごす時間について（就学前児童）	114
(2) 子どもと一緒に過ごす時間について（就学児童）	115
(3) 1日あたり家事に費やす週平均の時間	116
(4) 仕事と子育ての両立で大変だと思うこと	118
第5章 生活環境と市への要望	120
1. 生活環境について	120
(1) 子どもが外出するときに困ること	120
(2) 居住地域の子どもの遊び場の満足度	120
(3) 居住地域の子どもの遊び場について感じる事	122
(4) 現在の居住地域は子どもにとって自然、社会、文化などの体験をしやすい 環境か	124
(5) 参加したことがある地域活動	125
(6) 子どもが参加していない理由	126
(7) 子どもに今後参加させたい地域活動	126
2. 市への要望について	127
(1) 給食費の経済的負担を感じたことの有無	127
(2) 学校給食無償化の市独自施策としての実行について	128
(3) 学校給食費無償化で経済的負担の減少はあると思うか	128
(4) 充実を望む子育て支援サービス	129
第6章 考察	133
資料編	138

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、「ともに育ち ともに支え 一人ひとりが輝くまち」の実現を目指して、令和元年度に「第2期大阪狭山市子ども・子育て支援事業計画」(さやまっ子のびのびプラン)を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んできました。同計画は令和2年度から令和6年度までの5か年計画であり、今年度は計画の最終年度となっています。このため、本調査は、次なる計画である「第3期大阪狭山市子ども・子育て支援事業計画」策定に向けて、子育て家庭の生活状況や、市の施策に対するご意見・ご要望についてお聞かせいただくことを目的として実施したものです。

2. 調査の種類と実施方法

本調査においては、対象者別に次の2種類のアンケート調査を実施しました。

調査の種類	調査の対象（母集団） ※無作為抽出	調査期間	実施方法
就学前児童 アンケート	市内の就学前児童 （0歳児～5歳児）の保護者	令和6年 2月22日～3月14日	【配布】 郵送 【回収】 郵送
就学児童 アンケート	市内の小学生児童 （小学1～6年生）の保護者	令和6年 2月22日～3月14日	

※調査基準日：令和6年1月15日

3. 調査票の配付と回収状況

調査によるそれぞれの配付・回答状況は、以下のとおりです。

調査の対象	配布数	回収数	回収率
就学前児童の保護者	1,000 票	442 票	44.2%
就学児童の保護者	1,000 票	443 票	44.3%

4. 報告書の見方について

(1) 年齢・学年の区分

アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による区分により集計を行いました。

就学前児童 年齢区分	誕生年度(実際の年齢)	就学児童 学年区分	誕生年度(実際の年齢)
0歳児	令和4年4月以降	1年生	平成28年度生まれ(6～7歳)
1歳児	令和3年4月～令和4年3月	2年生	平成27年度生まれ(7～8歳)
2歳児	令和2年4月～令和3年3月	3年生	平成26年度生まれ(8～9歳)
3歳児	令和元年4月～令和2年3月	4年生	平成25年度生まれ(9～10歳)
4歳児	平成30年4月～令和元年3月	5年生	平成24年度生まれ(10～11歳)
5歳児	平成29年4月～平成30年3月	6年生	平成23年度生まれ(11～12歳)

(2) 数値の基本的な取り扱いについて

- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位が四捨五入されておりますので、合計の数値が100%を上下する場合があります。
- ・回答数については、“n=XXX”として記載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ・「複数回答」または「3つまで」とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出すことが可能であるため、合計比率が100%を超えている場合があります。

(3) その他事項について

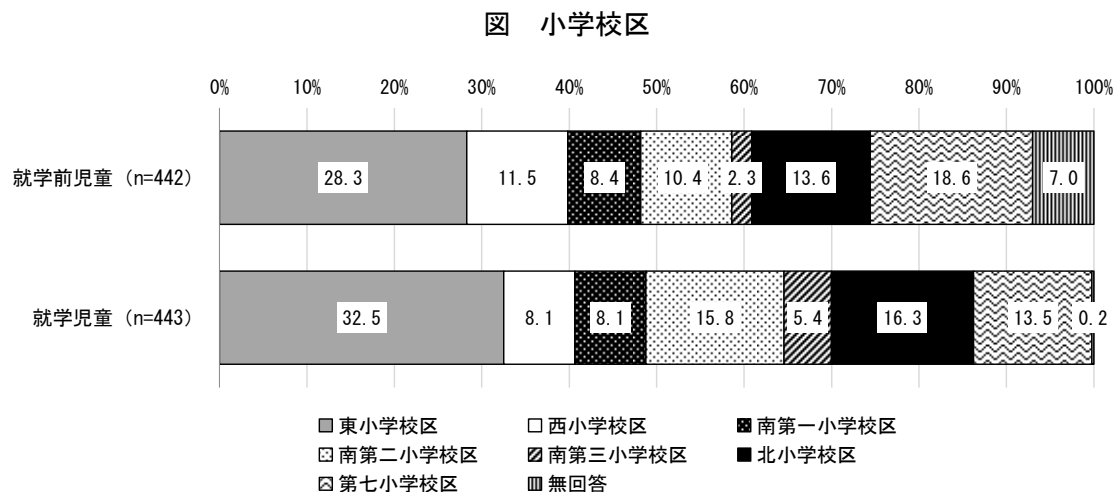
グラフ軸の%表記については、グラフの見やすさのため、最も高い数値に合わせて数値を割り当てております。

5. 調査対象者の属性・家族状況等

(1) 小学校区について

【就学前児童：問1】【就学児童：問1】 ● 単一回答

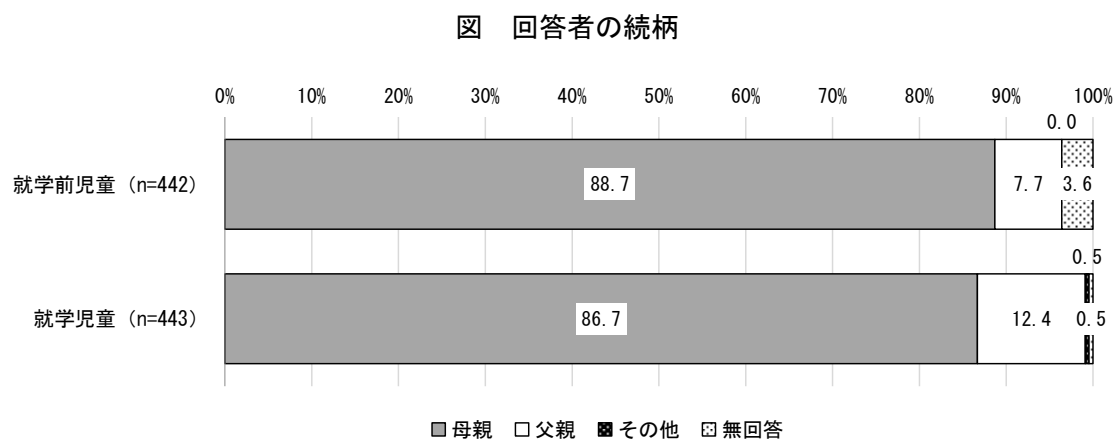
就学前児童、就学児童の内訳は以下のとおりです。



(2) 回答者の続柄について

【就学前児童：問2】【就学児童：問2】 ● 単一回答

就学前児童、就学児童の内訳は以下のとおりです。



(3) 子どもの年齢・学年について

【就学前児童：問3】【就学児童：問3】 ●数値記入

就学前児童では子どもの年齢について、就学児童では学年について記しています。内訳は以下のとおりです。

図 子どもの年齢（未就学児童）

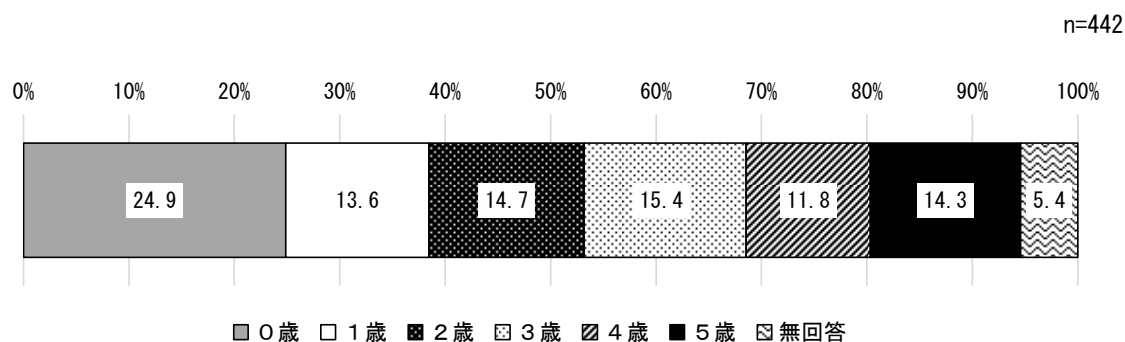
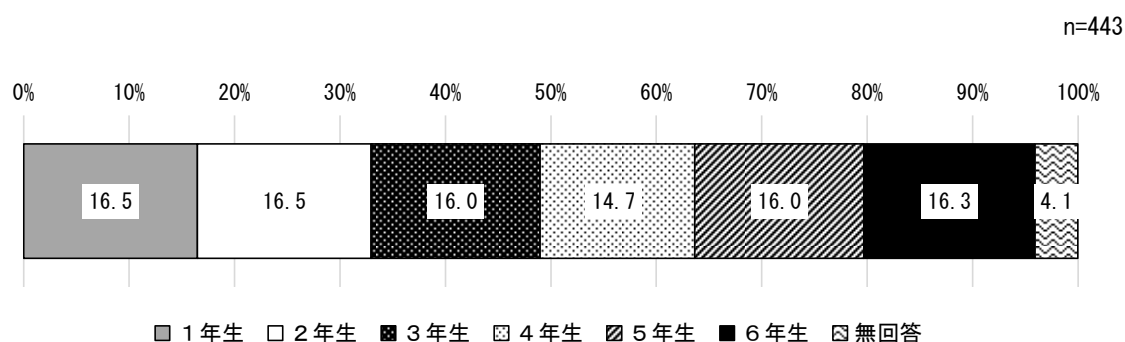


図 子どもの学年（就学児童）



(4) 子どもの人数について

【就学前児童：問4】【就学児童：問4】 ●数値記入

子どもの人数及び末子の年齢について、就学前児童、就学児童におけるそれぞれの内訳は以下のとおりです。

図 子どもの人数

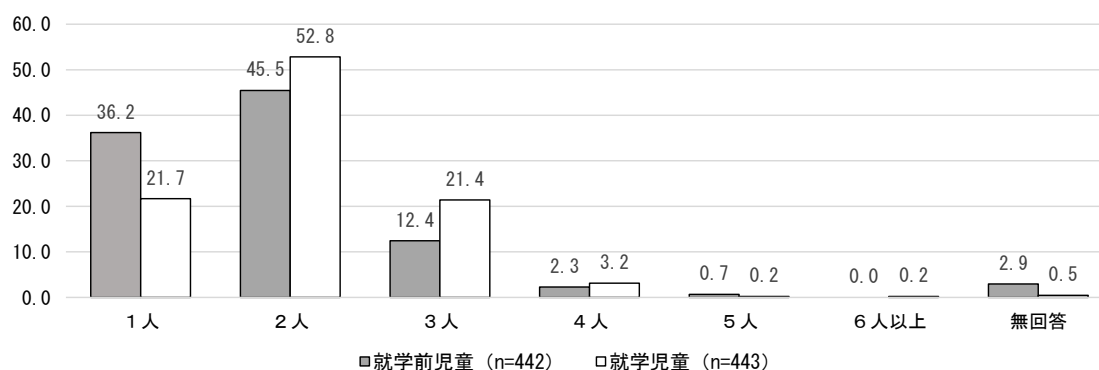


図 末子の年齢（未就学児童）

n=442

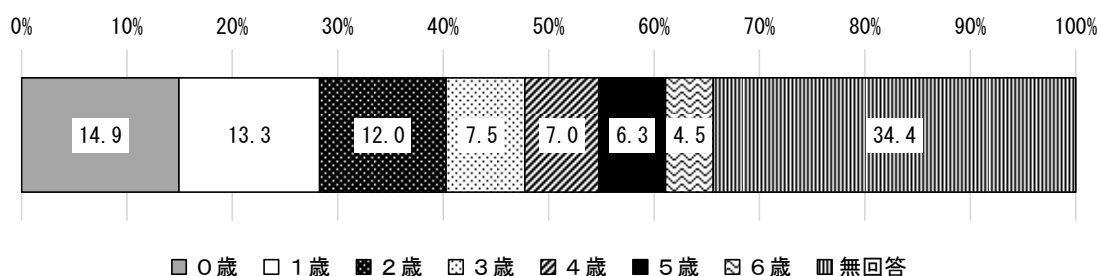
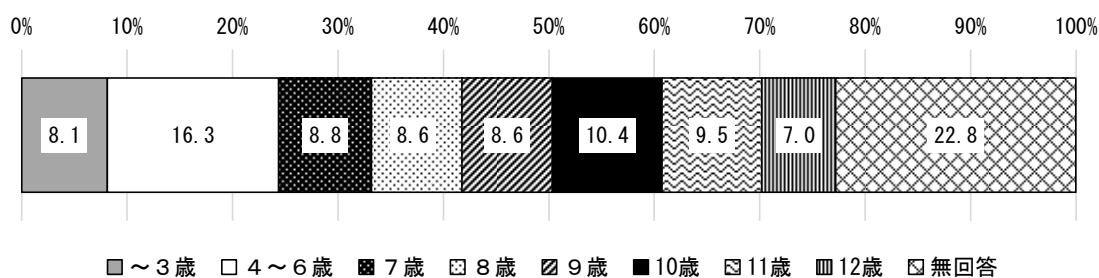


図 末子の年齢（就学児童）

n=443



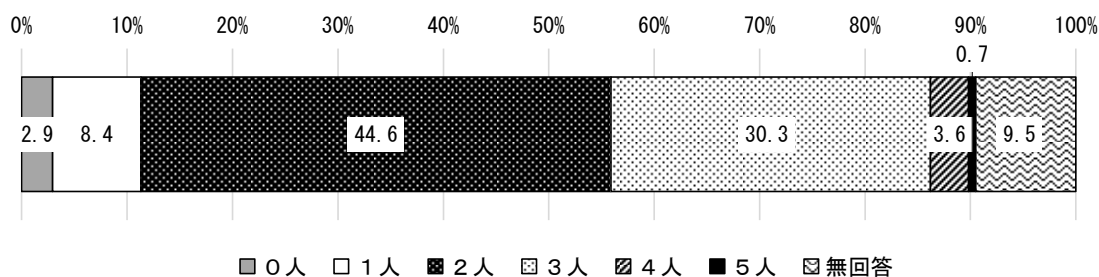
（５）望む子どもの数について

【就学前児童：問５】 ●数値記入

「２人」が44.6%と最も多く、「３人」が30.3%と続いています。

図 望む子どもの数（未就学児童）

n=442

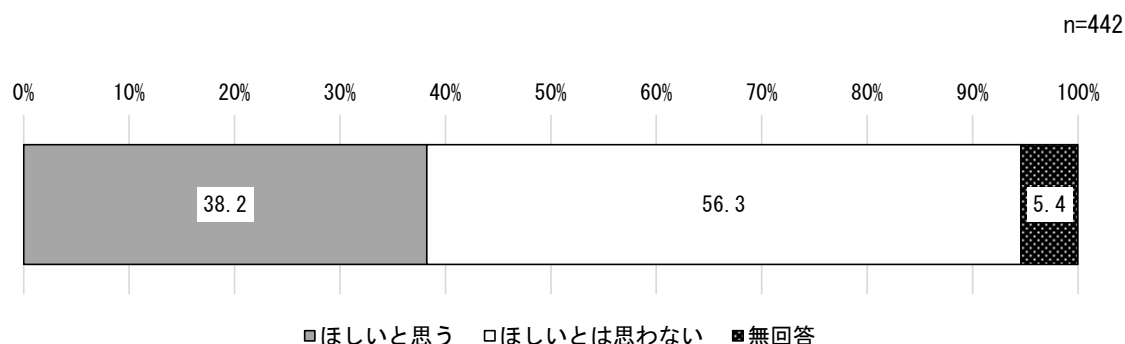


(6) もう1人以上の子どもがほしいと思うか

【就学前児童：問6】 ●単数回答

「ほしいと思う」が38.2%、「ほしいと思わない」が56.3%となっています。

図 もう1人以上の子どもがほしいと思うか（未就学児童）



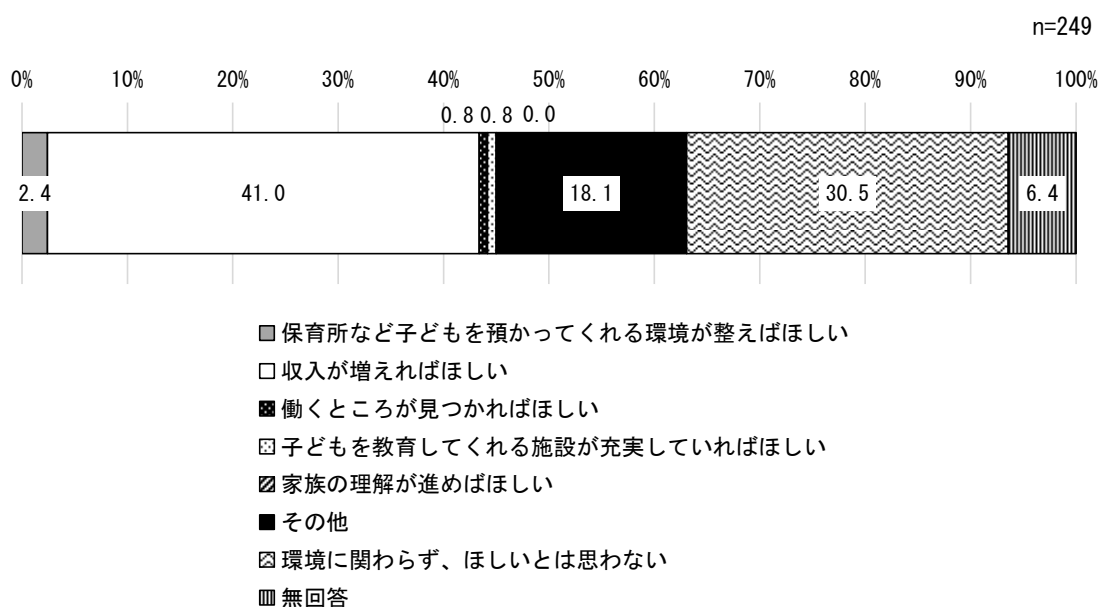
(7) どのような環境が整えばもう1人以上の子どもがほしいか

【就学前児童：問6-1】 ●単数回答

問6において、「ほしいと思わない」と答えた方のみ

「収入が増えればほしい」が41.0%と最も多く、「環境に関わらず、ほしいとは思わない」が30.5%と続いています。

図 どのような環境が整えばもう1人以上の子どもがほしいか（未就学児童）



第2章 子育て家庭を取り巻く環境

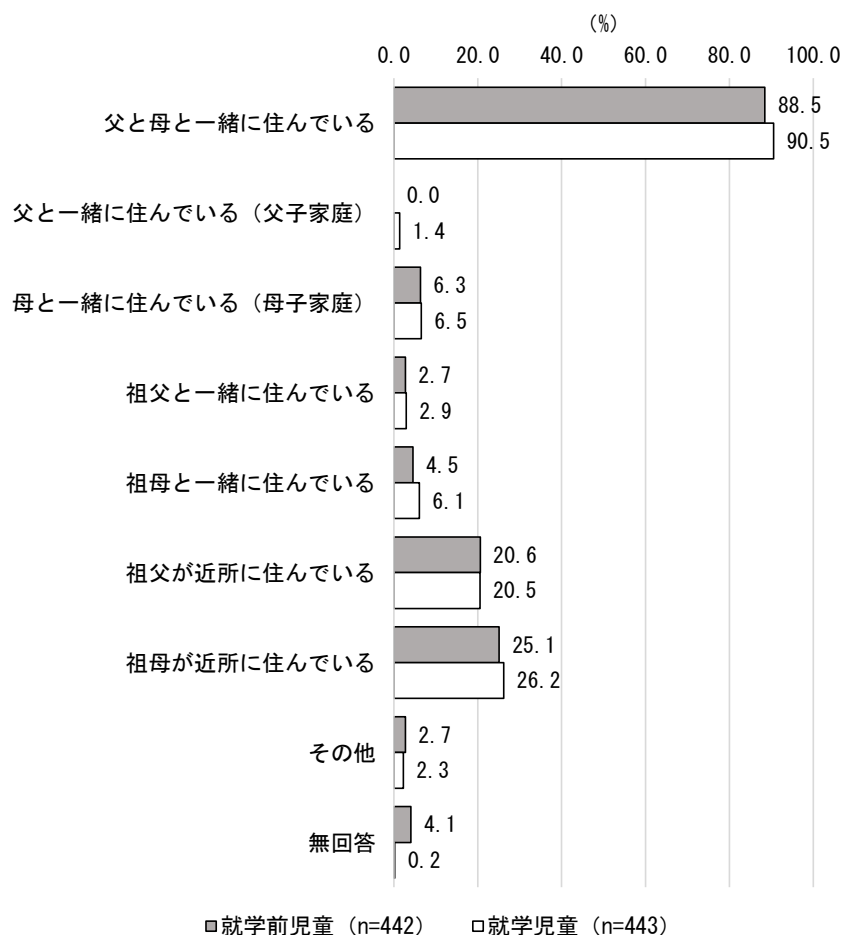
1. 子育ての環境について

(1) 子どもと一緒に住んでいる人や祖父母の住まいの状況

【就学前児童：問7】【就学児童：問5】 ●複数回答

子どもと一緒に住んでいる人や祖父母の住まいの状況について、就学前児童、就学児童におけるそれぞれの内訳は以下のとおりです。

図 子どもと一緒に住んでいる人や祖父母の住まいの状況

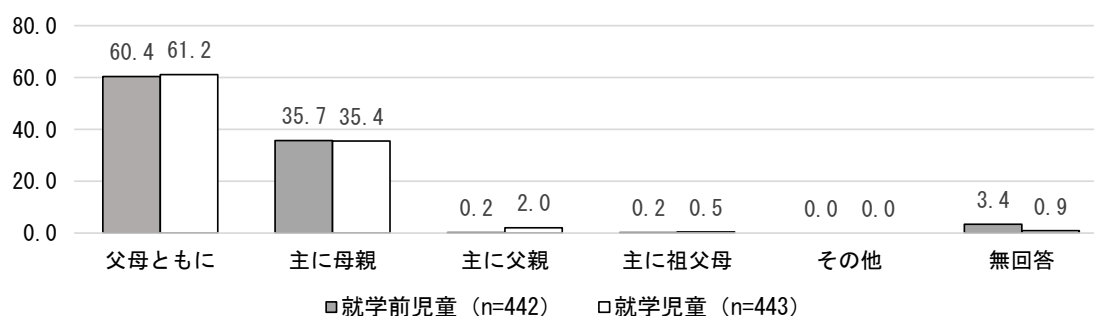


(2) 子育ての主な担い手

【就学前児童：問8】【就学児童：問6】 ●単一回答

子育ての主な担い手について、就学前児童、就学児童におけるそれぞれの内訳は以下のとおりです。

図 子育ての主な担い手

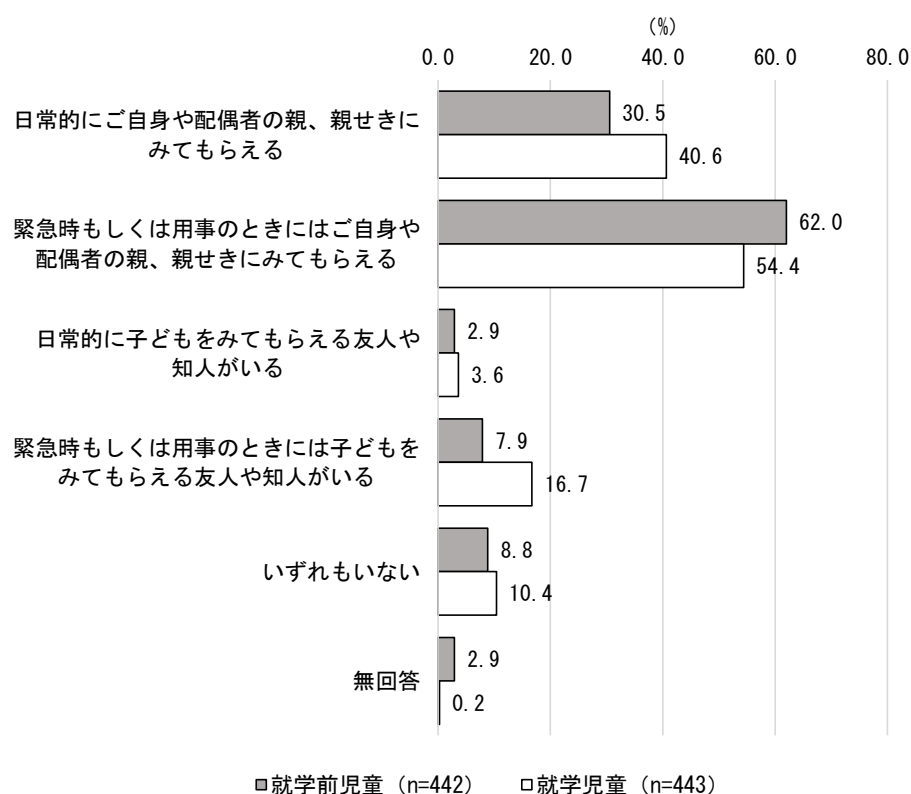


(3) 子どもをみてもらえる親族・知人

【就学前児童：問9】【就学児童：問7】 ●複数回答

子どもをみてもらえる親族・知人について、就学前児童、就学児童におけるそれぞれの内訳は以下のとおりです。

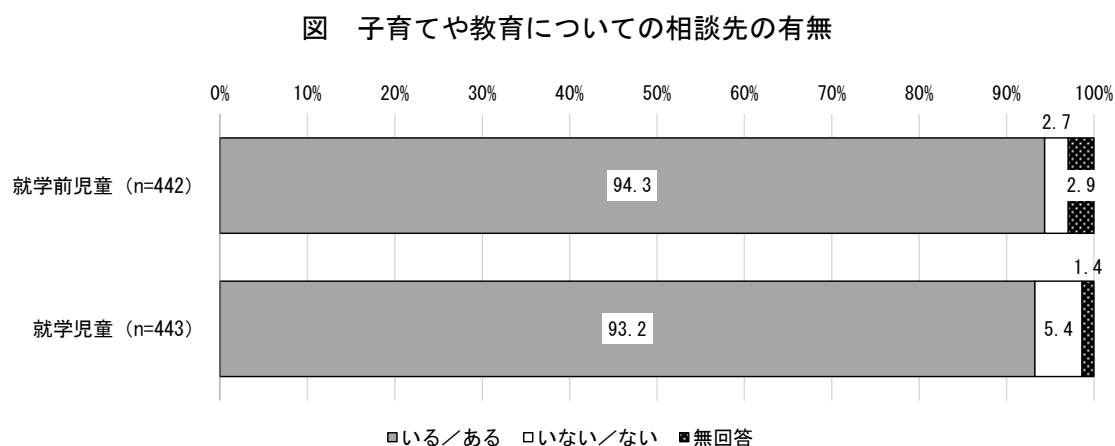
図 子どもをみてもらえる親族・知人



(4) 子育てや教育についての相談先の有無

【就学前児童：問10】【就学児童：問8】 ●単数回答

子育てや教育に係る相談先の有無について、就学前児童、就学児童におけるそれぞれの内訳は以下のとおりです。



(5) 子育ての相談先

【就学前児童：問10－1】【就学児童：問8－1】 ●複数回答

就学前児童は問10、就学児童は問8において、「いる／ある」、と答えた方のみ

就学前児童については、「配偶者」が85.9%と最も多く、「自身や配偶者の親、親せき、(同居している) 家族」(75.1%)、「友人や知人」(63.8%)と続いています。

就学児童についても、「配偶者」が84.3%と最も多く、「自身や配偶者の親、親せき、(同居している) 家族」(73.6%)、「友人や知人」(68.3%)と続いています。

図 子育ての相談先（就学前児童）

n=417

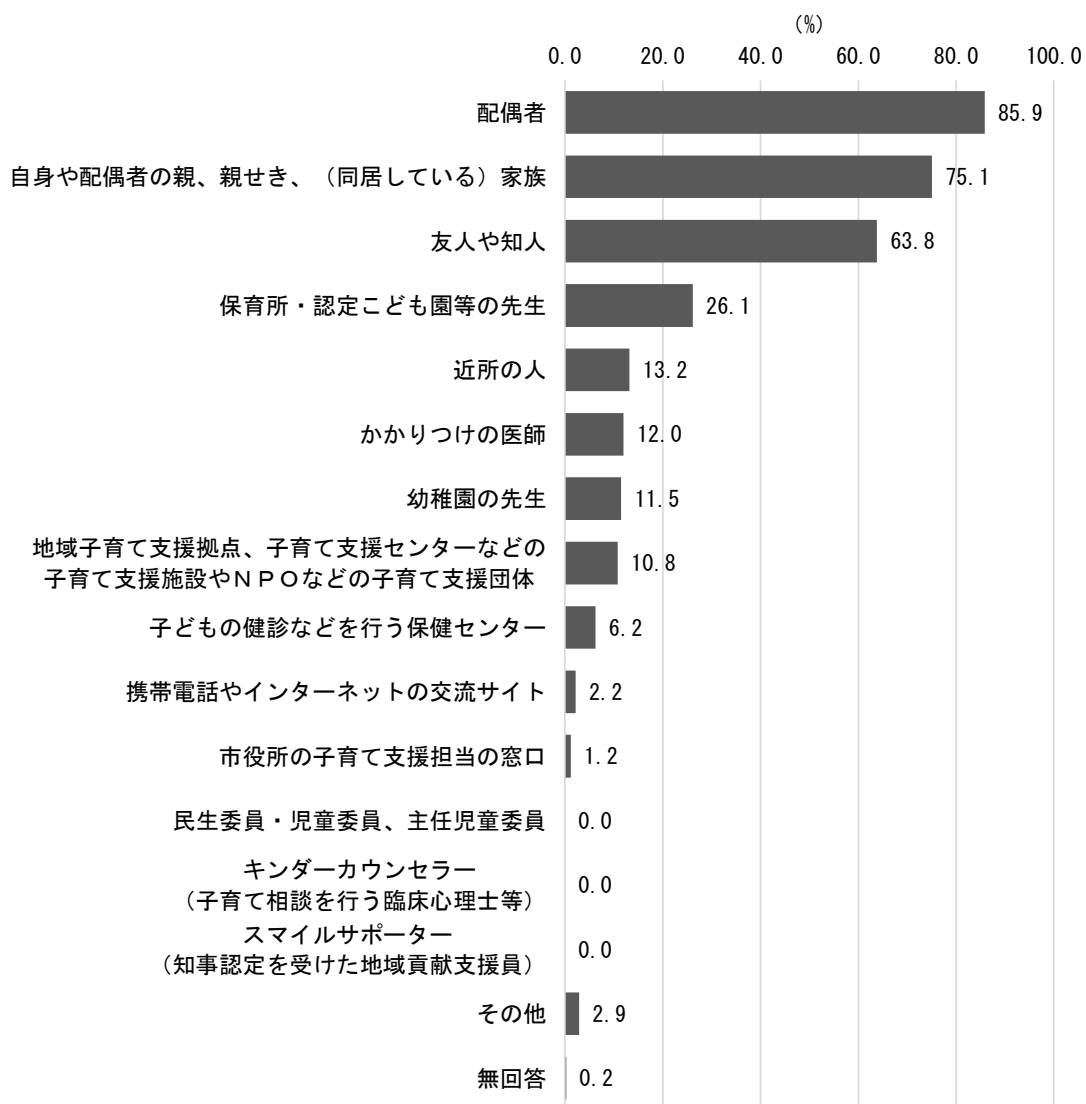
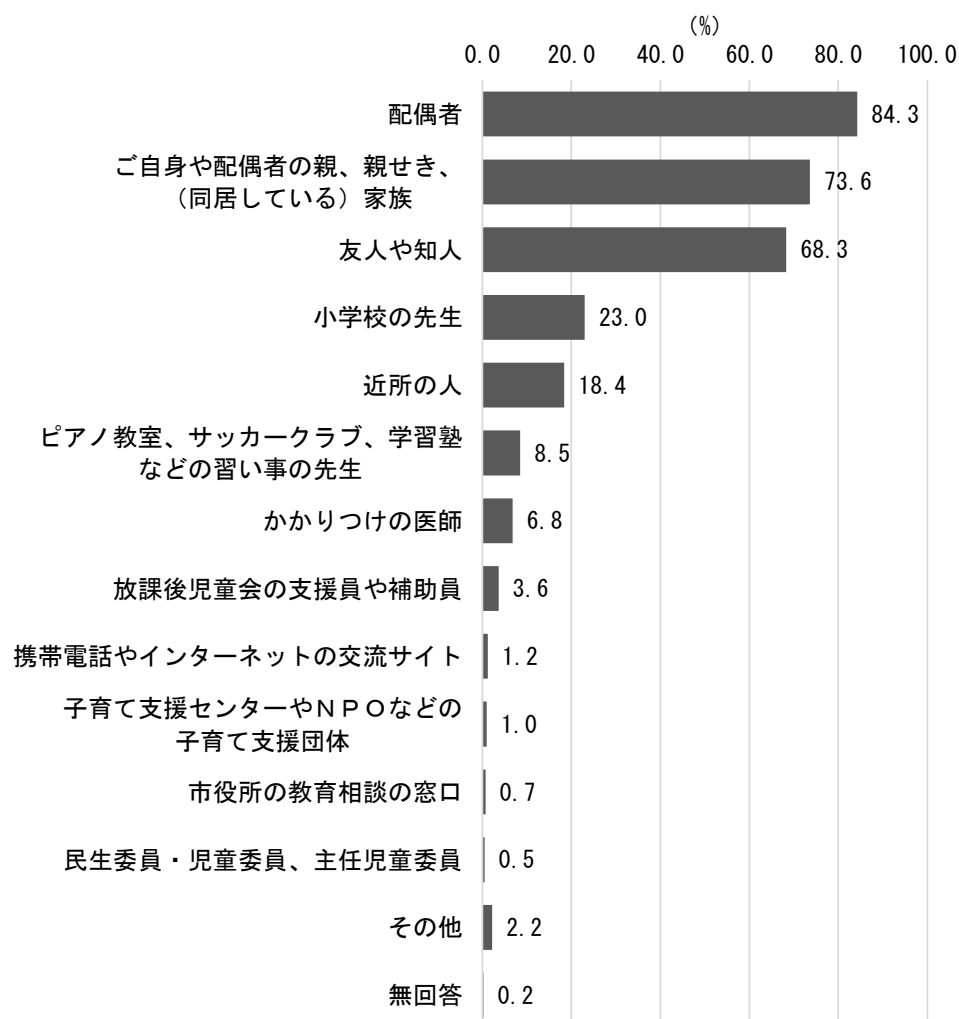


図 子育ての相談先（就学児童）

n=413



2. 保護者の就労状況

(1) 母親・父親の就労状況

【就学前児童：問11】【就学児童：問9】 ●単一回答

就学前児童について、母親では、「フルタイムで働いている」が24.2%、「パート・アルバイトなどで働いている」は23.8%となっています。また、「フルタイムで働いているが、今は休んでいる（産休・育休・介護休業中等）」及び「以前は働いていたが、今は働いていない」の数値も20%台となっています。父親では、「フルタイムで働いている」が90.0%と他の項目と比べて著しく多くなっています。

就学児童について、母親では、「フルタイムで働いている」が30.7%、「パート・アル

バイトなどで働いている」は43.3%となっています。また、「以前は働いていたが、今は働いていない」が17.8%と続いています。父親では、「フルタイムで働いている」が87.8%と他の項目と比べて著しく多くなっています。

総じて、特に母親では、就学前児童よりも就学児童の方が働いている人の割合が高くなっています。

図 母親・父親の就労状況（就学前児童）

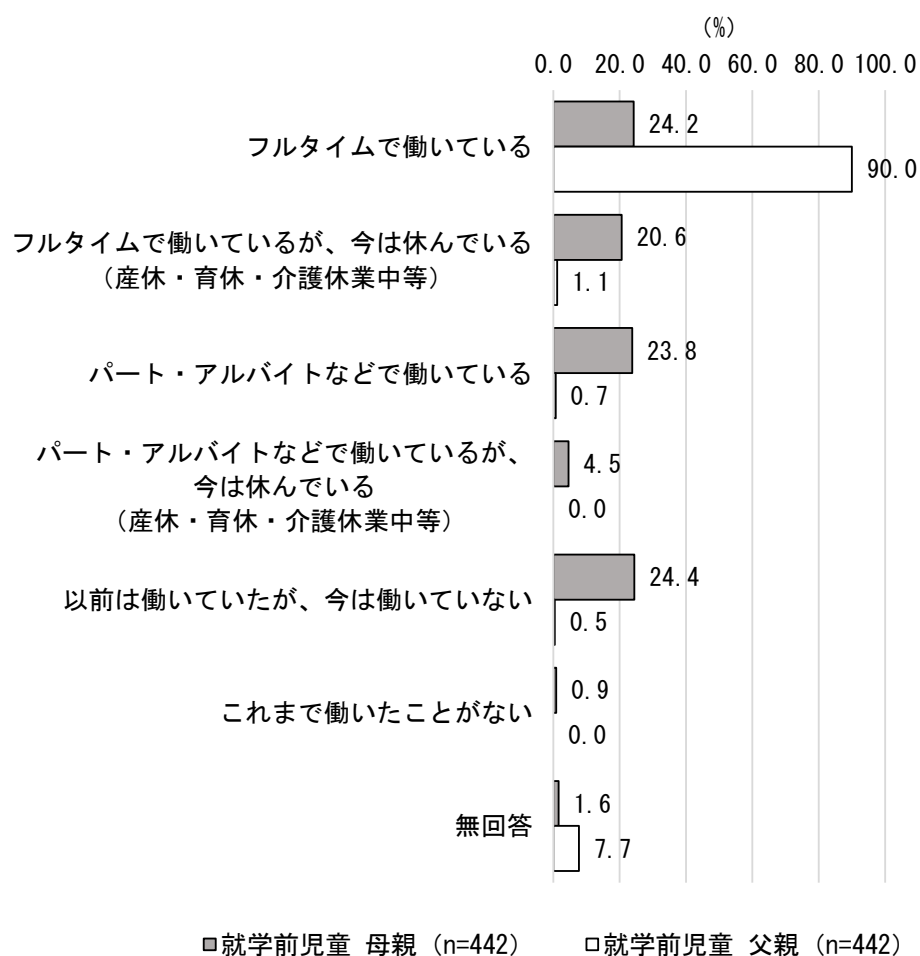
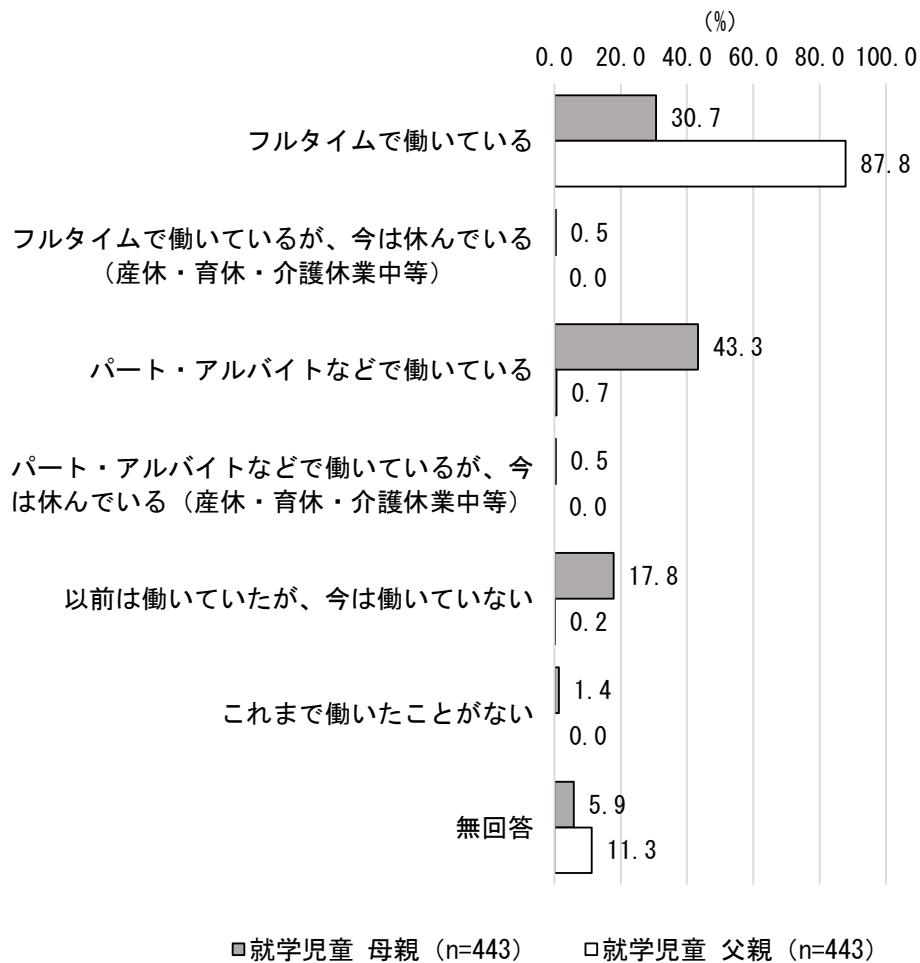


図 母親・父親の就労状況（就学児童）



また、母親及び父親の就労状況について前回調査結果と比較してみると、母親では、就学前児童においては、以前は就労していたが、現在は就労していない、がマイナス15.6ポイントであるのに対し、フルタイムで働いており、産休・育休・介護休業中である、がプラス10.0ポイントとなっています。

就学児童においては、以前は就労していたが、現在は就労していない、がマイナス5.5ポイントであるのに対し、フルタイムで働いており、産休・育休・介護休業中ではない、がプラス9.7ポイントとなっています。

父親では、前回調査と大方同様の結果となっています。

表 母親の就労状況：前回調査との比較

		フルタイムで働いている		パート・アルバイト等で働いている		以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
		産休・育休・介護休業中ではない	産休・育休・介護休業中である	産休・育休・介護休業中ではない	産休・育休・介護休業中である			
就学前児童	前回	22.6%	10.6%	22.3%	1.1%	40.0%	1.1%	2.3%
	今回	24.2%	20.6%	23.8%	4.5%	24.4%	0.9%	1.6%
	差	+1.6pt	+10.0pt	+1.5pt	+3.4pt	-15.6pt	-0.2pt	-0.7pt
就学児童	前回	21.0%	1.1%	43.0%	1.5%	23.3%	4.9%	5.3%
	今回	30.7%	0.5%	43.3%	0.5%	17.8%	1.4%	5.9%
	差	+9.7pt	-0.6pt	+0.3pt	-1.0pt	-5.5pt	-3.5pt	+0.6pt

表 父親の就労状況：前回調査との比較

		フルタイムで働いている		パート・アルバイト等で働いている		以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
		産休・育休・介護休業中ではない	産休・育休・介護休業中である	産休・育休・介護休業中ではない	産休・育休・介護休業中である			
就学前児童	前回	92.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	5.6%
	今回	90.0%	1.1%	0.7%	0.0%	0.5%	0.0%	7.7%
	差	-2.6pt	+0.1pt	+0.7pt	0.0pt	-0.4pt	0.0pt	+2.1pt
就学児童	前回	86.0%	0.4%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	12.7%
	今回	87.8%	0.0%	0.7%	0.0%	0.2%	0.0%	11.3%
	差	+1.8pt	-0.4pt	+0.1pt	0.0pt	0.0pt	0.0pt	-1.4pt

(2) 就労日数・就業時間・出勤時間・帰宅時間

【就学前児童：問11－1】【就学児童：問9－1】 ●数値入力

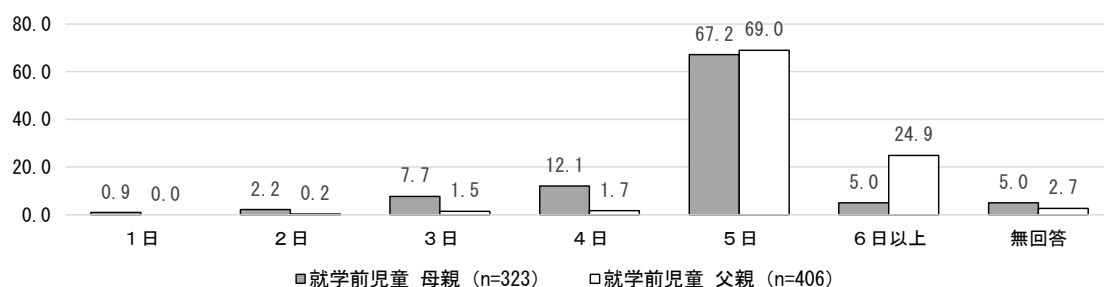
就学前児童は問11、就学児童は問9において、母親、父親のいずれかもしくは両方が、働いている、働いているが今は休んでいる、と答えた方のみ

＜就労日数（1週あたり）＞

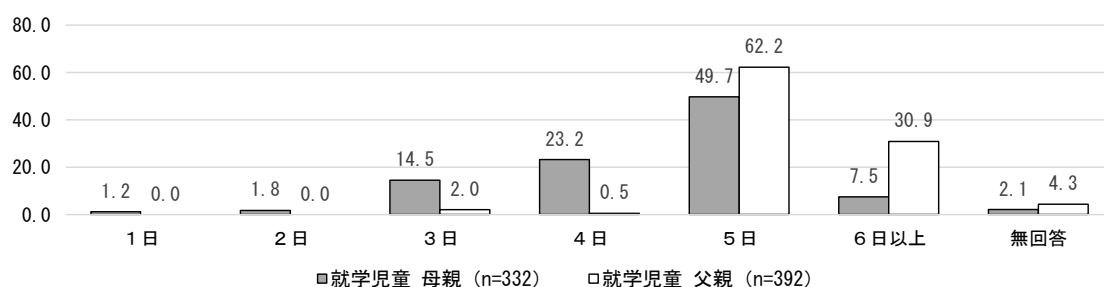
就学前児童、就学児童ともに、母親及び父親について、「5日」が最も多くなっています。具体的には、就学前児童ではそれぞれ67.2%、69.0%、就学児童ではそれぞれ49.7%、62.2%となっています。

図 就労日数（１週あたり）

就学前児童



就学児童

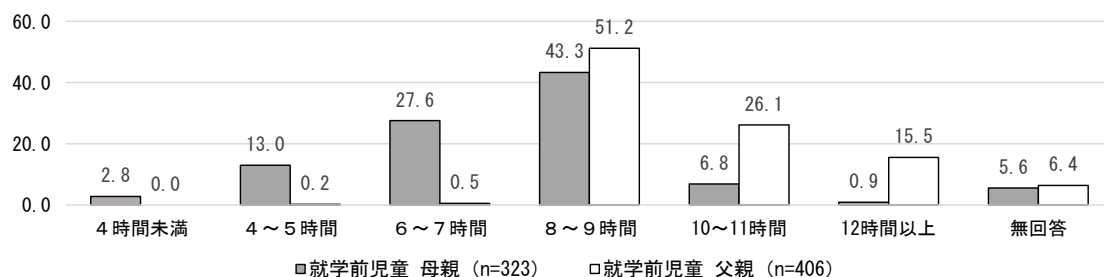


<就業時間（１日あたり）>

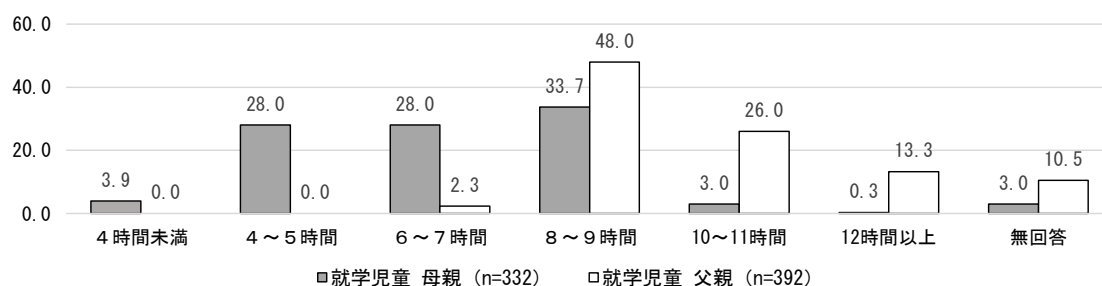
就学前児童、就学児童ともに、母親及び父親について、「８～９時間」が最も多くなっています。具体的には、就学前児童ではそれぞれ43.3%、51.2%、就学児童ではそれぞれ33.7%、48.0%となっています。

図 就業時間（１日あたり）

就学前児童



就学児童



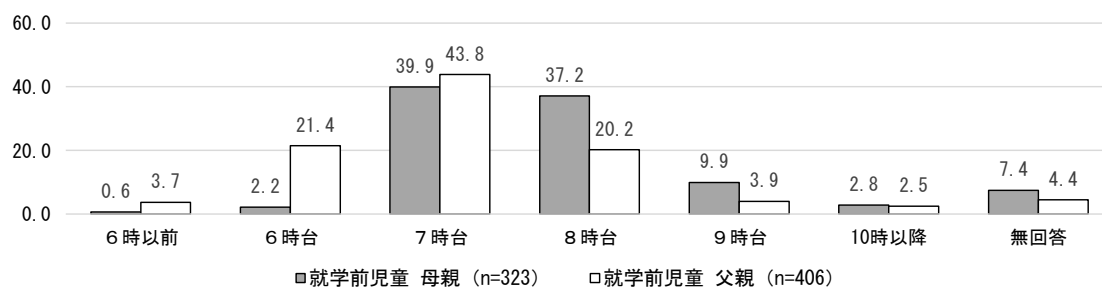
<出勤時間>

就学前児童において、母親及び父親について「7時台」(それぞれ39.9%、43.8%)が最も多くなっています。特に母親については、「8時台」(37.2%)も多くなっています。

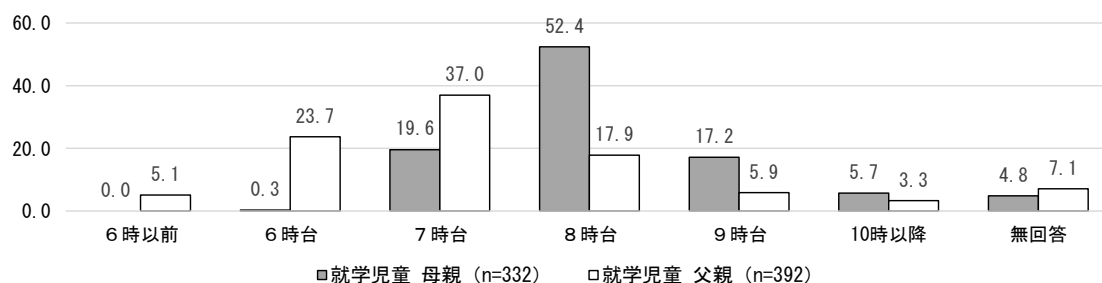
就学児童において、母親では「8時台」が52.4%と最も多くなっています。父親では「7時台」が37.0%と最も多くなっています。

図 出勤時間

就学前児童



就学児童

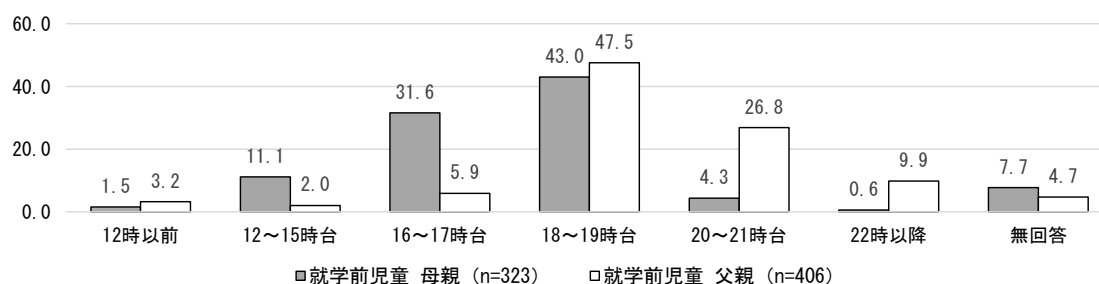


<帰宅時間>

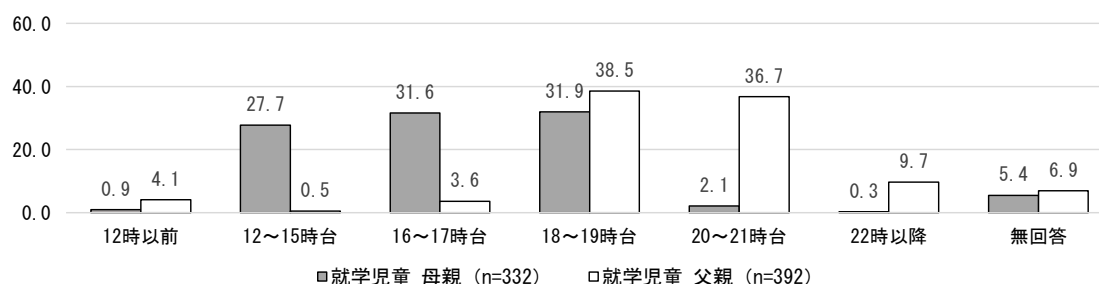
就学前児童において、母親及び父親について「18～19時台」(それぞれ43.0%、47.5%)が最も多くなっています。就学児童においても、母親及び父親について「18～19時台」(それぞれ31.9%、38.5%)が最も多くなっています。また、父親では「20～21時台」(36.7%)も多くなっています。

図 帰宅時間

就学前児童



就学児童



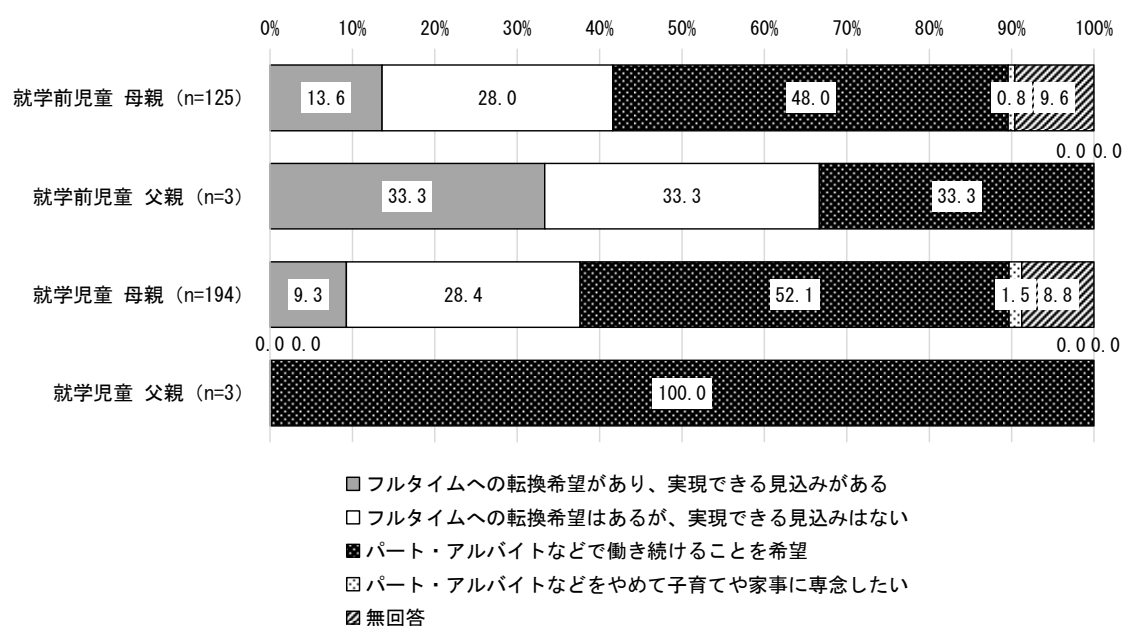
(3) フルタイムへの転換希望

【就学前児童：問11－2】【就学児童：問9－2】 ●単一回答

就学前児童は問11、就学児童は問9において、母親、父親のいずれかもしくは両方が、パート・アルバイトなどで働いている、または、パート・アルバイトなどで働いているが、今は休んでいる、と答えた方のみ

特に母親については、就学前児童、就学児童に関わらず、「パート・アルバイトなどで働き続けることを希望」が50%周辺と最も多くなっています。また、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」についても30%周辺の数値となっています。

図 フルタイムへの転換希望



(4) 働きたいという希望

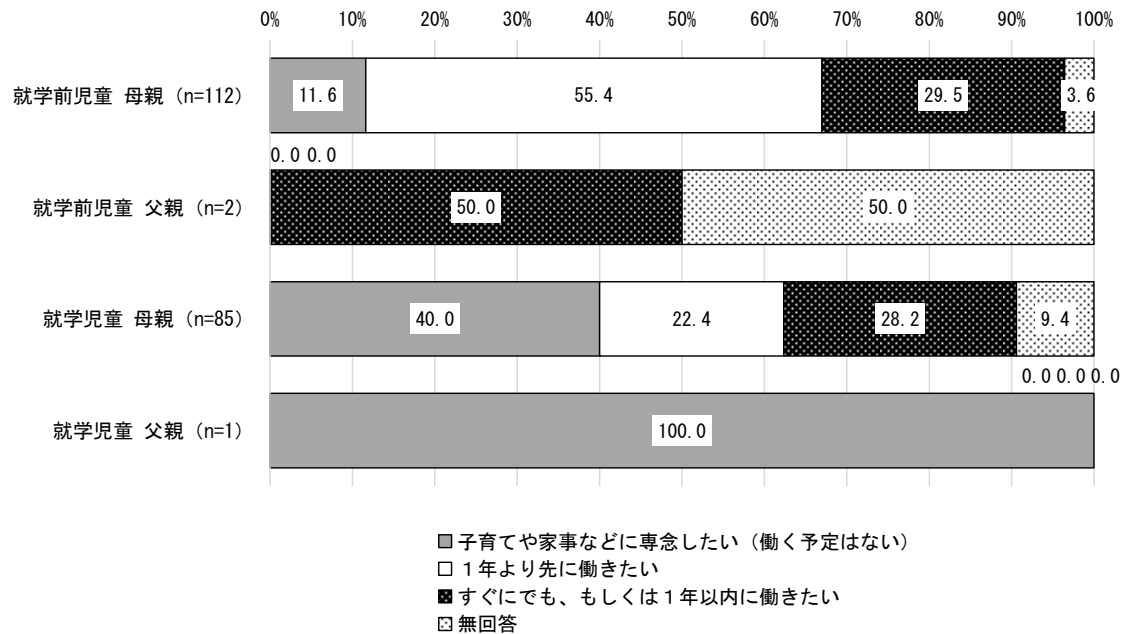
【就学前児童：問12】【就学児童：問10】 ●単一回答、数値入力

就学前児童は問11、就学児童は問9において、母親、父親のいずれかもしくは両方が、今は働いていない、これまで働いたことがない、と答えた方のみ

<就労希望>

母親における「1年より先に働きたい」について、就学前児童では55.4%、就学児童では22.4%と差が大きくなっています。また就学児童では、「子育てや家事などに専念したい（働く予定はない）」が40.0%となっています。

図 就労希望

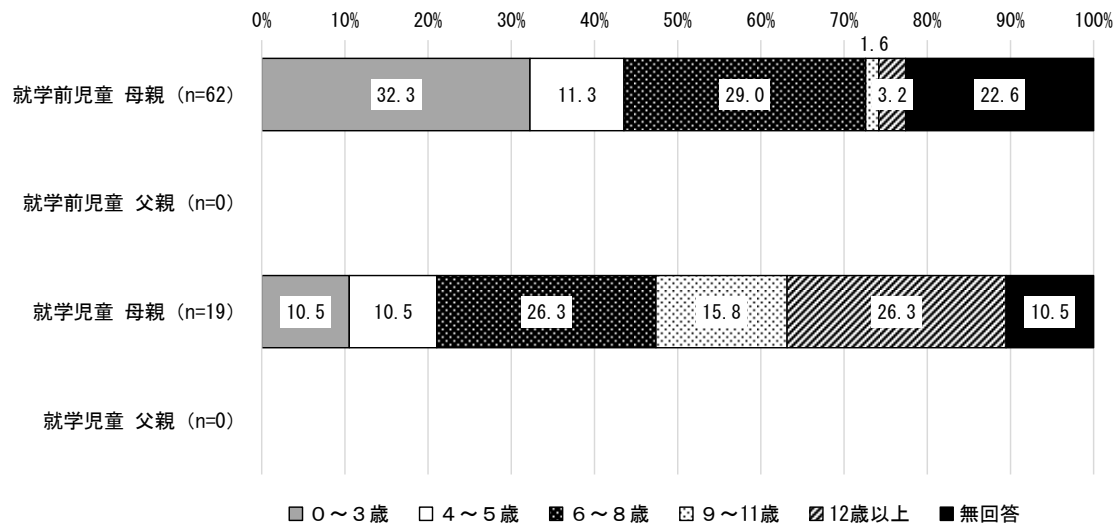


<就労希望時の末子の年齢〔歳〕>

母親について、就学前児童では、「0～3歳」が32.3%と最も多くなっているものの、就学児童において同項目は10.5%となっています。

就学児童では、「9～11歳」、「12歳以上」がそれぞれ15.8%、26.3%と、就学前児童（それぞれ1.6%、3.2%）に対して相対的に大きな差が生じています。

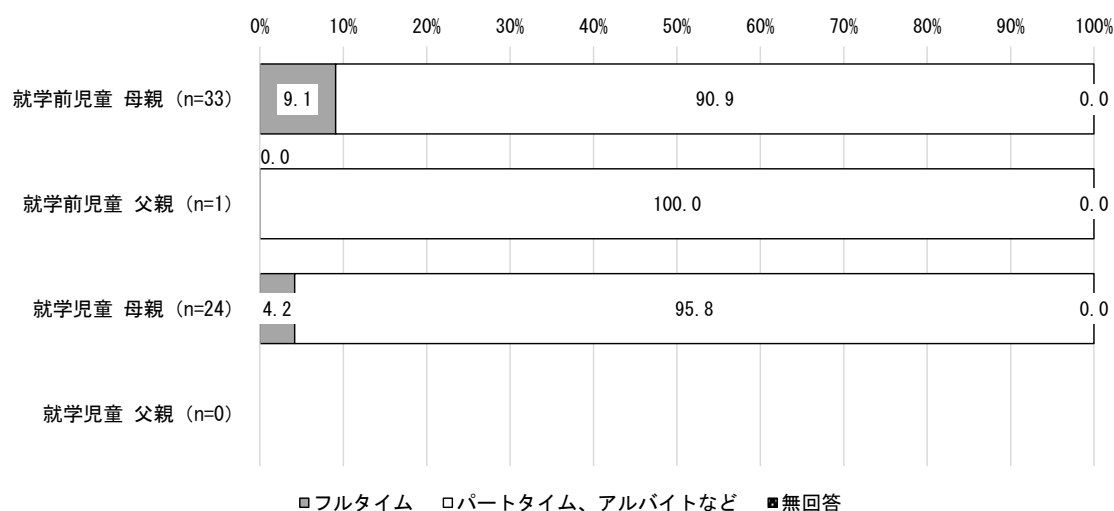
図 就労希望時の末子の年齢〔歳〕



<就労希望形態>

母親について、就学前児童、就学児童ともに、「パートタイム、アルバイトなど」が90%を超えています。

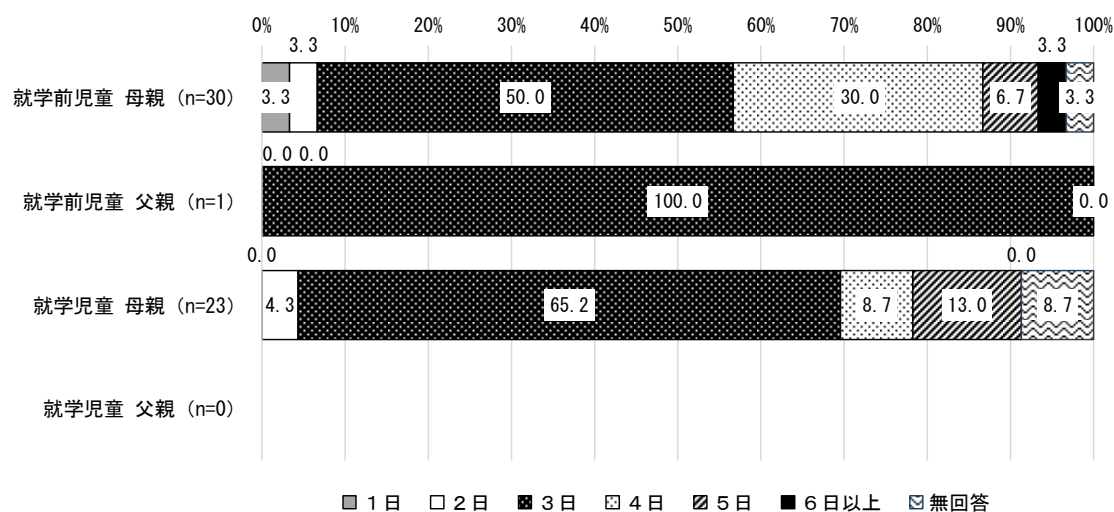
図 就労希望形態



<就労希望日数〔1週あたり〕>

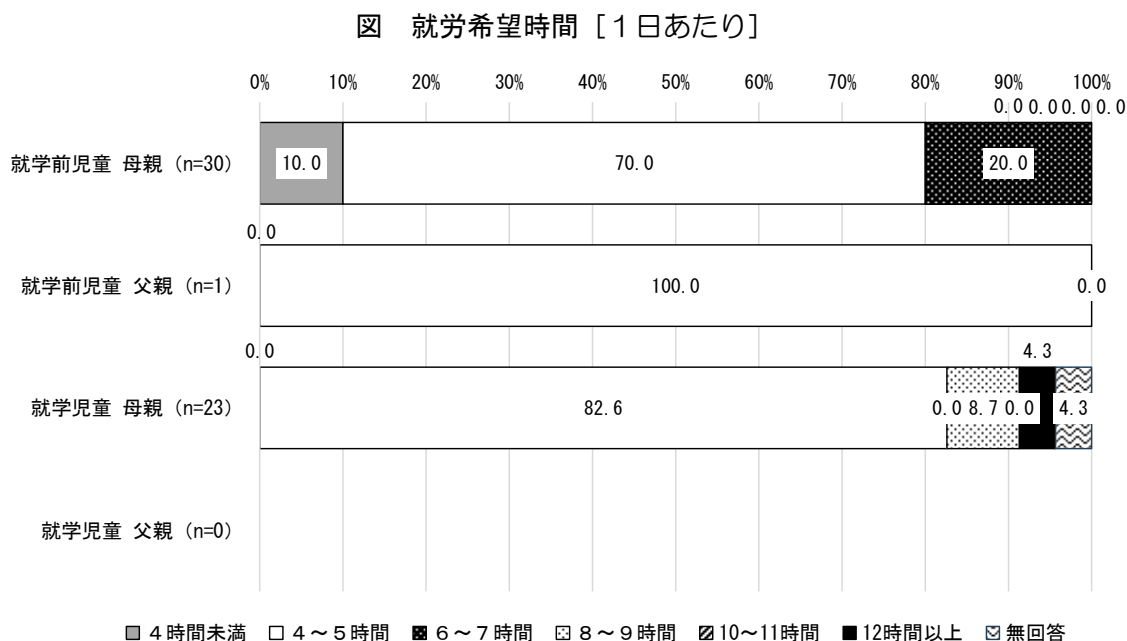
特に母親について、就学前児童、就学児童ともに、「3日」が50~60%台と最も多くなっています。

図 就労希望日数〔1週あたり〕



<就労希望時間〔1日あたり〕>

特に母親について、就学前児童、就学児童ともに「4～5時間」がそれぞれ70.0%、82.6%と著しく多くなっています。



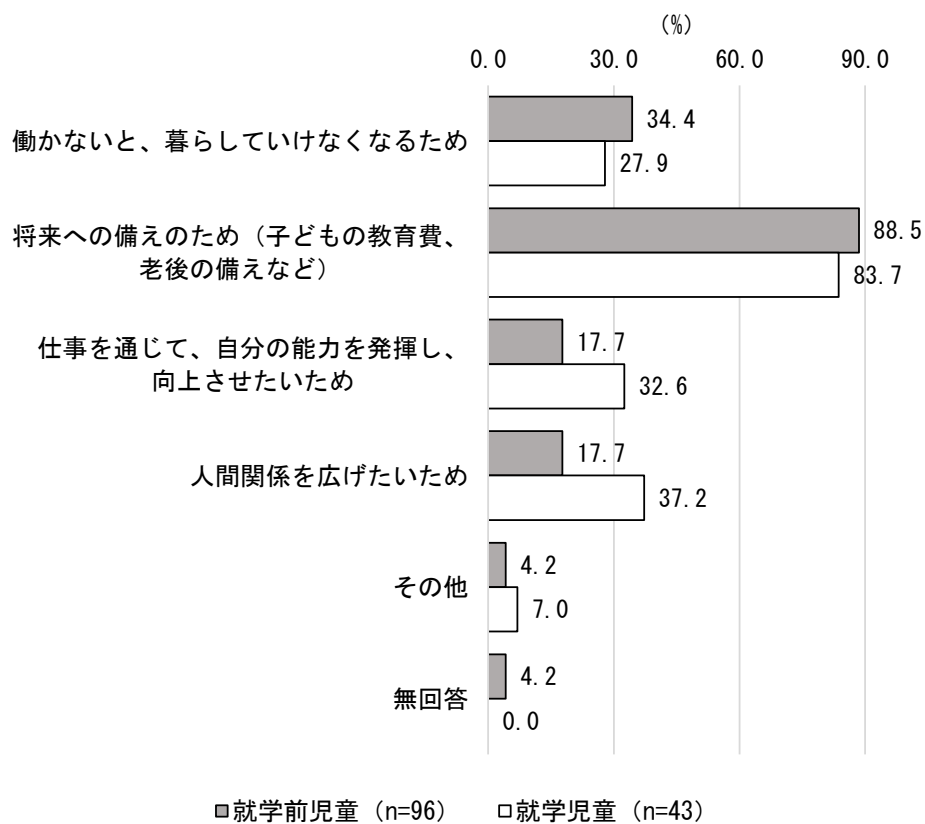
(5) 働きたい理由

【就学前児童：問12-1】【就学児童：問10-1】 ●複数回答、数値入力

就学前児童は問11、就学児童は問9において、母親、父親のいずれかもしくは両方が、今は働いていない、これまで働いたことがない、と答えた方のみ

就学前児童、就学児童ともに「将来への備えのため(子どもの教育費、老後の備えなど)」が他の項目と比べて著しく多くなっています。

図 働きたい理由



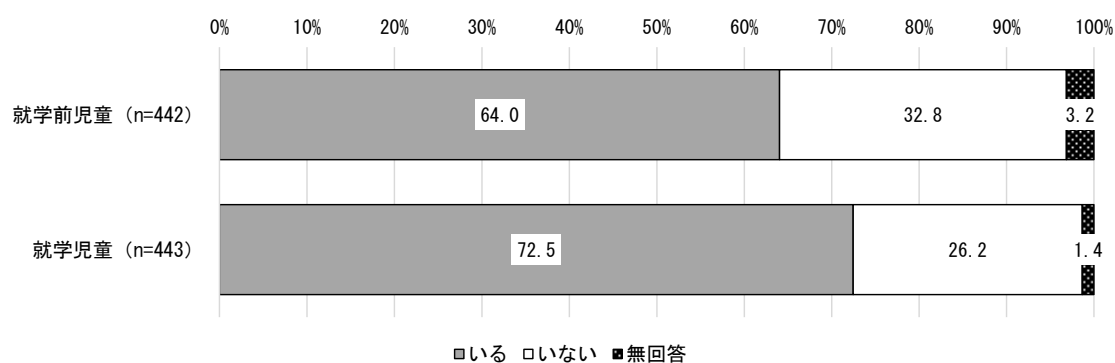
3. 子育てに対する意識

(1) 近所で日常的に子どもの話や世間話をする人の有無

【就学前児童：問35】【就学児童：問29】 ●単一回答

就学前児童、就学児童ともに、「いる」がそれぞれ64.0%、72.5%となっています。

図 近所で日常的に子どもの話や世間話をする人の有無

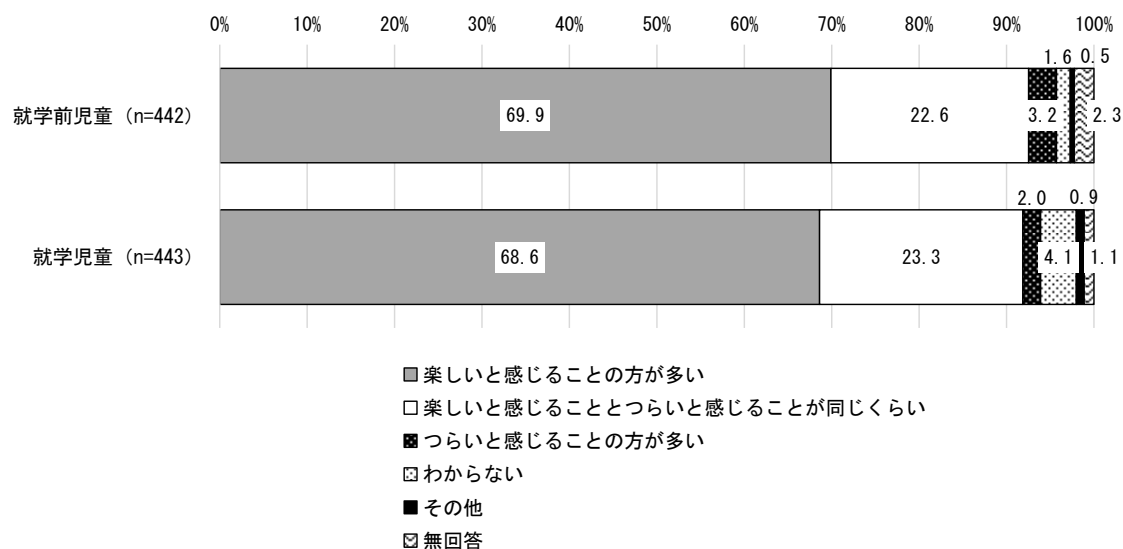


(2) 子育てに対する感じ方

【就学前児童：問36】【就学児童：問30】 ● 単一回答

就学前児童、就学児童ともに、「楽しいと感じることの方が多い」がそれぞれ69.9%、68.6%と最も多くなっています。

図 子育てに対する感じ方



(3) 子育てに必要な支援・対策

【就学前児童：問36－1】【就学児童：問30－1】 ● 3つまで

就学前児童は問36、就学児童は問30において、楽しいと感じる、つらいと感じる、両方感じる、と答えた方のみ

就学前児童について、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」の49.4%が最も多く、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」の40.0%、「子どもの教育環境の充実」の37.6%と続いています。

就学児童については、「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」の54.1%が最も多く、「子どもの教育環境の充実」の48.1%と続いています。

図 子育てに必要な支援・対策（就学前児童）

n=423

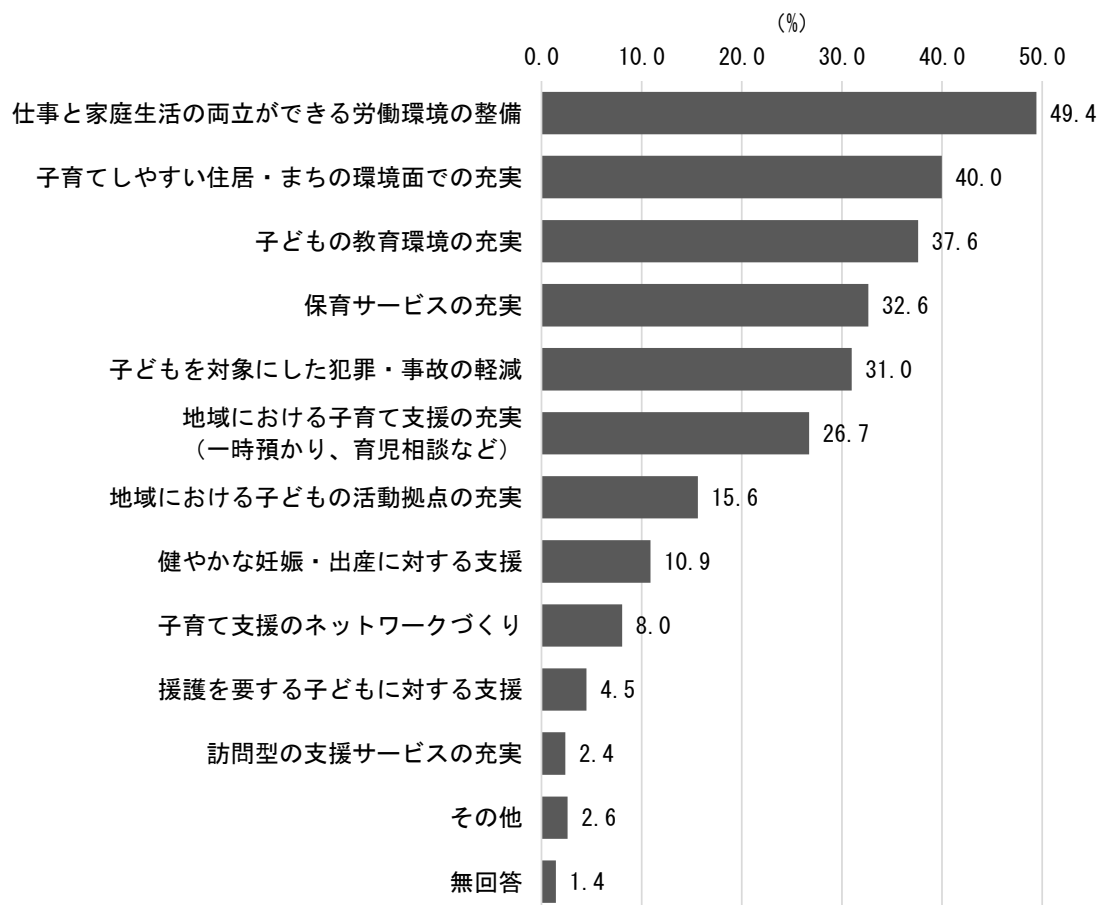
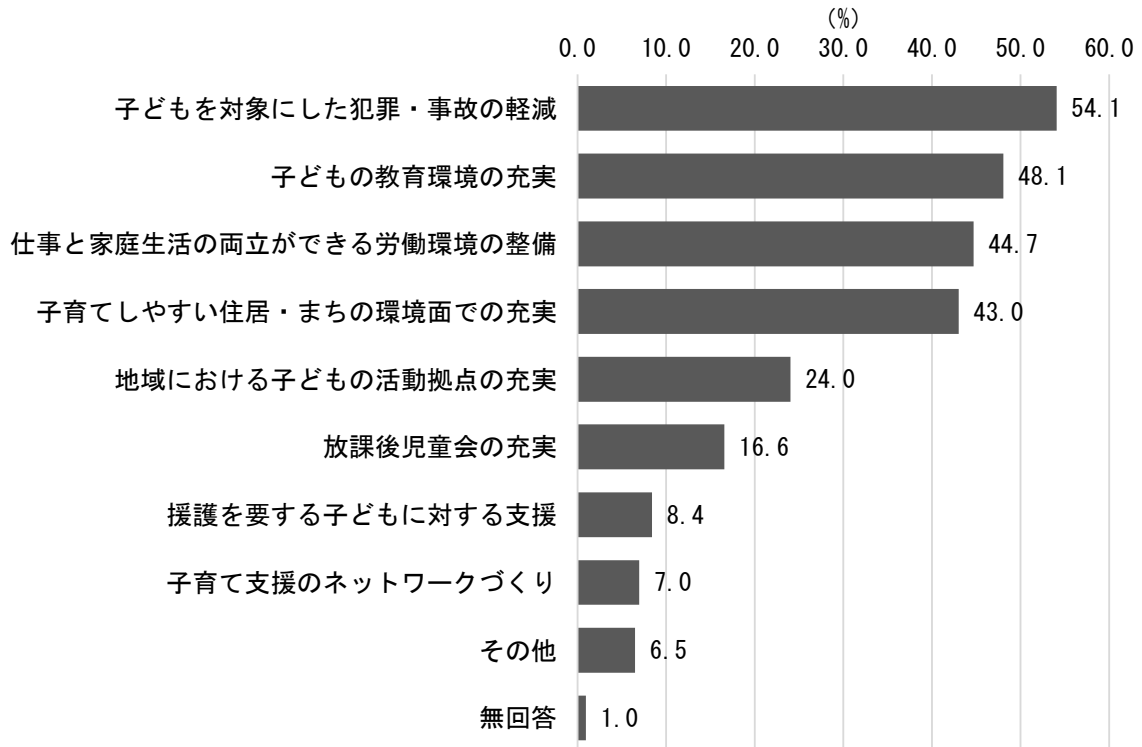


図 子育てに必要な支援・対策（就学児童）

n=416



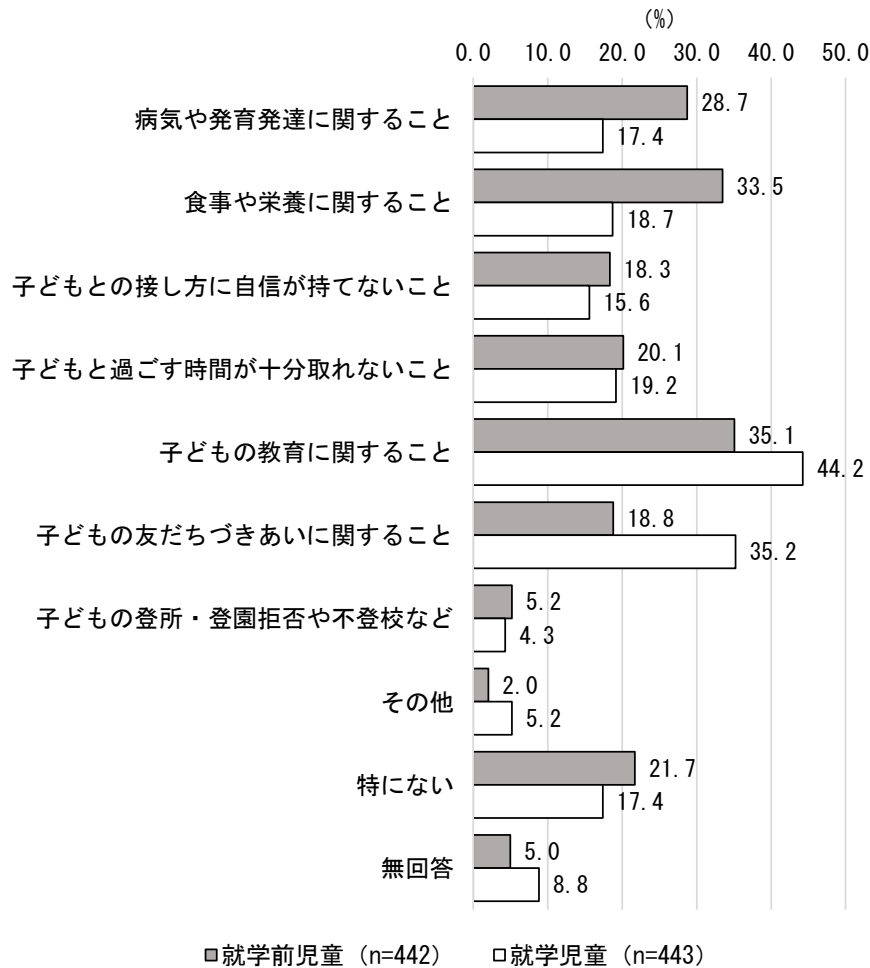
（４）子育てに関して日ごろ悩んでいること、気になること

①子どもに関すること

【就学前児童：問37（１）】【就学児童：問31（１）】 ●複数回答

就学前児童、就学児童ともに、「子どもの教育に関すること」（それぞれ35.1%、44.2%）が最も多くなっています。また、「子どもの友だちづきあいに関すること」については、就学前児童と就学児童との数値の差（就学児童の方が高い）が他の項目と比べて大きくなっています。

図 子育てに対する感じ方：子どもに関すること



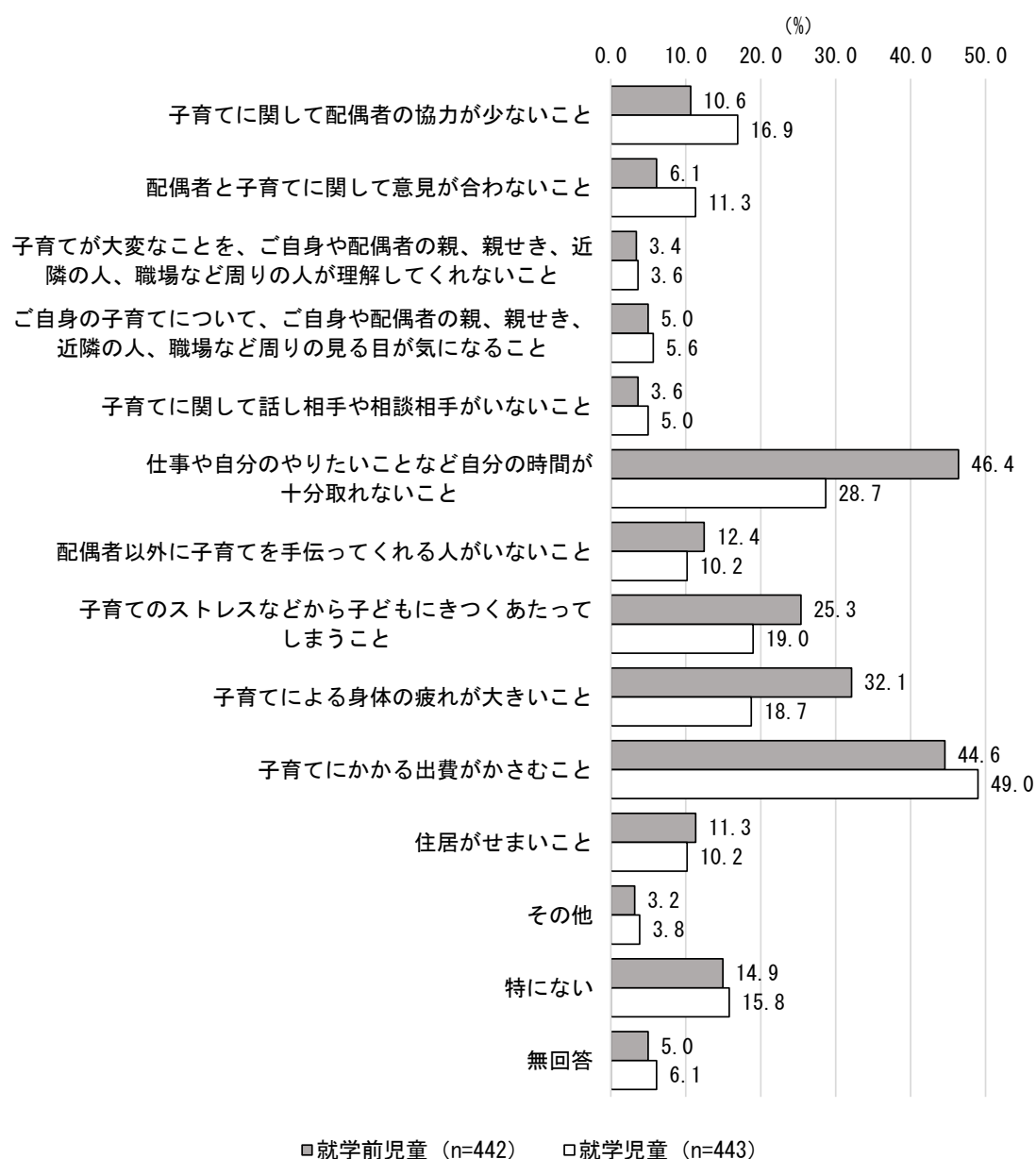
②自身に関すること

【就学前児童：問37（2）】【就学児童：問31（2）】 ●複数回答

就学前児童について、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が46.4%と最も多く、「子育てにかかる出費がかさむこと」が44.6%と続いています。

就学児童については、「子育てにかかる出費がかさむこと」が49.0%と最も多く、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が28.7%と続いています。

図 子育てに対する感じ方：自身に関すること



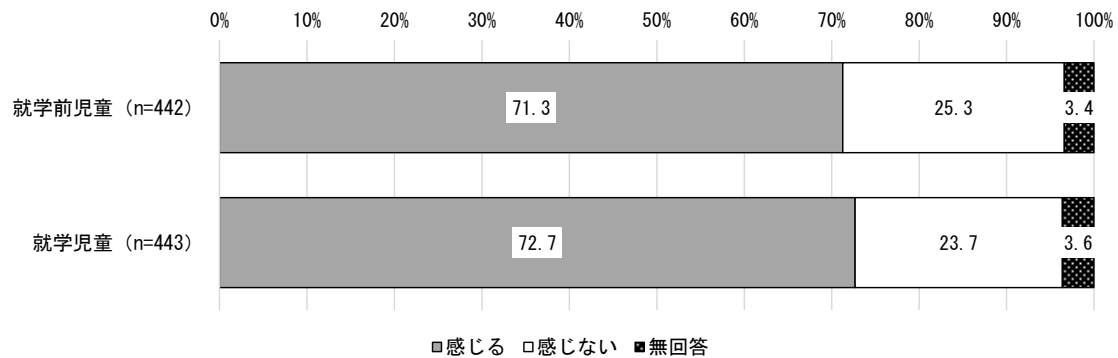
(5) 子育てが地域の人に支えられていると感じるか

①子育てが地域の人に支えられていると感じるか

【就学前児童：問38】【就学児童：問32】 ●単一回答

就学前児童、就学児童ともに、「感じる」が70%周辺の数値となっています。

図 子育てが地域の人に支えられていると感じるか



また、居住地域ごとにクロス集計を行ったところ、就学前児童において、「感じる」では、「南第三小学校区」が80.0%と最も多く、「南第一小学校区」の62.2%が最も低くなっています。就学児童においては、全ての小学校区において、「感じる」が70%周辺の数値となっています。

図 居住地域（問1）×子育てが地域の人に支えられていると感じるか（就学前児童）

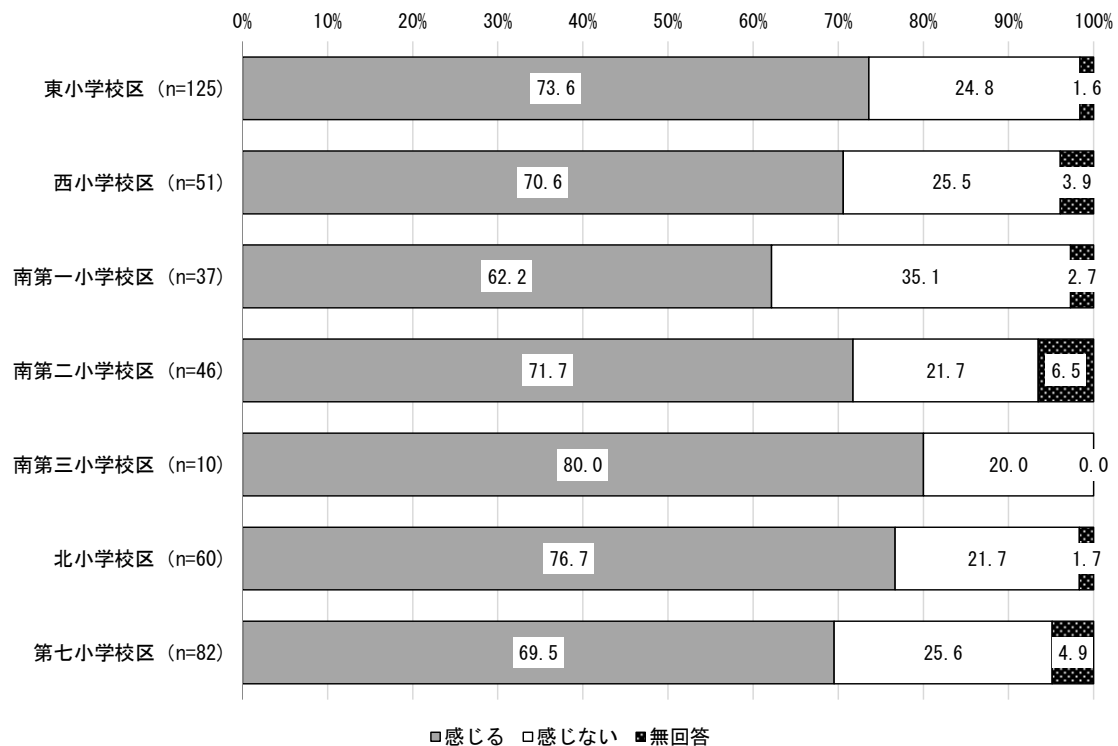
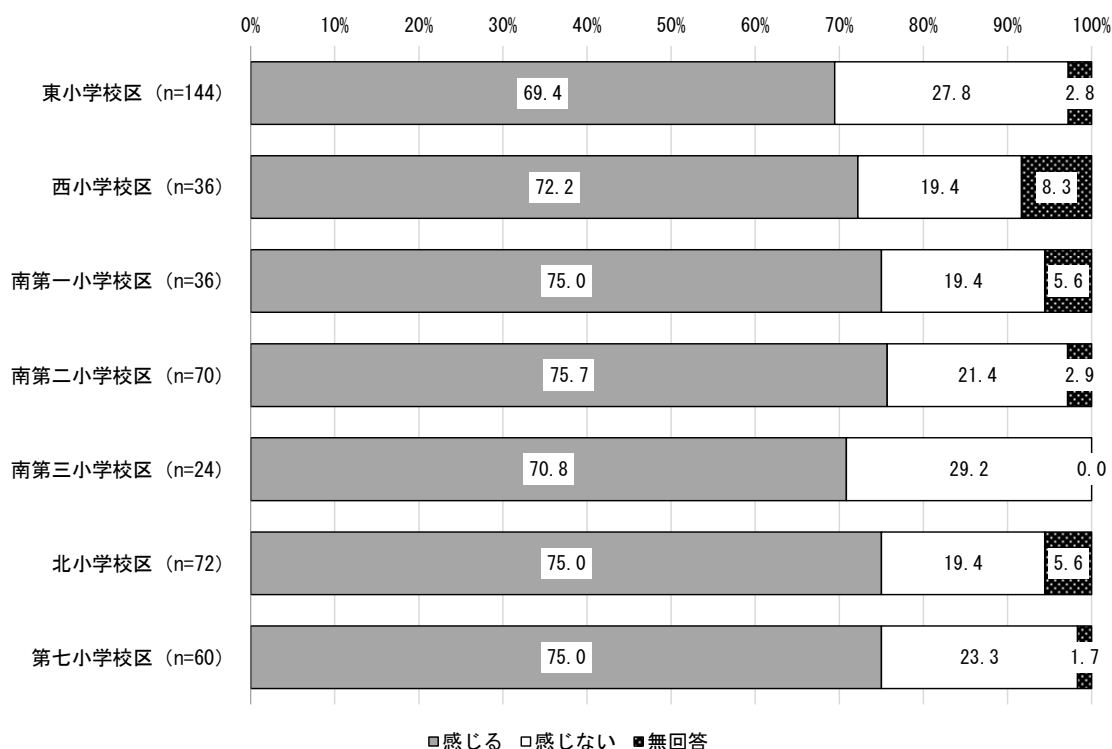


図 居住地（問１）×子育てが地域の人に支えられていると感じるか（就学児童）



②特に誰から支えられていると感じるか

【就学前児童：問38】【就学児童：問32】 ●複数回答

感じる、と答えた方のみ

就学前児童においては、「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」の66.3%が最も多く、「同じ世代の子どもを持つ保護者」が44.4%と続いています。

就学児童においては、「同じ世代の子どもを持つ保護者」が64.3%と最も多く、「近所の人」が43.8%と続いています。

図 特に誰から支えられていると感じるか（就学前児童）

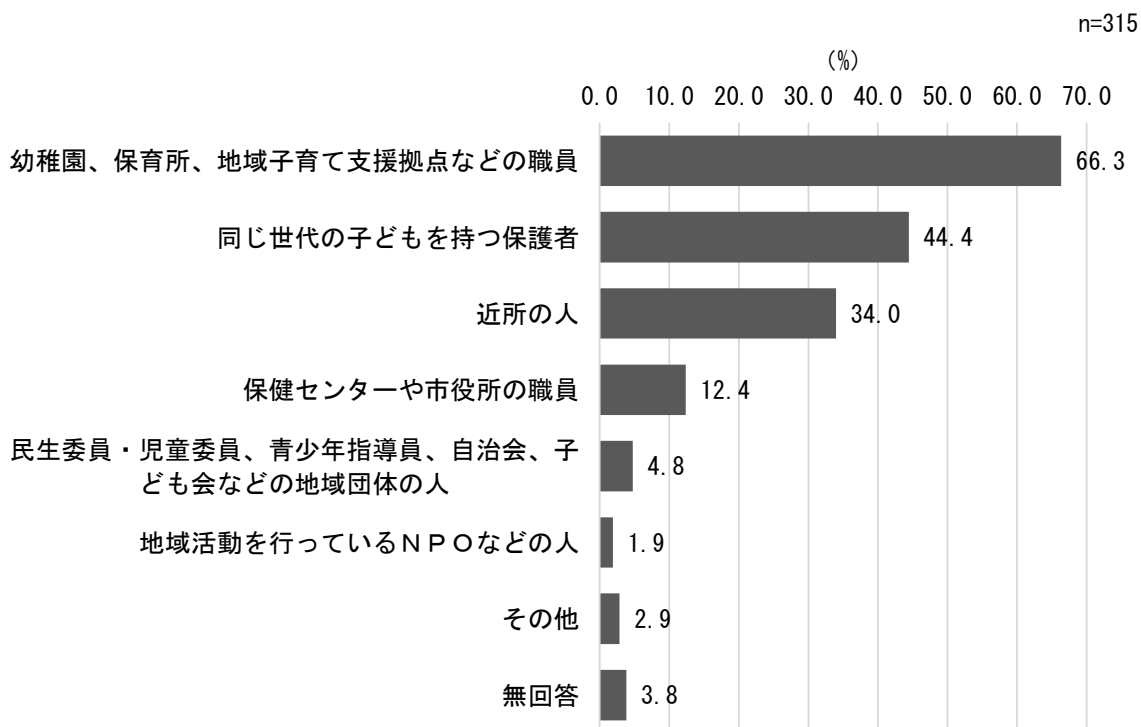
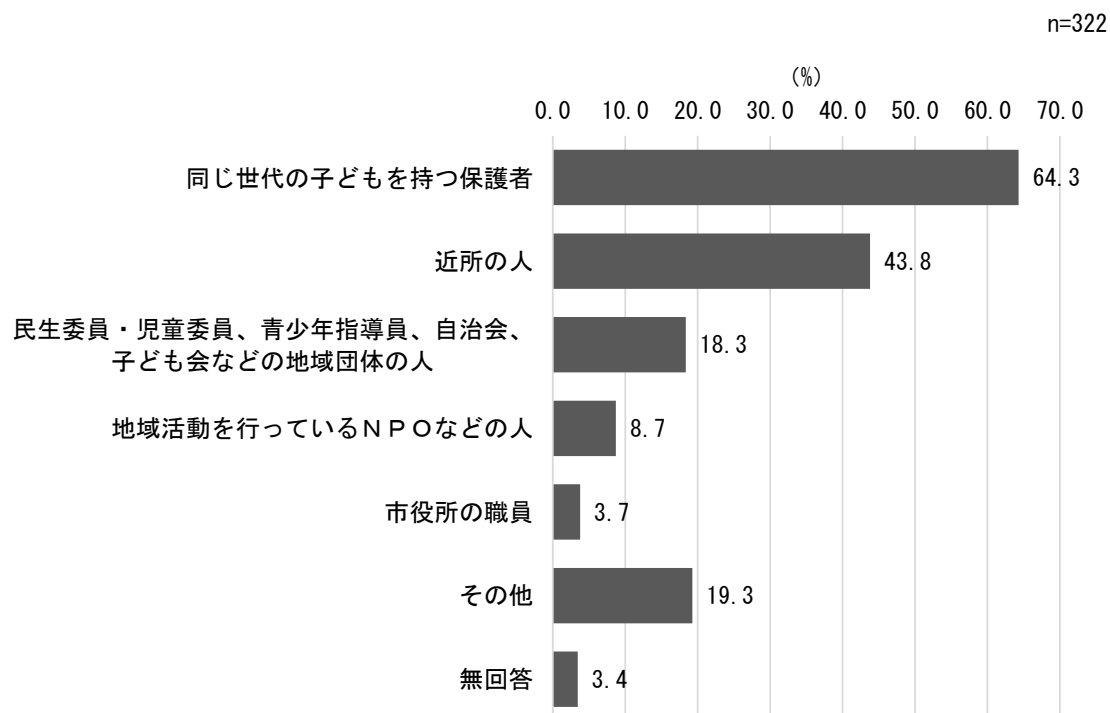


図 特に誰から支えられていると感じるか（就学児童）



③特に支えてほしい人

【就学前児童：問38】【就学児童：問32】 ●複数回答

感じない、と答えた方のみ

「同じ世代の子どもを持つ保護者」については、就学前児童、就学児童ともに最も多くなっています（それぞれ31.3%、22.9%）。また、就学前児童については「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」（30.4%）、就学児童については「市役所の職員」（14.3%）と続いています。

図 特に支えてほしい人（就学前児童）

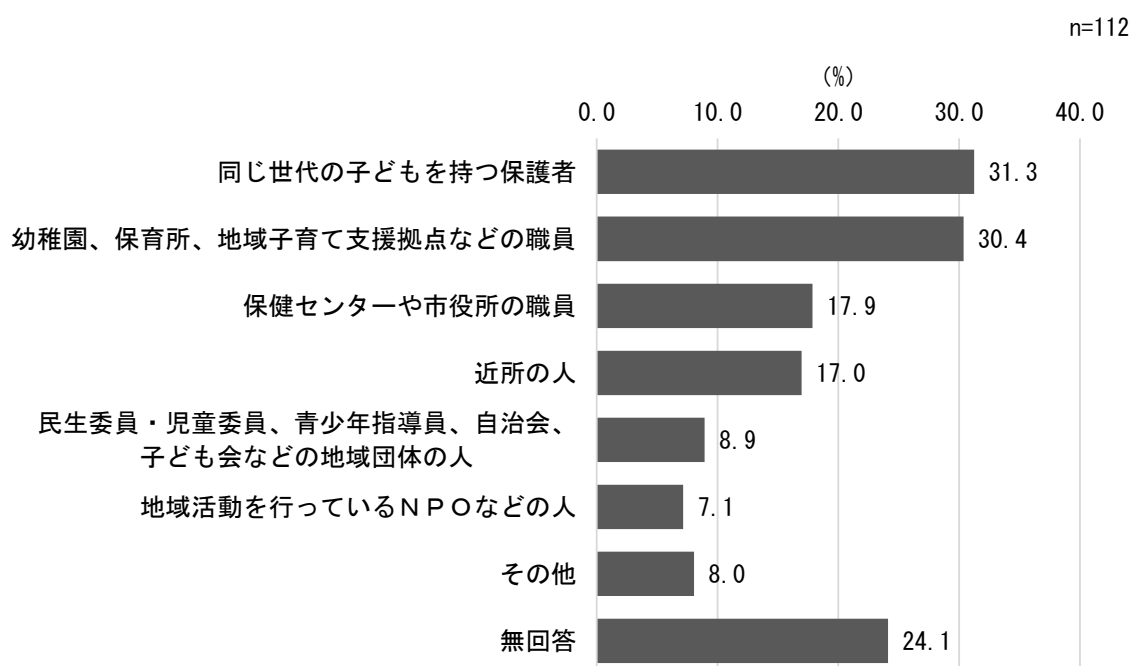
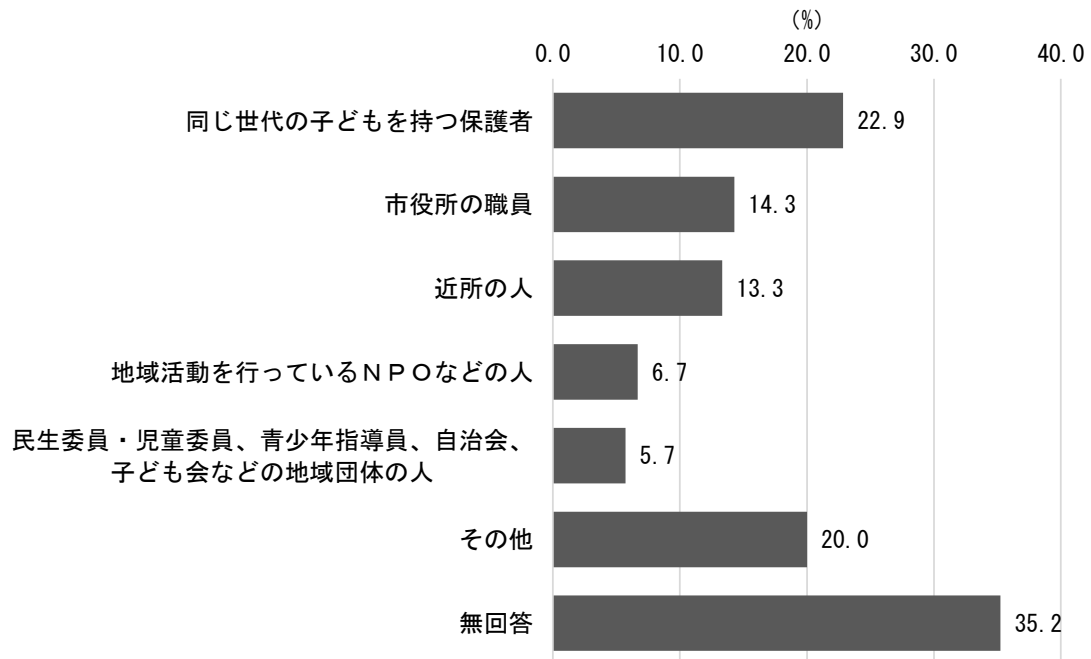


図 特に支えてほしい人（就学児童）

n=105



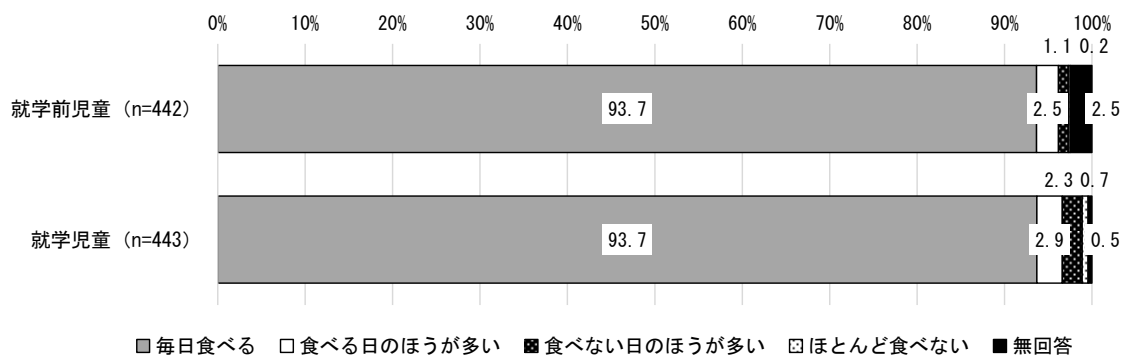
4. 子どもの生活習慣について

（１）朝ごはんを食べるか

【就学前児童：問31（１）】【就学児童：問21（１）】 ●単一回答

就学前児童、就学児童ともに「毎日食べる」が93.7%となっています。

図 朝ごはんを食べるか

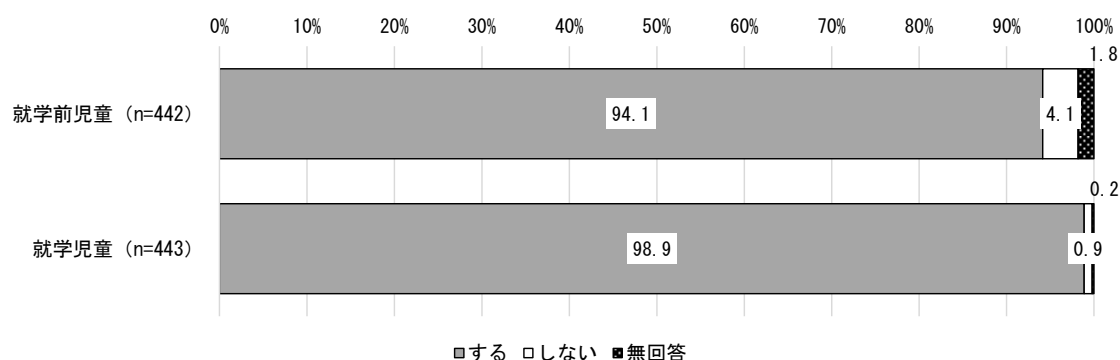


（２）１日１回は家族と一緒に食事をするか

【就学前児童：問31（２）】【就学児童：問21（２）】 ●単一回答

就学前児童、就学児童ともに「する」がそれぞれ94.1%、98.9%となっています。

図 １日１回は家族と一緒に食事をするか



（３）平日のテレビ、タブレット、スマートフォン等の１日あたりの平均視聴時間

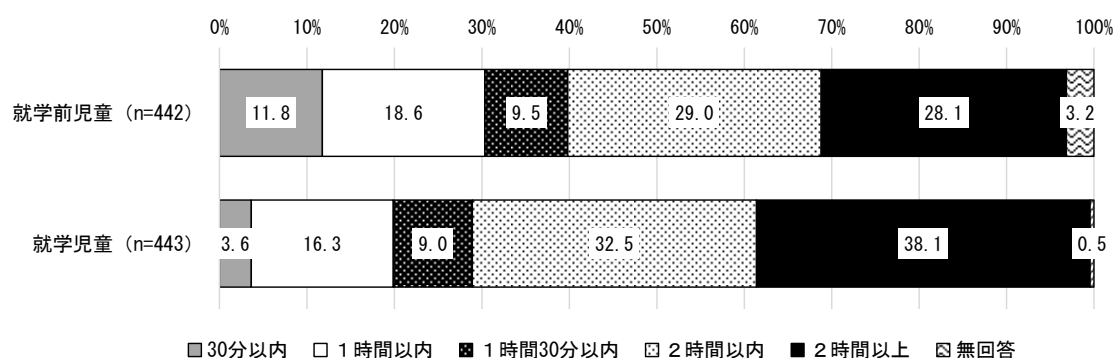
【就学前児童：問31（３）】【就学児童：問21（３）】 ●単一回答

就学前児童において、「２時間以内」が29.0%と最も多く、「２時間以上」が28.1%と続いています。

就学児童においては、「２時間以上」が38.1%と最も多く、「２時間以内」が32.5%と続いています。

総じて、就学児童の方が就学前児童よりも、１日あたりの平均視聴時間が長くなっています。

図 平日のテレビ、タブレット、スマートフォン等の１日あたりの平均視聴時間



(4) 就寝時刻

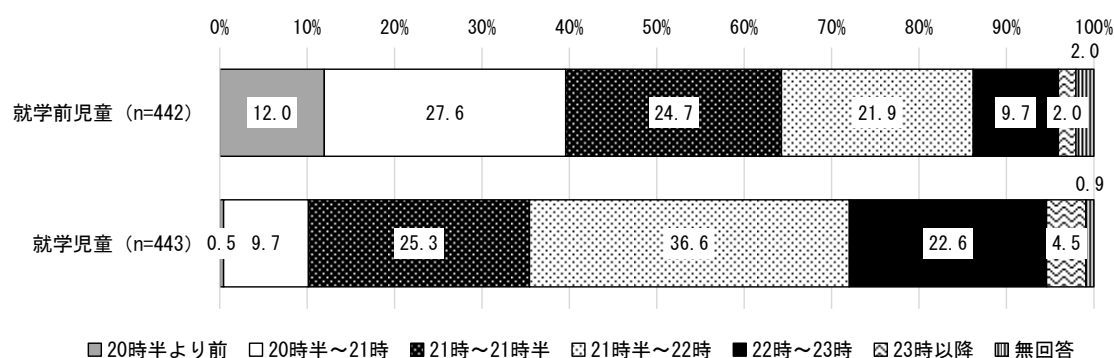
【就学前児童：問31（4）】【就学児童：問21（4）】 ●単一回答

就学前児童において、「20時半～21時」が27.6%と最も多く、「21時～21時半」が24.7%と続いています。

就学児童においては、「21時半～22時」が36.6%と最も多く、「21時～21時半」が25.3%と続いています。

総じて、就学児童の方が就学前児童よりも、就寝時刻が遅くなっています。

図 就寝時刻



(5) 子どもの普段の過ごし方

【就学児童：問22】 ●単一回答

平日においては、下校後に「家や公園などで友だちと過ごす」、「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」、「学習塾や習い事へ行く」、「放課後児童会で過ごす」が主となっています。

休日においては、「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」が主となっています。

次に、16～18時における子どもの普段の過ごし方を学年別にクロス集計を行ったところ、「放課後児童会で過ごす」は学年が上がるごとに数値が低くなっている一方、「家や公園などで友だちと過ごす」は学年が上がるごとに数値が高くなっています。また、「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」は、「3年生」の数値が相対的に低く、「学習塾や習い事へ行く」は3～5年生の数値が相対的に高くなっています。

図 子どもの普段の過ごし方（就学児童）

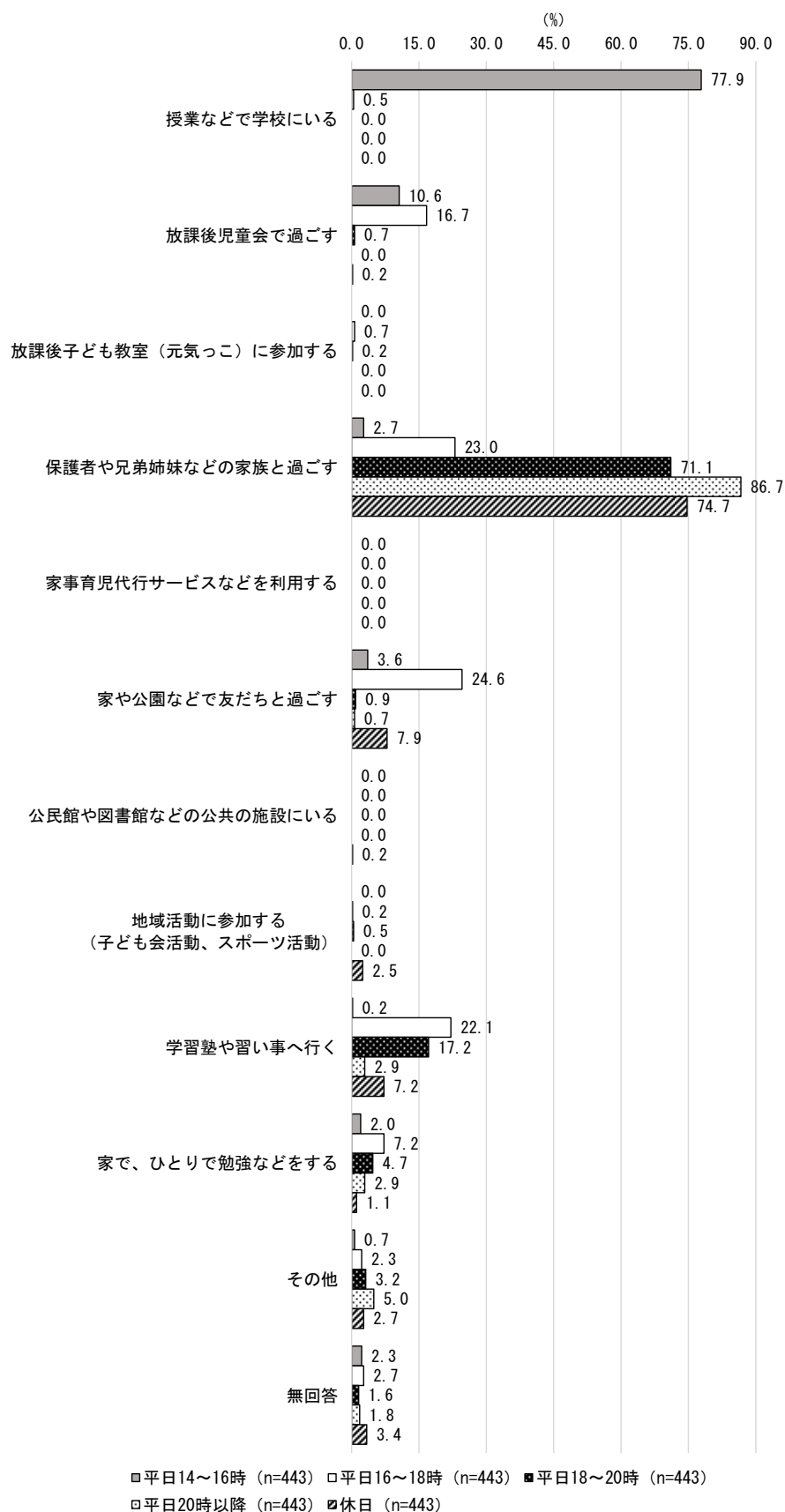
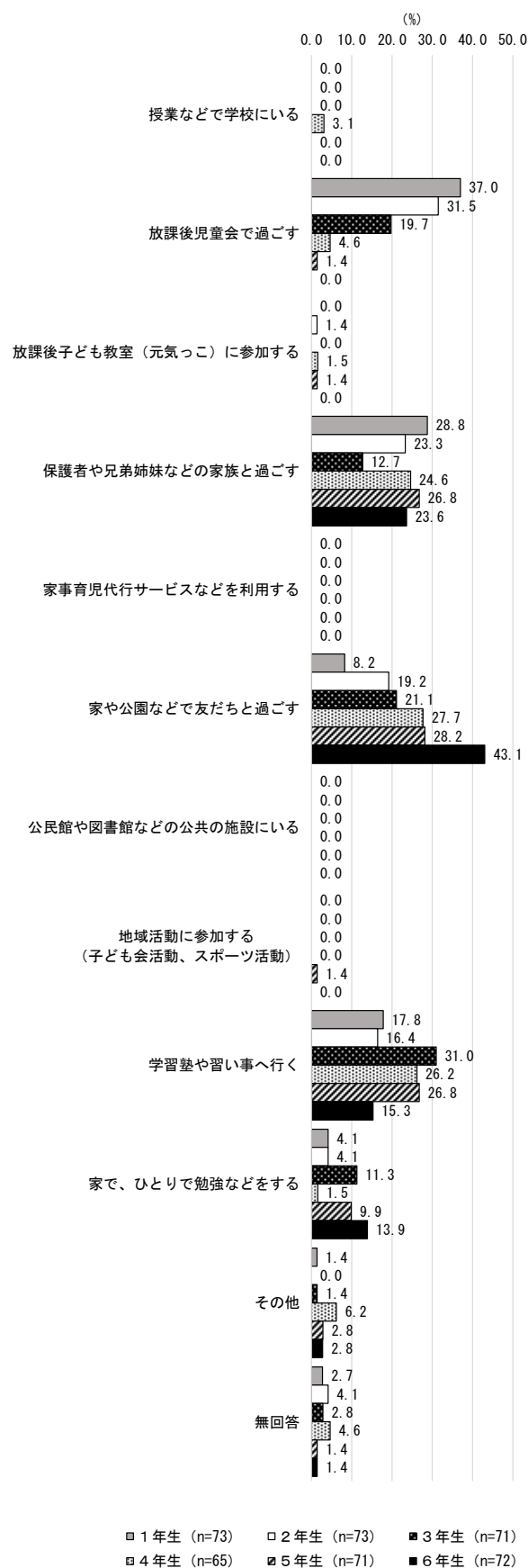


図 学年（問3）×子どもの普段の過ごし方：16～18時（就学児童）



第3章 サービス利用の現状と今後の利用希望

1. 平日に定期的に利用しているサービスについて

(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

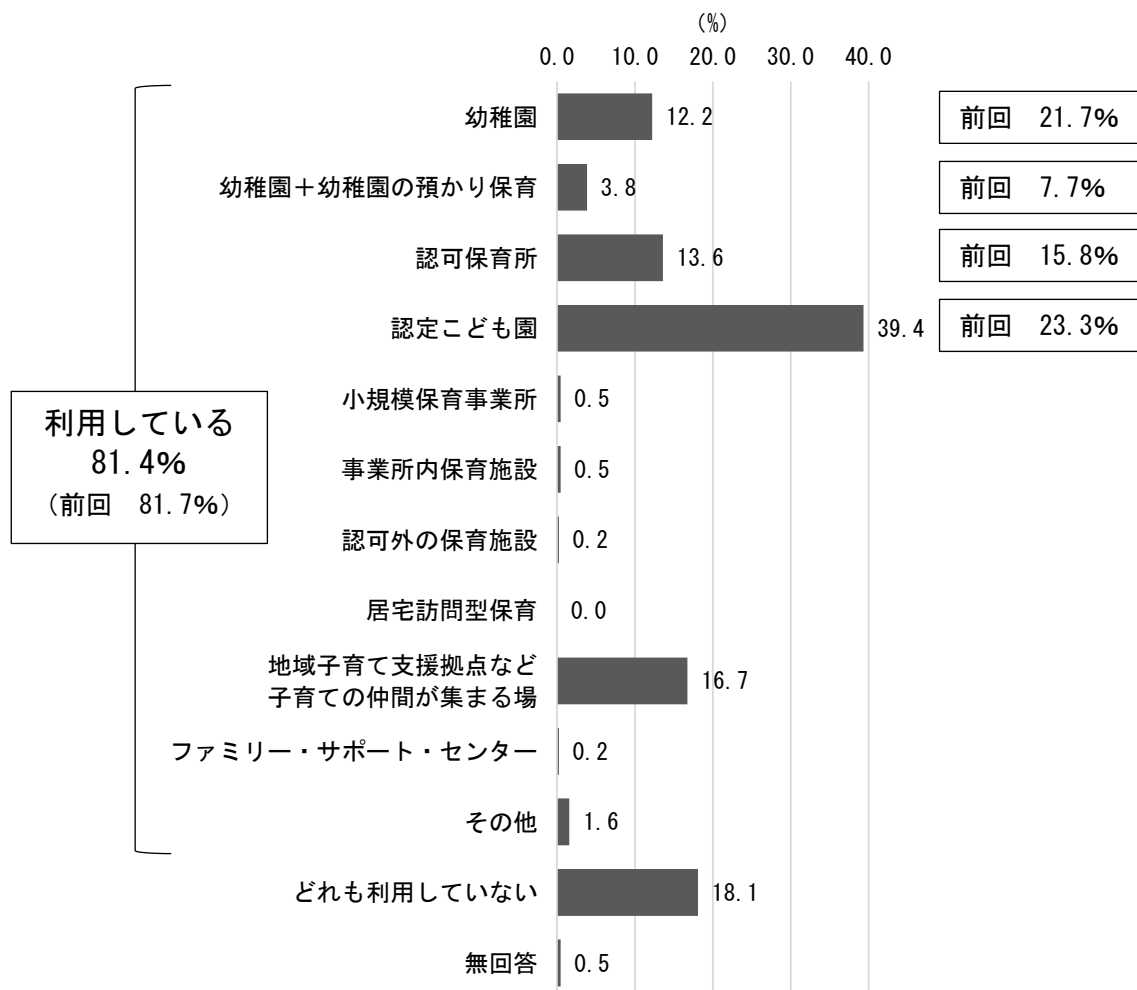
【就学前児童：問13】 ●複数回答

平日の定期的な教育・保育事業を利用している回答者は81.4%となっています。具体的な事業では、「認定こども園」が39.4%と最も多く、「地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場」の16.7%と続いています。

また、前回調査結果との比較において、「幼稚園」の数値が9.5%低くなっている一方、「認定こども園」の数値が16.1%高くなっています。

図 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前児童）

n=442



平日の定期的な教育・保育事業を利用している割合について、年齢別、居住地域別にクロス集計を行ったところ、年齢別では、年齢が上がるにつれて「利用している」の数値が高い傾向があります。居住地域別では、「西小学校区」及び「南第三小学校区」が70%台、他の小学校区は80%台となっています。

図 年齢（問3）×平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前児童）

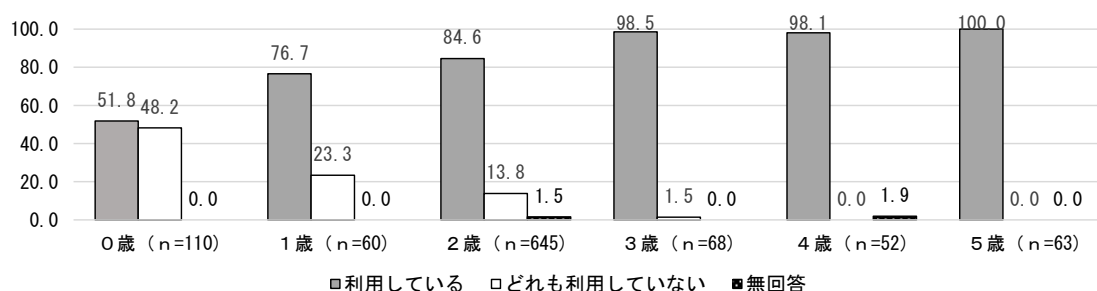
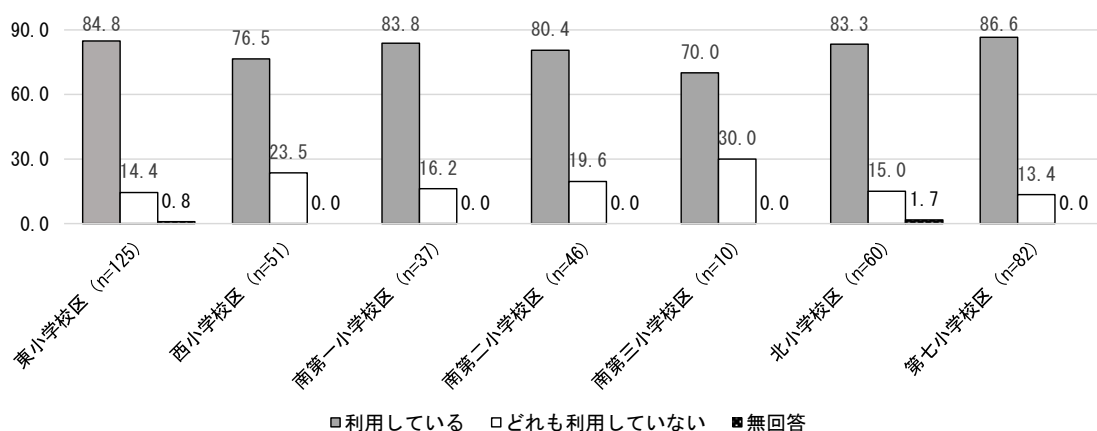


図 居住地域（問1）×平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前児童）



母親の就労状況と平日の定期的な教育・保育事業の利用状況でクロス集計をかけたところ、「フルタイムで働いている」及び「パート・アルバイトなどで働いている」では、「認定こども園」がそれぞれ64.5%、48.6%と最も多くなっています。

「フルタイムで働いているが、今は休んでいる（産休・育休・介護休業中等）」では、「どれも利用していない」が38.5%と最も多く、「地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場（UPっぶ、ぽっぽえん、子育てひろば“くみのき”、わんぱくプラザ等）」が31.9%と続いています。

「パート・アルバイトなどで働いているが、今は休んでいる（産休・育休・介護休業

中等)」では、「どれも利用していない」が40.0%と最も多く、「認定こども園」が35.0%と続いています。

「以前は働いていたが、今は働いていない」では、「地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場（UPっふ、ぽっぽえん、子育てひろば“くみのき”、わんぱくプラザ等）」が29.6%と最も多く、「幼稚園（通常の就園時間利用）」（28.7%）、「認定こども園」（25.0%）、「どれも利用していない」（22.2%）と続いています。

「これまで働いたことがない」では、「幼稚園（通常の就園時間利用）」が75.0%と最も多くなっています。

表 母親の就労状況（問11）×平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前児童）

		n	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況												
			幼稚園（通常の就園時間利用）	幼稚園＋幼稚園の預かり保育（通常就園時間を利用して、さらに時間を延長して、定園的に預けている）	認可保育所	認定こども園	小規模保育事業所	事業所内保育施設（会社が主に従業員のために子どもを預かる施設）	認可外の保育施設	住宅訪問型保育（ベビシッターなどが自宅訪問して子どもをみてるサービ	ス）	ろま地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場（ＵＰつづ、ぽっぽえん、子育てひろば“くみのき”、わんぱくプラザ等）	所の委託を受けたセンターに登録している近所の人（が子どもをみてるサービ	その他	どれも利用していない
母親の就労状況	フルタイムで働いている	107	0.0	0.9	29.0	64.5	0.0	0.9	0.9	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	0.9
	フルタイムで働いているが、今は休んでいる（産休・育休・介護休業中等）	91	2.2	1.1	9.9	18.7	1.1	1.1	0.0	0.0	31.9	0.0	0.0	38.5	0.0
	パート・アルバイトなどで働いている	105	14.3	9.5	14.3	48.6	1.0	0.0	0.0	0.0	7.6	0.0	1.0	9.5	0.0
	パート・アルバイトなどで働いているが、今は休んでいる（産休・育休・介護休業中等）	20	5.0	0.0	10.0	35.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	以前は働いていたが、今は働いていない	108	28.7	4.6	1.9	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.6	0.0	3.7	22.2	0.9
	これまで働いたことがない	4	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0

（２）平日の定期的な教育・保育事業を利用しない理由

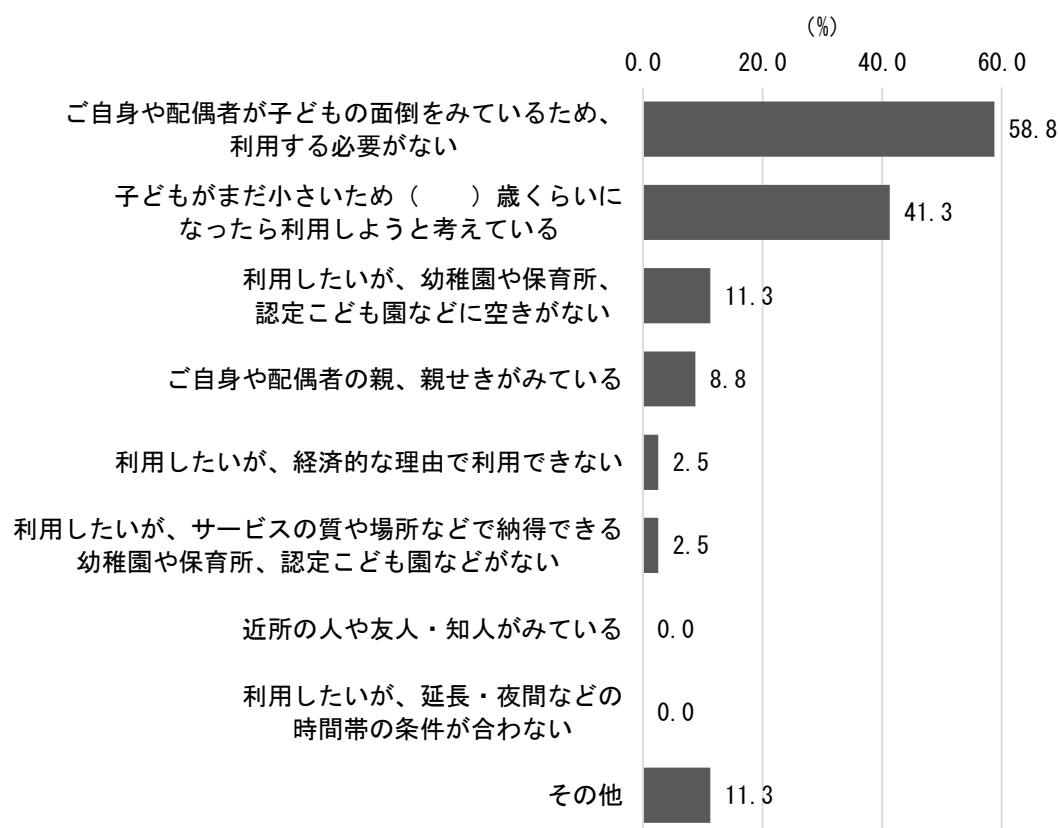
【就学前児童：問13－１】 ●複数回答、数値入力

問13において、「どれも利用していない」と答えた方のみ

「ご自身や配偶者が子どもの面倒をみているため、利用する必要がない」が58.8%と最も多く、「子どもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている」が41.3%と続いています。

図 平日の定期的な教育・保育事業を利用しない理由（就学前児童）

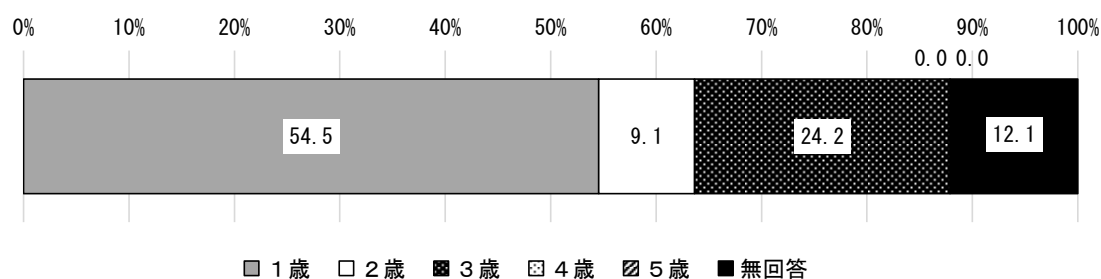
n=80



また、平日の定期的な教育・保育事業の利用希望時の子どもの年齢については、「1歳」が54.5%と最も多く、「3歳」が24.2%が続いています。

図 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望時の子どもの年齢〔歳〕（就学前児童）

n=33



(3) 平日の定期的な教育・保育事業の現在の利用日数〔1週あたり〕

【就学前児童：問13－2】 ●数値入力

問13において、利用している、と答えた方のみ

1週当たりの日数について、現在と希望ともに「5日」が最も多くなっています。

1日あたりの利用時間については、現在と希望ともに「7～8時間」及び「9～10時間」が相対的に多くなっています。

サービス利用の終了時間（何時まで利用するか）については、現在及び希望ともに「17時台」と「18時台」が相対的に多くなっています。

図 1週あたりの日数：現在と希望（就学前児童）

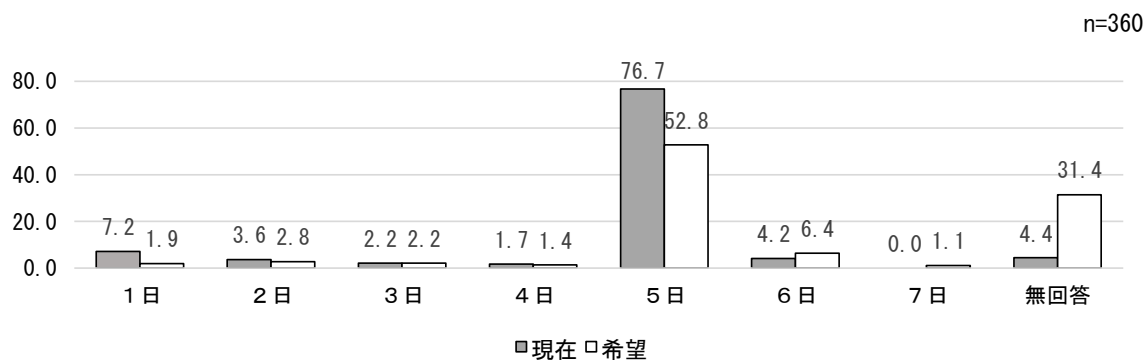


図 1日あたりの利用時間：現在と希望（就学前児童）

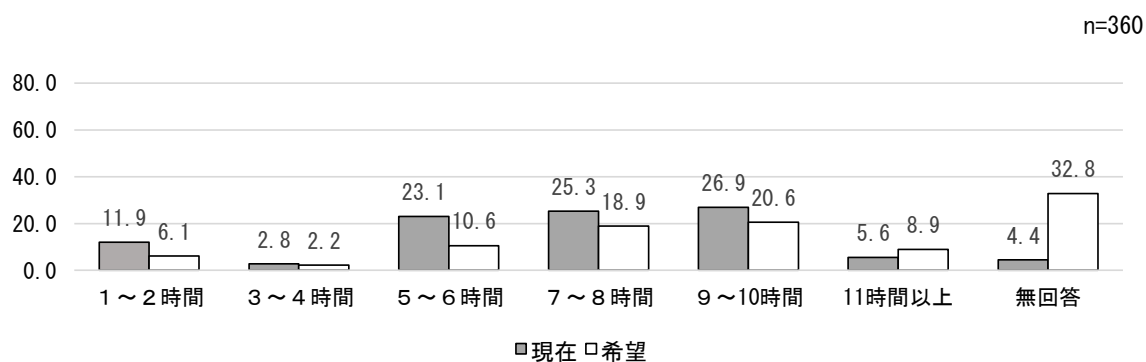
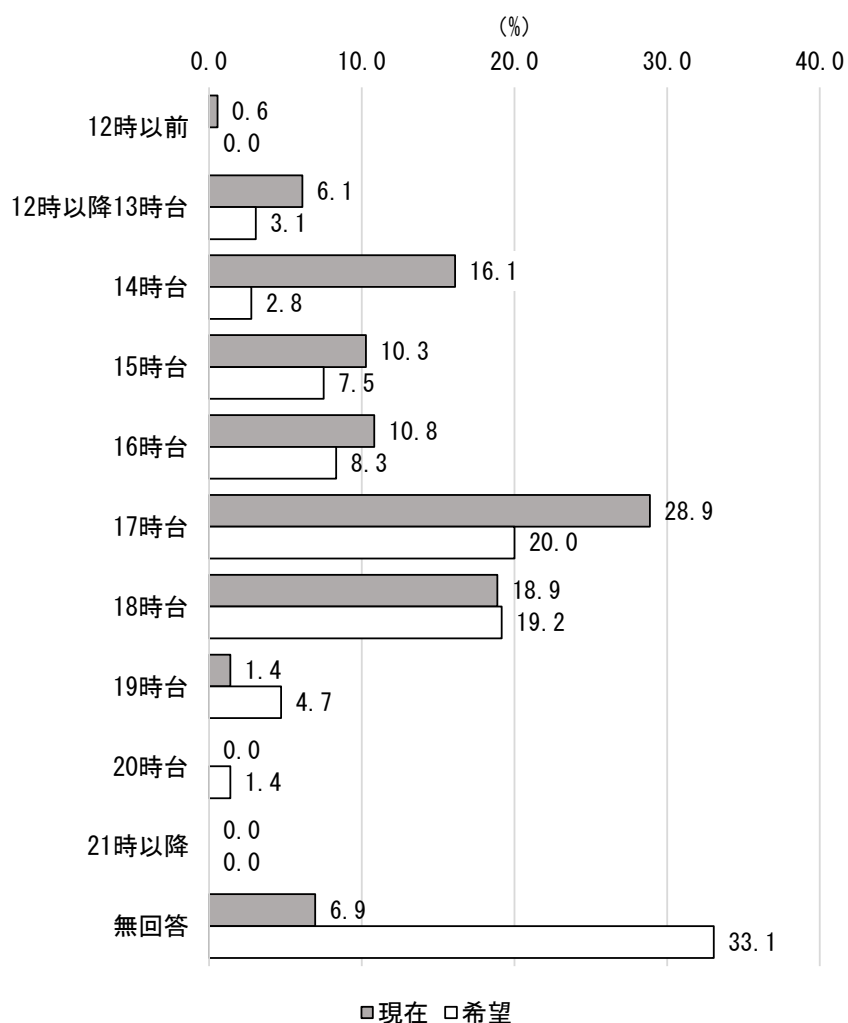


図 サービス利用の終了時間：現在と希望（就学前児童）

n=360



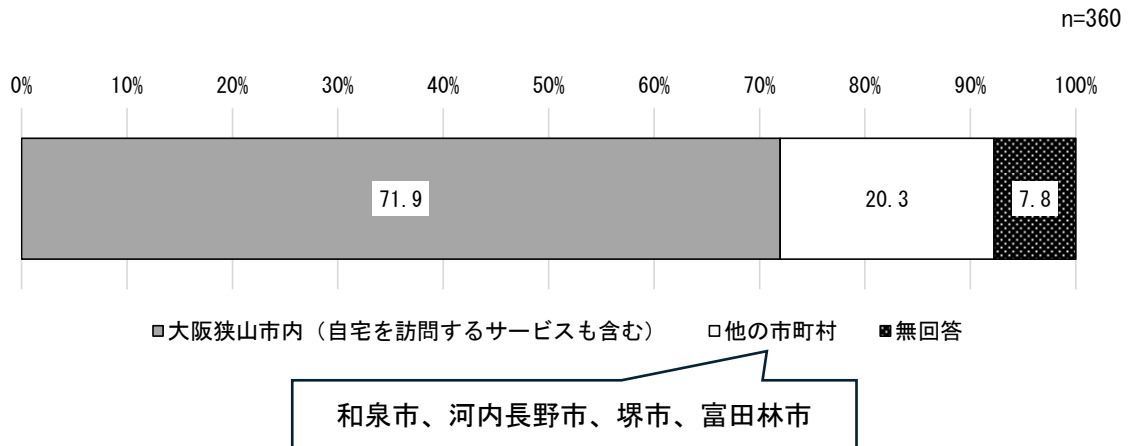
（４）現在利用している施設の場所

【就学前児童：問13－３】 ●単一回答

問13において、利用している、と答えた方のみ

「大阪狭山市内（自宅を訪問するサービスも含む）」が71.9%、「他の市町村」が20.3%となっています。「他の市町村」については、和泉市、河内長野市、堺市、富田林市といった複数の自治体名が挙げられています。

図 現在利用している施設の場所（就学前児童）



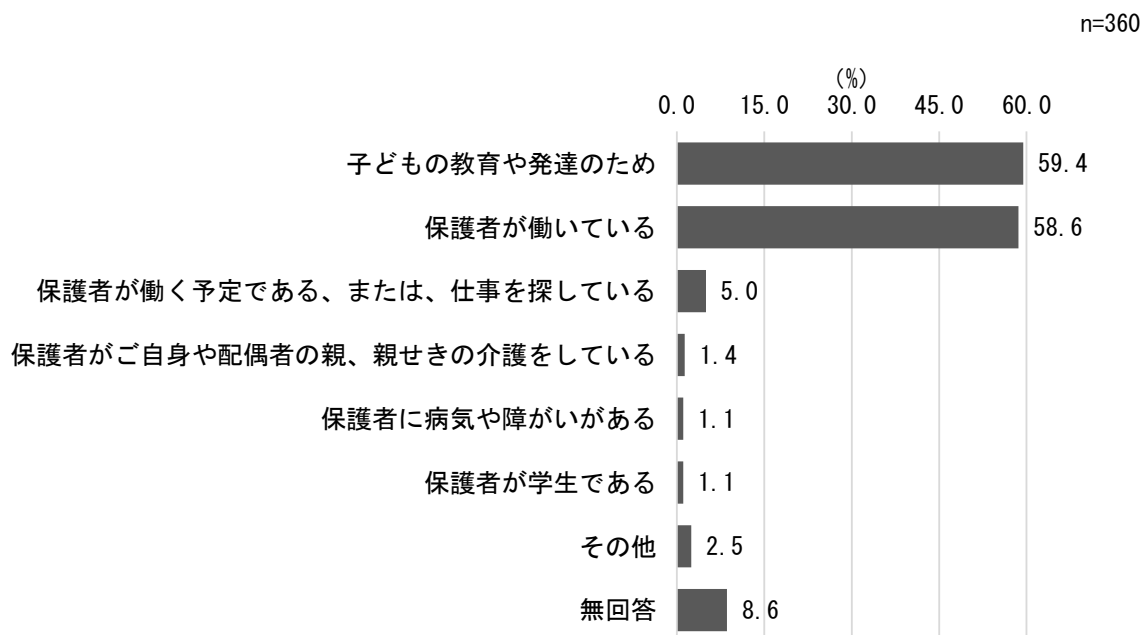
（５）施設やサービスを利用している理由

【就学前児童：問13－４】 ●数値入力

問13において、利用している、と答えた方のみ

幼稚園や保育所、認定こども園などの施設やサービスを利用している理由について、「子どもの教育や発達のため」が59.4%と最も多く、「保護者が働いている」が58.6%と続いています。また、これら2項目は他の項目と比べて著しく多くなっています。

図 施設やサービスを利用している理由（就学前児童）



2. 平日に定期的に利用したい教育・保育事業について

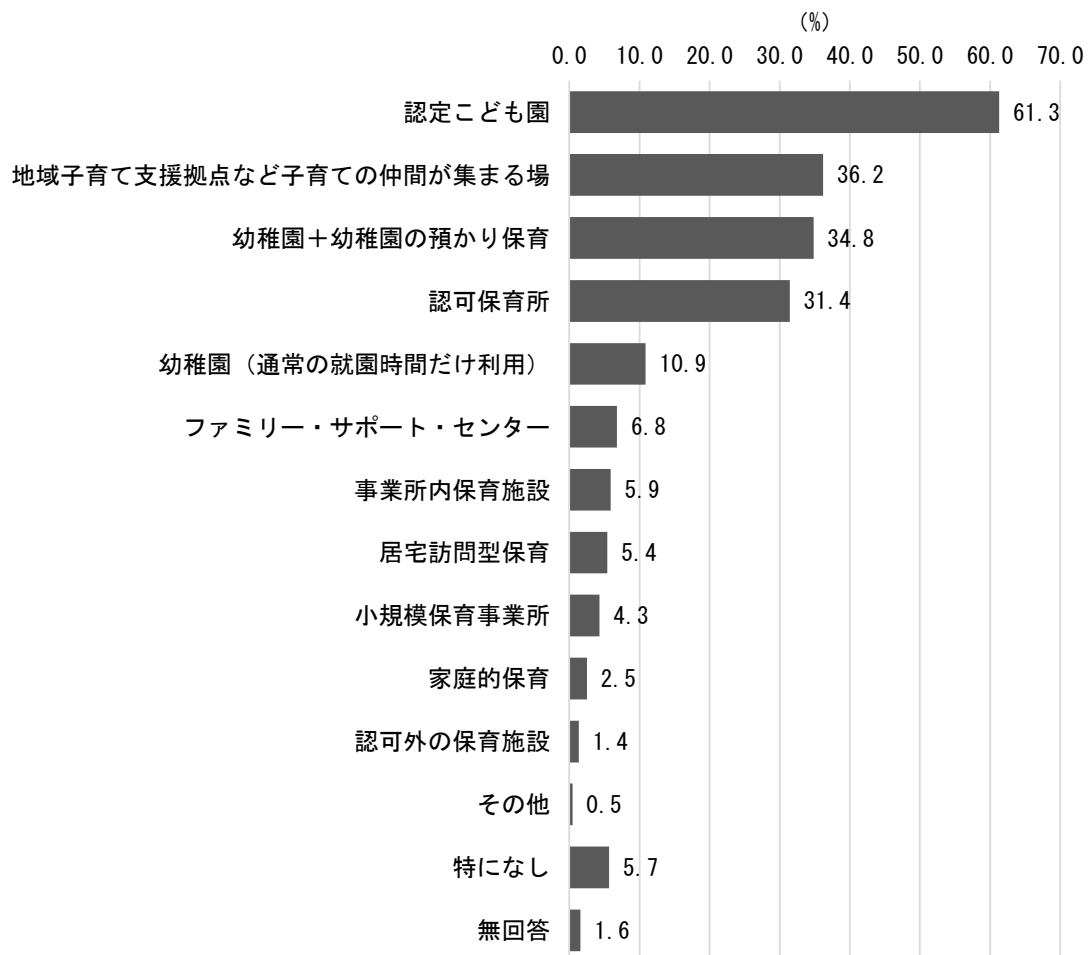
(1) 平日に定期的に利用したい施設やサービス

【就学前児童：問15】 ●複数回答

「認定こども園」が61.3%と最も多く、「地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場」が36.2%、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」が34.8%、「認可保育所」が31.4%と続いています。

図 平日に定期的に利用したい施設やサービス（就学前児童）

n=442



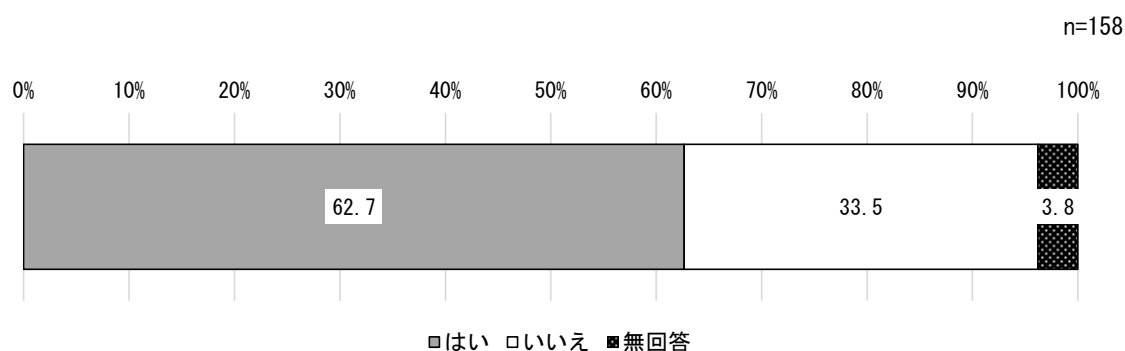
(2) 幼稚園の強い入園希望

【就学前児童：問15－1】 ●単一回答

問15において「幼稚園」または「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」を選び、且つ、「特になし」以外の項目を一つでも選んだ方のみ

「はい」が62.7%、「いいえ」が33.5%となっています。

図 幼稚園の強い入園希望（就学前児童）



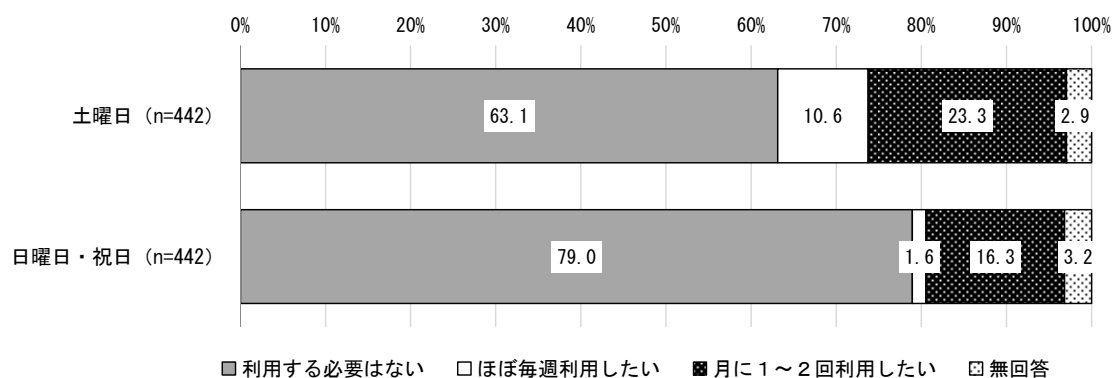
3. 休日、長期休業中における定期的な教育・保育事業の利用希望について

(1) 土曜日、日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望

【就学前児童：問16】 ●単数回答、数値入力

幼稚園や保育所、認定こども園などの利用希望について、何らかの利用を希望している割合は、土曜日では33.9%、日曜日・祝日では17.9%となっています。

図 土曜日、日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望（就学前児童）



また、「ほぼ毎週利用したい」と回答した方について利用したい時間帯を尋ねたところ、開始時間では、土曜日及び日曜日・祝日ともに「8時台」が最も多く、続いて「7時台」となっています。

終了時間では、土曜日及び日曜日・祝日ともに「18時台」が最も多く、他の時間とのポイント差が大きくなっています。

図 「ほぼ毎週利用したい」利用したい時間帯：開始時間（就学前児童）

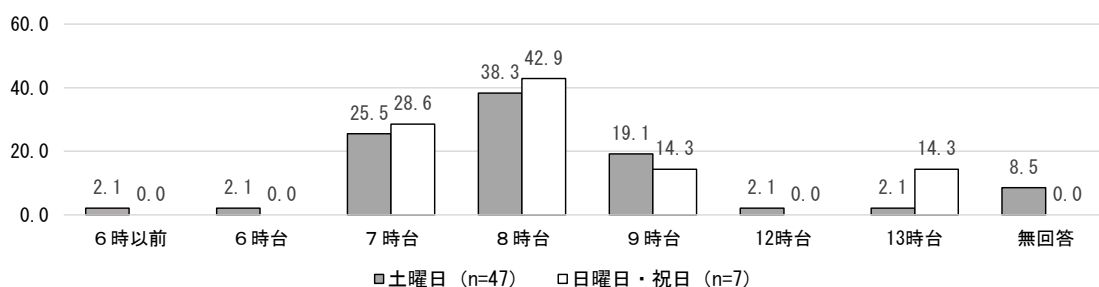
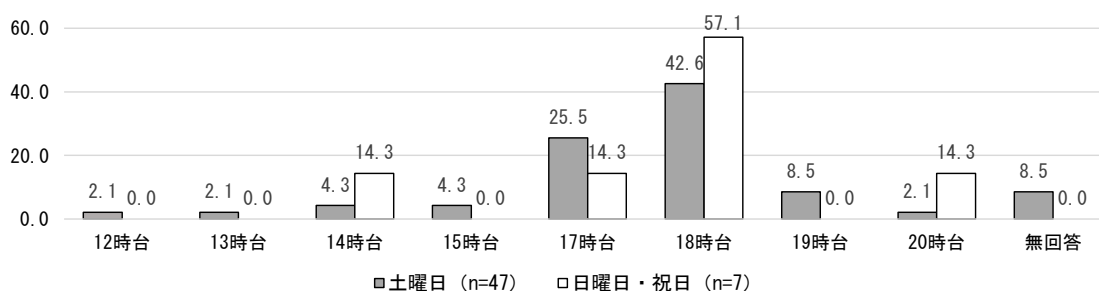


図 「ほぼ毎週利用したい」利用したい時間帯：終了時間（就学前児童）



さらに、「月に1～2回は利用したい」と回答した方について利用したい時間帯を尋ねたところ、開始時間では、土曜日及び日曜日・祝日ともに「9時台」が最も多く、続いて「8時台」となっています。終了時間では、土曜日及び日曜日・祝日ともに「17時台」が最も多く、続いて「18時台」となっています。

図 「月に1～2回は利用したい」利用したい時間帯：開始時間（就学前児童）

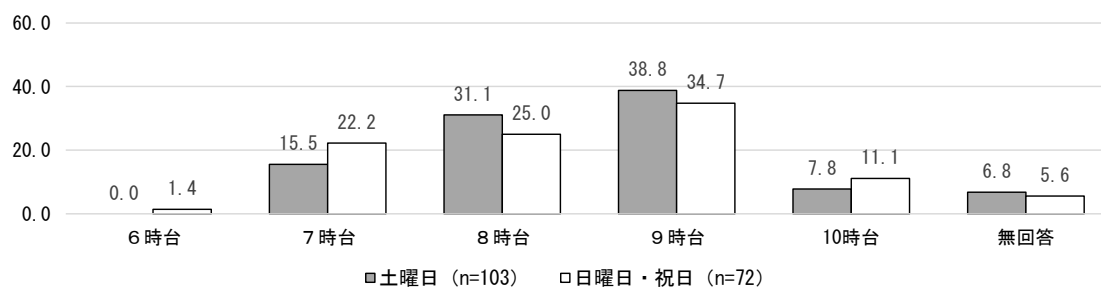
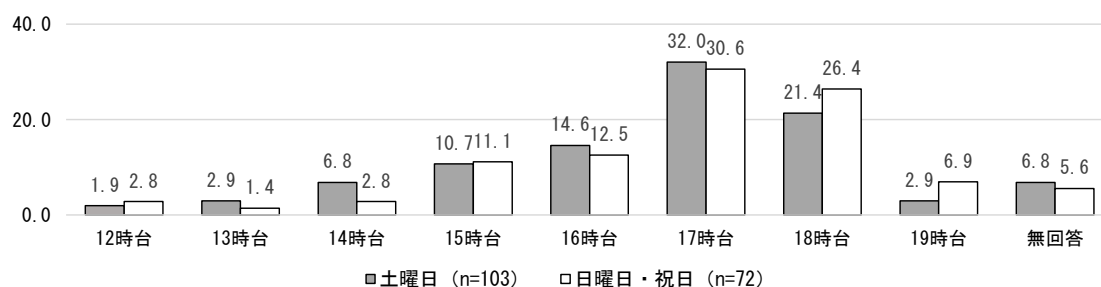


図 「月に1～2回は利用したい」利用したい時間帯：終了時間（就学前児童）



（2）長期休業中の幼稚園の利用希望

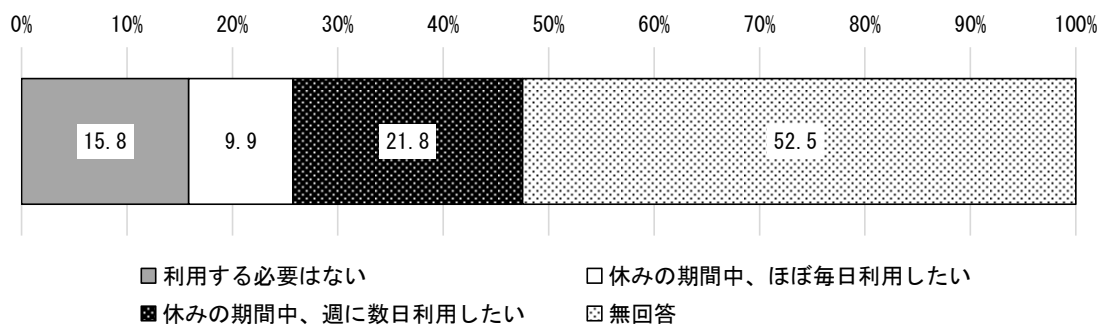
【就学前児童：問17】 ●単数回答、数値入力

お子さんが定期的に「幼稚園」を利用している方のみ

幼稚園について、何らかの利用を希望している割合は31.7%となっています。

図 夏休み・冬休みなど長期休業中における幼稚園利用について（就学前児童）

n=202



長期休業中における幼稚園の利用希望がある方に対して、利用したい時間帯を尋ねたところ、開始時間について、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」とする回答者では、「8時台」及び「9時台」が最も多くなっています。「週に数日利用したい」とする回答者では、「9時台」が最も多く、続いて「8時台」となっています。

終了時間について、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」とする回答者では「17時台」が最も多く、続いて「15時台」となっています。「週に数日利用したい」とする回答者では、「15時台」及び「16時台」が最も多くなっています。

図 長期休業中における利用したい時間帯：開始時間（就学前児童）

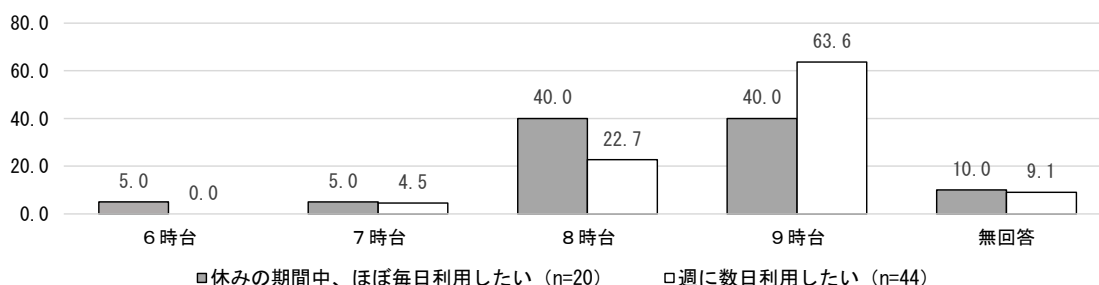
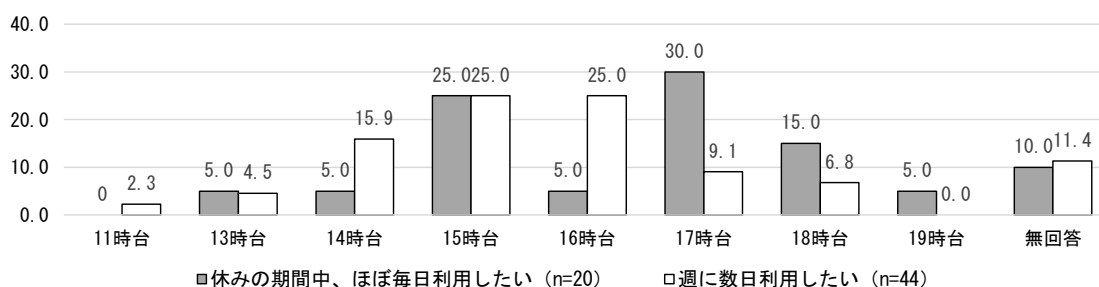


図 長期休業中における利用したい時間帯：終了時間（就学前児童）



4. 不定期の一時保育の利用について

（１）過去１年間に利用した子どもを預けるサービス

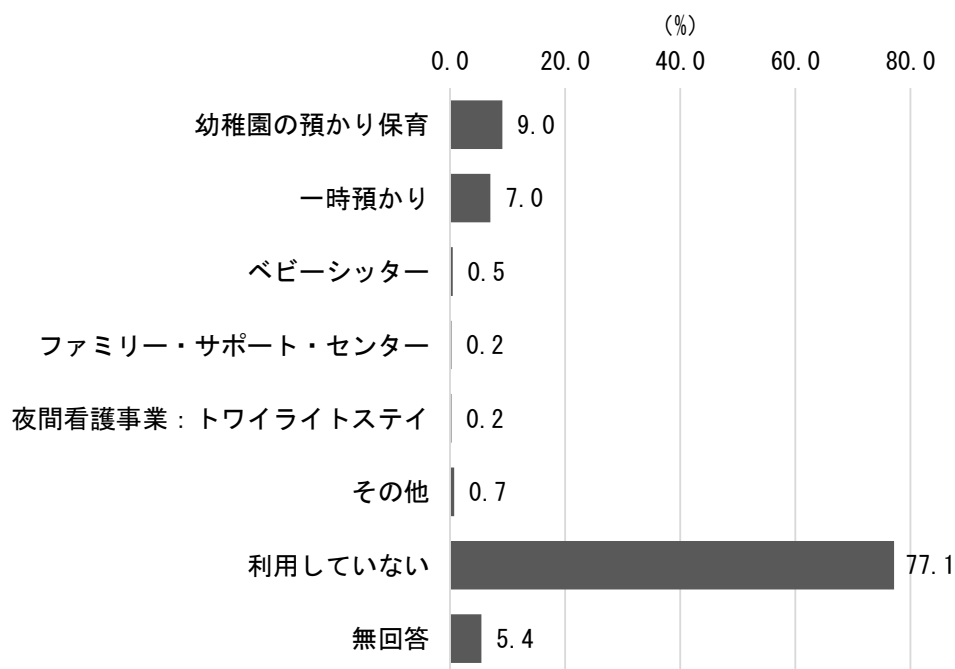
【就学前児童：問24】 ●複数回答、数値入力

「利用していない」が77.1%と最も多くなっています。また、利用したサービスについ

では、「幼稚園の預かり保育」が9.0%と最も多く、保育所などの「一時預かり」が7.0%と続いています。

図 過去1年間に利用した子どもを預けるサービス（就学前児童）

n=442



利用したサービスの年間あたりの日数について、「幼稚園の預かり保育」では「16～20日」が最も多くなっています。

「一時預かり」では、「3日」が最も多い一方、「21日」以上についても19.4%となっています。

図 「幼稚園の預かり保育」の年間あたりの日数（就学前児童）

n=40

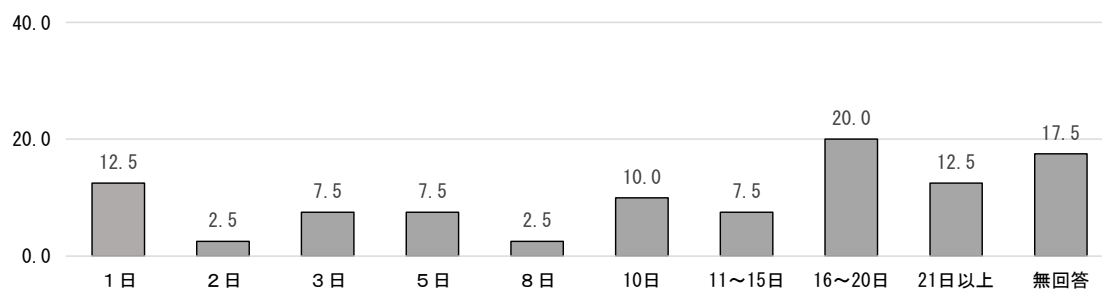
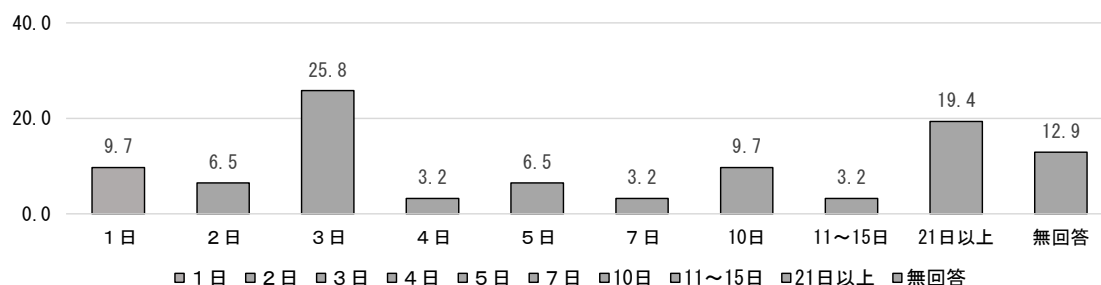


図 「一時預かり」の年間あたりの日数（就学前児童）

n=31



また、他のサービスについては以下のような結果となりました。

- ・「ファミリー・サポート・センター」
21日以上…1名
- ・「夜間看護事業：トワイライトステイ」
無回答…1名
- ・ベビーシッター
2日…1名、11～15日…1名
- ・その他サービス
2日…1名、21日以上…1名、無回答…1名

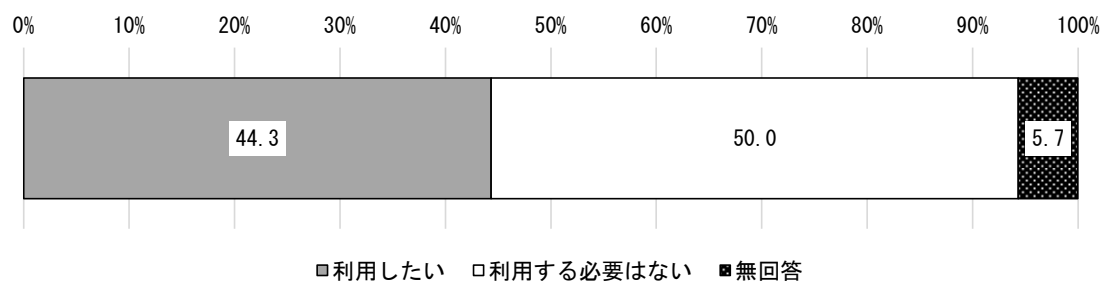
（２）保育所などでの預かり保育の利用希望

【就学前児童：問25】 ●単数回答、複数回答、数値入力

「利用したい」が44.3%、「利用する必要はない」が50.0%となっています。

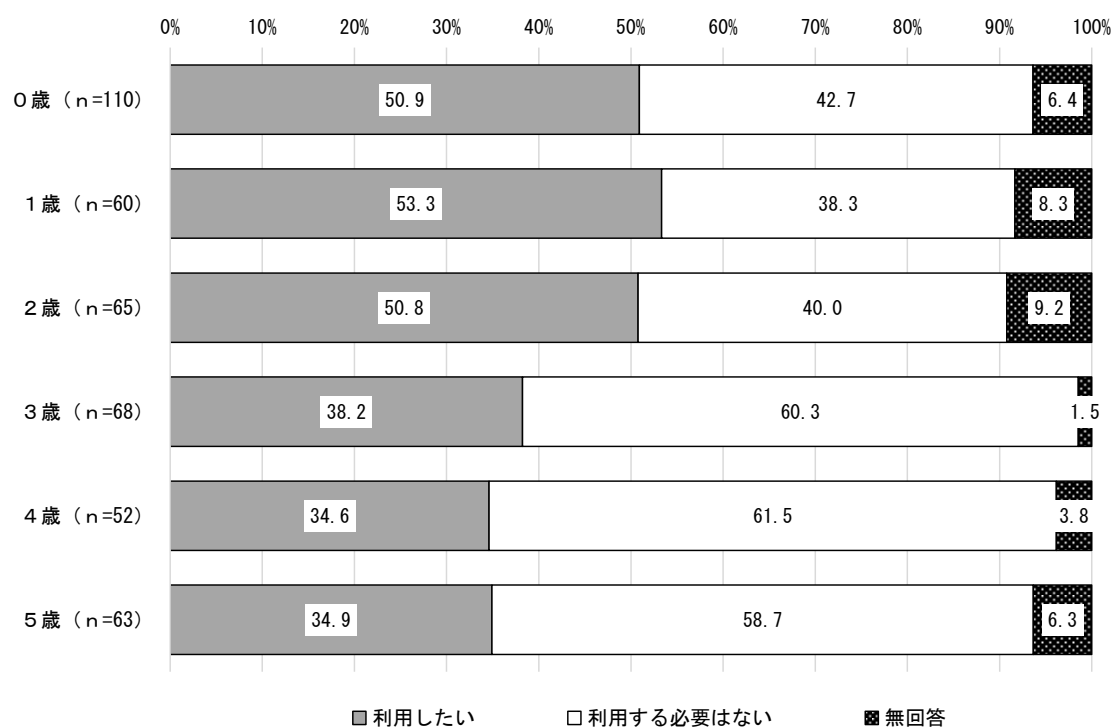
図 保育所などでの預かり保育の利用希望（就学前児童）

n=442



子どもの年齢でクロス集計をかけたところ、「利用したい」について、特に「0歳」、「1歳」及び「2歳」では、それぞれ50.9%、53.3%、50.8%と、他の年齢と比べて高くなっています。

図 子どもの年齢（問3）×保育所などでの預かり保育の利用希望（就学前児童）



「利用したい」を選択した方に対して年間あたりの利用希望日数を尋ねたところ、「21日以上」が39.8%と最も多くなっています。また、利用目的については、「買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュ」が75.5%と最も多く、「冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院など」が56.1%と続いています。

図 保育所などでの預かり保育の年間あたりの利用希望日数（就学前児童）

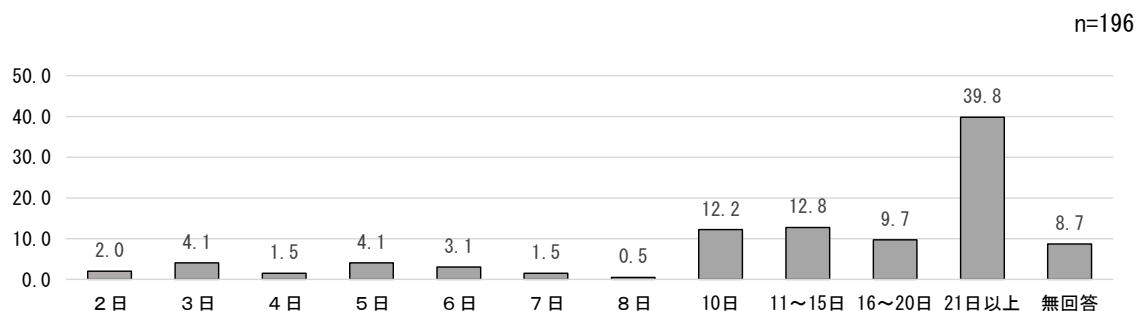
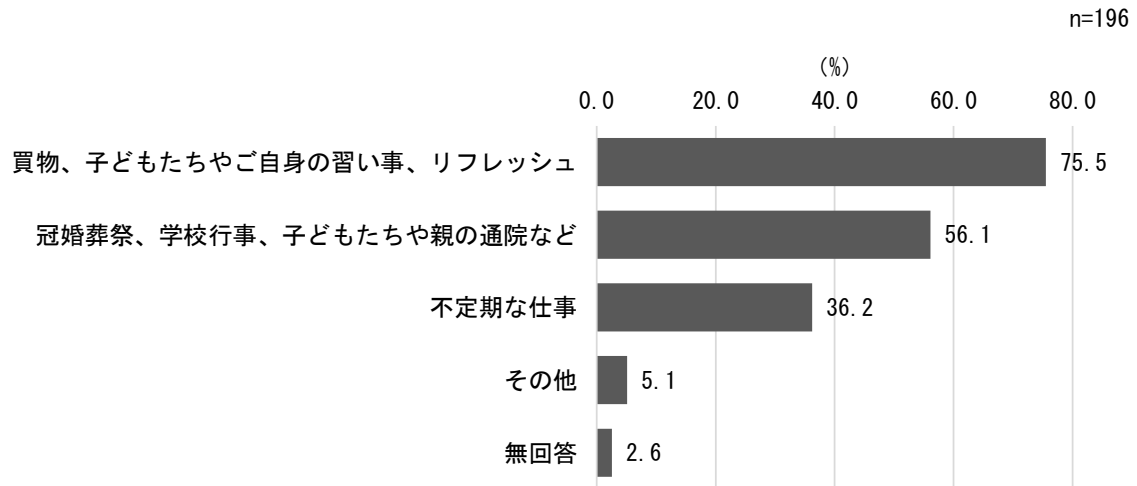


図 保育所などでの預かり保育の利用目的（就学前児童）



各利用目的における年間あたりの利用希望日数について、特に「買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュ」による日数が他の目的よりも多くなっています。

図 買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュによる
年間あたり利用希望日数（就学前児童）

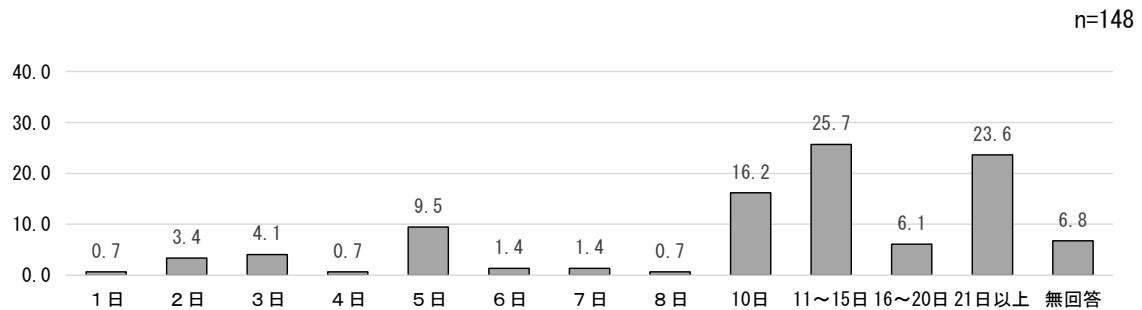


図 冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院などによる
年間あたり利用希望日数（就学前児童）

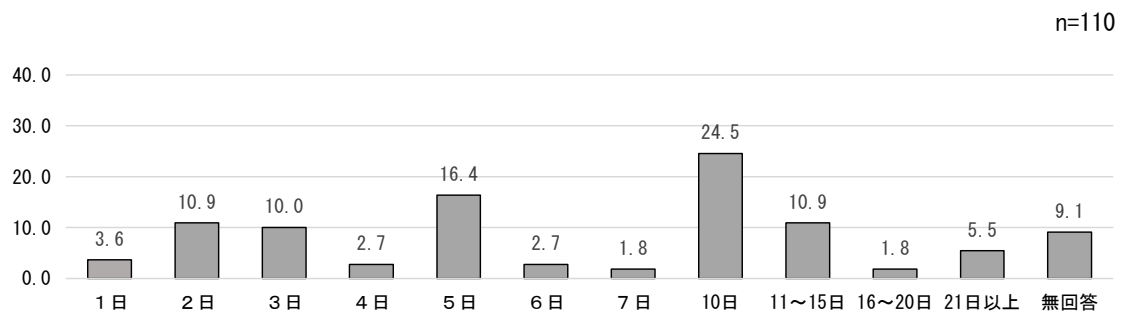


図 不定期的仕事による
年間あたり利用希望日数（就学前児童）

n=71

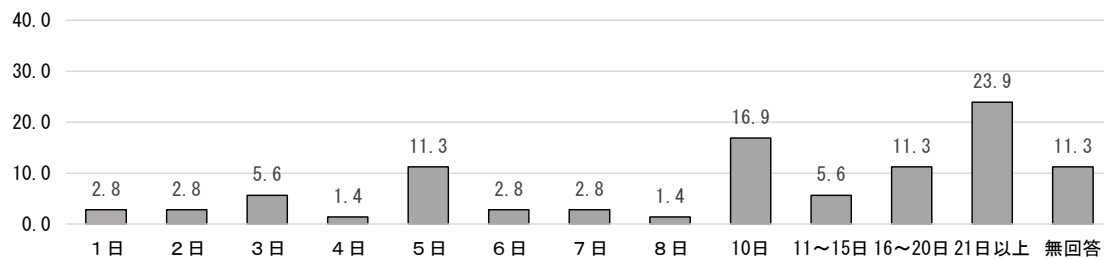
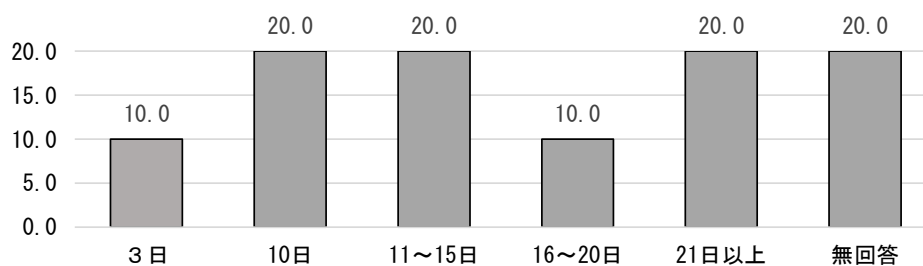


図 その他の目的による
年間あたり利用希望日数（就学前児童）

n=10



（３）子どもを預ける場合に望ましい子育て支援サービス

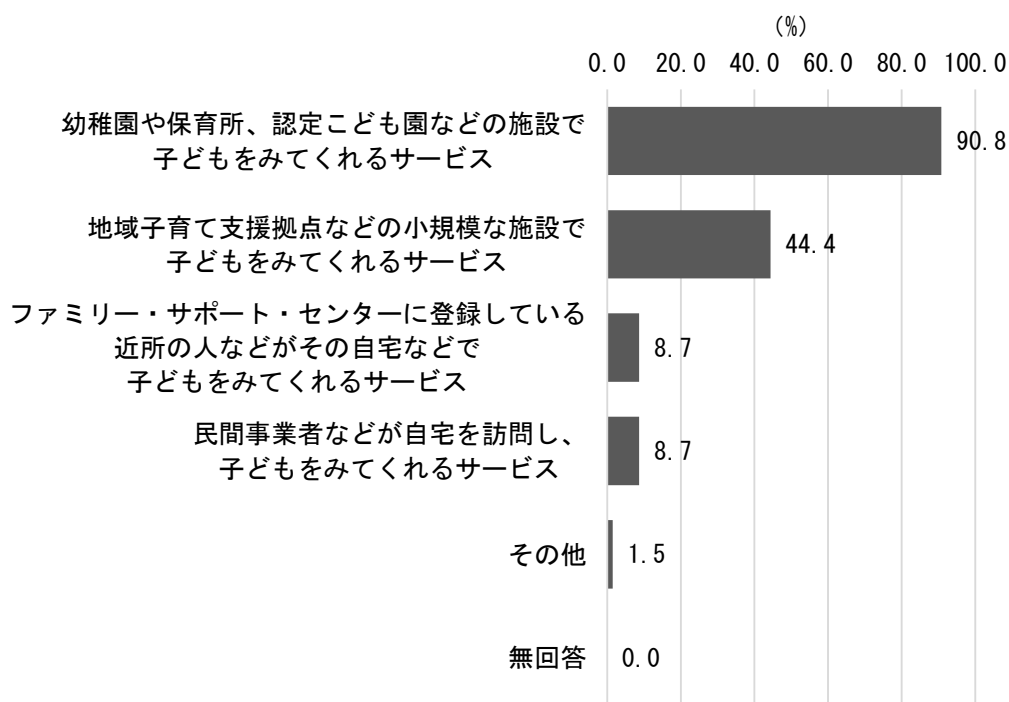
【就学前児童：問25－１】 ●複数回答

問25において「利用したい」と答えた方のみ

「幼稚園や保育所、認定こども園などの施設で子どもをみてくれるサービス」が90.8%と他の項目と比べて著しく多くなっています。

図 保育所などでの預かり保育の利用希望（就学前児童）

n=196



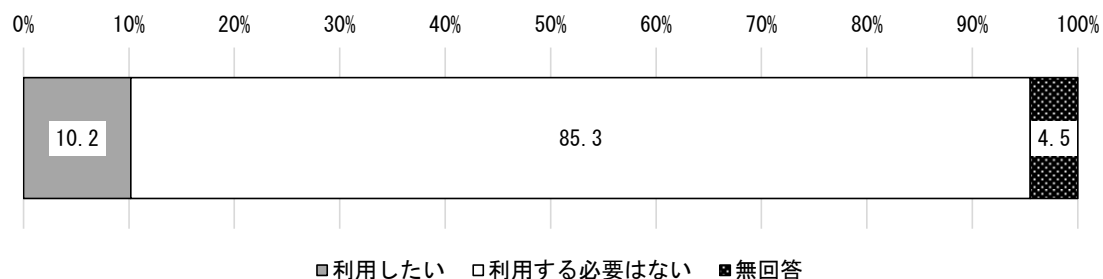
（４）短期入所生活援助事業の利用希望

【就学前児童：問26】 ●単一回答、複数回答、数値入力

「利用したい」が10.2%、「利用する必要はない」が85.3%となっています。

図 短期入所生活援助事業の利用希望（就学前児童）

n=442



「利用したい」を選択した方に対して年間あたりの利用希望泊数を尋ねたところ、55.6%が5泊以内となっています。また、利用目的については、「保護者や家族の病気」が60.0%と最も多く、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が55.6%と続いています。

図 短期入所生活援助事業の年間あたりの利用希望泊数（就学前児童）

n=45

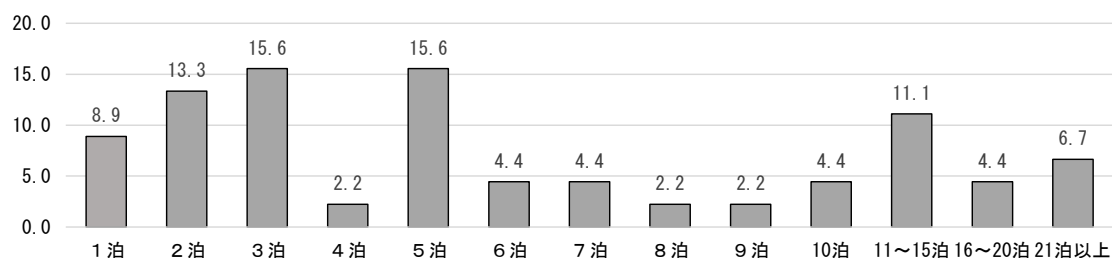
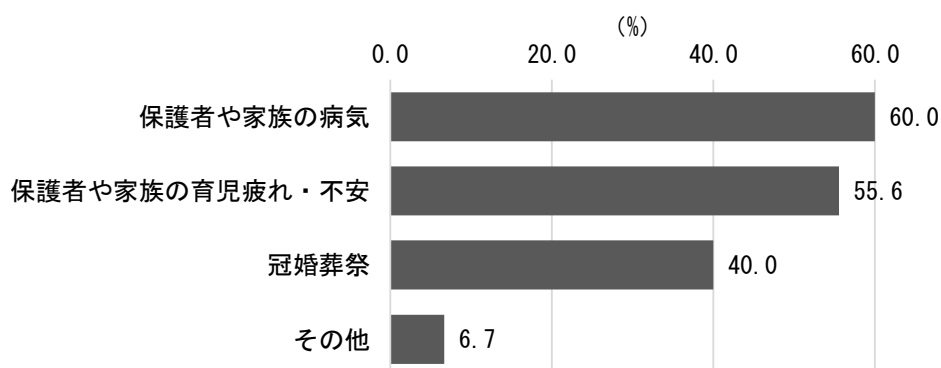


図 短期入所生活援助事業の利用目的（就学前児童）

n=45



各利用目的における年間あたりの利用希望泊数について、全般的に、年間あたり5泊未満が多くなっています。

図 保護者や家族の病気による、短期入所生活援助事業の年間あたり利用希望泊数（就学前児童）

n=27

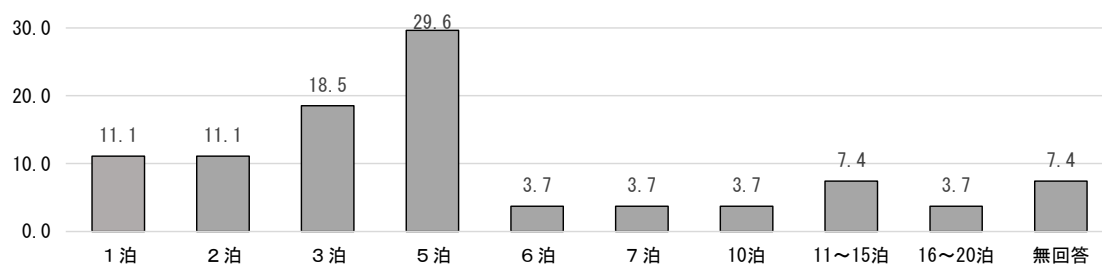


図 保護者や家族の育児疲れ・不安による、短期入所生活援助事業の
年間あたり利用希望泊数（就学前児童）

n=25

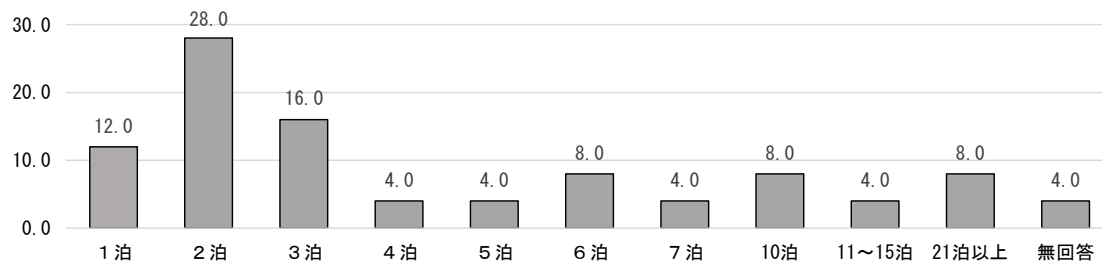


図 冠婚葬祭による、短期入所生活援助事業の年間あたり利用希望泊数（就学前児童）

n=18

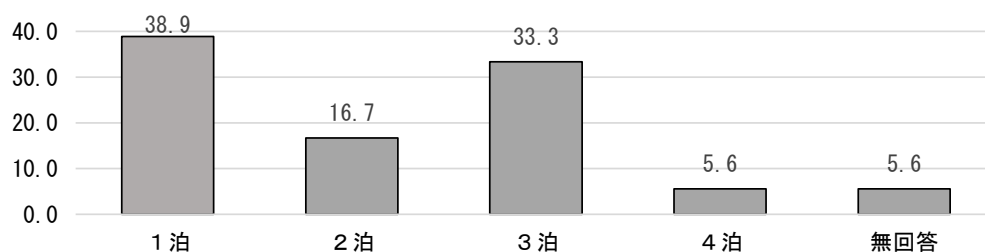
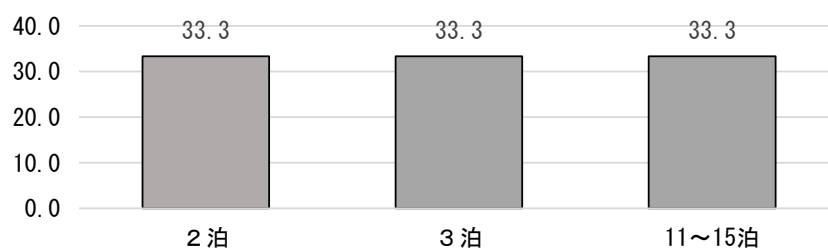


図 その他の目的による、短期入所生活援助事業の
年間あたり利用希望泊数（就学前児童）

n=3



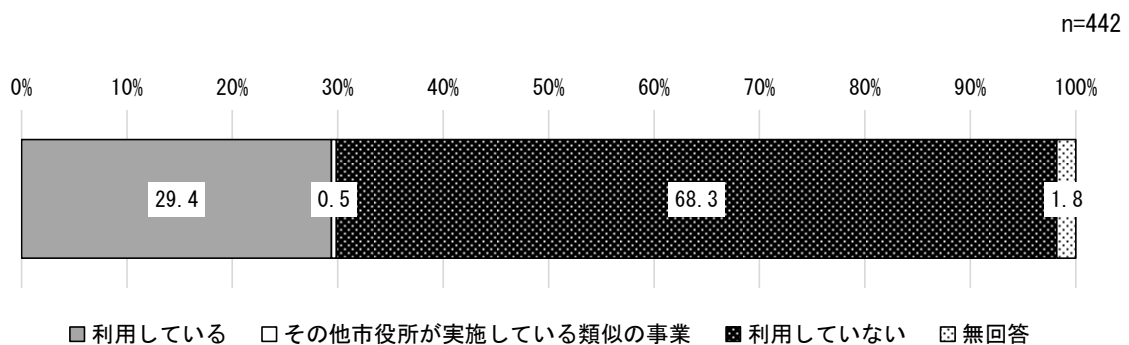
5. 地域の子育て支援拠点事業やサービスの利用状況について

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

【就学前児童：問27】 ●単一回答、数値入力

「利用している」が29.4%、「その他市役所が実施している類似の事業」が0.5%となっています。一方「利用していない」は68.3%となっています。

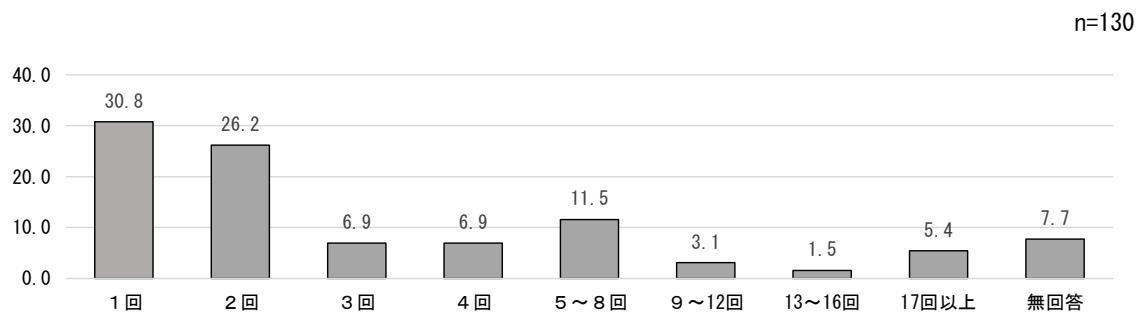
図 地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前児童）



地域子育て支援拠点事業を「利用している」場合の月あたりの利用回数について、「1回」が30.8%と最も多く、「2回」が26.2%と続いています。

また、その他市役所が実施している類似の事業を「利用している」場合の月あたりの利用回数については、2名が「1回」と回答しています。

図 地域子育て支援拠点事業を「利用している」場合の月あたりの利用回数（就学前児童）



注) 1週あたりの利用回数の回答は4倍（4週分）に換算して合算

地域子育て支援拠点事業の利用状況について、年齢ごとにクロス集計を行ったところ、特に「1歳」において「利用している」が51.7%と他の年齢と比べて顕著に多くなっています。

また、居住地域ごとにクロス集計を行ったところ、「西小学校区」、「南第三小学校区」及び「北小学校区」においては、他の小学校区と比べて「利用している」が少なくなっています。

図 年齢（問3）×地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前児童）

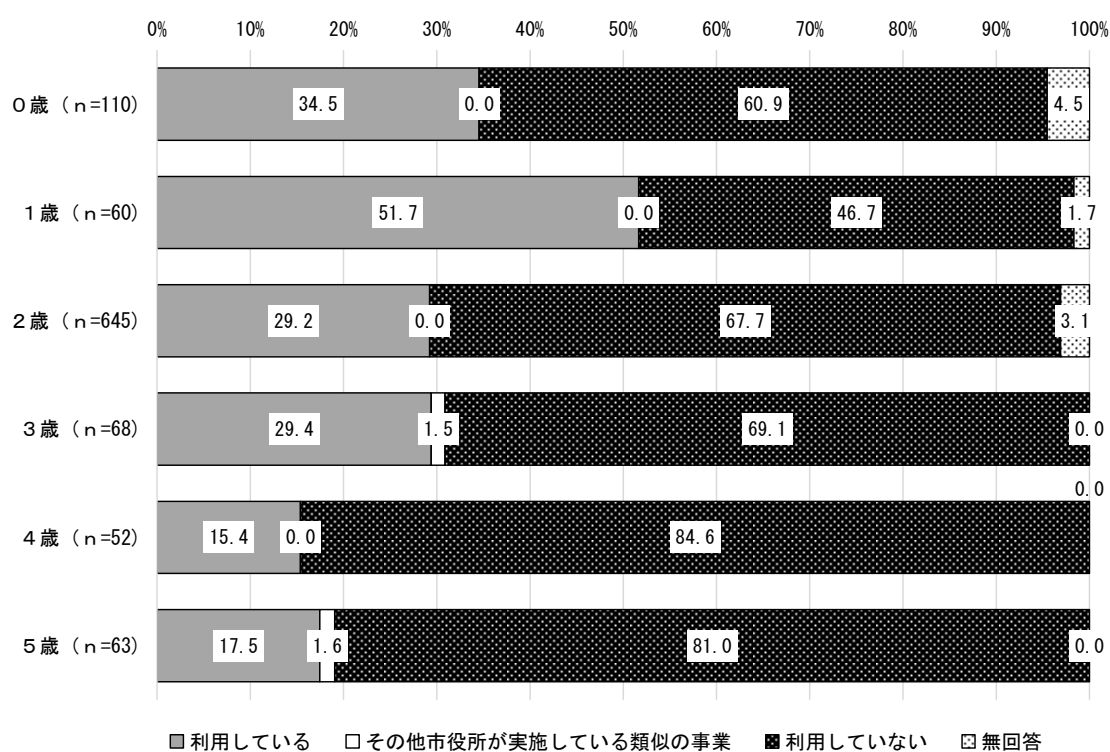
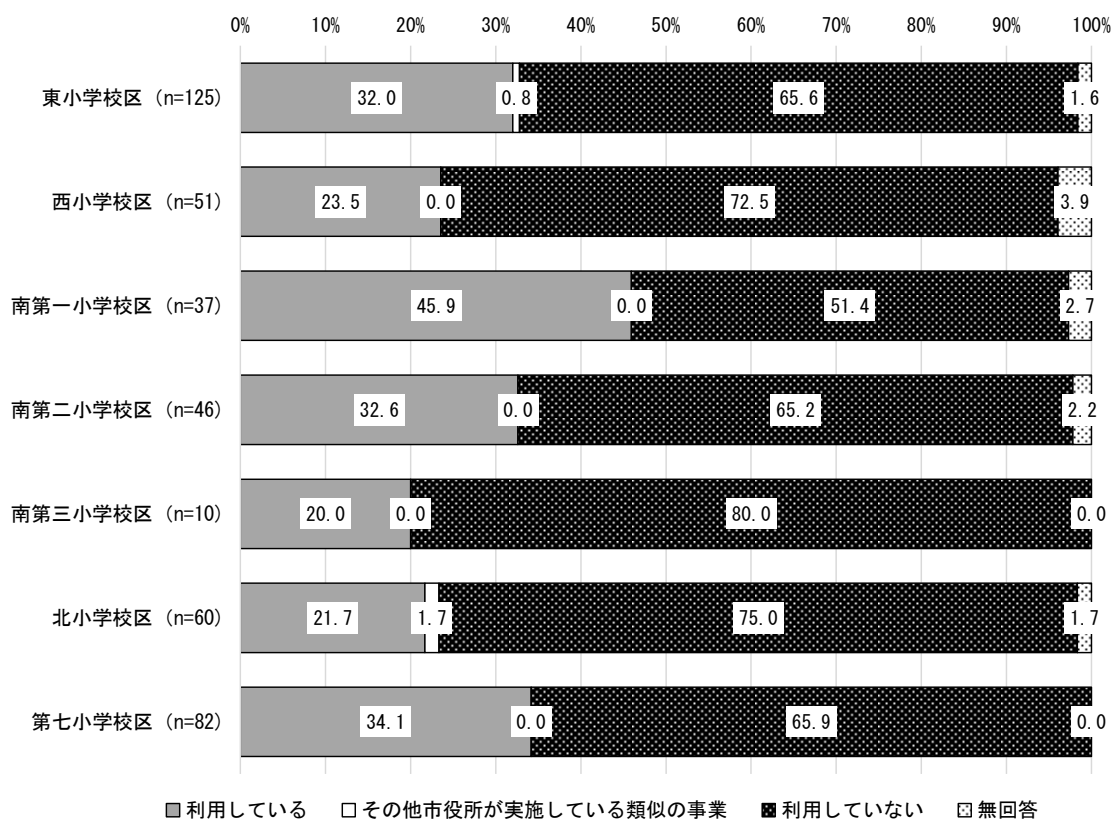


図 居住地域（問１）×地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前児童）

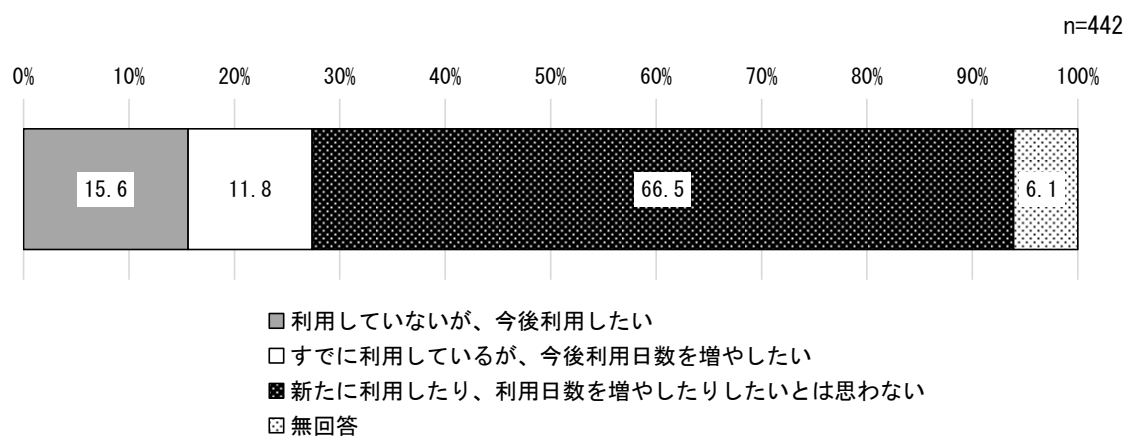


（２）地域子育て支援拠点事業の利用希望

【就学前児童：問28】 ●単一回答、数値入力

「利用していないが、今後利用したい」及び「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」という利用に前向きな割合は約3割となっています。

図 地域子育て支援拠点事業の利用希望（就学前児童）



「利用していないが、今後利用したい」を選択した方における月あたり利用希望回数について、「1回」が33.3%と最も多くなっています。

「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」については、4回までの利用希望回数で59.5%となっています。

図 「利用していないが、今後利用したい」を選択した方における
地域子育て支援拠点事業の月あたり利用希望回数（就学前児童）

n= 69

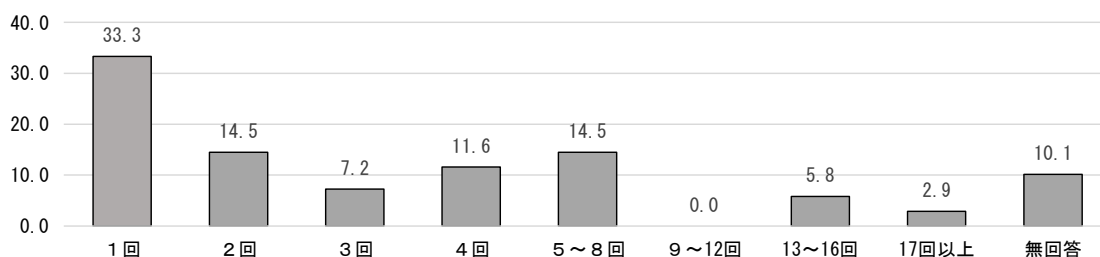
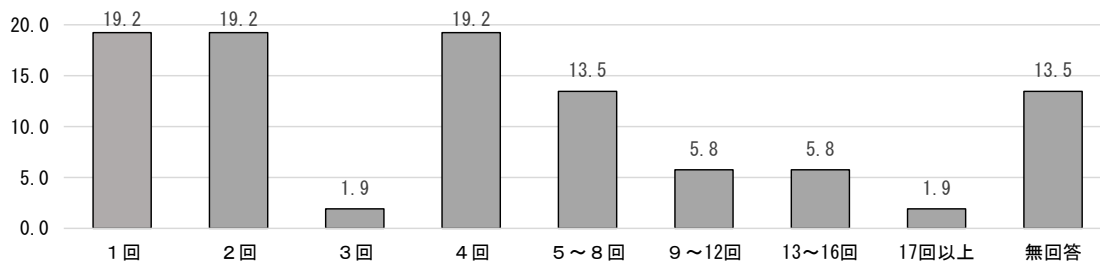


図 「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を選択した方における
地域子育て支援拠点事業の月あたり利用希望回数（就学前児童）

n= 52



（３）地域子育て支援拠点事業において利用したいサービス

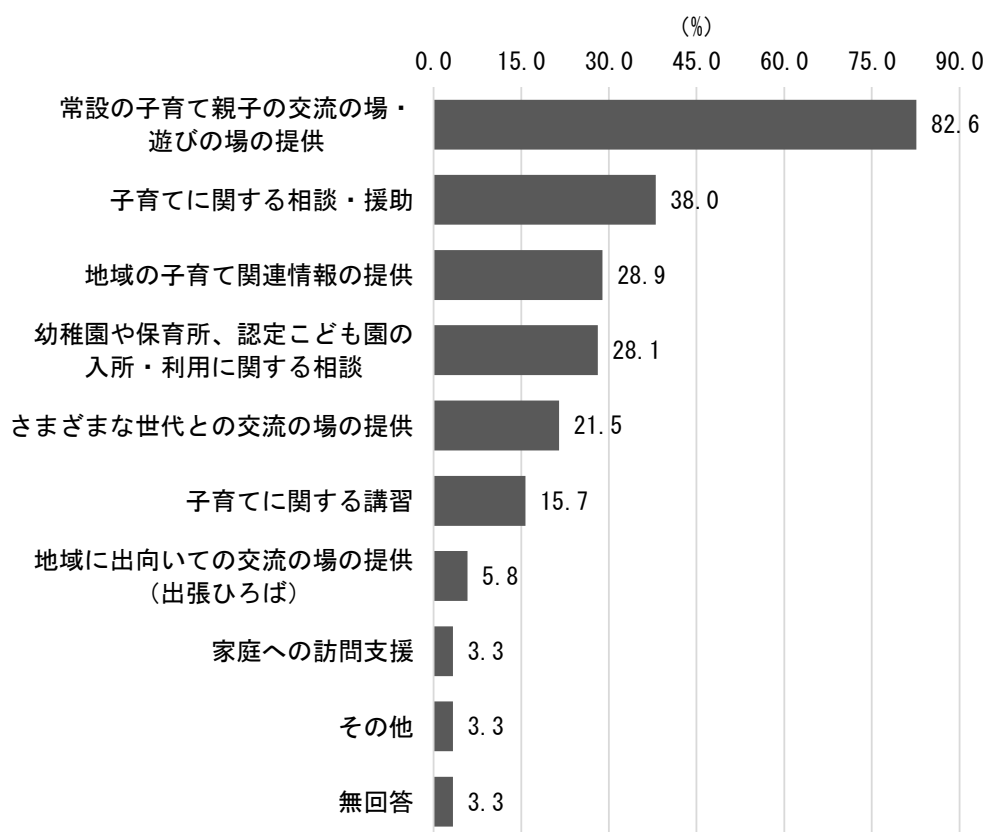
【就学前児童：問28－１】 ●複数回答（３つまで）

問28において「利用していないが、今後利用したい」または「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と答えた方のみ

「常設の子育て親子の交流の場・遊びの場の提供」が82.6%と他の項目と比べて著しく多くなっています。

図 地域子育て支援拠点事業において利用したいサービス（就学前児童）

n=121



(4) 子育て支援サービスの認知度・利用度

【就学前児童：問29】 ●単一回答

子育て支援サービスの認知度について、「家庭教育に関する学級・講座」、「子育てサポーターによる出張ひろば」、「子育ての総合相談窓口」及び「養育支援家庭訪問事業」の認知度が他のサービスと比べて低くなっています。

子育て支援サービスの利用度について、認知度が相対的に高いサービスにおいても、利用率が30～40%台となっています。

図 子育て支援サービスの認知度（就学前児童）

n=442

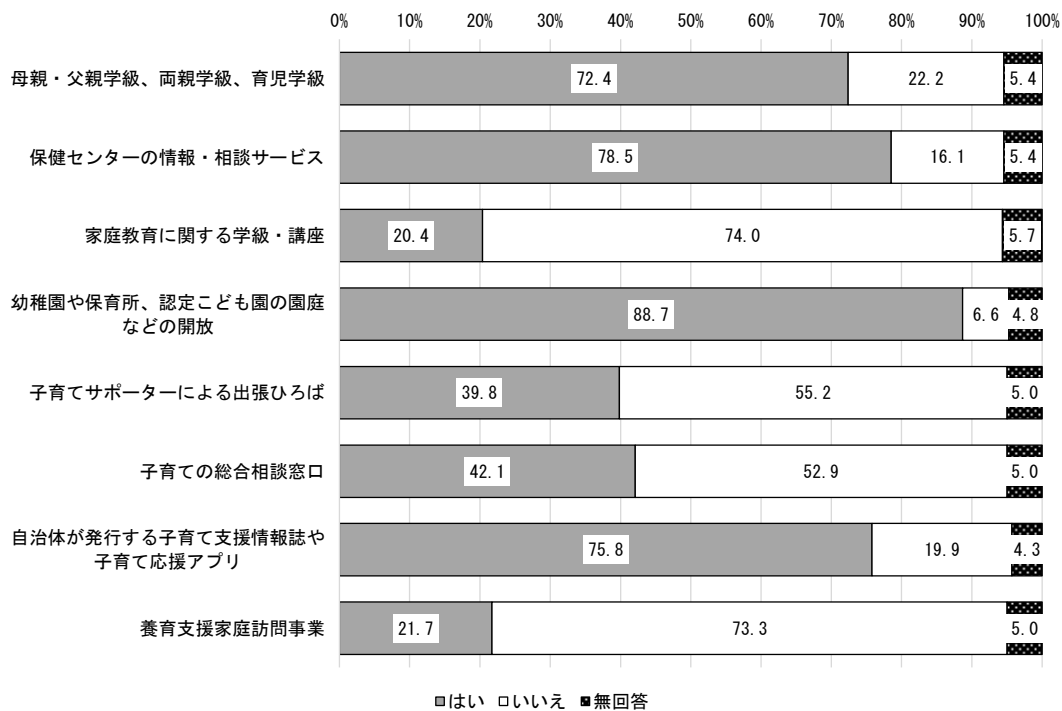
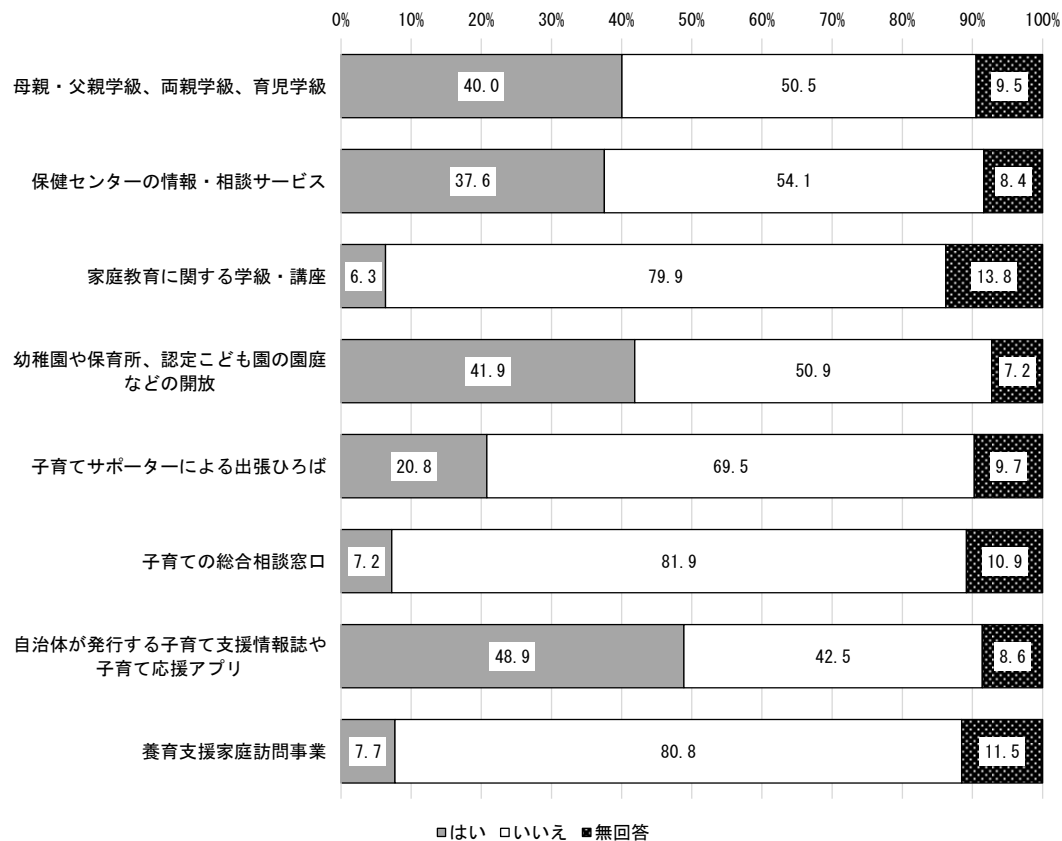


図 子育て支援サービスの利用度（就学前児童）

n=442



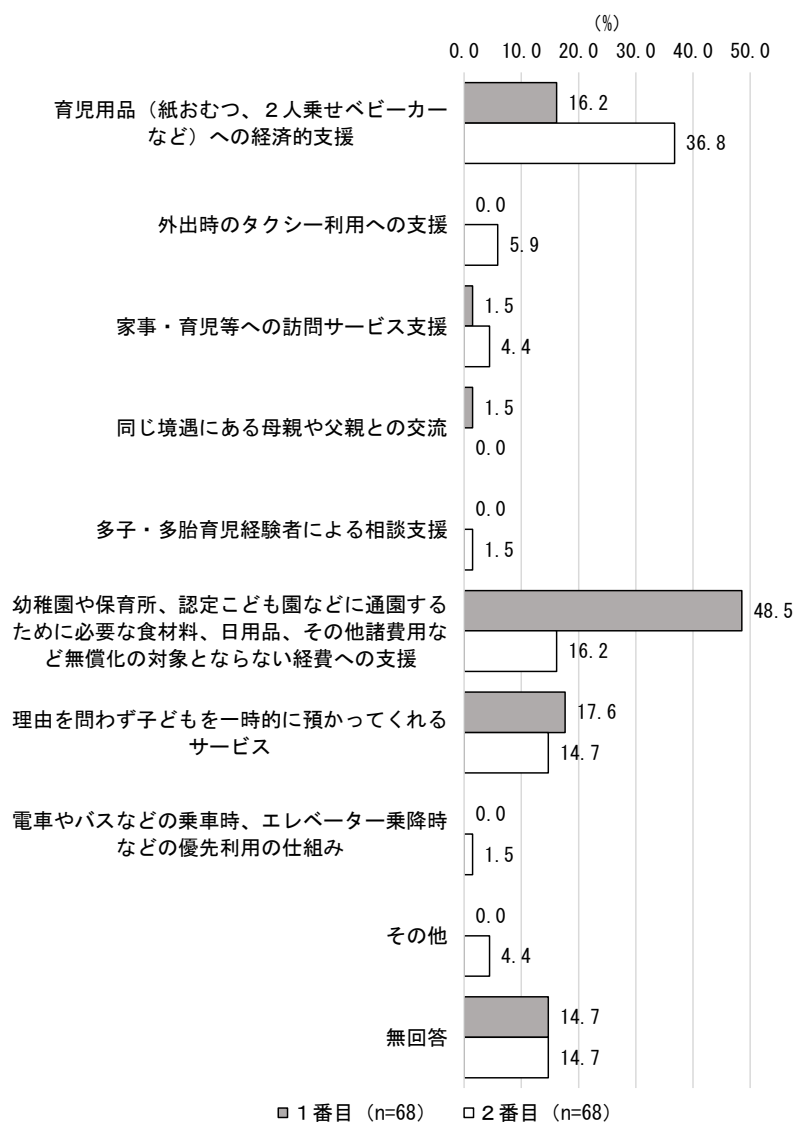
6. 子どもが双子または3人以上いる場合に必要な支援やサービスについて

(1) 子育ての負担を軽減するのに有効な支援やサービス

【就学前児童：問39】【就学児童：問33】 ● 単一回答

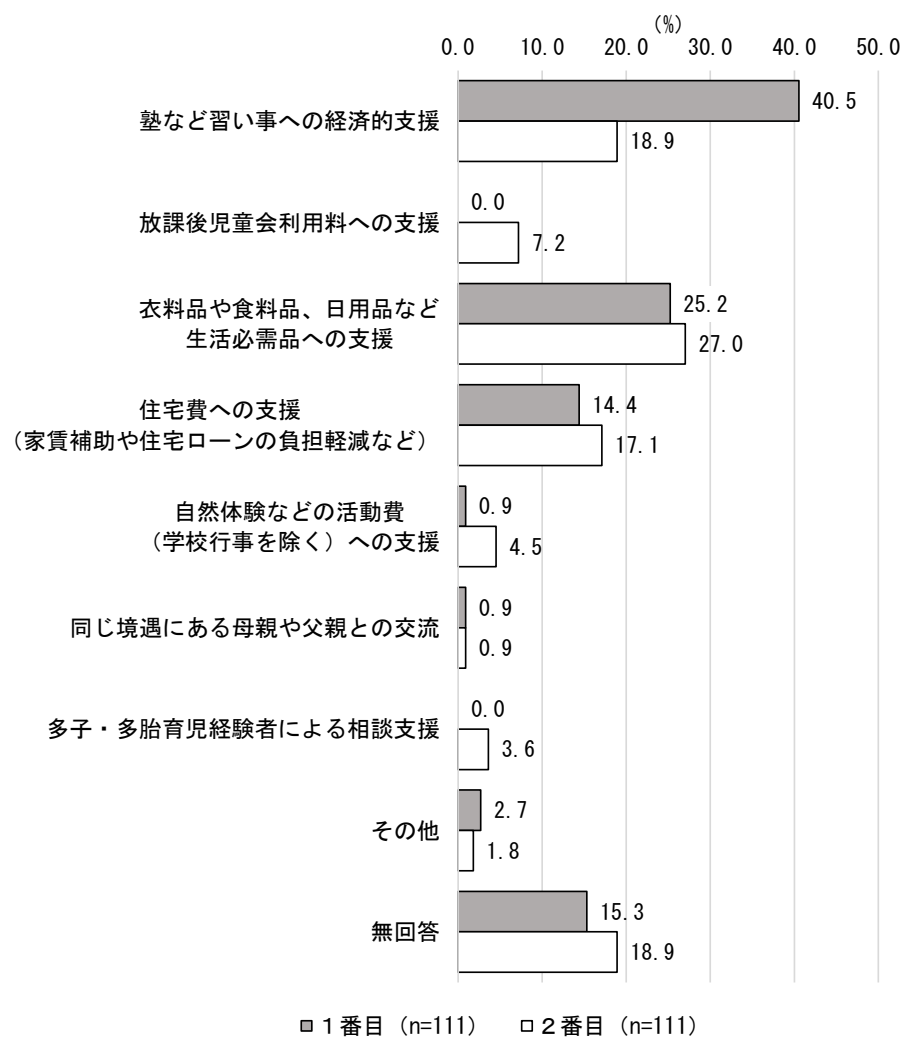
就学前児童において、「育児用品（紙おむつ、2人乗せベビーカーなど）への経済的支援」、「幼稚園や保育所、認定こども園などに通園するために必要な食材料、日用品、その他諸費用など無償化の対象とならない経費への支援」、「理由を問わず子どもを一時的に預かってくれるサービス」は、他の項目と比べて多くなっています。

図 子育ての負担を軽減するのに有効な支援やサービス（就学前児童）



就学児童においては、「塾など習い事への経済的支援」、「衣料品や食料品、日用品など生活必需品への支援」、「住宅費への支援（家賃補助や住宅ローンの負担軽減など）」は、他の項目と比べて多くなっています。

図 子育ての負担を軽減するのに有効な支援やサービス（就学児童）



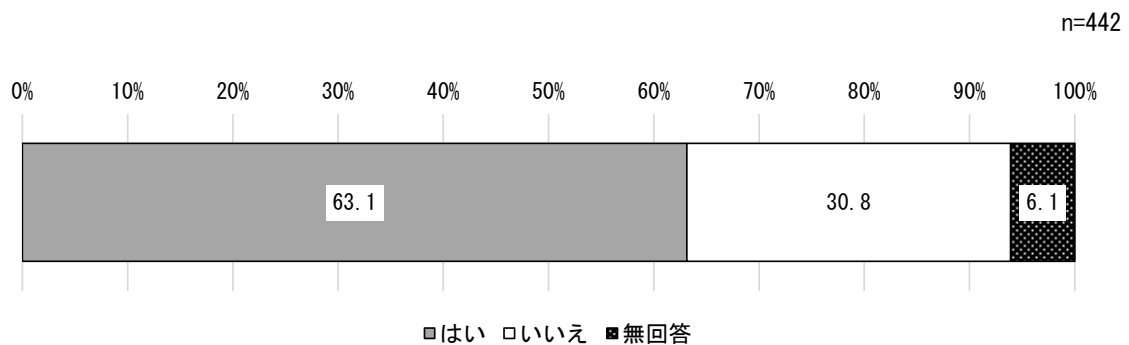
7. 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望について

（１）教育・保育事業所へ定期的に通っているか

【就学前児童：問40】 ●単一回答

「はい」が63.1%、「いいえ」が30.8%となっています。

図 教育・保育事業所へ定期的に通っているか（就学前児童）



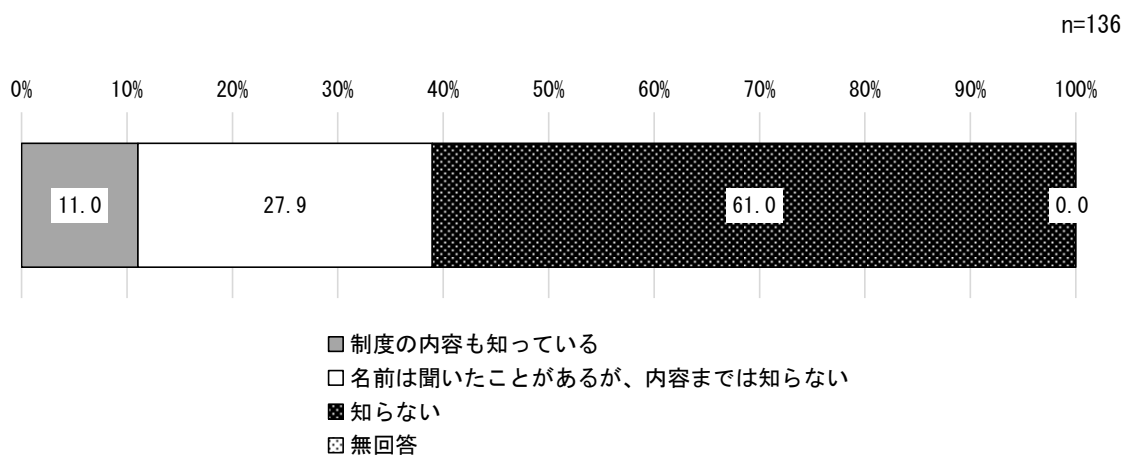
（２）「こども誰でも通園制度（仮称）」の認知度

【就学前児童：問40-1】 ●単一回答

問40において「いいえ」と答えた方のみ

制度について認知している（内容の認知、名前だけの認知を併せて）のは約4割となっています。

図 「こども誰でも通園制度（仮称）」の認知度（就学前児童）



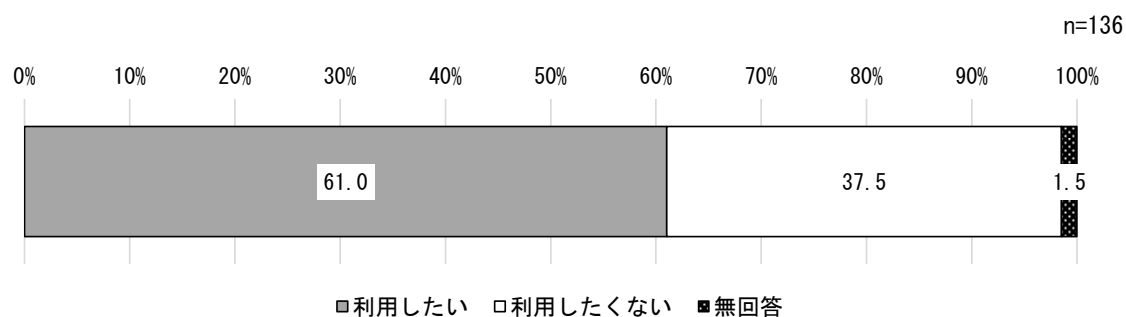
(3)「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望

【就学前児童：問40-2】 ●単一回答、数値入力

問40において「いいえ」と答えた方のみ

「利用したい」が61.0%、「利用したくない」が37.5%となっています。

図 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望（就学前児童）



「利用したい」場合の月あたりの日数については、約7割が3日以内となっています。また、1回あたり時間については、「3時間」が51.8%と他の時間と比べて著しく多くなっています。

図 利用したい月あたりの日数（就学前児童）

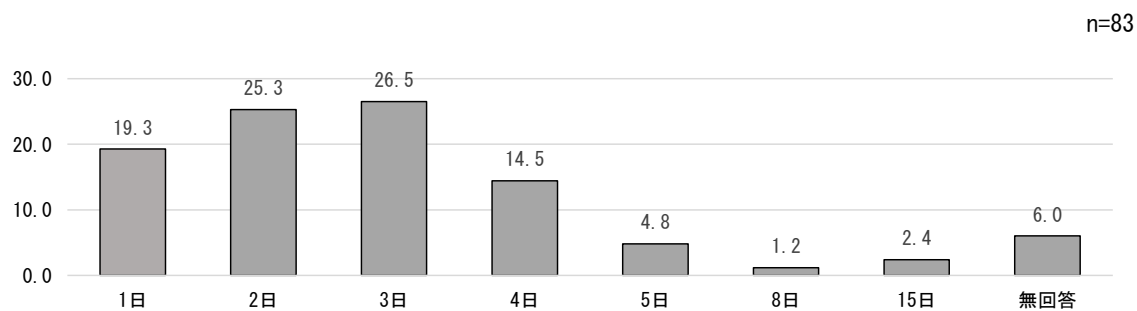
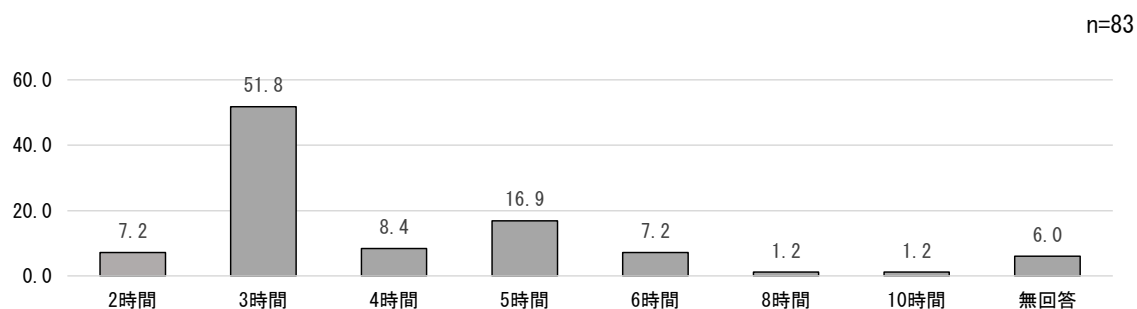
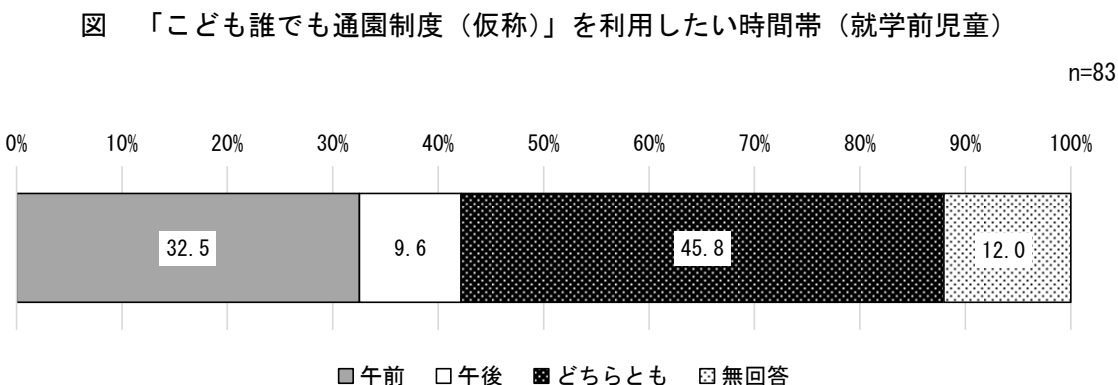


図 利用したい1回あたりの時間（就学前児童）



時間帯については、「午前」が32.5%、「午後」が9.6%、「どちらでも」が45.8%となっています。



（４）「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用を開始したい子どもの年齢

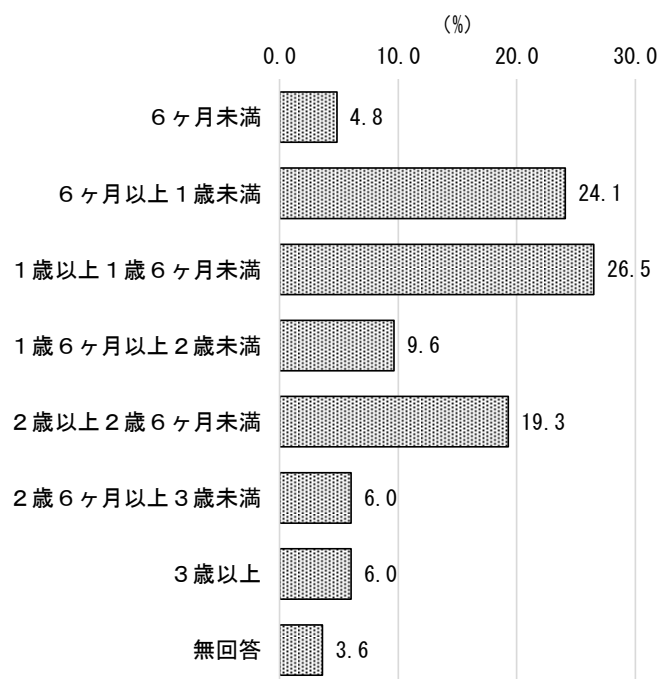
【就学前児童：問40-3】 ●単一回答

問40-2において「利用したい」と答えた方のみ

「1歳以上1歳6ヵ月未満」が26.5%と最も多く、「6ヵ月以上1歳未満」が24.1%と続いています。

図 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用を開始したい子どもの年齢（就学前児童）

n=83



(5) 「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用したい理由

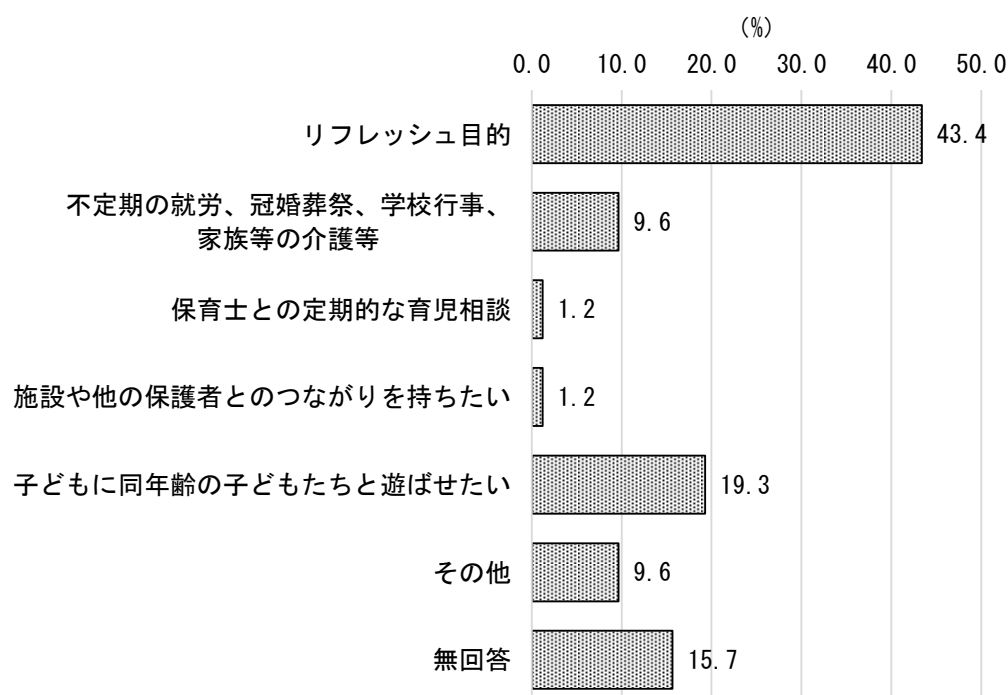
【就学前児童：問40-4】 ●単一回答

問40-2において「利用したい」と答えた方のみ

「リフレッシュ目的」が43.4%と、他の項目と比べて著しく多くなっています。

図 「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用したい理由（就学前児童）

n=83



(6) 「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用する場合に利用したい事業所

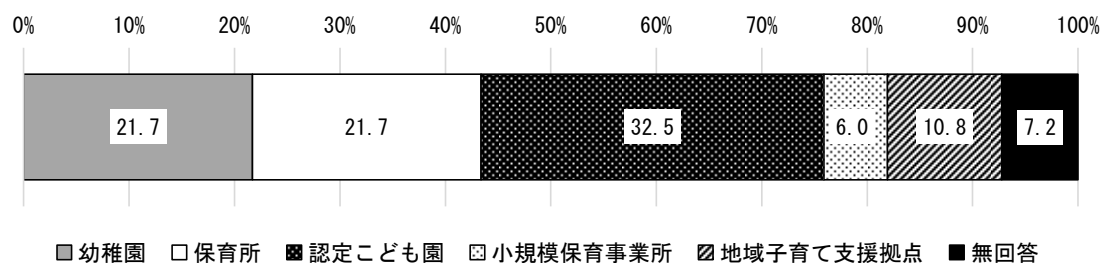
【就学前児童：問40-5】 ●単一回答

問40-2において「利用したい」と答えた方のみ

「認定こども園」が32.5%と最も多く、「幼稚園」及び「保育所」が21.7%と続いています。

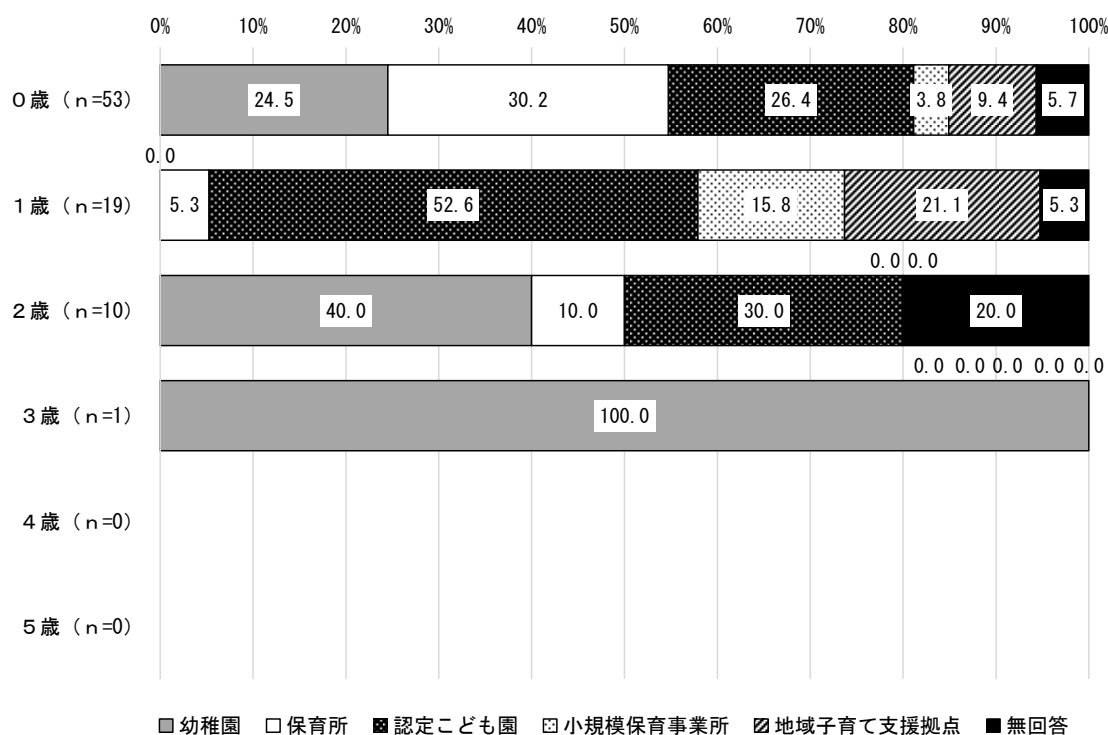
図 「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用する場合に利用したい事業所
（就学前児童）

n=83



次に、子どもの年齢とクロス集計をかけたところ、「0歳」では「保育所」が30.2%と最も多く、「認定こども園」（26.4%）、「幼稚園」（24.5%）と続いています。「1歳」では、「認定こども園」が52.6%と最も多くなっています。「2歳」では、「幼稚園」が40.0%と最も多く、「認定こども園」が30.0%と続いています。「3歳」では、「幼稚園」が100.0%となっています。

図 子どもの年齢（問3）×「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用する場合に
利用したい事業所（就学前児童）



8. 病気になったときの対応について

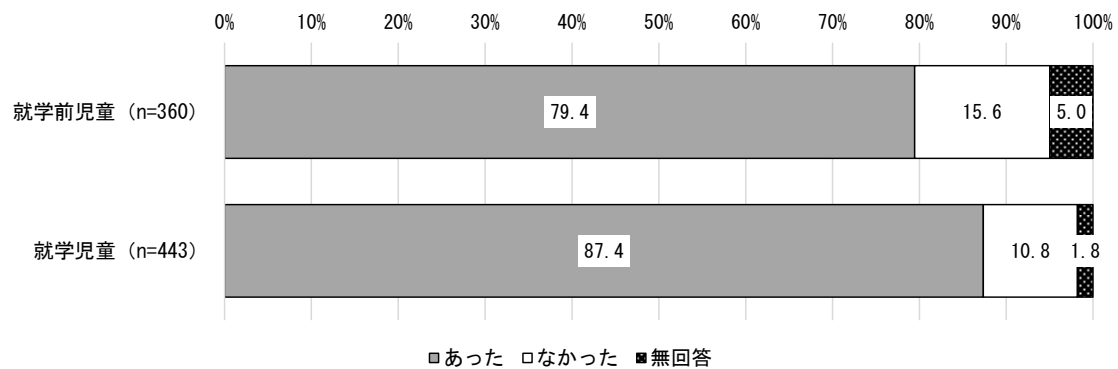
就学前児童については、平日に定期的に幼稚園や保育所、認定こども園などの施設やサービスを利用している方のみ

(1) 子どもが病気で通常の事業が利用できなかった過去1年間の経験

【就学前児童：問14】【就学児童：問14】 ●単一回答

「あった」について、就学前児童では79.4%、就学児童では87.4%となっています。

図 子どもが病気で通常の事業が利用できなかった過去1年間の経験



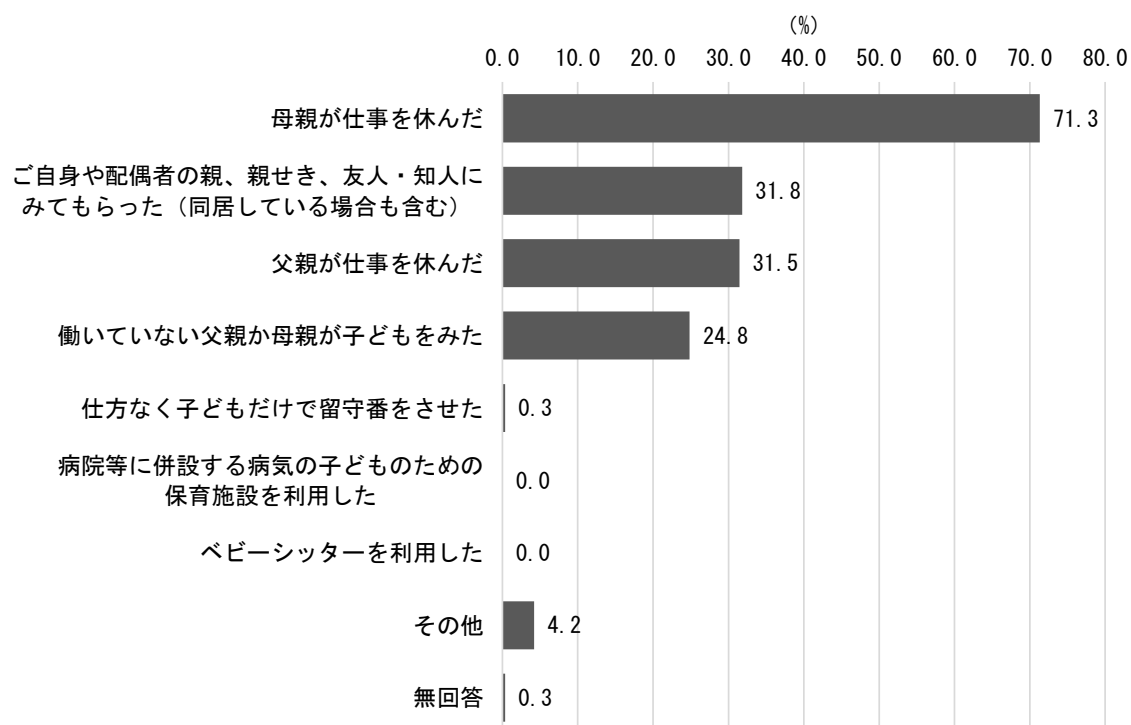
(2) 子どもが病気の際の過去1年間の対処方法（就学前児童）

【就学前児童：問14-1】 ●複数回答、数値入力

「母親が仕事を休んだ」が71.3%と最も多く、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」(31.8%)、「父親が仕事を休んだ」(31.5%)と続いています。

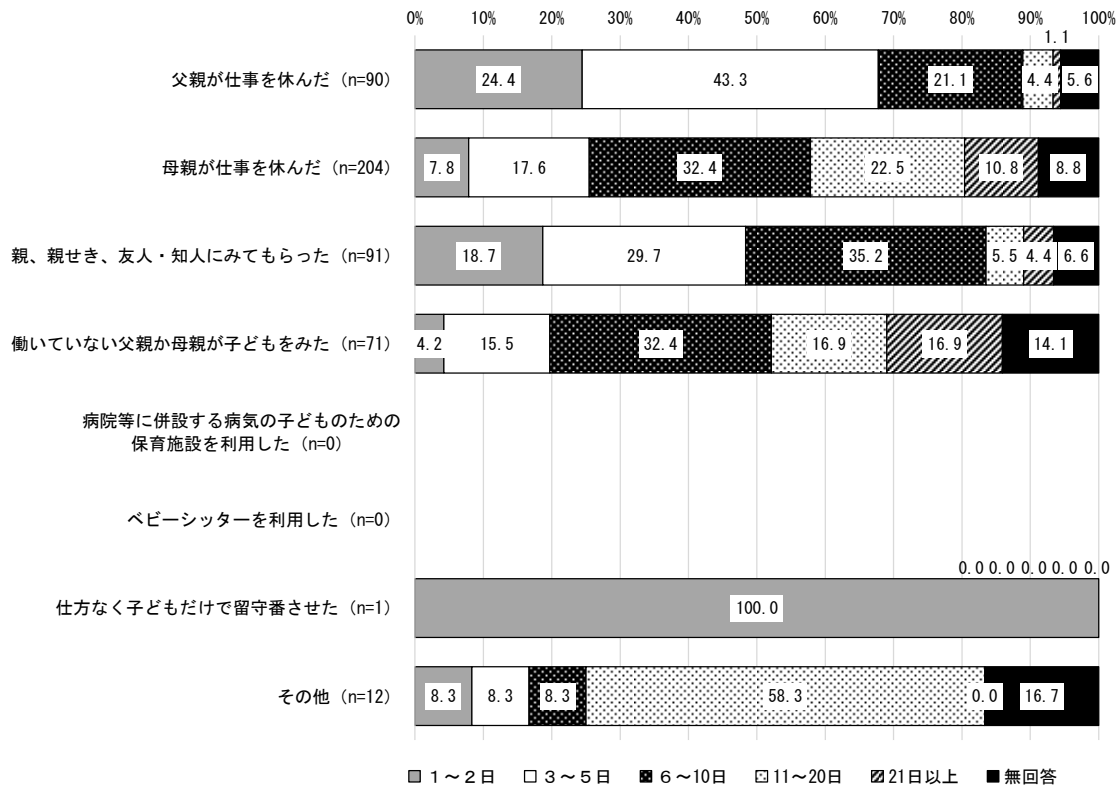
図 子どもが病気の際の過去 1 年間の対処方法（就学前児童）

n=286



過去 1 年間における、子どもが病気の際に対処した日数について、「働いていない父親か母親が子どもをみた」が相対的に多くなっています。また、仕事を休むことについては、父親よりも母親のほうが対処日数が多くなっています。

図 過去1年間における、子どもが病気の際に対処した日数（就学前児童）



（３）子どもが病気の際の過去1年間の対処方法（就学児童）

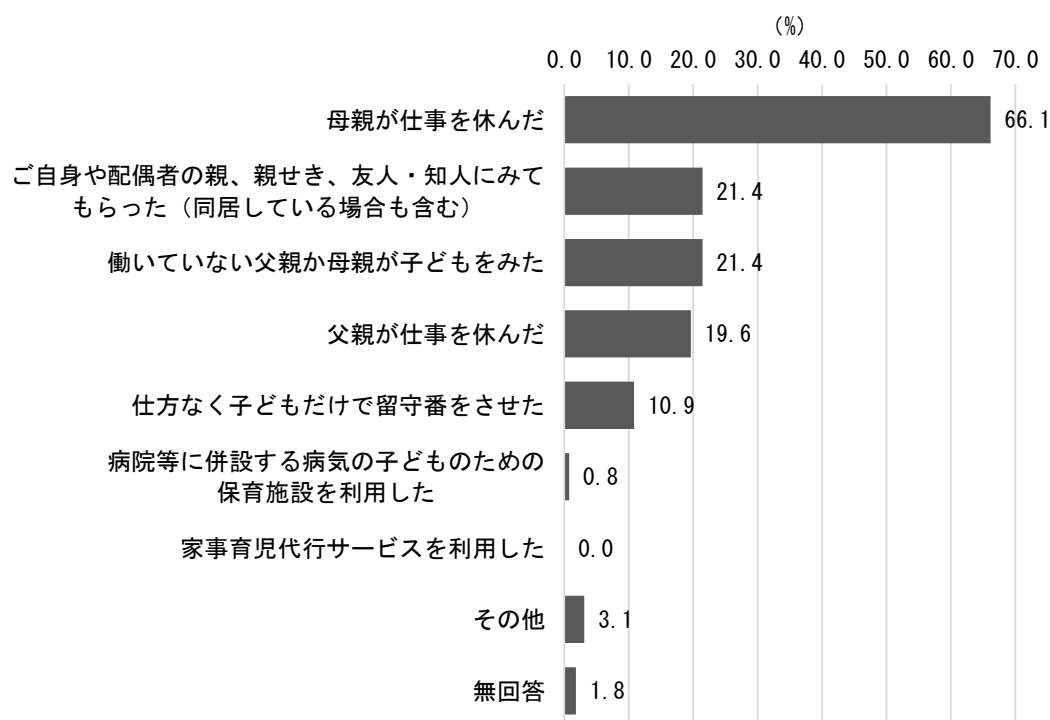
【就学児童：問14-1】 ●複数回答、数値入力

問14において「あった」と答えた方のみ

「母親が仕事を休んだ」が66.1%と最も多く、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」（21.4%）、「働いていない父親か母親が子どもをみた」（21.4%）と続いています。

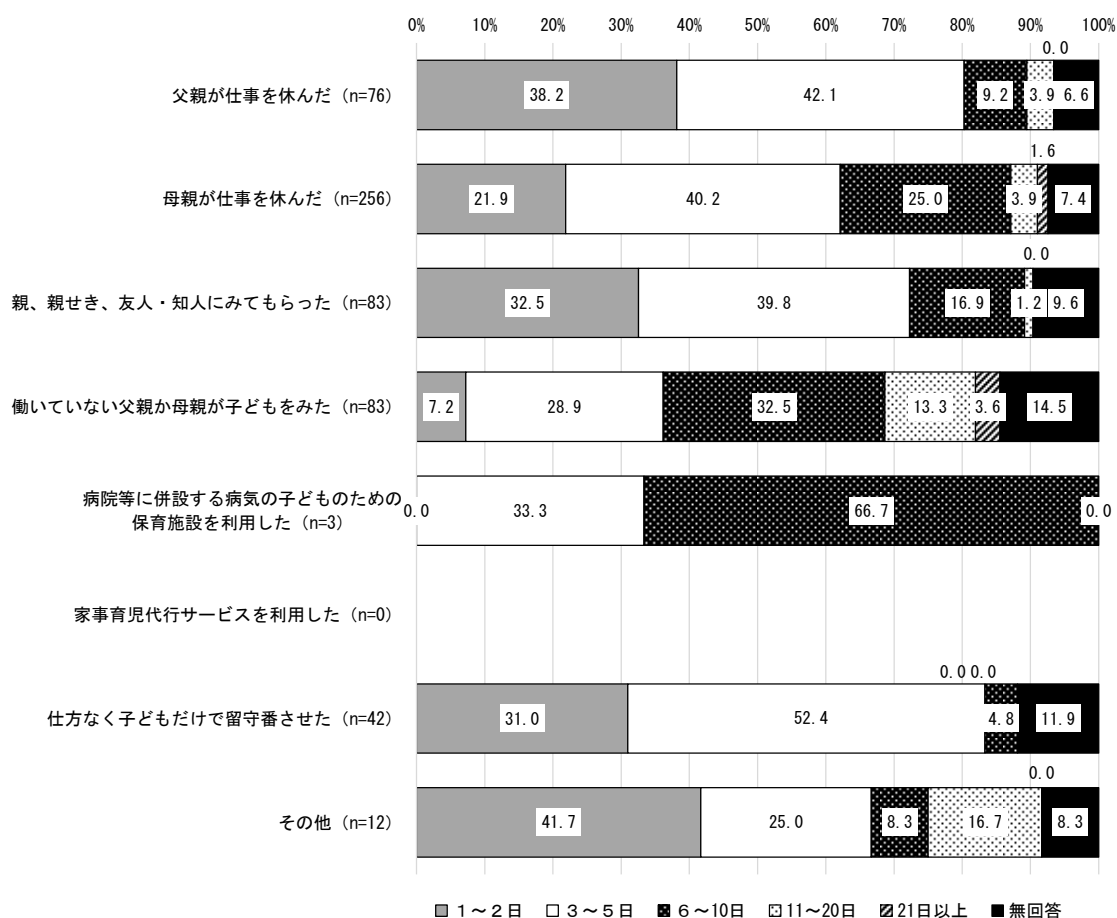
図 子どもが病気の際の過去 1 年間の対処方法（就学児童）

n=387



過去 1 年間における、子どもが病気の際に対処した日数について、「働いていない父親か母親が子どもをみた」及び「病院等に併設する病気の子どものための保育施設を利用した」が相対的に多くなっています。また、仕事を休むことについては、父親よりも母親のほうが対処日数が多くなっています。

図 子どもが病気の際の過去1年間の対処日数（就学児童）



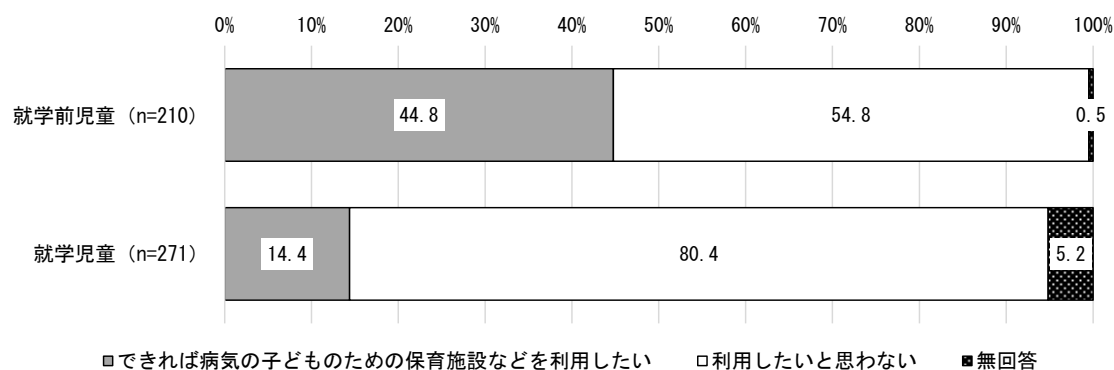
（４）子どもが病気の際における病児・病後児保育事業の利用希望

【就学前児童：問14-2】【就学児童：問14-2】 ●単一回答、数値入力

問14-1において「父親が仕事を休んだ」、「母親が仕事を休んだ」と答えた方のみ

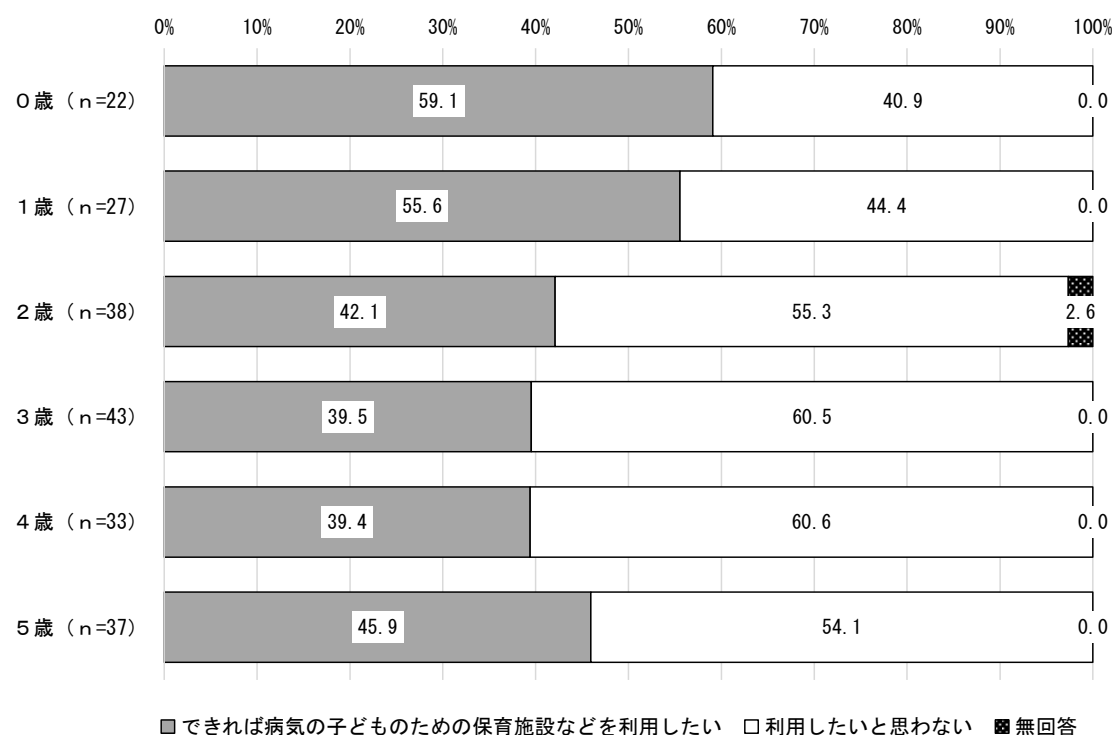
「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」について、就学前児童では44.8%、就学児童では14.4%となっています。また、年間の希望日数を尋ねたところ、就学児童の方が就学前児童よりも多くなっています。

図 子どもが病気の際における病児・病後児保育事業の利用希望



就学前児童について、子どもの年齢でクロス集計をかけたところ、特に「0歳」及び「1歳」では、「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」がそれぞれ 59.1%、55.6%と他の年齢と比べて高くなっています。

図 子どもの年齢（問3）×子どもが病気の際における病児・病後児保育事業の利用希望（就学前児童）



就学児童について、子どもの学年でクロス集計をかけたところ、「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」では、1～3年生における数値が4～6年生における数値よりも高い傾向にあります。

図 子どもの学年（問3）×子どもが病気の際における病児・病後児保育事業の利用希望（就学児童）

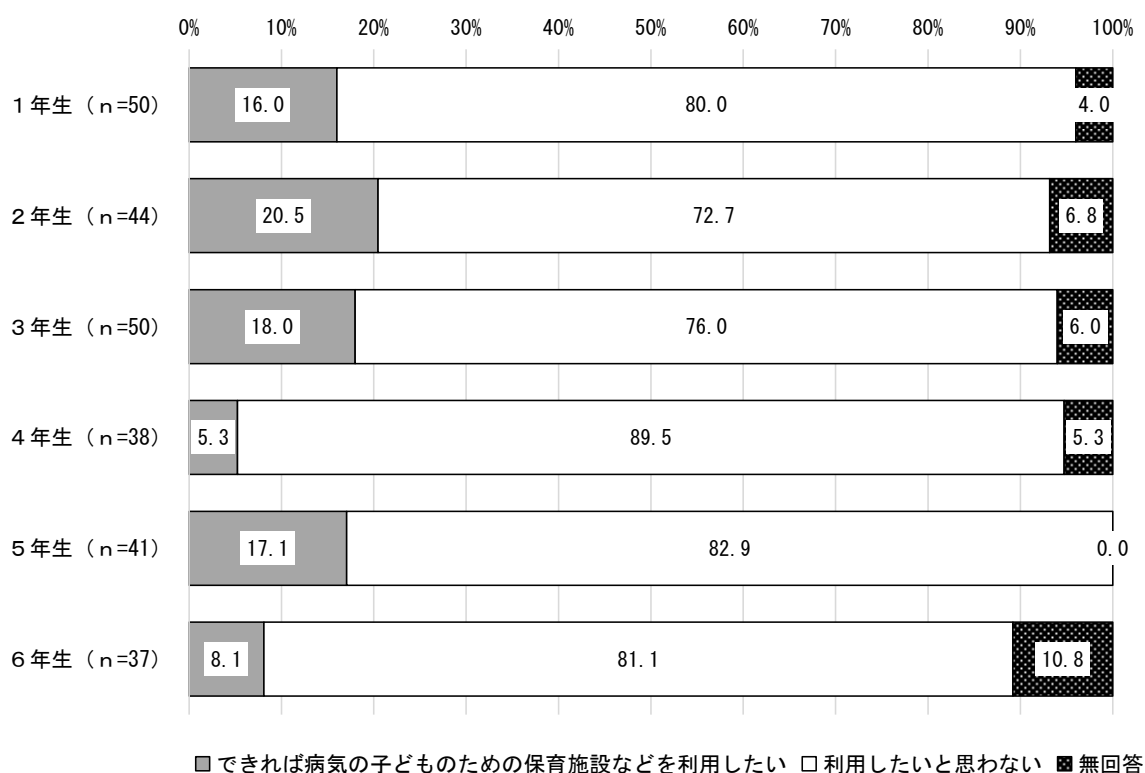
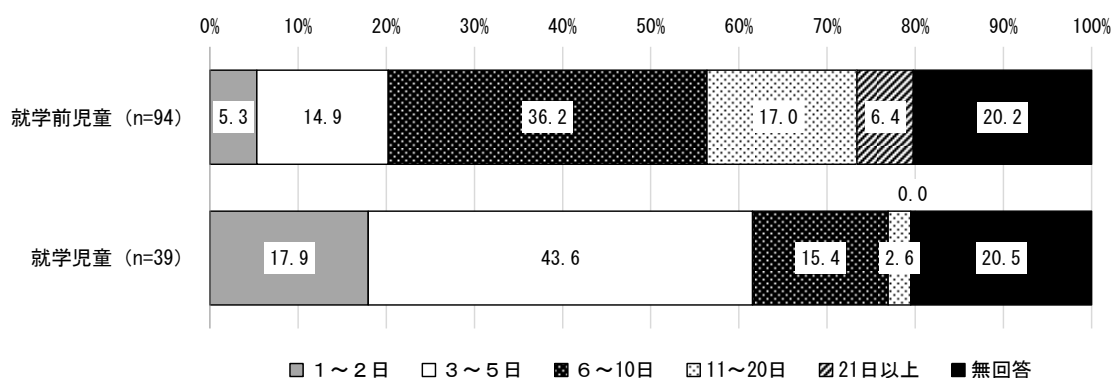


図 子どもが病気の際に病児・病後児保育事業の利用希望日数



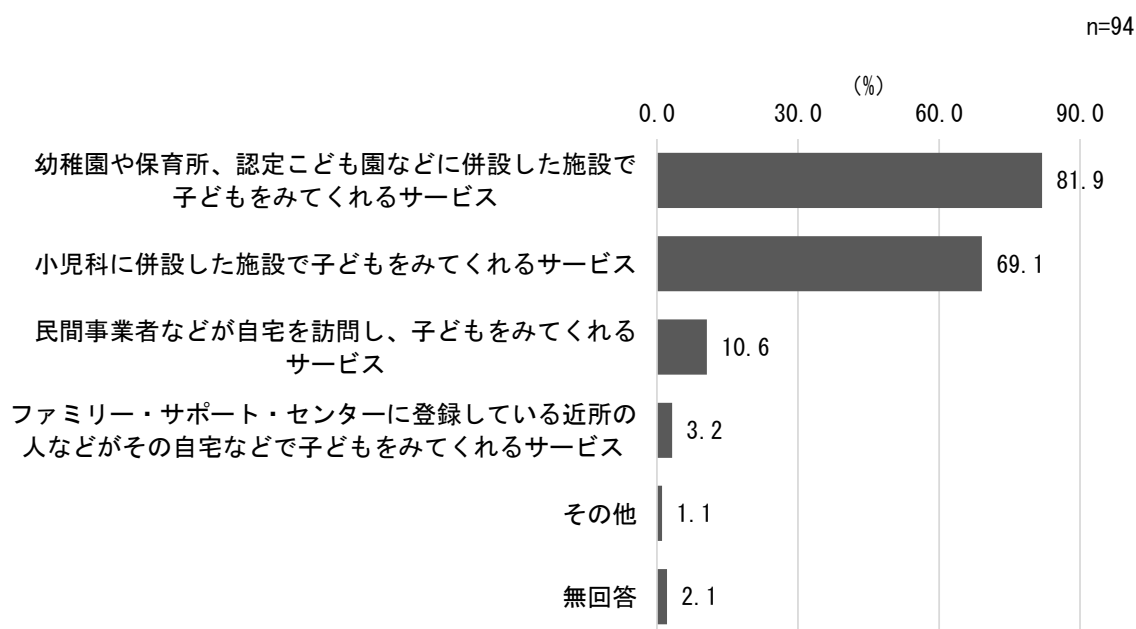
(5) 子どもが病気の際に病児・病後児保育事業の利用を希望する場合の望ましいサービス

【就学前児童：問14-3】 ●複数回答

問14-2において「できれば病気の子どものための保育施設などを利用したい」と答えた方のみ

「幼稚園や保育所、認定こども園などに併設した施設で子どもをみてるサービス」の81.9%が最も多く、「小児科に併設した施設で子どもをみてるサービス」が69.1%と続いています。

図 子どもが病気の際に病児・病後児保育事業の利用を希望する場合の望ましいサービス
(就学前児童)



(6) 子どもが病気の際に病児・病後児保育事業を利用したいとは思わない理由

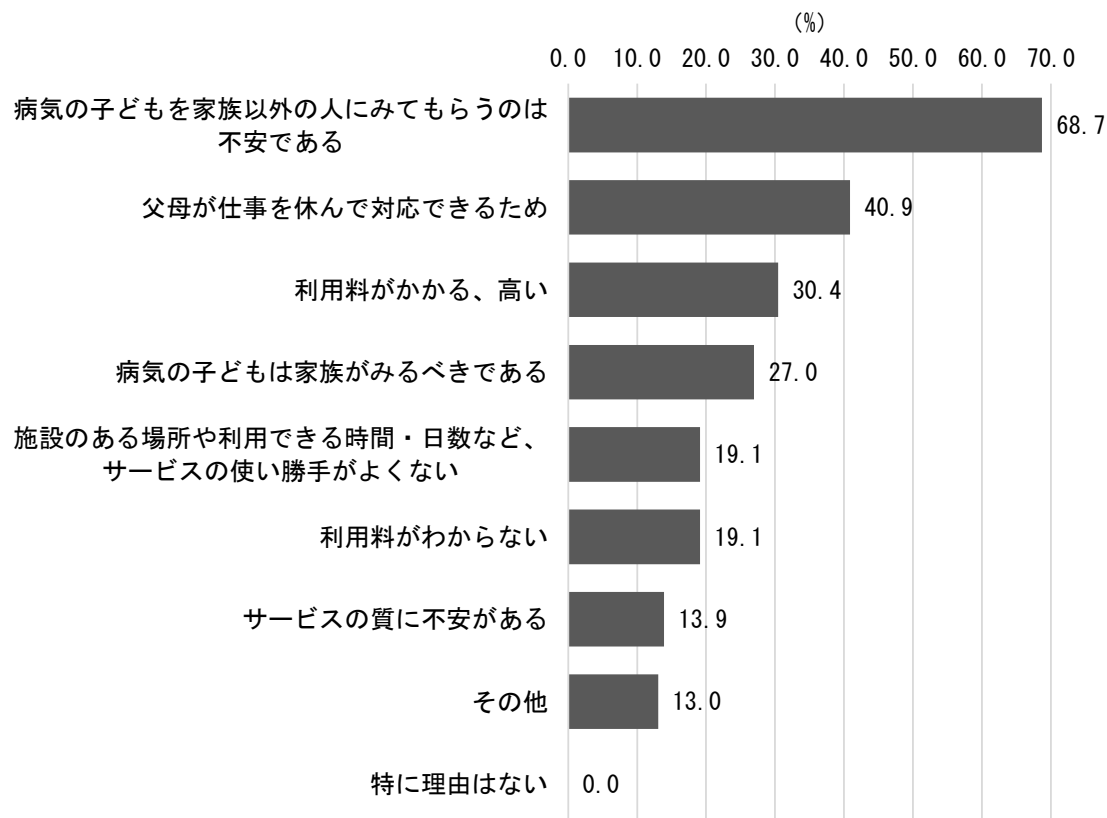
【就学前児童：問14-4】 ●複数回答

問14-2において「利用したいと思わない」と答えた方のみ

「病気の子どもを家族以外の人にみてもらうのは不安である」が68.7%と最も多く、「父母が仕事を休んで対応できるため」が40.9%と続いています。

図 子どもが病気の際に病児・病後児保育事業を利用したいとは思わない理由
(就学前児童)

n=115



(7) 過去1年間の子どもの一時預かり先

【就学児童：問15】 ●複数回答

「預けるようなことはなかった」が50.6%と最も多く、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった」が44.2%と続いています。

また、過去1年間の子どもを一時的に預けた年間の日数について尋ねたところ、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった」では、「3～5日」が32.1%と最も多く、「1～2日」が20.4%と続いています。「その他」では、「1～2日」が33.3%、「6～10日」が16.7%となっています。

図 過去1年間の子どもの一時預かり先（就学児童）

n=443

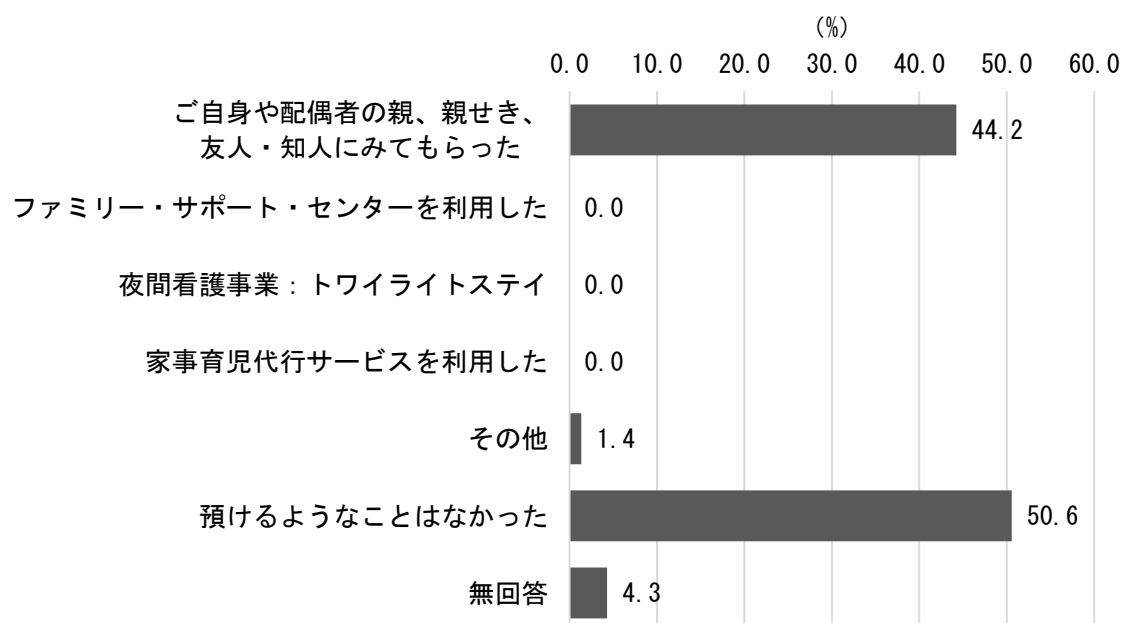
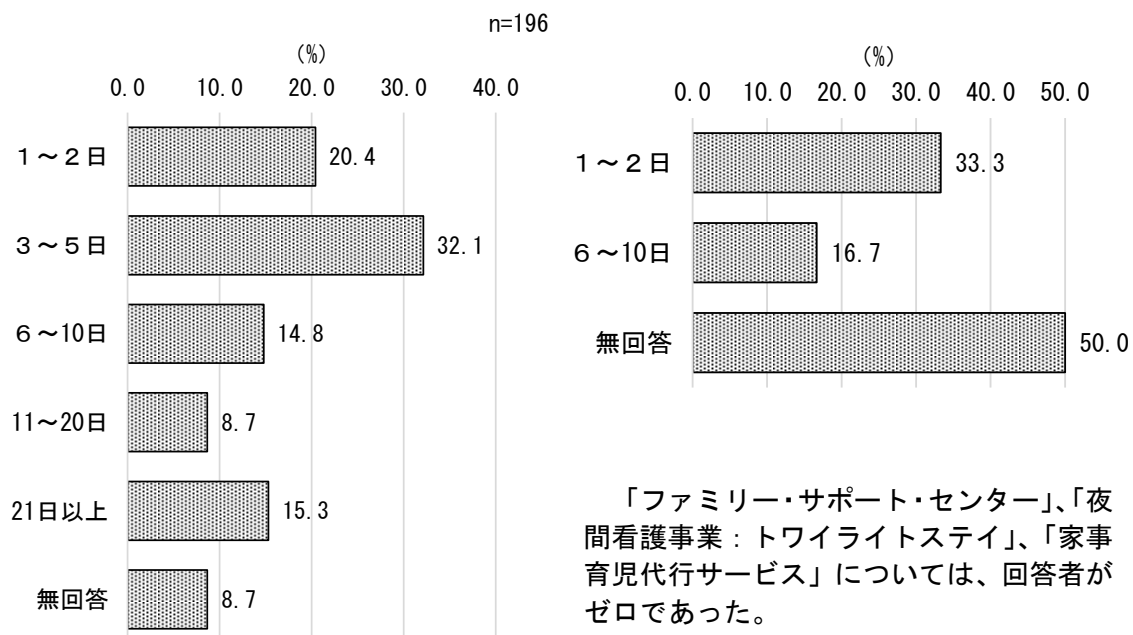


図 過去1年間の子どもを一時的に預けた年間の日数（就学児童）

【ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった】

【その他】

n=6

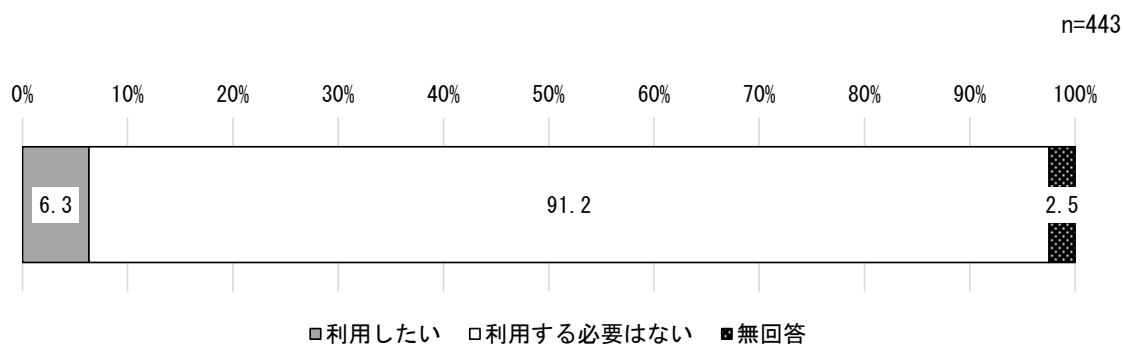


（８）短期入所生活援助事業の利用希望

【就学児童：問16】 ●単数回答、複数回答、数値入力

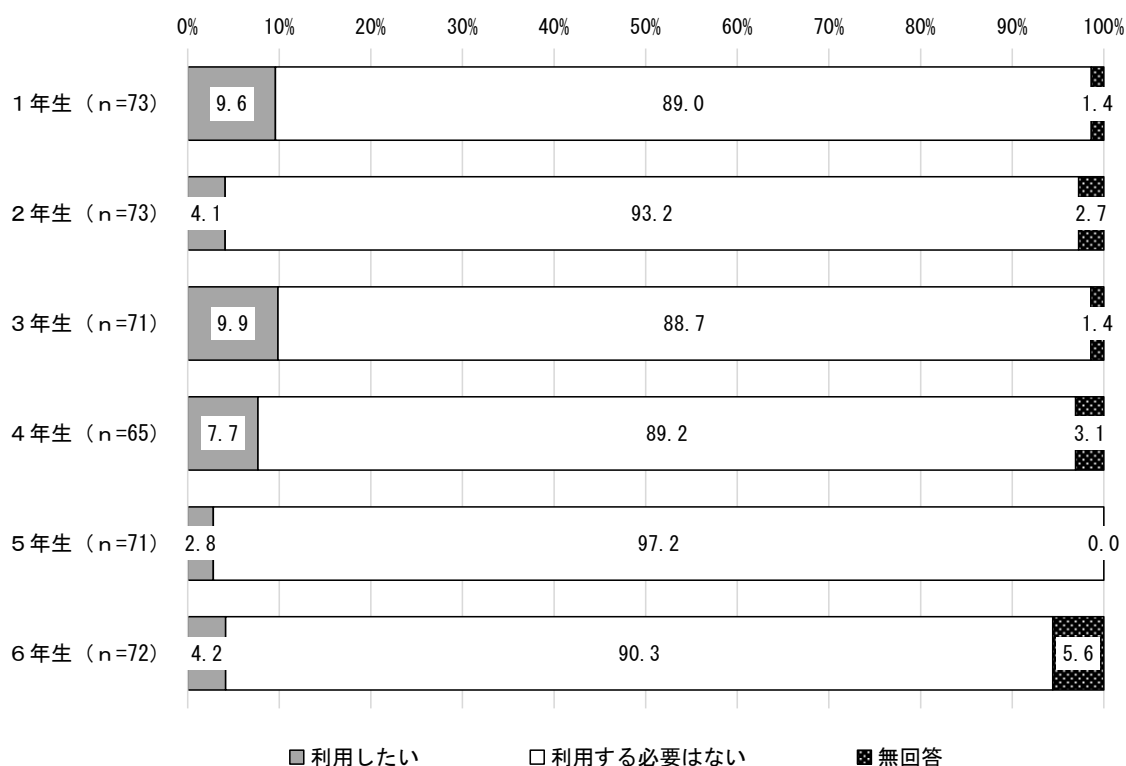
「利用したい」が6.3%、「利用する必要はない」が91.2%となっています。

図 短期入所生活援助事業の利用希望（就学児童）



子どもの学年でクロス集計をかけたところ、「利用したい」の数値については、特に高学年では低い傾向があります。

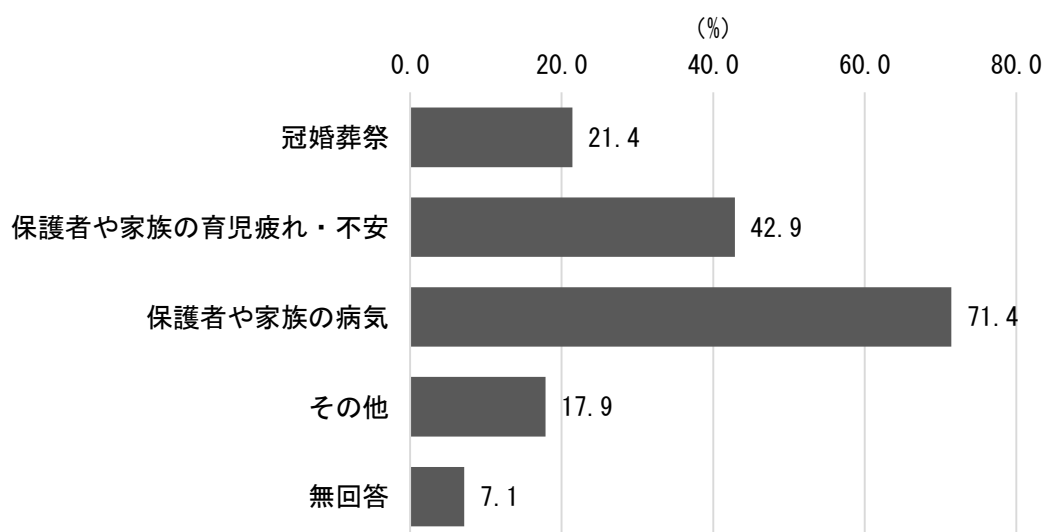
図 子どもの学年（問３）×短期入所生活援助事業の利用希望（就学児童）



「利用したい」と回答した方に対して利用目的を尋ねたところ、「保護者や家族の病気」が71.4%と最も多く「保護者や家族の育児疲れ・不安」が42.9%と続いています。

図 短期入所生活援助事業の利用目的（就学児童）

n=28



「利用したい」と回答した方に、利用したい年間あたりの泊数について尋ねたところ、50%が3～10泊の範囲で回答しています。

また、利用目的別で利用したい年間あたりの泊数について尋ねたところ、「冠婚葬祭」では「1～2泊」の66.7%が最も多くなっています。「保護者や家族の育児疲れ・不安」では、「1～2泊」及び「3～5泊」（それぞれ33.3%）が最も多くなっています。「保護者や家族の病気」では、「3～5泊」が35.0%と最も多く、「6～10泊」が30.0%と続いています。

図 利用したい年間あたりの泊数（就学児童）

n=28

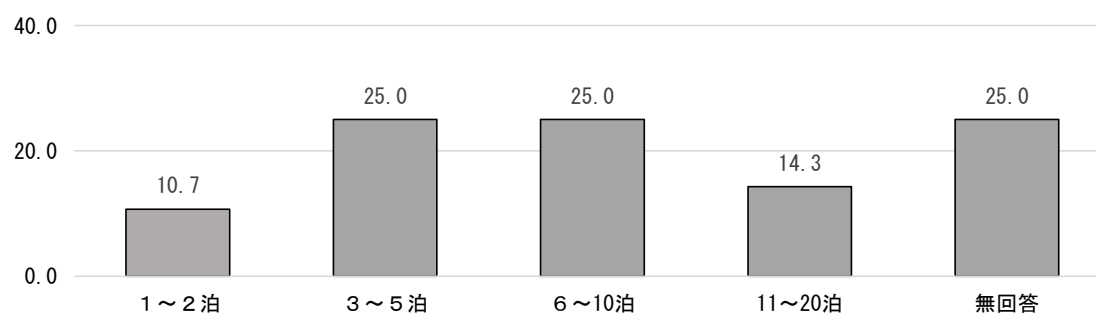
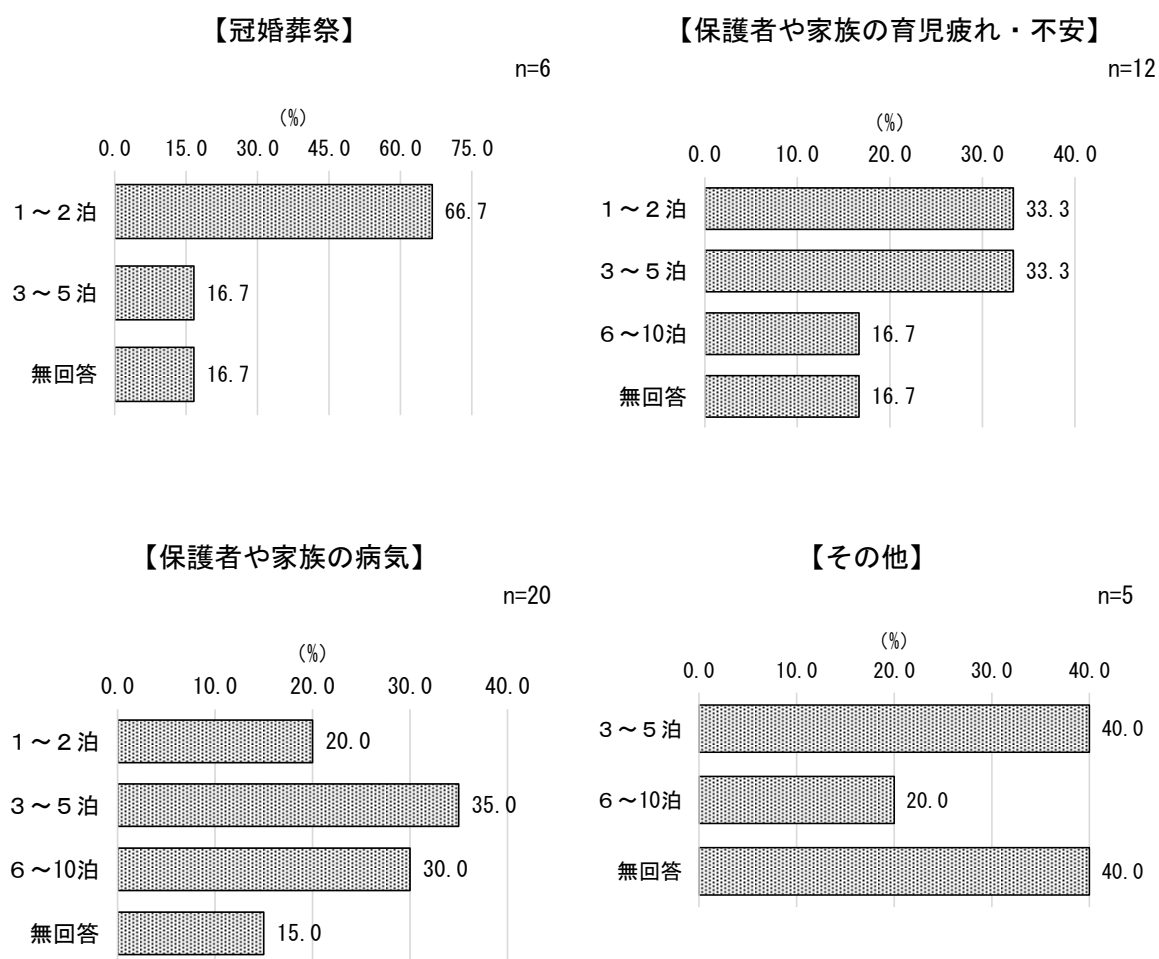


図 利用目的別の利用したい年間あたりの泊数（就学児童）



9. 放課後の過ごし方について

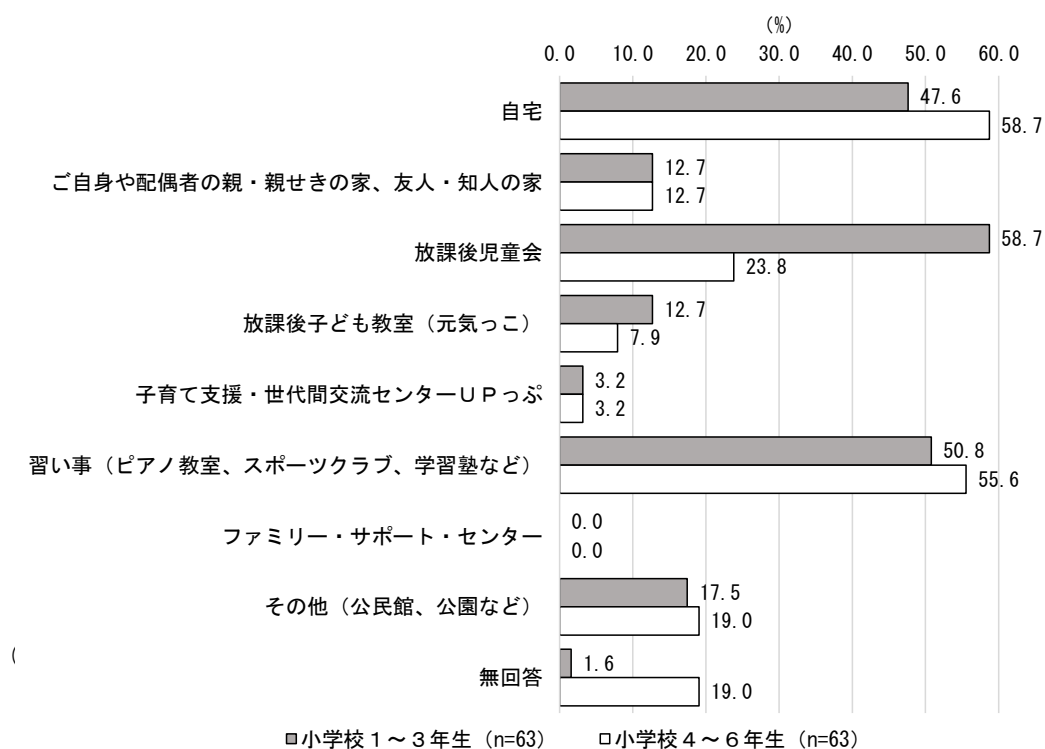
（１）放課後の利用希望場所と利用希望日数

①放課後の利用希望場所

【就学前児童：問22】 ●複数回答

小学校1～3年生では、「放課後児童会」が58.7%と最も多く、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」（50.8%）、「自宅」（47.6%）と続いています。小学校4～6年生では、「自宅」が58.7%と最も多く、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が55.6%と続いています。

図 放課後の利用希望場所（就学前児童）



小学校 1～3 年生及び小学校 4～6 年生において、特に「自宅」、「放課後児童会」について、他の項目と比べて多くの日数を希望しています。

図 放課後の利用希望日数：自宅（就学前児童）

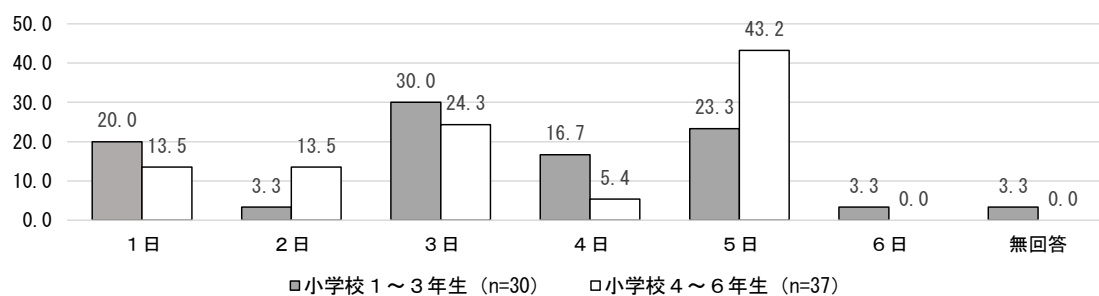


図 放課後の利用希望日数：親・親せき、友人・知人の家（就学前児童）

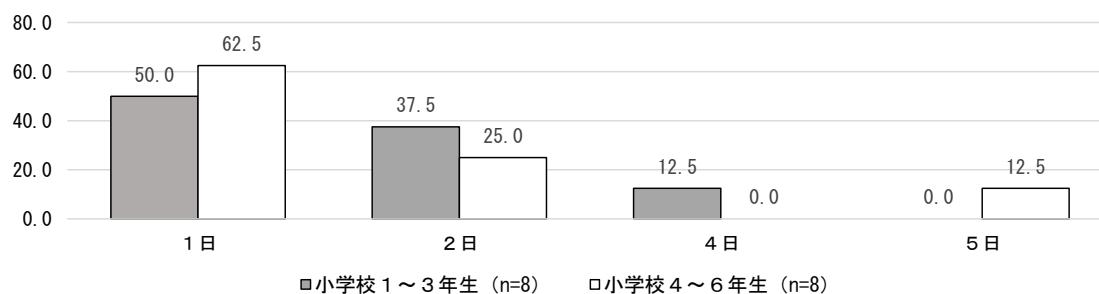


図 放課後の利用希望日数：放課後児童会（就学前児童）

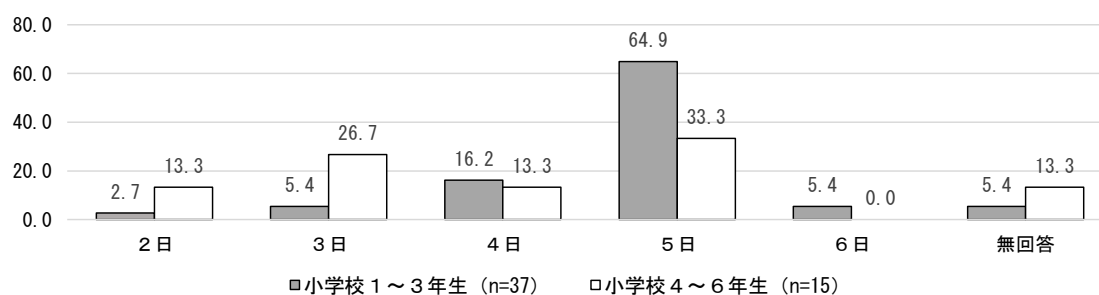


図 放課後の利用希望日数：放課後子ども教室（就学前児童）

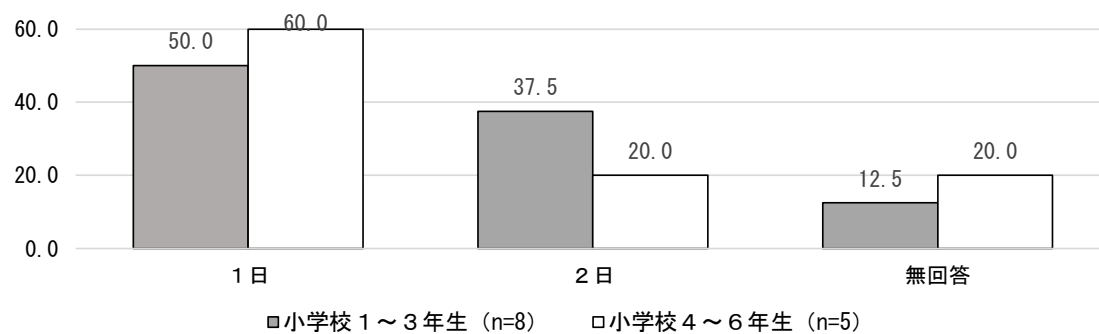


図 放課後の利用希望日数：子育て支援・世代間交流センター（就学前児童）

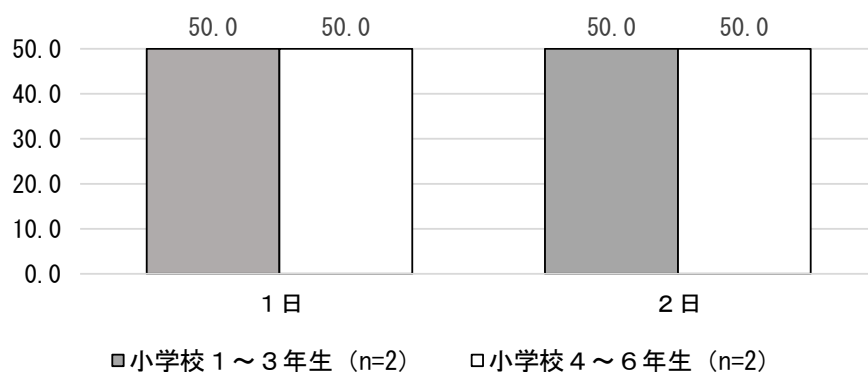


図 放課後の利用希望日数：習い事（就学前児童）

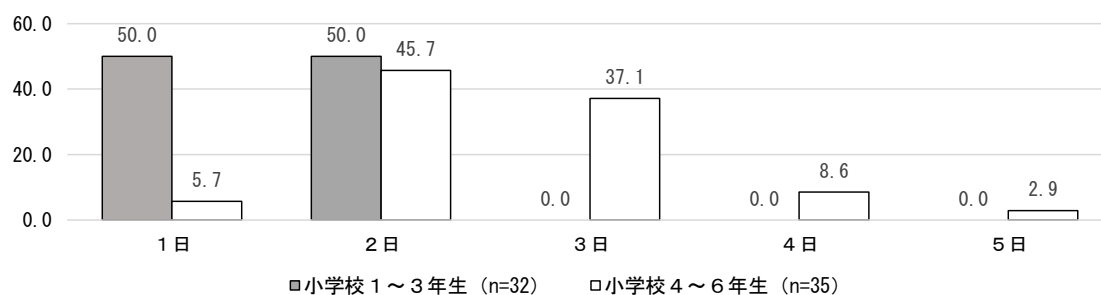
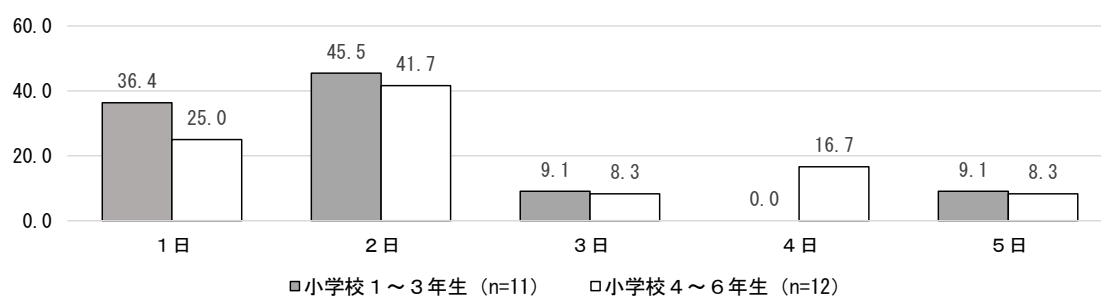


図 放課後の利用希望日数：その他（就学前児童）



（２）放課後児童会の利用希望と利用したい時間帯

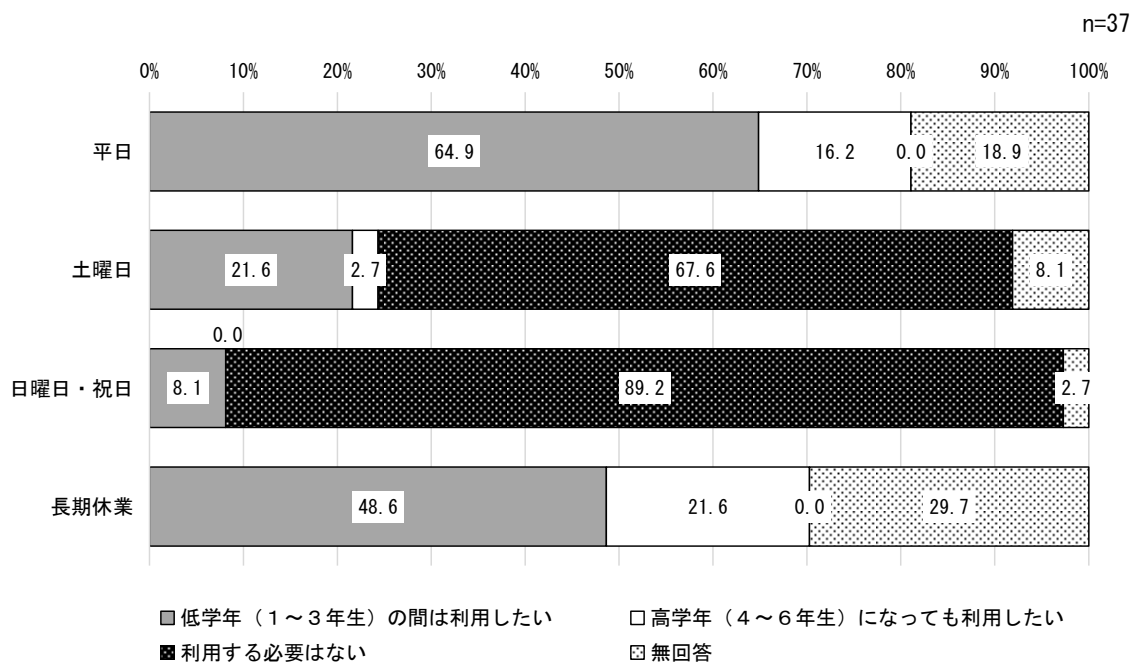
問22において「放課後児童会」と答えた方のみ

①放課後児童会の利用希望

【就学前児童：問23】 ● 単一回答

「低学年（１～３年生）の間は利用したい」では、「平日」が64.9%と最も多く、「長期休業」が48.6%と続いています。「高学年（４～６年生）になっても利用したい」では、「長期休業」が21.6%と最も多く、「平日」が16.2%と続いています。また、「利用する必要はない」では、「日曜日・祝日」が89.2%、「土曜日」が67.6%となっています。

図 放課後児童会の利用希望（就学前児童）



②放課後児童会の利用希望時間帯

【就学前児童：問23】 ●数値入力

平日の放課後児童会の利用希望の終了時間について、低学年（１～３年生）及び高学年（４～６年生）において、「１７時台」が最も多くなっています。

次に、低学年（１～３年生）における土曜日、日曜日・祝日、長期休業における利用希望時間帯について、開始時間では「８時台」が最も多く、終了時間では、土曜日において「１８時台」が最も多く、日曜日・祝日においては「１８時台」が１００.０％となっています。長期休業においては「１７時台」が最も多くなっています。

高学年（４～６年生）における土曜日、日曜日・祝日、長期休業における利用希望時間帯について、開始時間では、土曜日において「７時台」が１００.０％となっており、長期休業では「８時台」が６２.５％と最も多くなっています。終了時間では、土曜日において「１７時台」が１００.０％となっており、長期休業においては「１７時台」が７５.０％と最も多くなっています。

図 平日の放課後児童会の利用希望の終了時間（就学前児童）

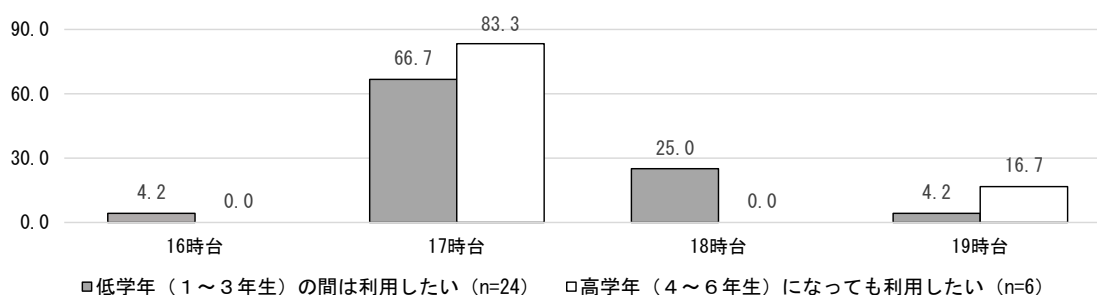


図 低学年（１～３年生）の間利用したい：開始時間（就学前児童）

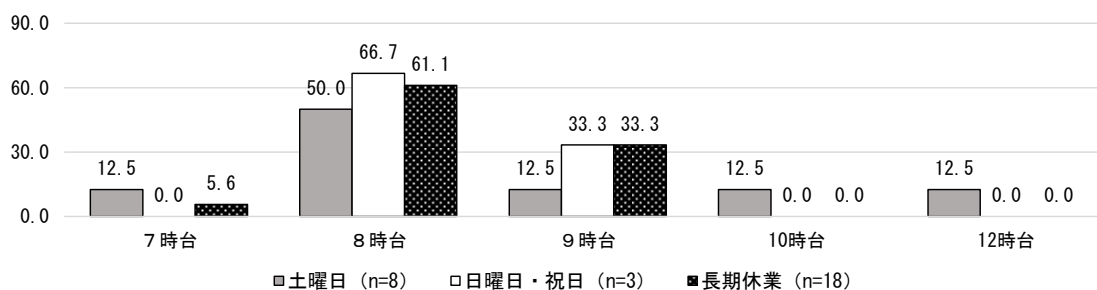


図 低学年（１～３年生）の間利用したい：終了時間（就学前児童）

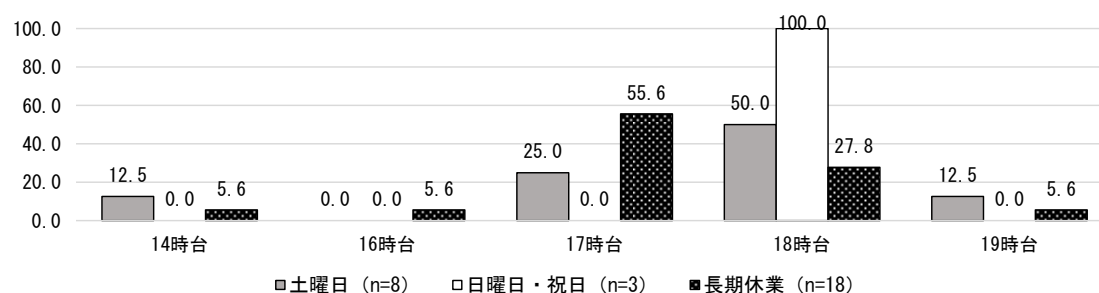


図 高学年（４～６年生）の間利用したい：開始時間（就学前児童）

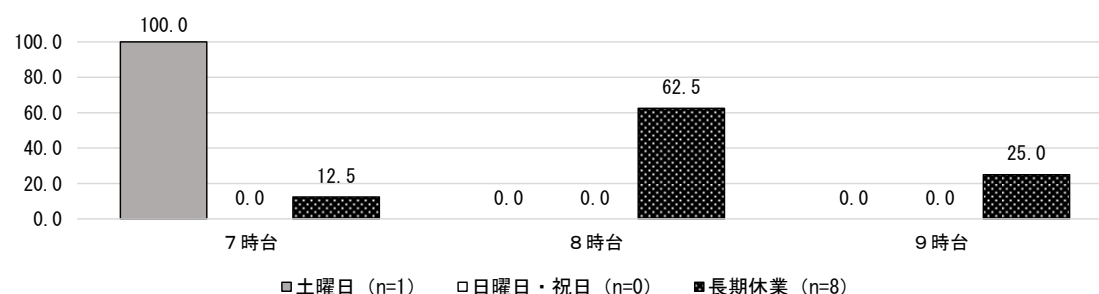
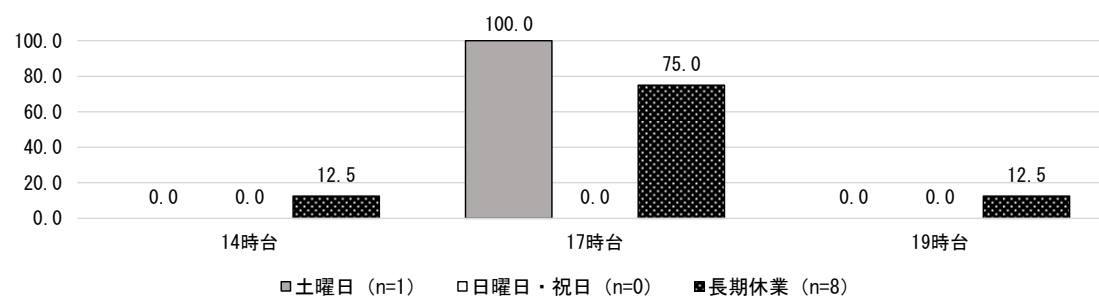


図 高学年（４～６年生）の間利用したい：終了時間（就学前児童）



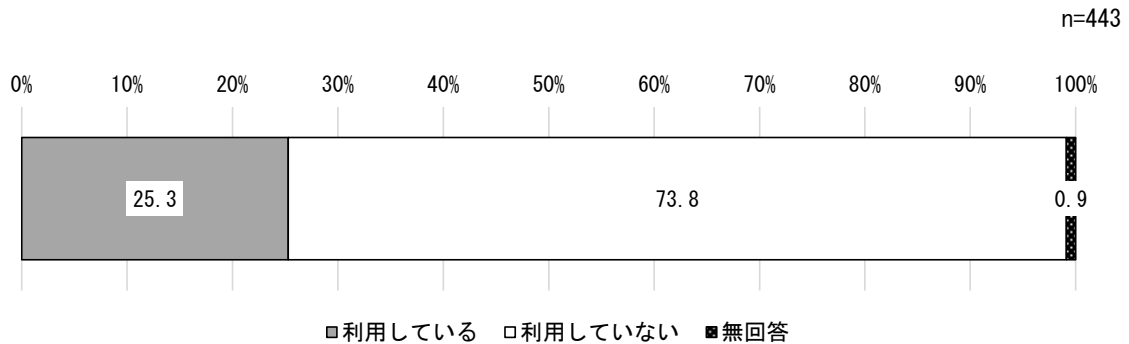
10. 放課後児童会の利用について

（１）平日の放課後児童会の利用有無

【就学児童：問11】 ●単一回答

「利用している」が25.3%、「利用していない」が73.8%となっています。

図 平日の放課後児童会の利用有無（就学児童）



居住地でクロス集計をかけたところ、「西小学校区」及び「南第三小学校区」において「利用している」の数値が相対的に低くなっています。また、学年によるクロス集計では、特に3年生以下において「利用している」の数値が相対的に高くなっています。

図 居住地（問1）×平日の放課後児童会の利用状況（就学児童）

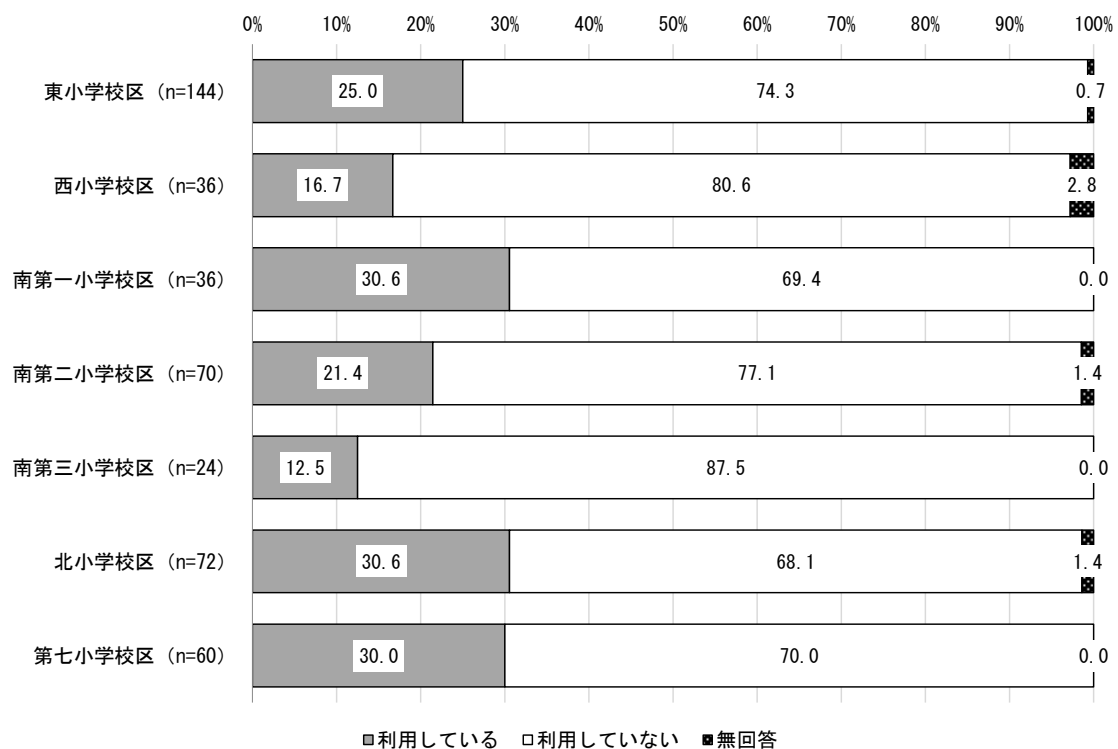
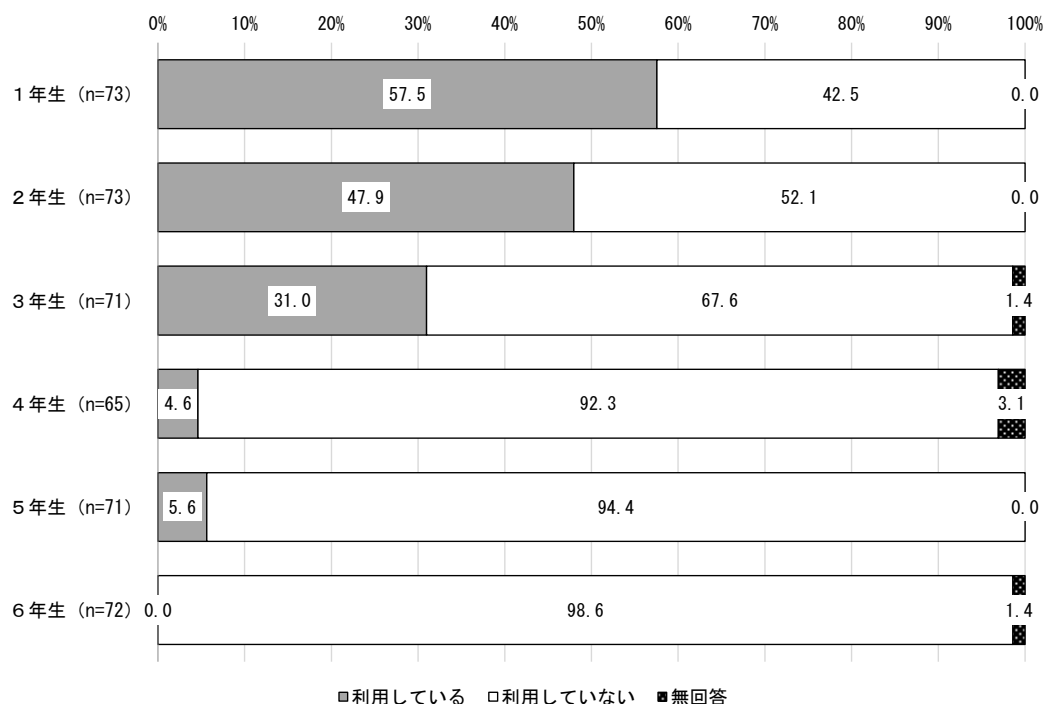
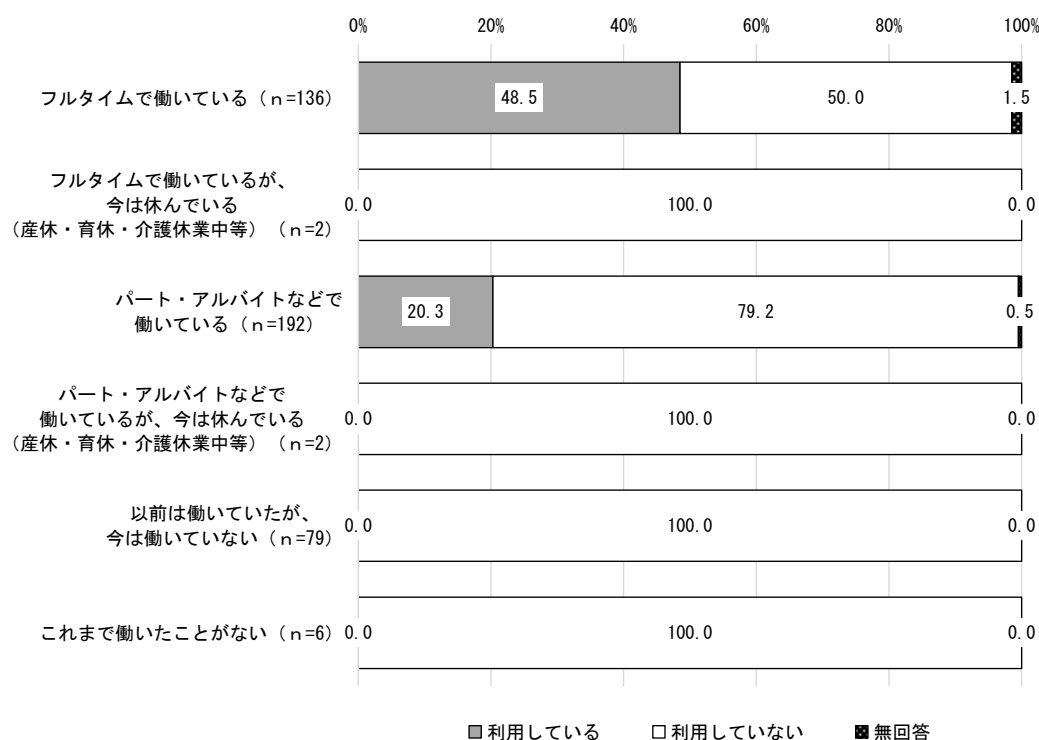


図 学年（問3）×平日の放課後児童会の利用状況（就学児童）



さらに、母親の就労状況とクロス集計をかけたところ、「利用している」の数値は、「フルタイムで働いている」及び「パート・アルバイトなどで働いている」でそれぞれ48.5%、20.3%となっており、他の利用状況では0.0%となっています。

図 母親の就労状況（問9）×平日の放課後児童会の利用状況（就学児童）



(2) 平日の放課後児童会の利用状況

【就学児童：問12】 ●数値入力

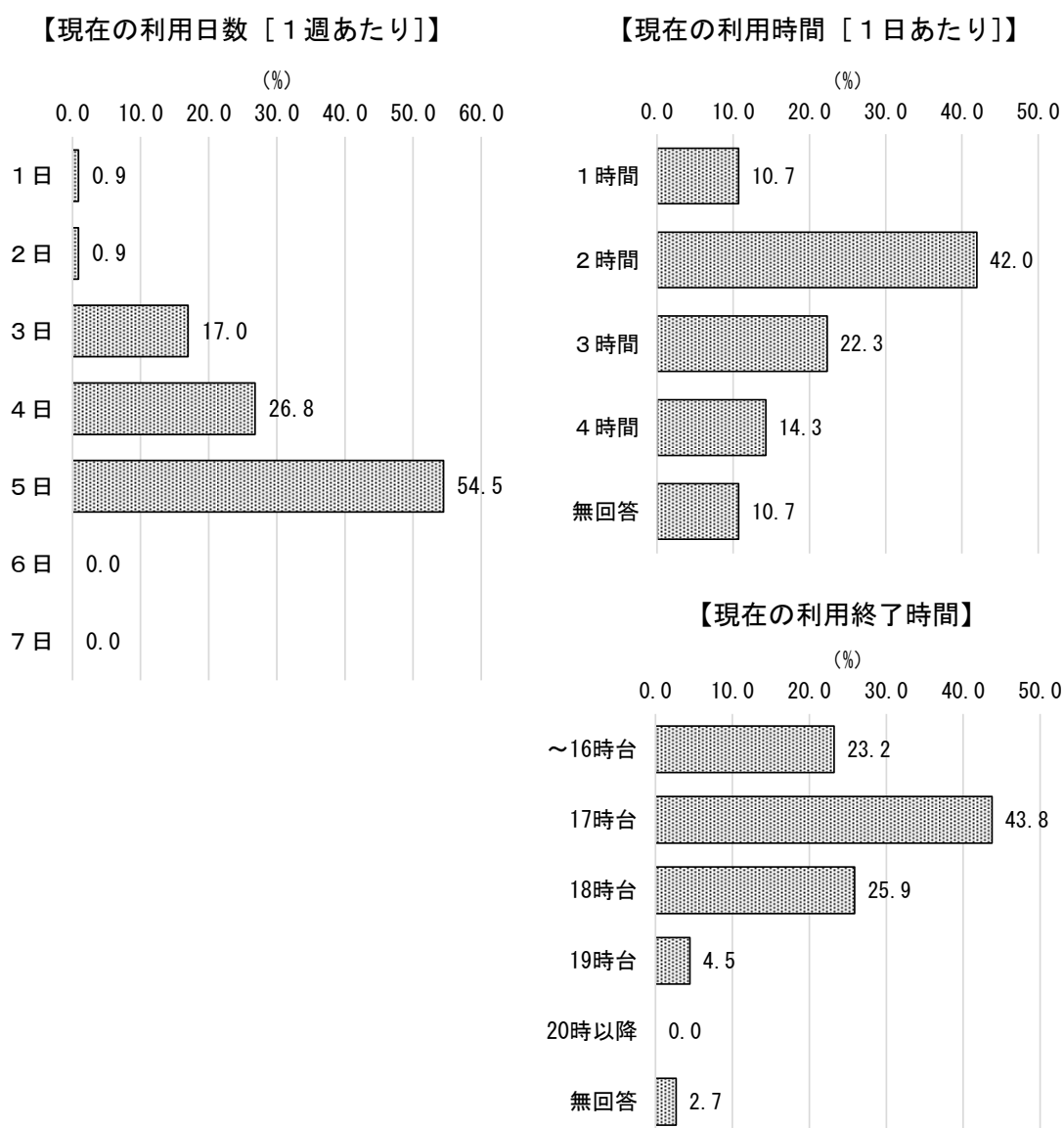
問11において「利用している」と答えた方のみ

①現在

現在の利用日数（1週あたり）では、「5日」が54.5%と最も多く、「4日」（26.8%）、「3日」（17.0%）と続いています。1日あたりの利用時間では、「2時間」が42.0%と最も多く、続いて「3時間」（22.3%）となっています。利用終了時間では、「17時台」が43.8%と最も多く、「18時台」（25.9%）、「～16時台」（23.2%）と続いています。

図 現在における平日の放課後児童会の利用状況（就学児童）

n=112



現在の1週あたり利用日数について子どもの学年でクロス集計をかけたところ、「4日」及び「5日」を合わせた数値が「1年生」では90.5%、「2年生」では80.0%であることから、特に低学年の利用日数が多くなっています。また、中学年、高学年になるにつれ、利用日数が少なくなる傾向があります。

表 子どもの学年（問3）×平日の放課後児童会の現在の利用日数〔1週あたり〕
（就学児童）

		n	平日の放課後児童会の利用状況 現在の利用日数〔1週あたり〕							
			1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
子どもの学年	1年生	42	0.0	0.0	9.5	23.8	66.7	0.0	0.0	0.0
	2年生	35	0.0	0.0	20.0	22.9	57.1	0.0	0.0	0.0
	3年生	22	4.5	0.0	22.7	36.4	36.4	0.0	0.0	0.0
	4年生	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	5年生	4	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	6年生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

次に、現在の1日あたり利用時間について子どもの学年でクロス集計をかけたところ、「3時間」及び「4時間」を合わせた数値が「1年生」では50.0%、「2年生」では45.7%であり、特に低学年の利用時間が長くなっています。また、中学年、高学年になるにつれ、利用時間が短くなる傾向があります。

表 子どもの学年（問3）×平日の放課後児童会の現在の利用時間〔1日あたり〕
（就学児童）

		n	平日の放課後児童会の現在の利用時間〔1日あたり〕						
			1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間以上	無回答
子どもの学年	1年生	42	7.1	31.0	26.2	23.8	0.0	0.0	11.9
	2年生	35	0.0	45.7	31.4	14.3	0.0	0.0	8.6
	3年生	22	18.2	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
	4年生	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5年生	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6年生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

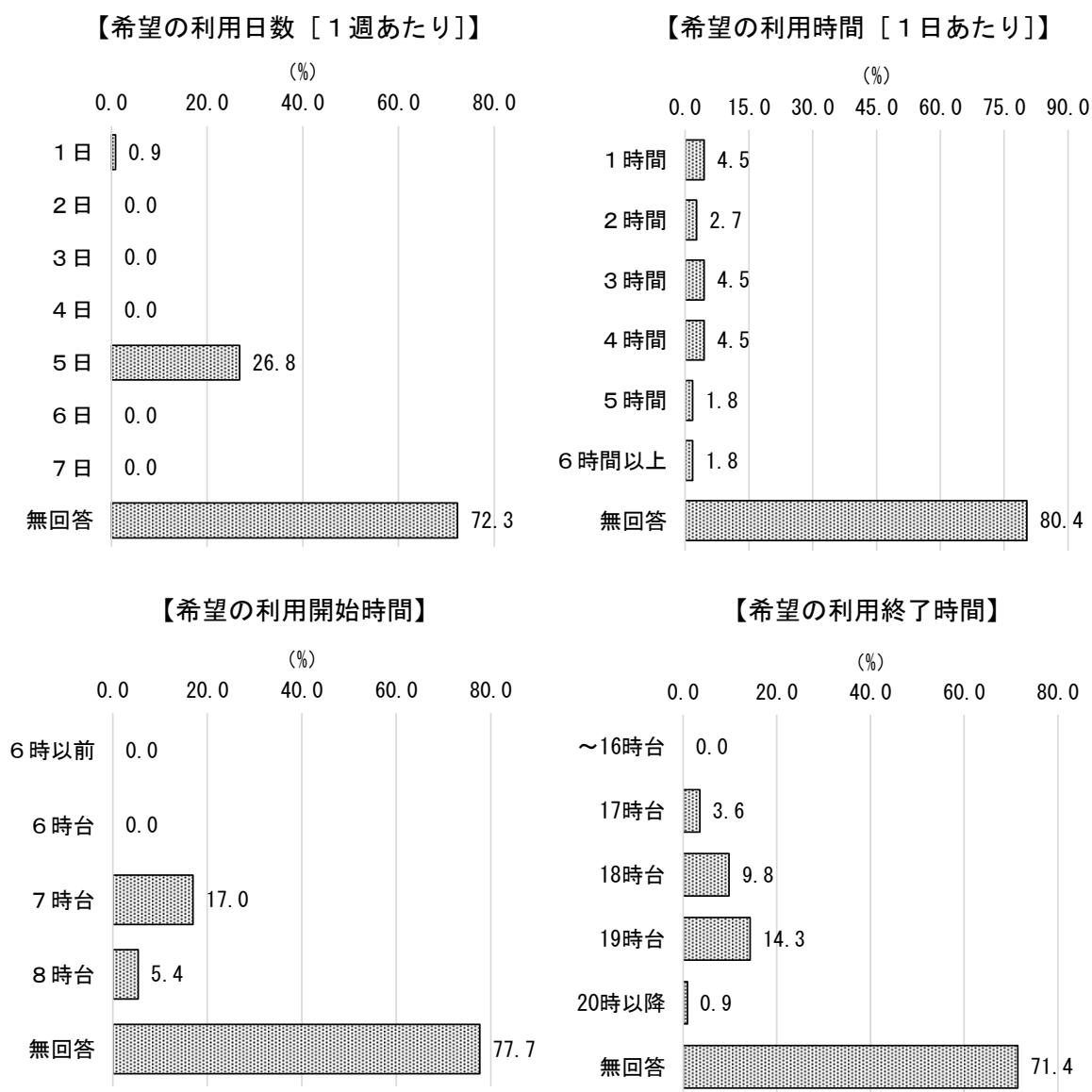
②希望

希望の利用日数（1週あたり）では、「5日」が26.8%と最も多くなっています。1日あたりの利用時間では、「1時間」から「6時間以上」において5.0%を下回る数値となっています。

利用開始時間では「7時台」が17.0%と最も多くなっています。利用終了時間では「19時台」が14.3%と最も多く、「18時台」（9.8%）と続いています。

図 平日の放課後児童会の希望内容（就学児童）

n=112



子どもの学年でクロス集計をかけたところ、「1年生」から「3年生」において、「5日」が最も多くなっています（それぞれ、40.5%、22.9%、18.2%）。

表 子どもの学年（問3）×平日の放課後児童会の希望日数〔1週あたり〕
（就学児童）

		n	平日の放課後児童会の希望日数〔1週あたり〕							
			1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
子どもの学年	1年生	42	0.0	0.0	0.0	0.0	40.5	0.0	0.0	59.5
	2年生	35	2.9	0.0	0.0	0.0	22.9	0.0	0.0	74.3
	3年生	22	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	81.8
	4年生	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	5年生	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	6年生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

子どもの学年でクロス集計をかけたところ、特に「1年生」及び「2年生」においては、「4時間」、「5時間」といった比較的長い時間を希望する回答が見受けられます。

表 子どもの学年（問3）×平日の放課後児童会の希望利用時間〔1日あたり〕
（就学児童）

		n	平日の放課後児童会の希望利用時間〔1日あたり〕						無回答
			1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間以上	
子どもの学年	1年生	42	4.8	7.1	4.8	4.8	2.4	0.0	76.2
	2年生	35	5.7	0.0	0.0	8.6	2.9	0.0	82.9
	3年生	22	4.5	0.0	13.6	0.0	0.0	0.0	81.8
	4年生	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	5年生	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	6年生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(3) 平日に放課後児童会を利用している理由

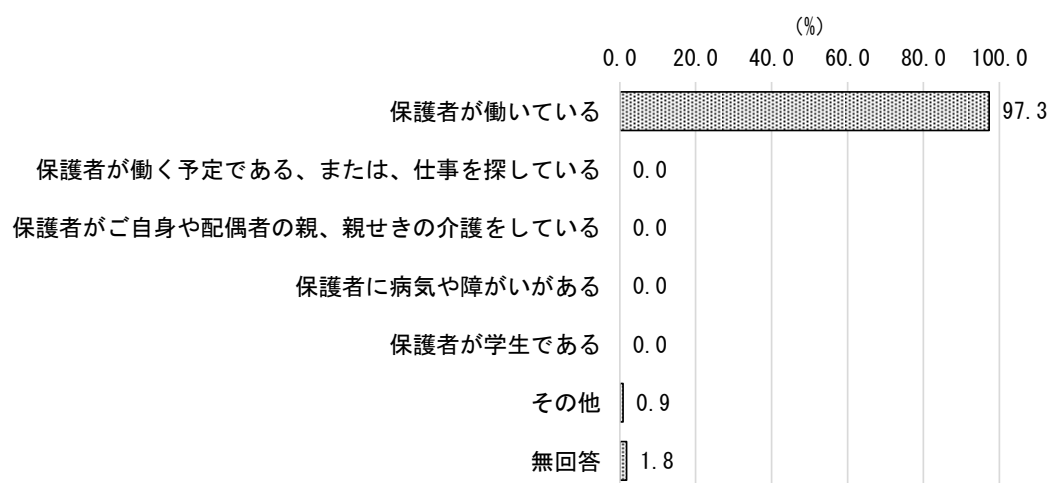
【就学児童：問12-1】 ●単一回答

問11において「利用している」と答えた方のみ

「保護者が働いている」が97.3%と最も多くなっています。

図 平日に放課後児童会を利用している理由（就学児童）

n=112



(4) 土曜日・日曜日・祝日の放課後児童会の利用希望について

【就学児童：問12-2】 ●単一回答、数値入力

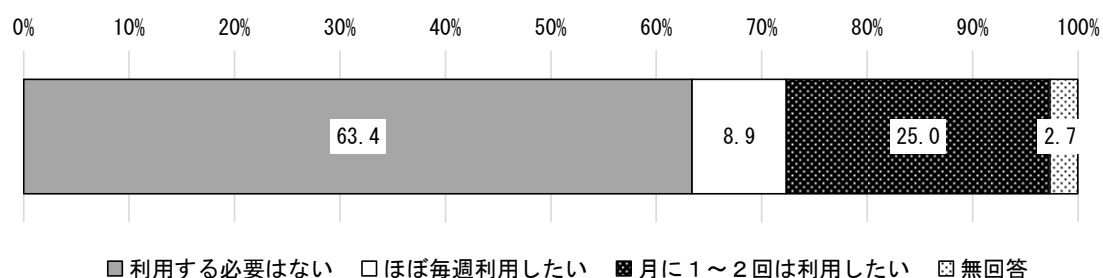
問11において「利用している」と答えた方のみ

①土曜日

利用希望について、「ほぼ毎週利用したい」が8.9%、「月に1～2回は利用したい」が25.0%となっています。

図 土曜日における放課後児童会の利用希望（就学児童）

n=112



「ほぼ毎週利用したい」と回答した方の利用希望時間帯について、開始時間では「8時台」が50.0%と最も多く、「7時台」が40.0%と続いています。終了時間では「18時台」が50.0%と最も多く、「19時台」が30.0%と続いています。

「月に1～2回は利用したい」と回答した方の利用希望時間帯について、開始時間では「8時台」が46.4%と最も多く、「7時台」が21.4%と続いています。終了時間では「17時台」及び「18時台」がそれぞれ28.6%と最も多く、「19時台」が17.9%と続いています。

図 土曜日における利用希望時間帯：ほぼ毎週利用したい（就学児童）

n=10

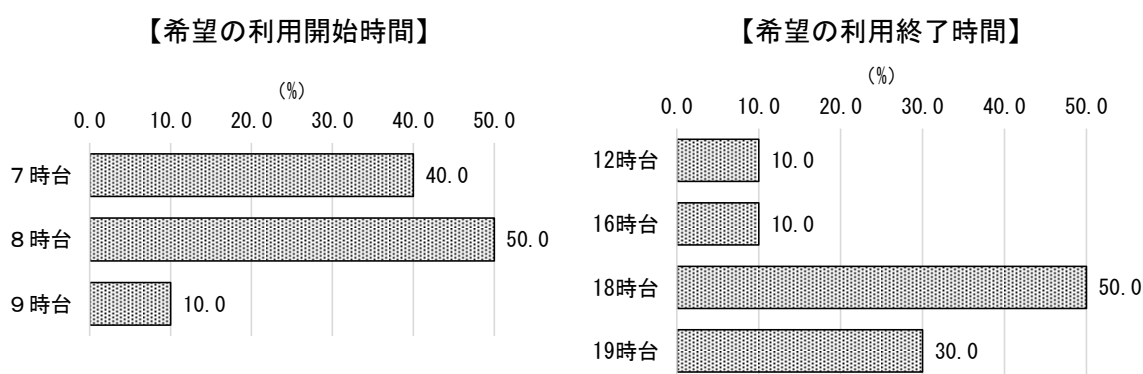
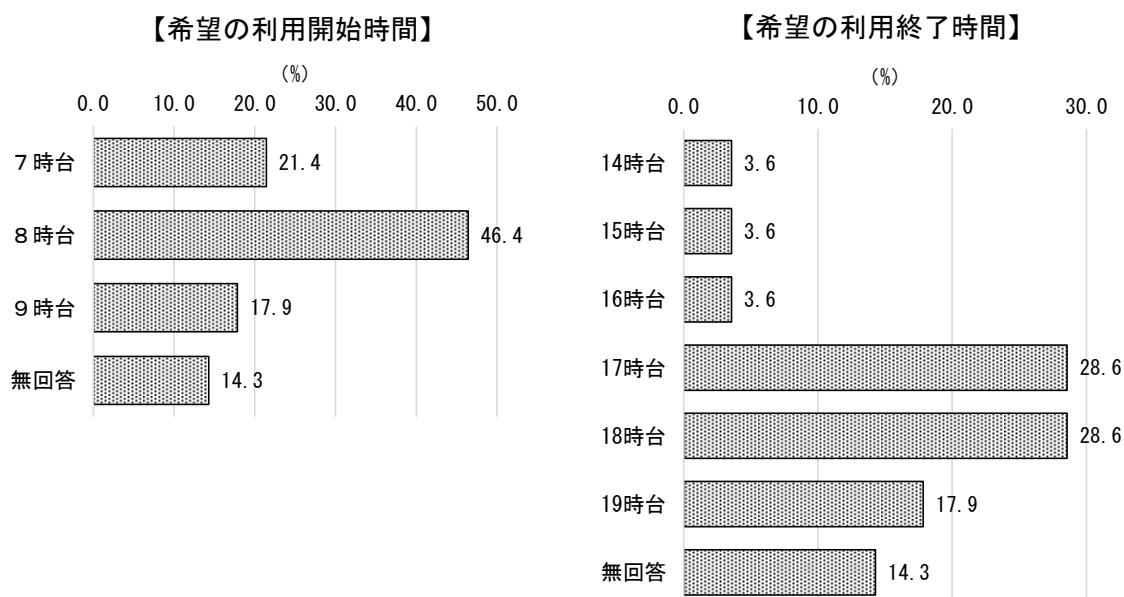


図 土曜日における利用希望時間帯：月に1～2回は利用したい（就学児童）

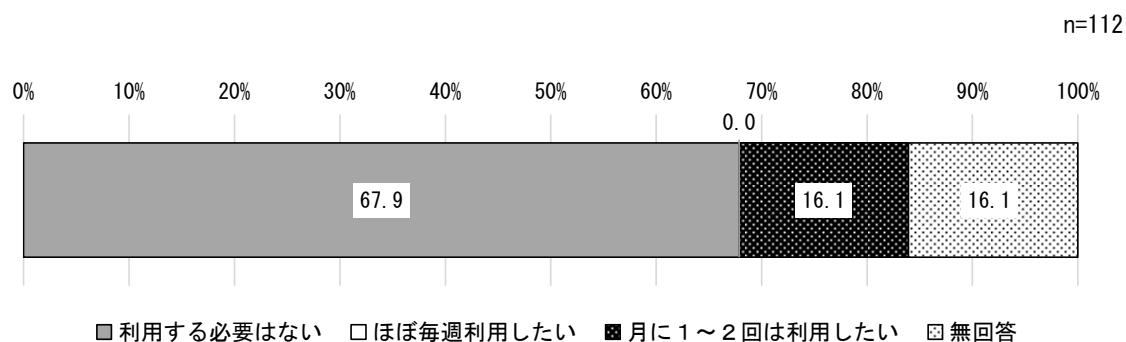
n=28



②日曜日・祝日

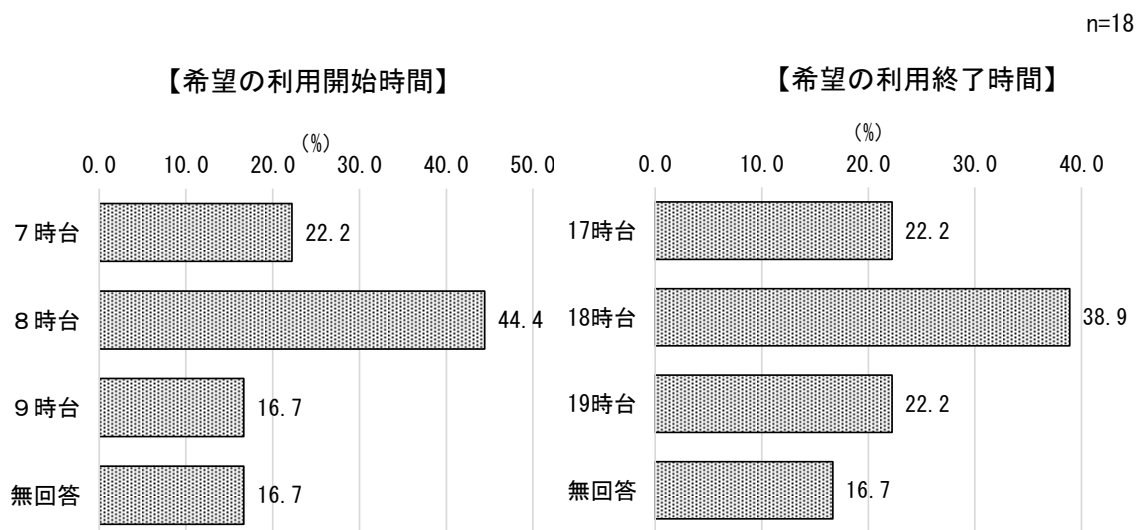
利用希望について、「ほぼ毎週利用したい」が0.0%、「月に1～2回は利用したい」が16.1%となっています。

図 日曜日・祝日における放課後児童会の利用希望（就学児童）



「月に1～2回は利用したい」と回答した方の利用希望時間帯について、開始時間では「8時台」が44.4%と最も多く「7時台」が22.2%と続いています。終了時間では「18時台」が38.9%と最も多くなっています。

図 日曜日・祝日における利用希望時間帯：月に1～2回は利用したい（就学児童）



(5) 土曜日・日曜日・祝日において、放課後児童会を毎週ではなくたまに利用したい理由

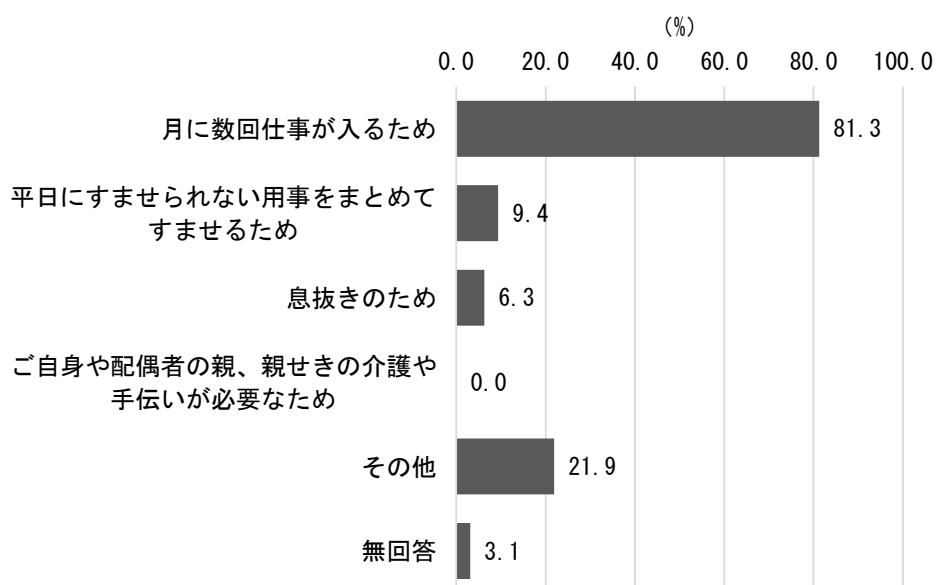
【就学児童：問12-3】 ●複数回答

問12-2において「月に1～2回は利用したい」と答えた方のみ

「月に数回仕事が入るため」が81.3%と他の項目と比べて著しく多くなっています。

図 土曜日・日曜日・祝日において、放課後児童会を毎週ではなくたまに利用したい理由
(就学児童)

n=32



(6) 現在通っている放課後児童会に希望すること

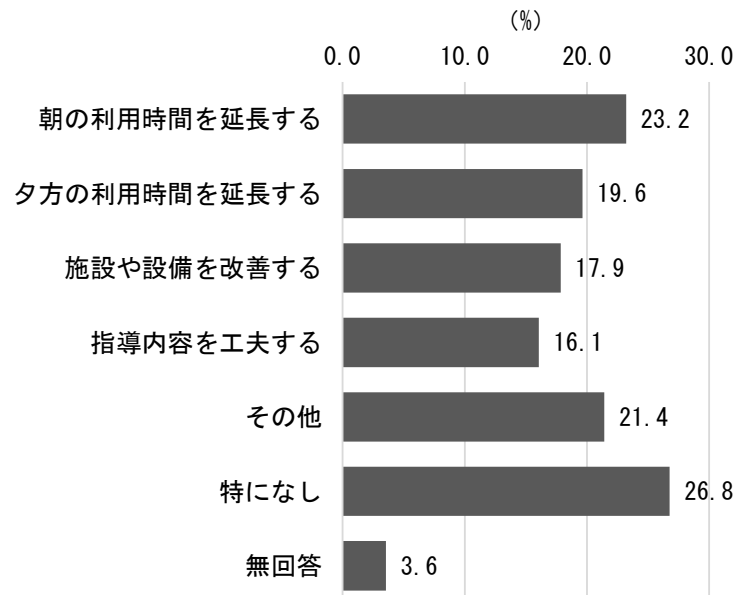
【就学児童：問12-4】 ●複数回答

問11において「利用している」と答えた方のみ

「特になし」が26.8%と最も多くなっており、「朝の利用時間を延長する」(23.2%)と続いています。

図 現在通っている放課後児童会に希望すること（就学児童）

n=112



（７）小学４年生以降の放課後の過ごし方について望むこと

【就学児童：問12-５】 ●複数回答

問11において「利用している」と答えた方のみ

「放課後児童会を利用したい」が 69.6%と最も多くなっており、「スポーツクラブや学習塾などの習い事をさせたい」が 45.5%と続いています。

また、何年生まで放課後児童会を利用したいかを尋ねたところ、「６年生」が 46.2%と最も多く、他は「４年生」（16.7%）、「５年生」（14.1%）となっています。

図 小学4年生以降の放課後の過ごし方について望むこと（就学児童）

n=112

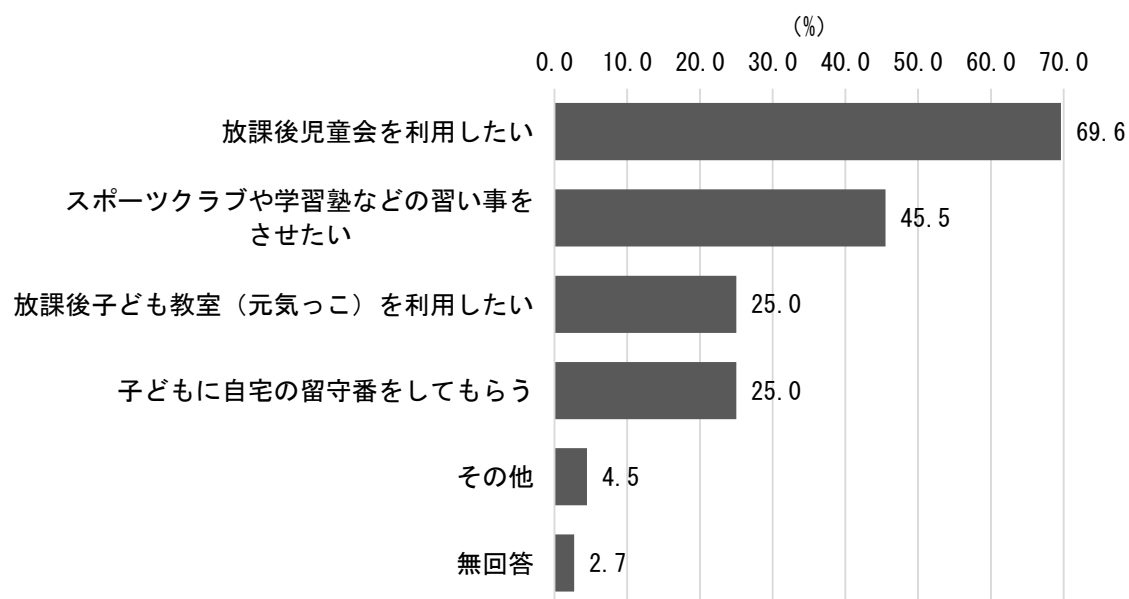
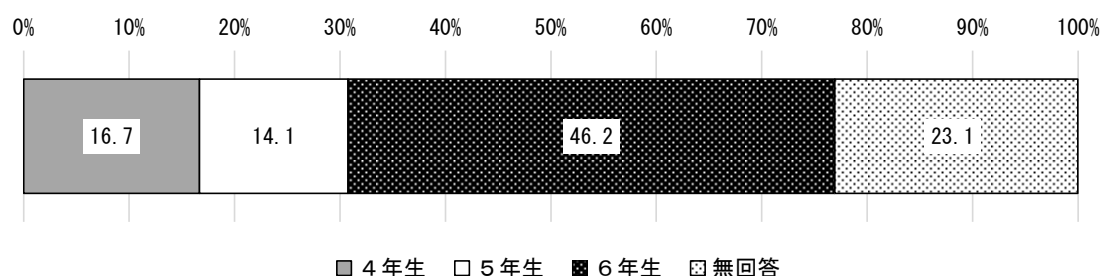


図 何年生まで放課後児童会を利用したいか（就学児童）

n=78



（８）平日に放課後児童会を利用していない理由

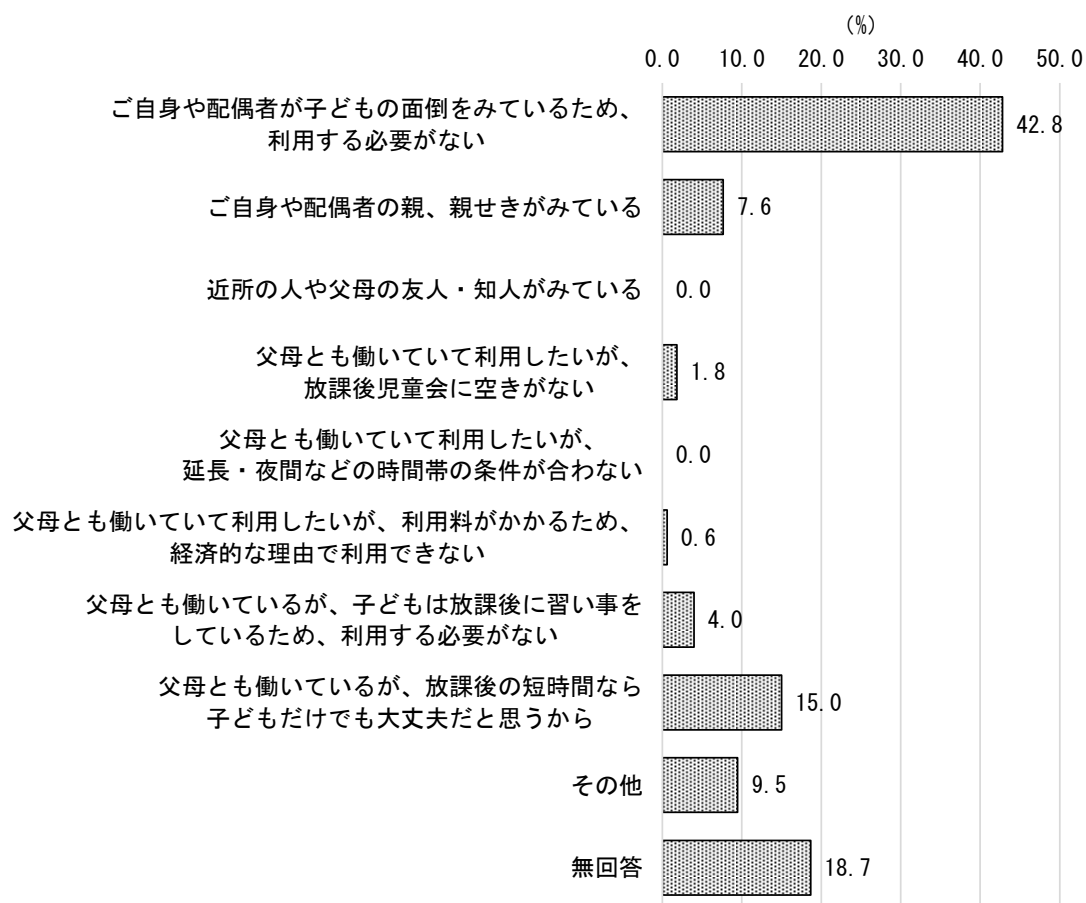
【就学児童：問13】 ●単一回答

問11において「利用していない」と答えた方のみ

「ご自身や配偶者が子どもの面倒をみているため、利用する必要がない」が42.8%と最も多く、「父母とも働いているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が15.0%と続いています。

図 平日に放課後児童会を利用していない理由（就学児童）

n=327



（９）放課後児童会の利用希望

【就学児童：問13】 ●単一回答

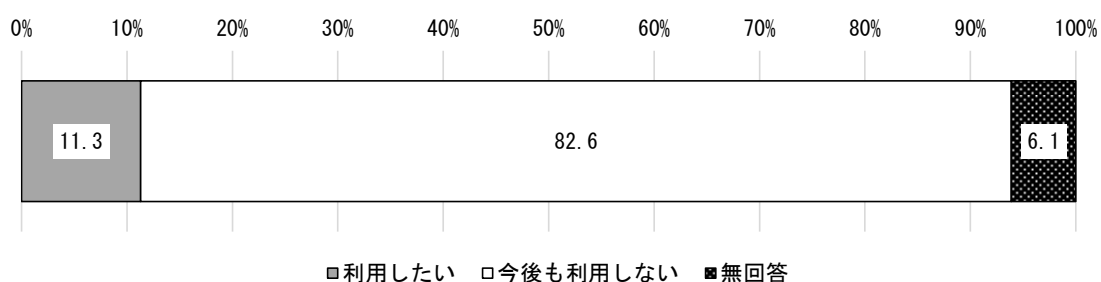
問11において「利用していない」と答えた方のみ

①利用希望の有無について

「利用したい」が11.3%、「今後も利用しない」が82.6%となっています。

図 放課後児童会の利用希望の有無について（就学児童）

n=327



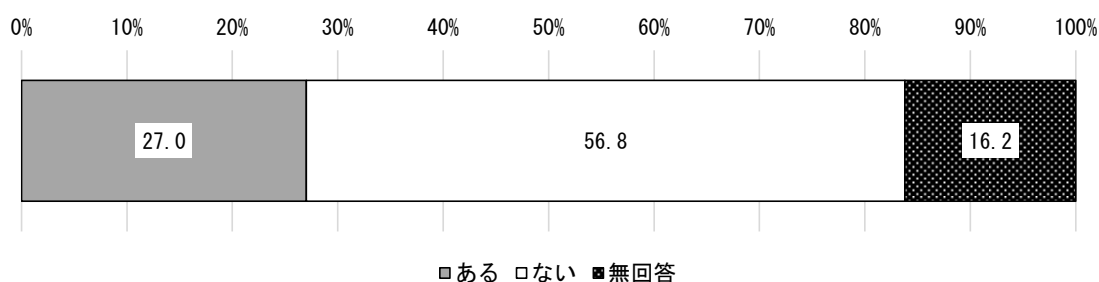
②平日における利用について

①において「利用したい」と答えた方のみ

平日における利用希望の有無について「ある」が27.0%、「ない」が56.8%となっています。

図 平日における放課後児童会の利用希望の有無について（就学児童）

n=37



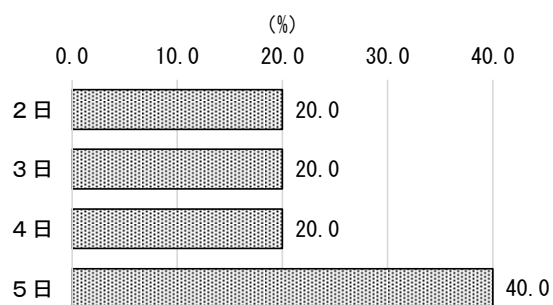
放課後児童会の1週あたりの利用希望日数について、「5日」が40.0%と最も多くなっています。1日あたりの利用希望時間については、「3時間」が30.0%と最も多くなっています。希望の利用時間帯について、開始時間は回答者全員が無回答、終了時間は「17時台」が50.0%と最も多くなっています。

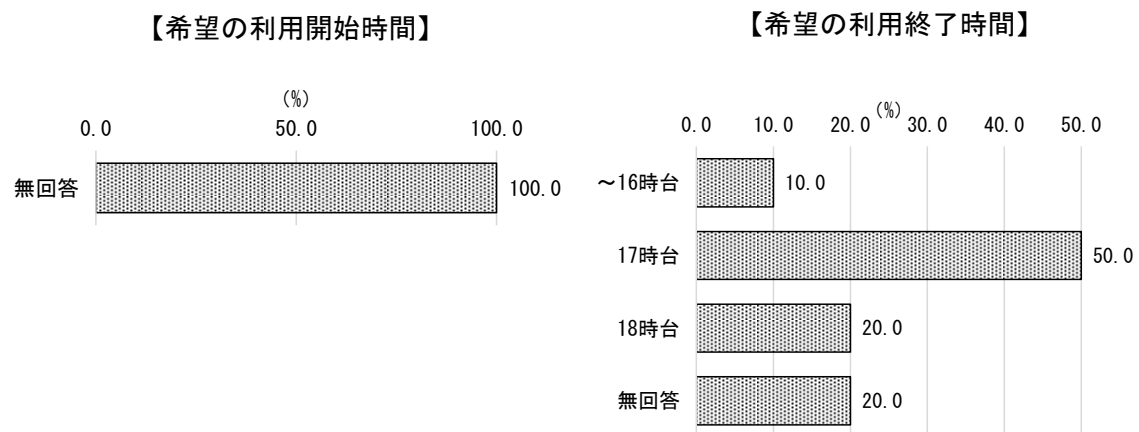
図 平日における放課後児童会の利用希望日数、時間帯について（就学児童）

n=10

【利用希望日数 [1週あたり]】

【利用希望時間 [1日あたり]】



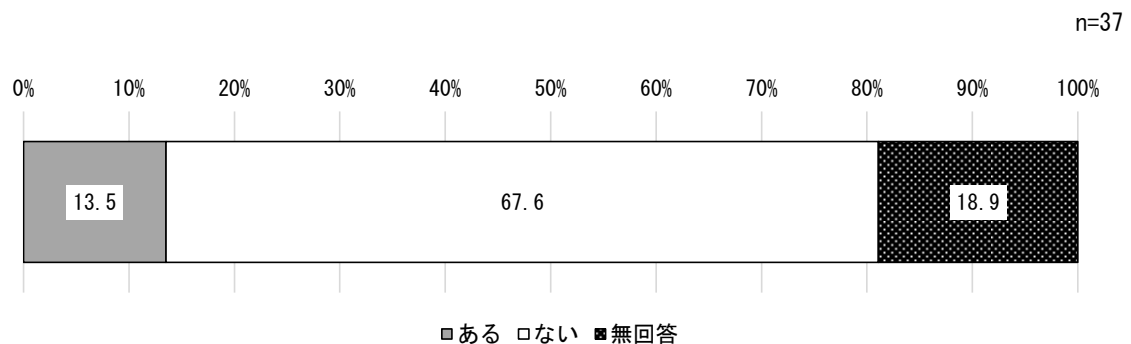


③土曜日における利用について

①において「利用したい」と答えた方のみ

利用希望の有無について「ある」が13.5%、「ない」が67.6%となっています。

図 土曜日における放課後児童会の利用希望の有無について（就学児童）

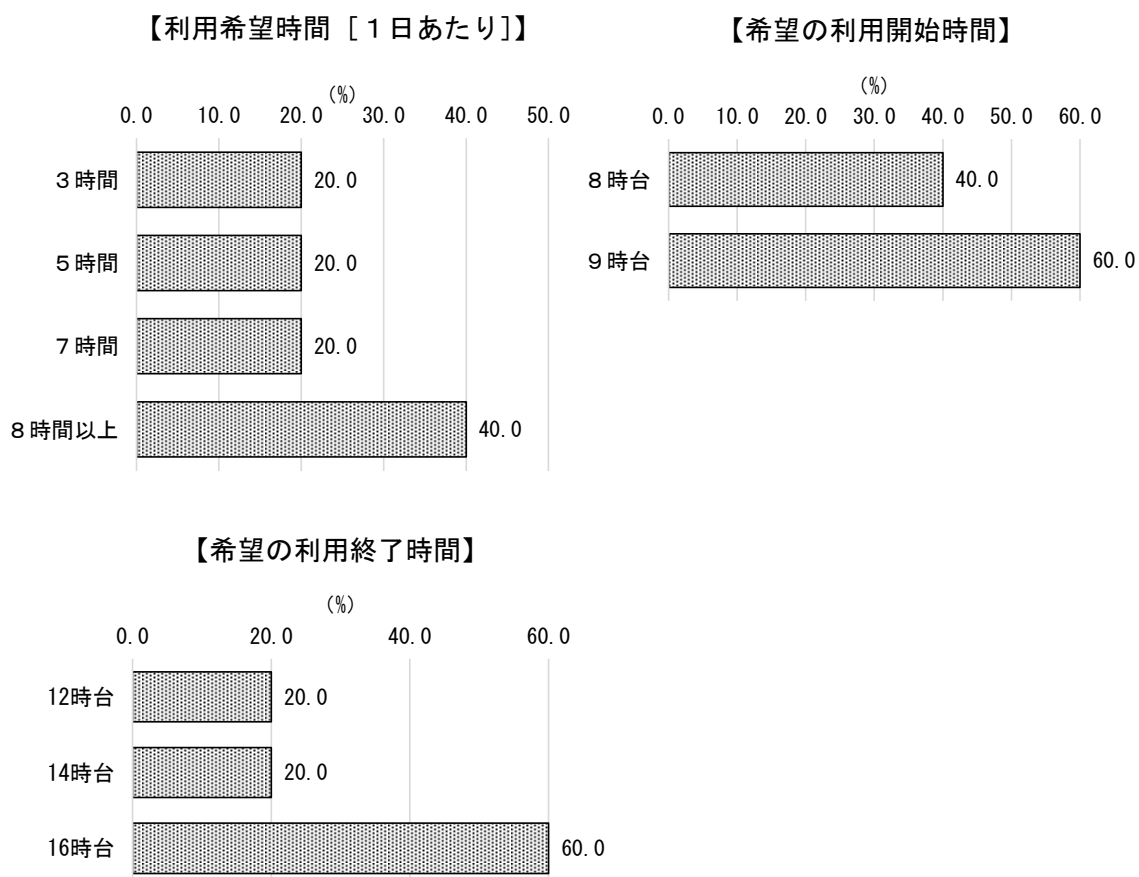


放課後児童会の1日あたりの利用希望時間については、「8時間以上」が40.0%と最も多くなっています。

希望の利用時間帯について、開始時間は「9時台」が60.0%、終了時間は「16時台」が60.0%と最も多くなっています。

図 土曜日における放課後児童会の利用希望日数、時間帯について（就学児童）

n=5



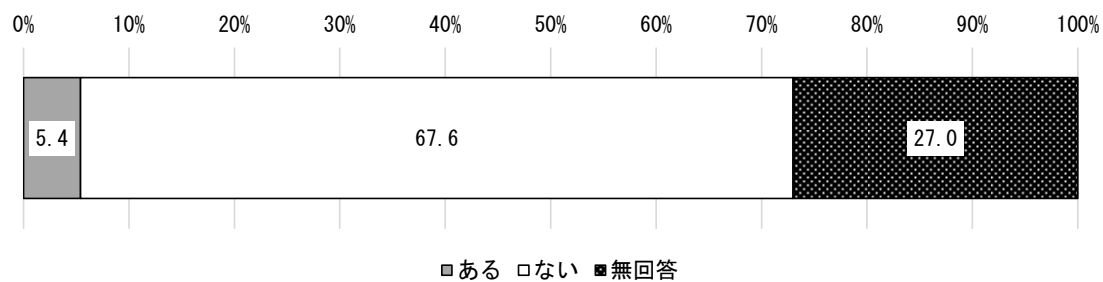
③日曜日・祝日における利用について

①において「利用したい」と答えた方のみ

利用希望の有無について「ある」が 5.4%、「ない」が 67.6%となっています。

図 日曜日・祝日における放課後児童会の利用希望の有無について（就学児童）

n=37

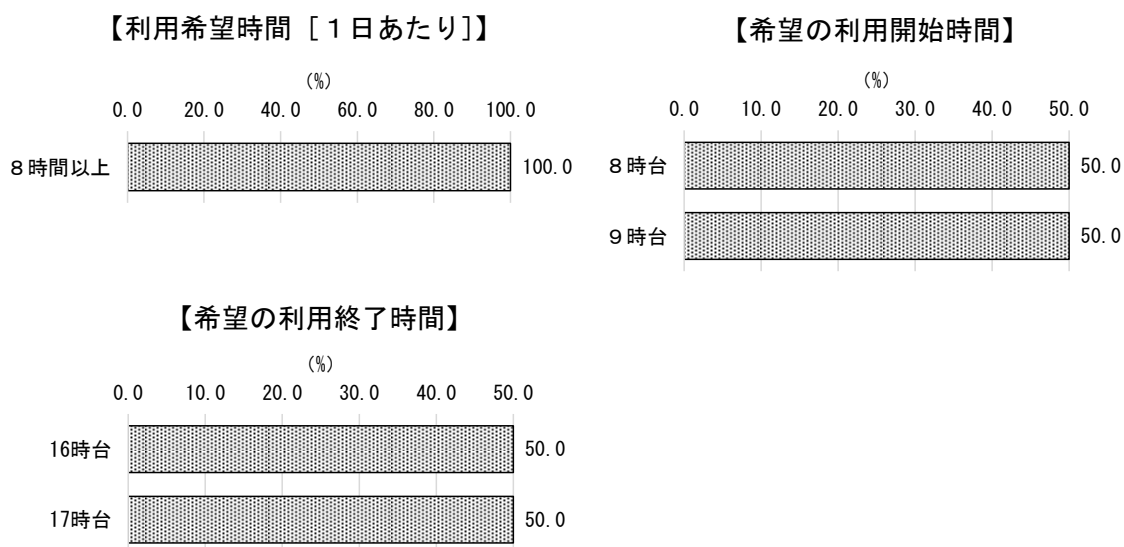


放課後児童会の1日あたりの利用希望時間については、「8時間以上」が100.0%となっています。

希望の利用時間帯について、開始時間は「8時台」及び「9時台」でそれぞれ50.0%、終了時間は「16時台」及び「17時台」でそれぞれ50.0%となっています。

図 日曜日・祝日における放課後児童会の利用希望日数、時間帯について（就学児童）

n=2



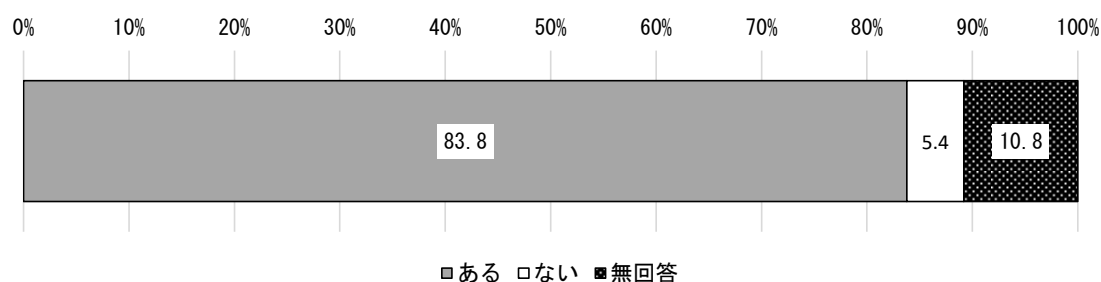
④学校休業日（長期休業）における利用について

①において「利用したい」と答えた方のみ

利用希望の有無について「ある」が83.8%、「ない」が5.4%となっています。

図 長期休業における放課後児童会の利用希望の有無について（就学児童）

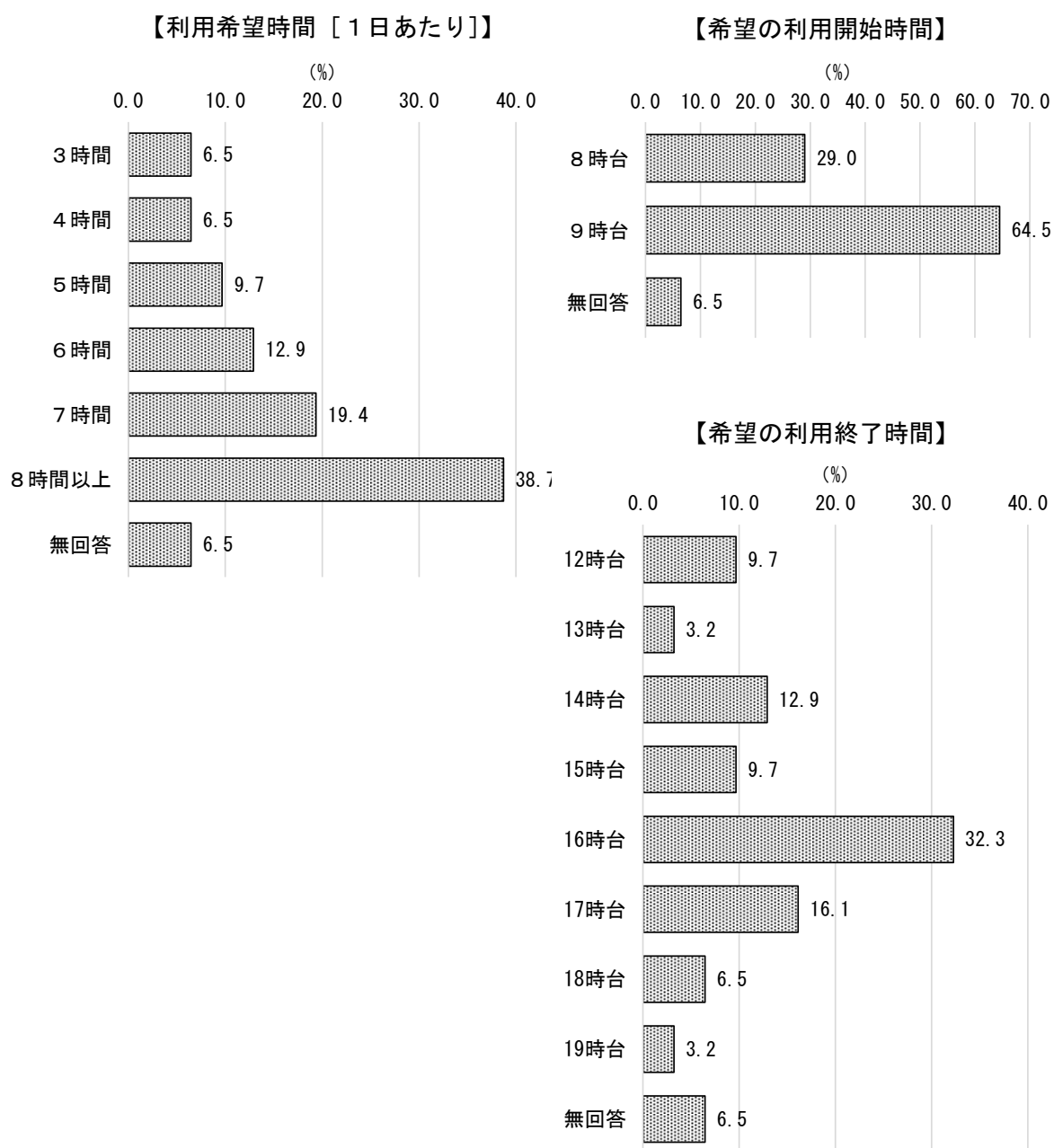
n=37



放課後児童会の1日あたりの利用希望時間については、「8時間以上」が38.7%と最も多くなっています。希望の利用時間帯について、開始時間は「9時台」が64.5%、終了時間は「16時台」が32.3%となっています。

図 長期休業における放課後児童会の利用希望日数、時間帯について（就学児童）

n=31



第4章 育児休業制度の利用状況等

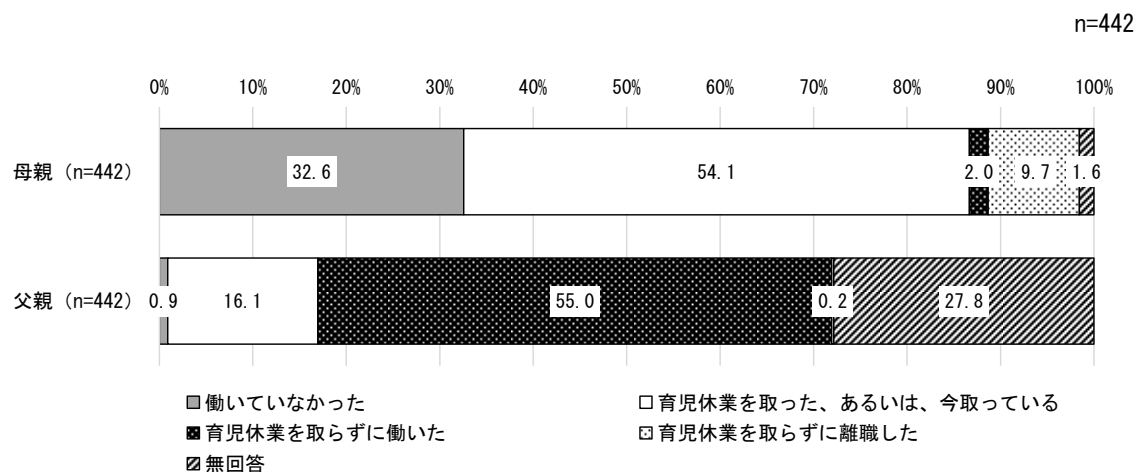
1. 育児休業制度の利用状況について

(1) 育児休業の取得状況

【就学前児童：問18】 ●単一回答、複数回答、数値入力

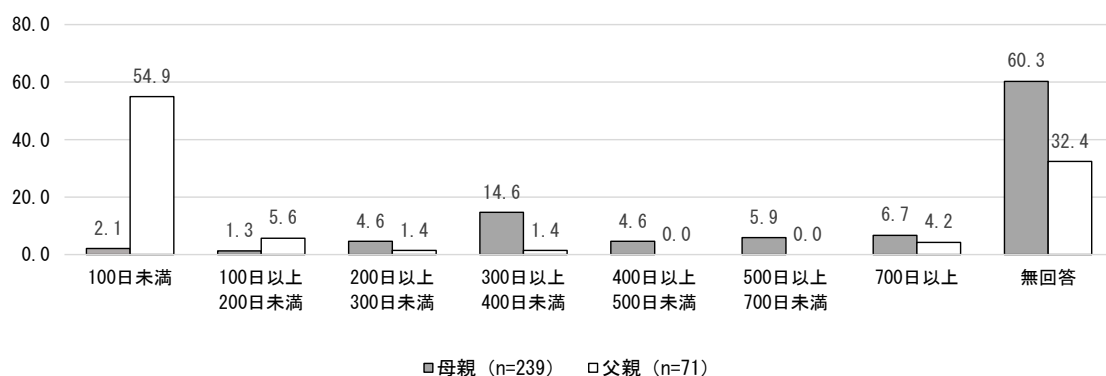
育児休業の取得状況について、母親では、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が54.1%と最も多く、「働いていなかった」が32.6%と続いています。父親では、「育児休業を取らずに働いた」が55.0%と最も多く、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が16.1%と続いています。また、無回答が27.8%となっています。

図 育児休業の取得状況（就学前児童）



育児休業の取得日数について、母親では、「300日以上400日未満」が14.6%と最も多く、無回答が60.3%となっています。父親では、「100日未満」が54.9%となっています。

図 育児休業の取得日数（就学前児童）



育児休業の取得率について前回調査結果と比較してみると、母親では、前回調査において69.0%であるのに対し、今回の調査においては80.2%となっており、11.2%高くなっています。

父親においても、前回調査において3.9%であるのに対し、今回の調査においては16.2%となっており、12.3%高くなっています。

表 育児休業の取得率についての前回調査結果との比較（就学前児童）

■ 今回調査（n=442）

	母親	父親
育児休業を取った	442件 × 54.1% = 239件	442件 × 16.1% = 71件
働いていなかった	442件 × 32.6% = 144件	442件 × 0.9% = 4件

「育児休業を取った」	239件	= 80.2%	71件	= 16.2%
総数－「働いていなかった」	298件		438件	
	(442-144)		(442-4)	

■ 前回調査（n=443）

	母親	父親
育児休業を取った	443件 × 39.3% = 174件	443件 × 3.8% = 17件
働いていなかった	443件 × 43.3% = 191件	443件 × 0.5% = 2件

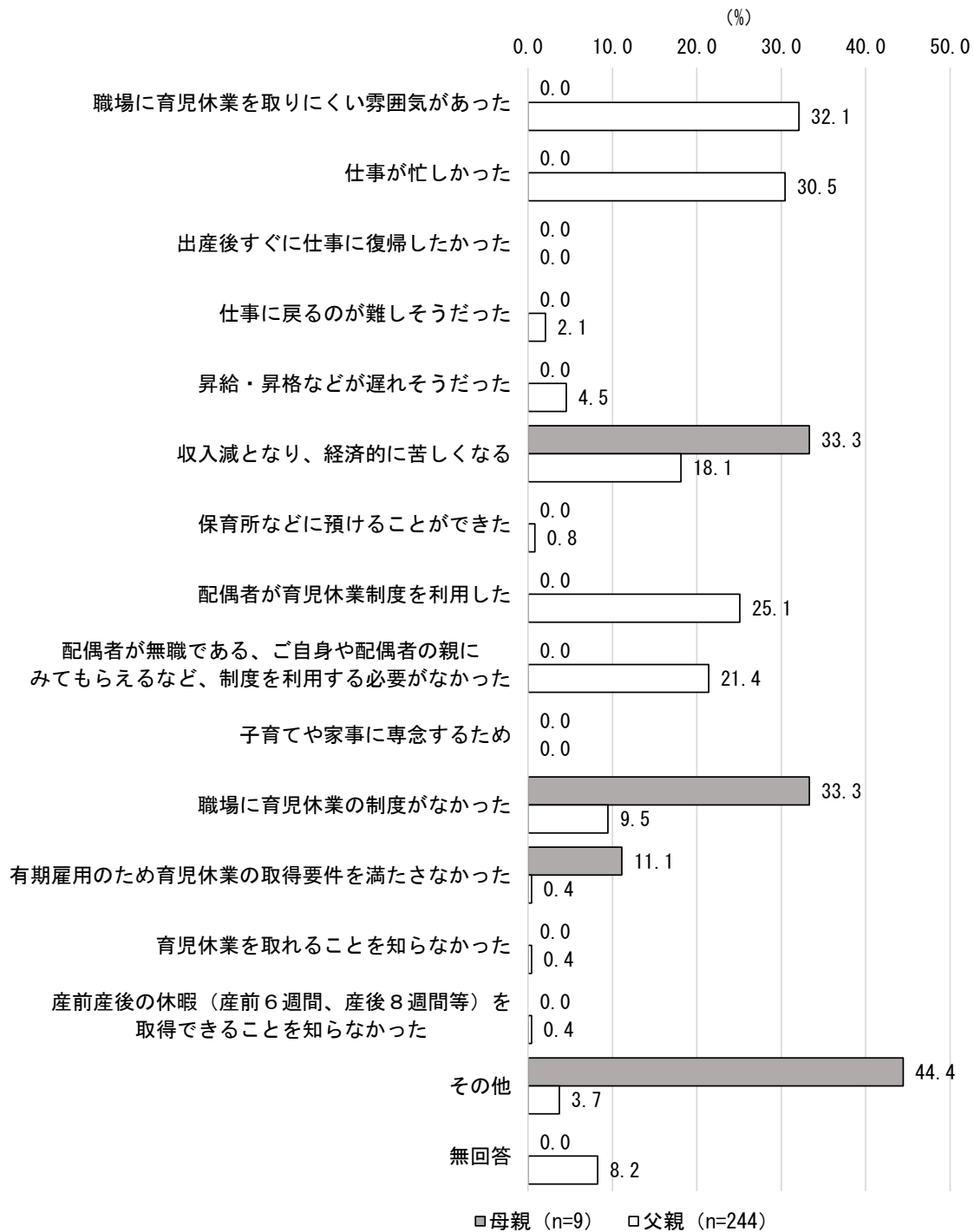
「育児休業を取った」	174件	= 69.0%	17件	= 3.9%
総数－「働いていなかった」	252件		441件	
	(443-191)		(443-2)	

注）育児休業制度の利用状況を踏まえて育児休業取得率を算出しています。

育児休業を取らずに働いた理由について、母親では、「収入減となり、経済的に苦しくなる」及び「職場に育児休業の制度がなかった」がそれぞれ33.3%と具体的な理由の項目では最も多くなっています。

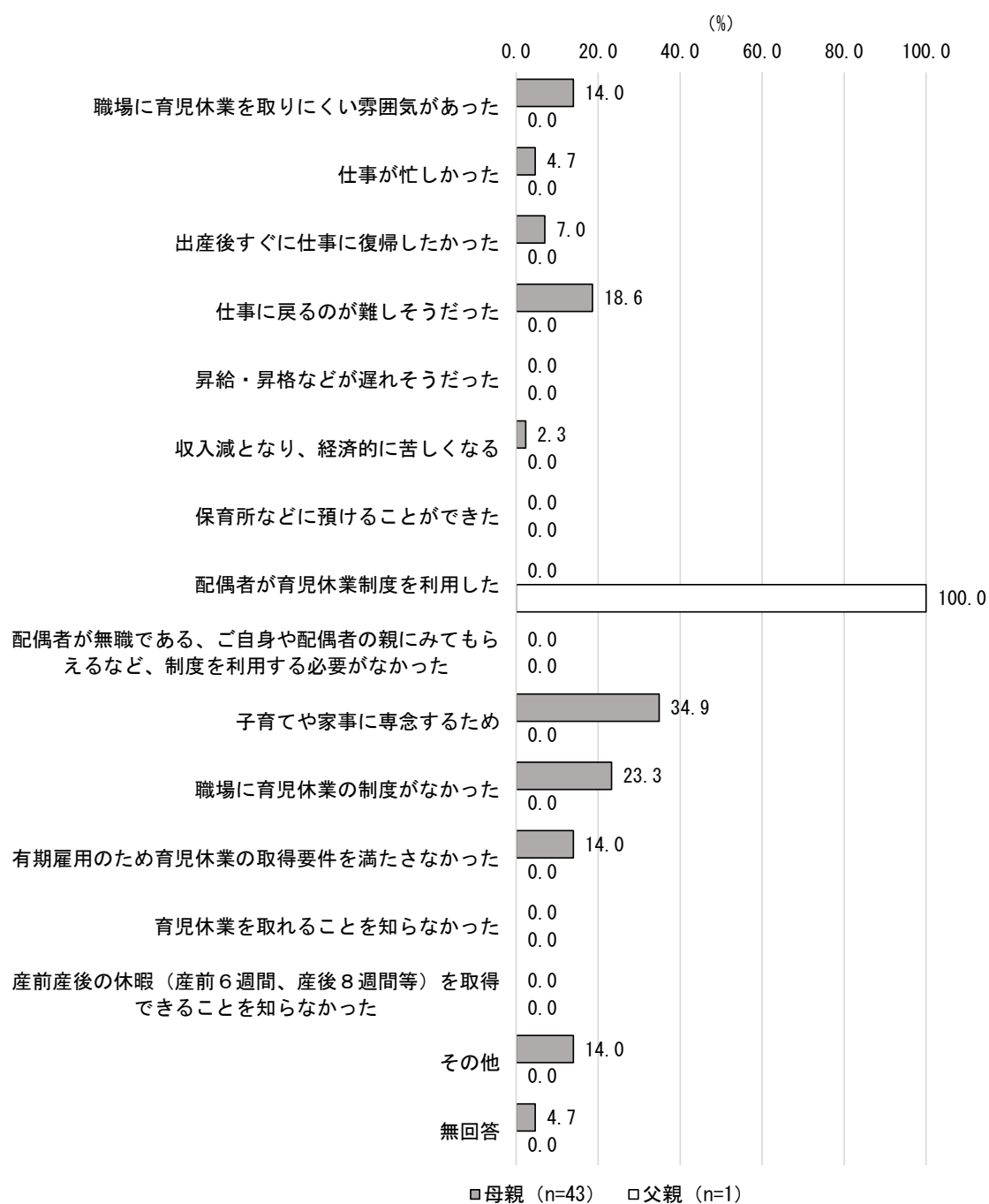
父親では、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が32.1%と最も多く、「仕事が忙しかった」（30.5%）、「配偶者が育児休業制度を利用した」（25.1%）と続いています。

図 育児休業を取らずに働いた理由（就学前児童）



育児休業を取らずに離職した理由について、母親では、「子育てや家事に専念するため」が34.9%と最も多く、「職場に育児休業の制度がなかった」が23.3%と続いています。父親では、「配偶者が育児休業制度を利用した」が100.0%となっています。

図 育児休業を取らずに離職した理由（就学前児童）



（２）育児休業取得後の職場復帰状況

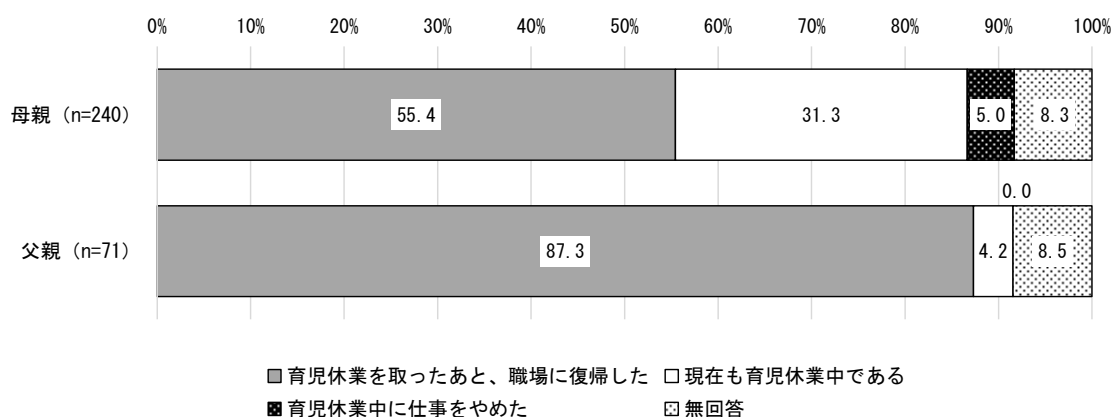
【就学前児童：問18-１】 ●単一回答

問18において「育児休業を取った、あるいは、今取っている」と答えた方のみ

母親では、「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」が55.4%と最も多く、「現在も育児休業中である」が31.3%と続いています。

父親では、「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」が87.3%と他の項目と比べて著しく多くなっています。

図 育児休業取得後の職場復帰状況（就学前児童）



（３）育児休業取得後の職場復帰時期

【就学前児童：問18-２】 ●単一回答、数値入力

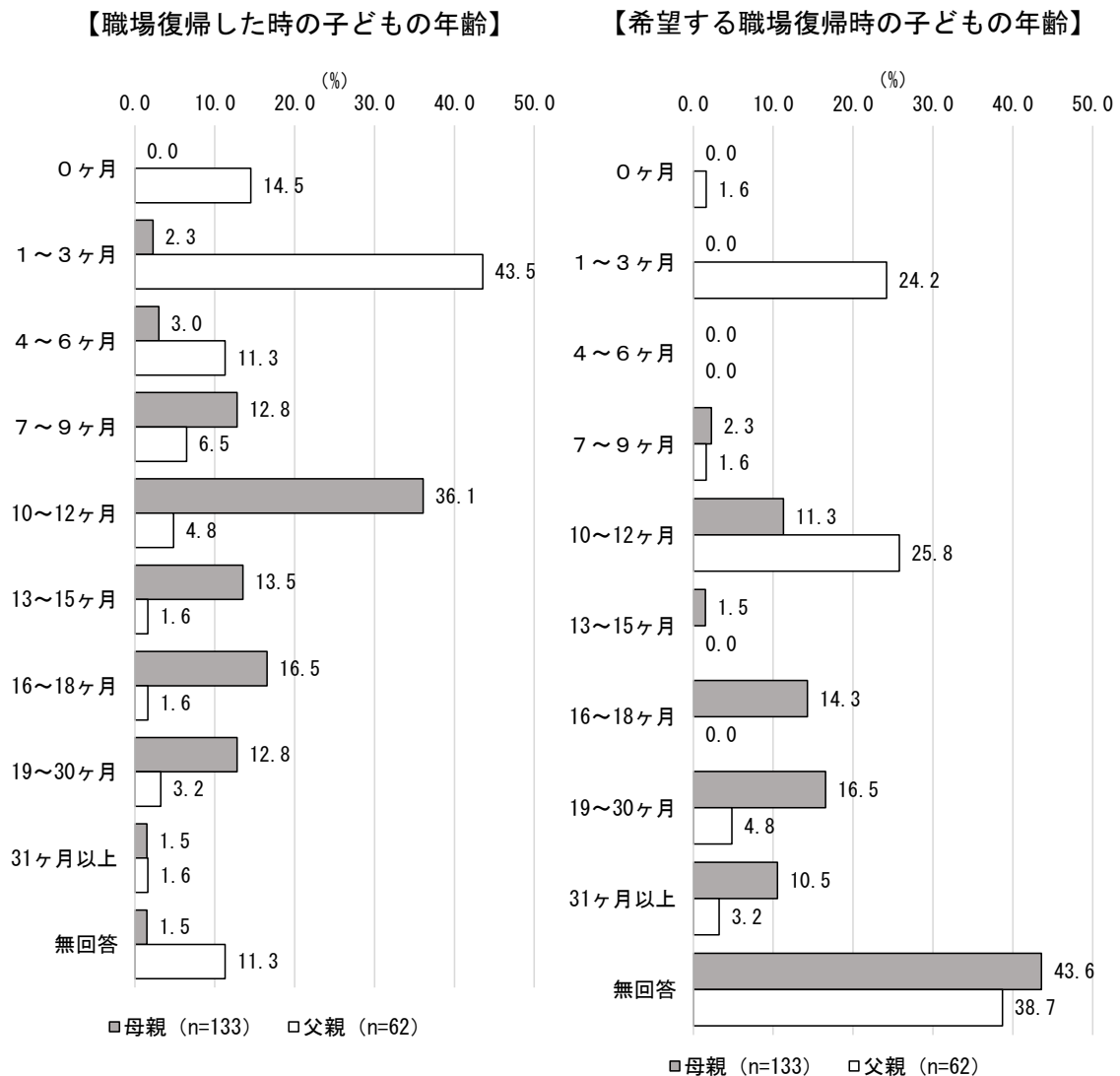
問18-１において「育児休業を取ったあと、職場に復帰した」と答えた方のみ

職場復帰した時の子どもの年齢（合計ヶ月）について、母親では「10～12 ヶ月」が36.1%、父親では「1～3 ヶ月」が43.5%と最も多くなっています。総じて、母親のほうが職場復帰した子どもの年齢（合計ヶ月）が高くなっています。

希望する職場復帰時の子どもの年齢（合計ヶ月）について、母親では「19～30 ヶ月」が16.5%と最も多く、「16～18 ヶ月」が14.3%と続いています。また、無回答が43.6%となっています。父親では「10～12 ヶ月」が25.8%と最も多く、「1～3 ヶ月」が24.2%と続いています。また、無回答が38.7%となっています。

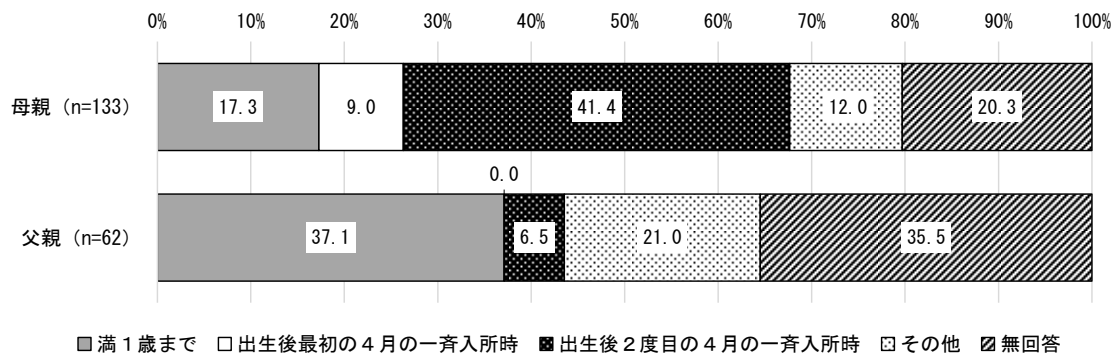
希望する職場復帰時期としては、母親では「出生後2度目の4月の一斉入所時」が41.4%と最も多くなっています。父親では「満1歳まで」が37.1%と最も多くなっているほか、無回答が35.5%となっています。

図 職場復帰した時の子どもの年齢（就学前児童）



注) 年齢は合計ヶ月で記載

図 希望する職場復帰時期（就学前児童）



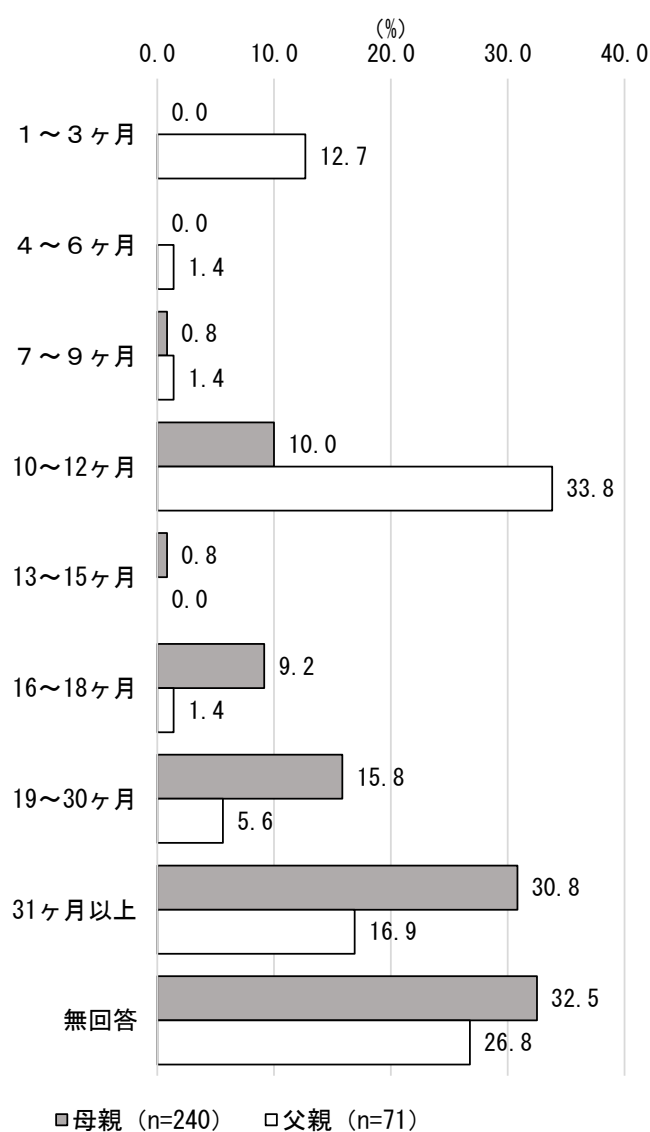
(4) 希望する育児休暇取得期間

【就学前児童：問18-3】 ●数値入力

問18において「育児休業を取った、あるいは、今取っている」と答えた方のみ

母親では「31 ヶ月以上」が 30.8%と最も多く、「19～30 ヶ月」が 15.8%と続いています。父親では「10～12 ヶ月」が 33.8%と最も多く、「31 ヶ月以上」が 16.9%と続いています。総じて、母親の方が希望する育児休暇取得期間が長くなっています。また、無回答について、母親が 32.5%、父親が 26.8%となっています。

図 希望する育児休暇取得期間（就学前児童）



注) 子どもの年齢 (合計ヶ月) にて記載

2. 仕事と子育ての両立について

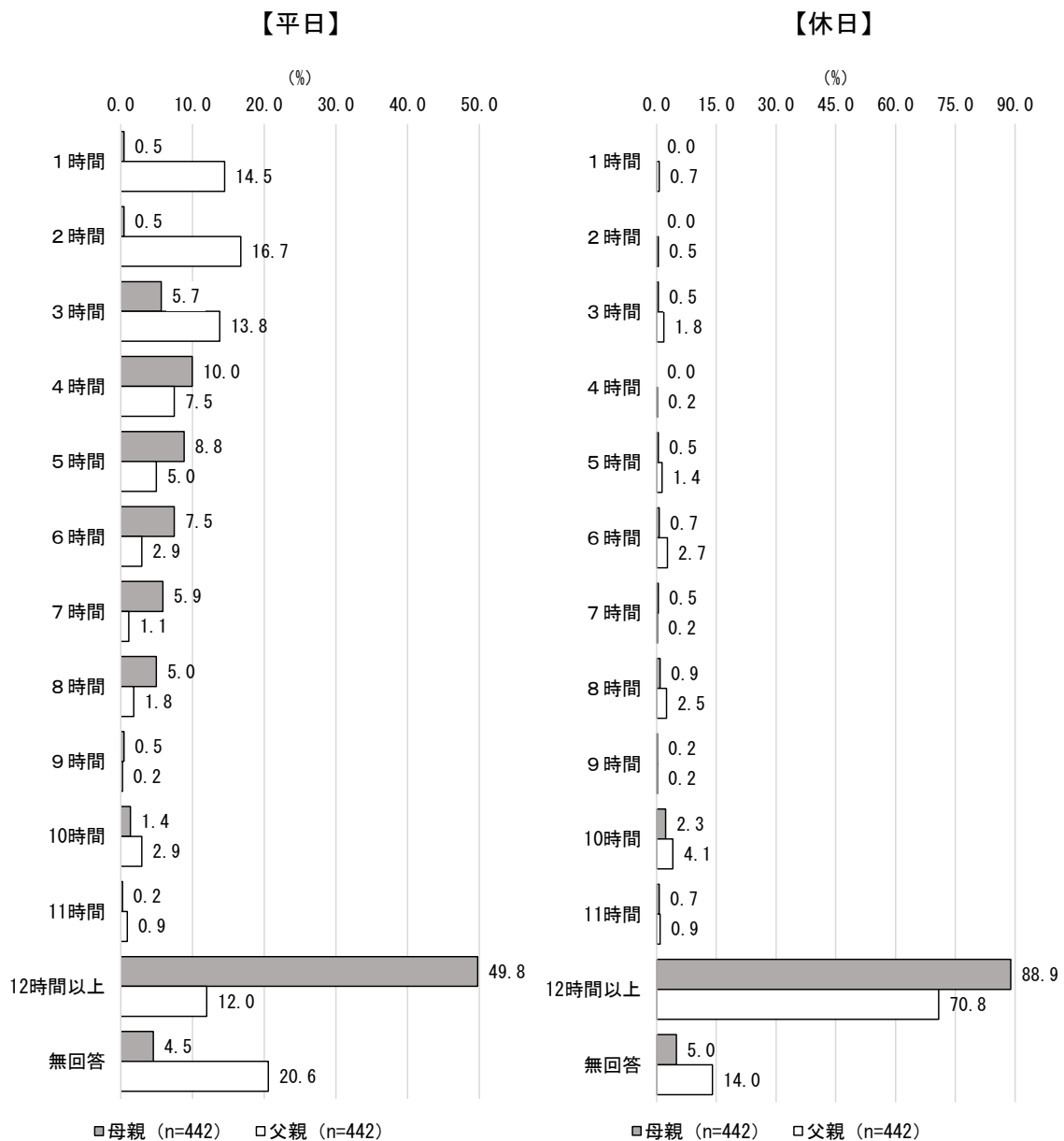
(1) 子どもと一緒に過ごす時間について（就学前児童）

【就学前児童：問19】 ●単一回答、数値入力

母親では、平日及び休日において、「12 時間以上」が他の時間と比べて顕著に多くなっています。

父親では、平日においては「2 時間」が 16.7%と最も多く、「1 時間」が 14.5%と続いています。休日においては、「12 時間以上」が 70.8%と最も多くなっています。

図 子どもと一緒に過ごす時間について（就学前児童）

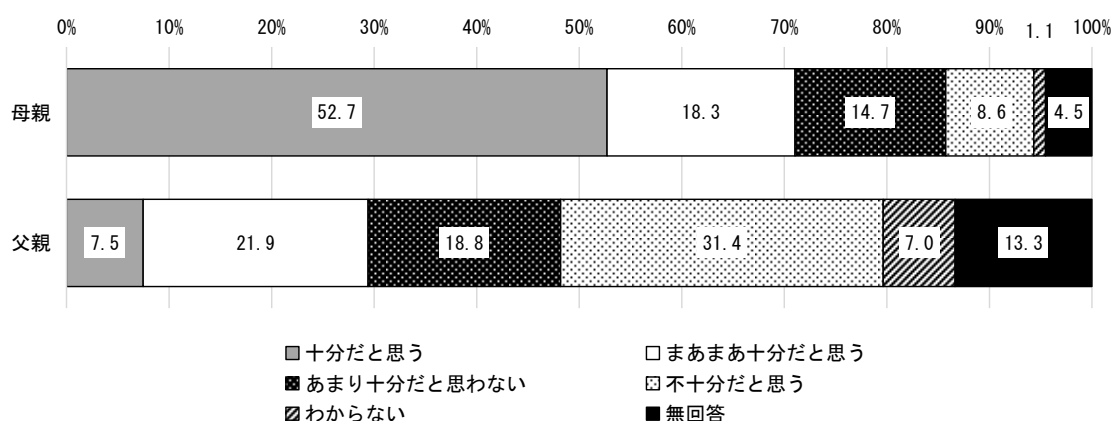


母親では、平日において71.0%、休日において93.6%が一定以上の十分さ（「十分だと思う」及び「まあまあ十分だと思う」を合わせて）を感じています。父親では、平日では29.4%、休日では76.2%となっています。

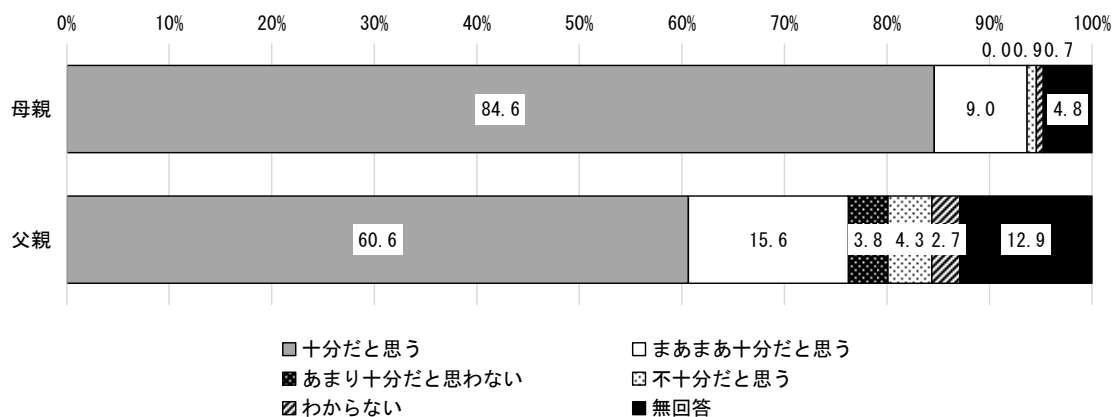
図 子どもと一緒に過ごす時間の長さについて（就学前児童）

n=442

【平日】



【休日】



（２）子どもと一緒に過ごす時間について（就学児童）

【就学児童：問17】 ●単一回答、数値入力

母親では、「6時間」が19.9%と最も多く、「5時間」（14.0%）、「2時間」（12.2%）と続いています。父親では、「2時間」が20.3%と最も多く、「3時間」が19.2%と続いています。総じて、母親の方が子どもと一緒に過ごす時間が長くなっています。

図 子どもと一緒に過ごす時間について（就学児童）

n=443

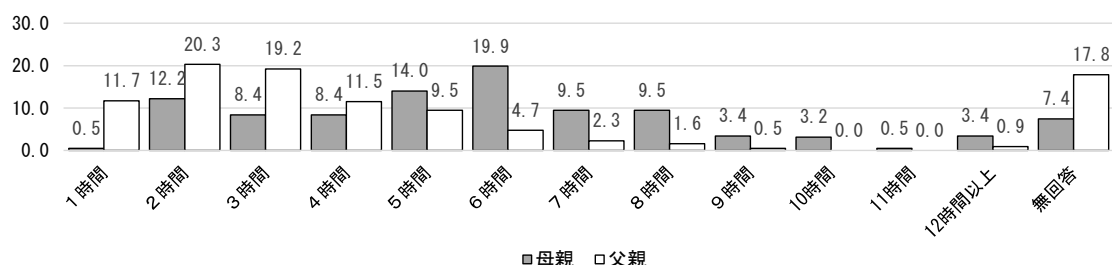
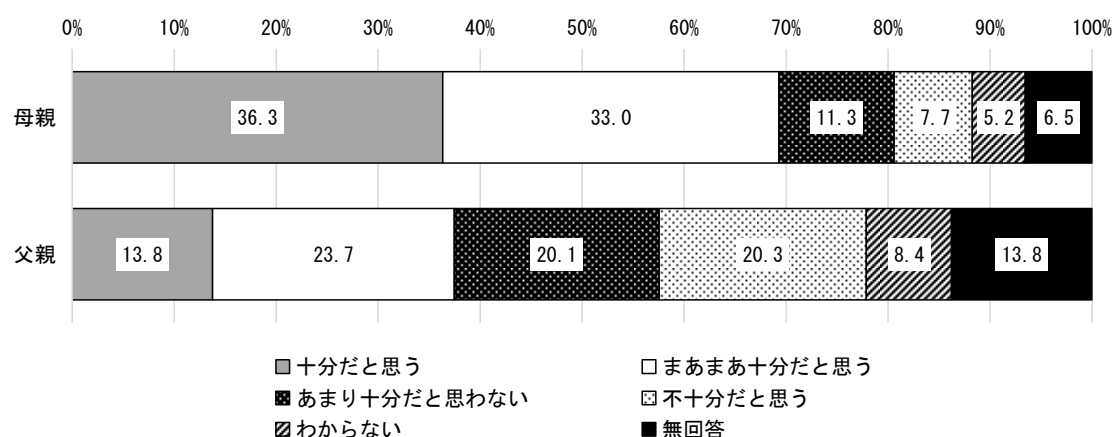


図 子どもと一緒に過ごす時間の長さについて（就学児童）

n=443



母親では、69.3%が一定以上の十分さ（「十分だと思う」及び「まあまあ十分だと思う」を合わせて）を感じています。父親では、37.5%が一定以上の十分さを感じています。

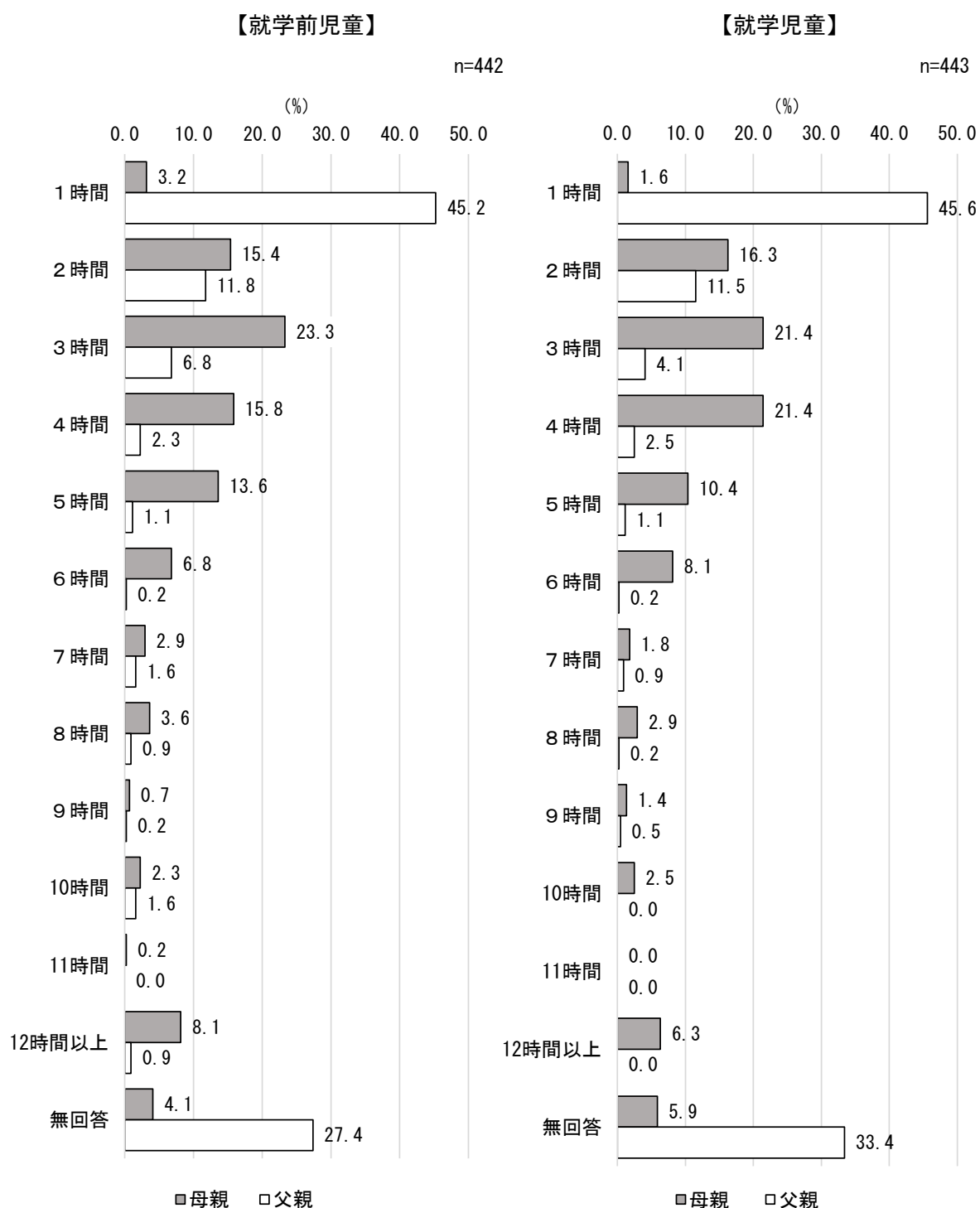
（３）１日あたり家事に費やす週平均の時間

【就学前児童：問20】【就学児童：問18】 ●数値入力

母親では、就学前児童及び就学児童において、2～6時間が多くなっています。

父親では、就学前児童及び就学児童において、「1時間」がともに45.0%を超える数値であり、他の時間と比べて著しく多くなっています。また、無回答が就学前児童では27.4%、就学児童では33.4%と母親と比べて顕著に多くなっています。

図 1日あたり家事に費やす週平均の時間



(4) 仕事と子育ての両立で大変だと思うこと

【就学前児童：問21】【就学児童：問19】 ●複数回答

就学前児童では、「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもをみてくれる人がいないこと」が64.3%と最も多く、「残業や出張が入ること」(44.6%)、「子どもと接する時間が少ないこと」(43.9%)と続いています。

就学児童では、就学前児童と同様、「子どもや自分が病気やけがをしたときに代わりに子どもをみてくれる人がいないこと」(51.0%)が最も多く、「残業や出張が入ること」(38.6%)、「子どもと接する時間が少ないこと」(31.6%)と続いています。

図 仕事と子育ての両立で大変だと思うこと（就学前児童）

n=442

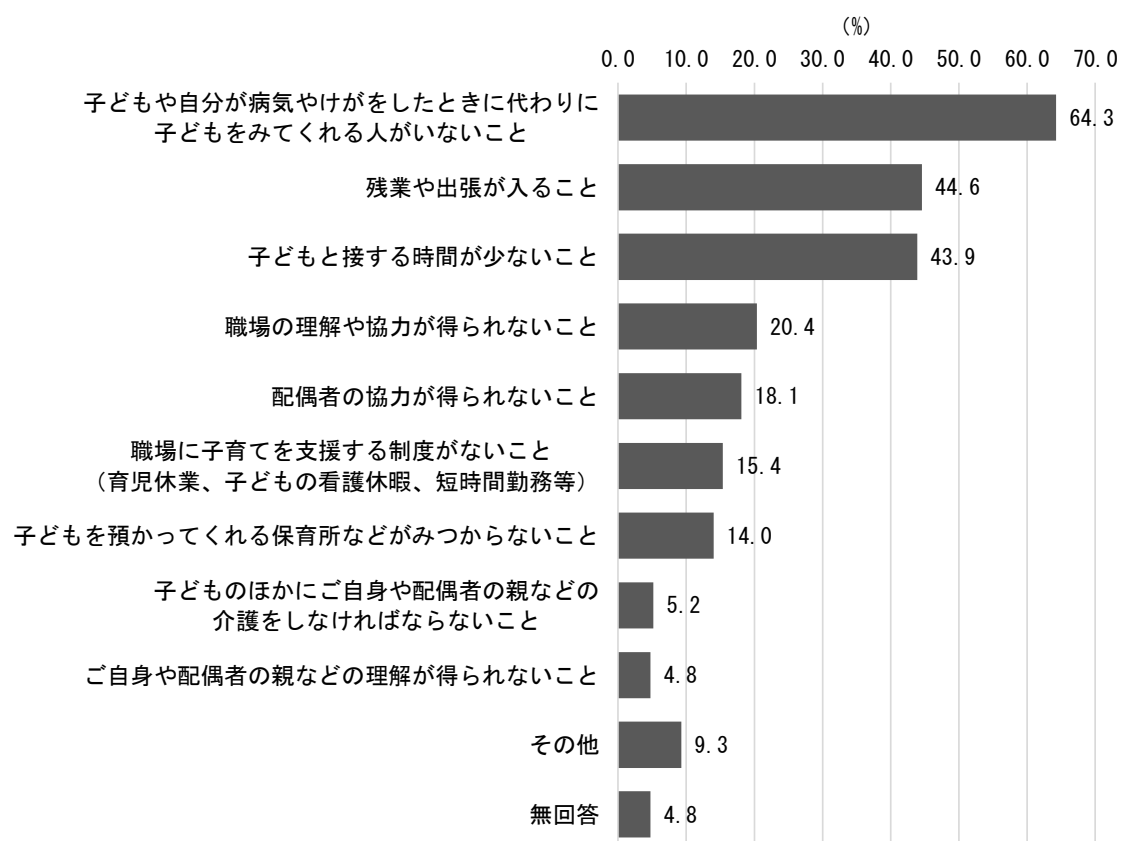
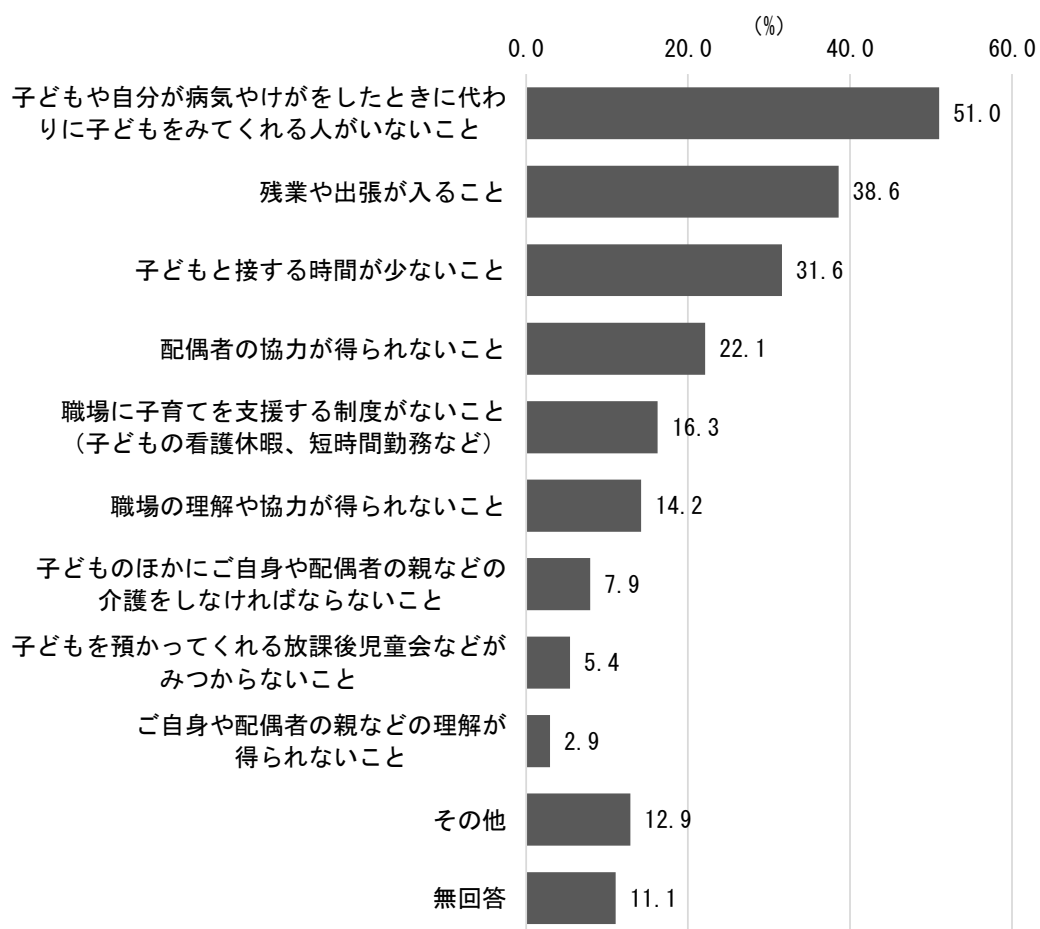


図 仕事と子育ての両立で大変だと思うこと（就学児童）

n=443



第5章 生活環境と市への要望

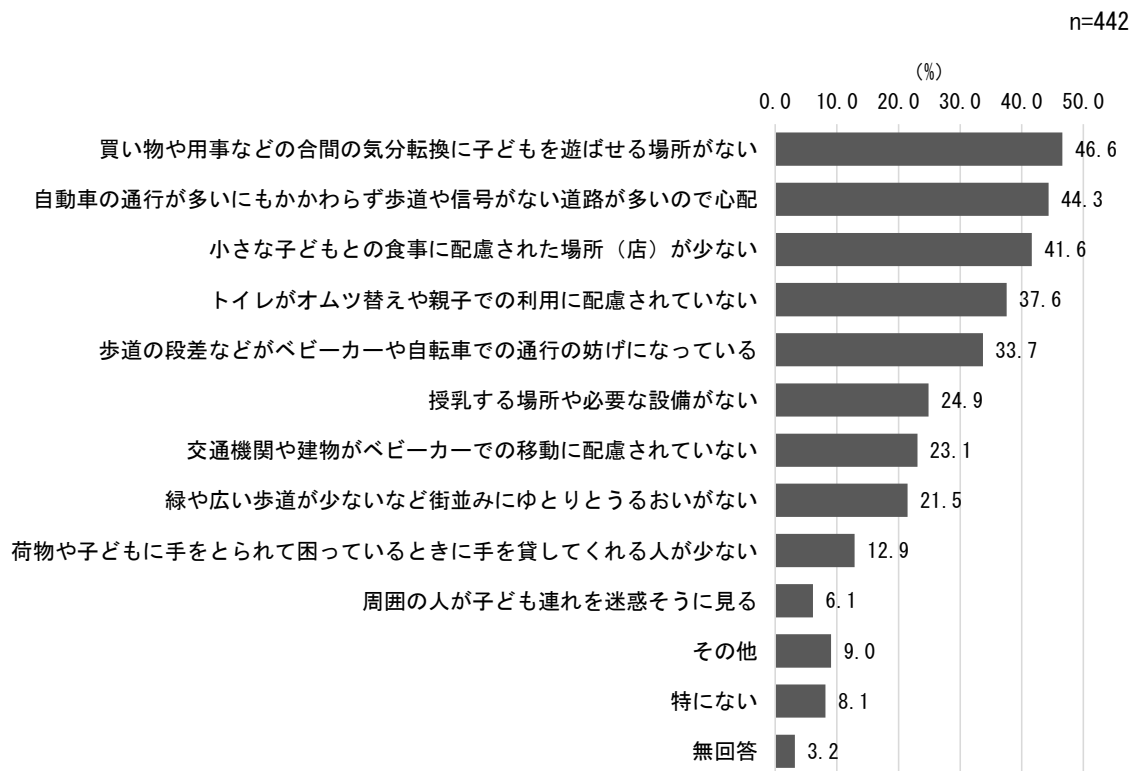
1. 生活環境について

(1) 子どもが外出するときに困ること

【就学前児童：問32】 ●複数回答

「買い物や用事などの合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」が46.6%と最も多く、「自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がない道路が多いので心配」(44.3%)、「小さな子どもとの食事に配慮された場所(店)が少ない」(41.6%)と続いています。

図 子どもが外出するときに困ること(就学前児童)

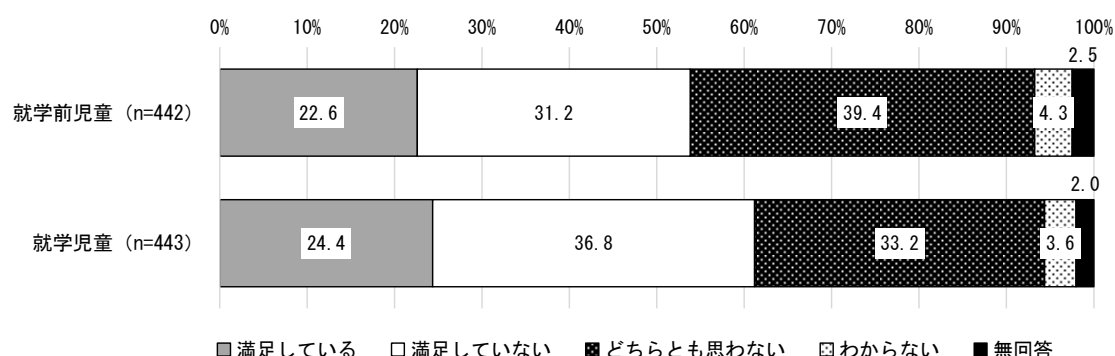


(2) 居住地域の子どもの遊び場の満足度

【就学前児童：問33】【就学児童：問27】 ●単一回答

「満足している」について、就学前児童では22.6%、就学児童では24.4%となっています。

図 居住地域の子どもの遊び場の満足度



また、居住地域別にクロス集計を行ったところ、就学前児童では、西小学校区の満足度が相対的に低くなっています。

就学児童では、西小学校区、第七小学校区、南第三小学校区の満足度が相対的に低くなっています。特に南第三小学校区においては、「満足している」が0.0%となっています。

図 居住地域（問1）×居住地域の子どもの遊び場の満足度（就学前児童）

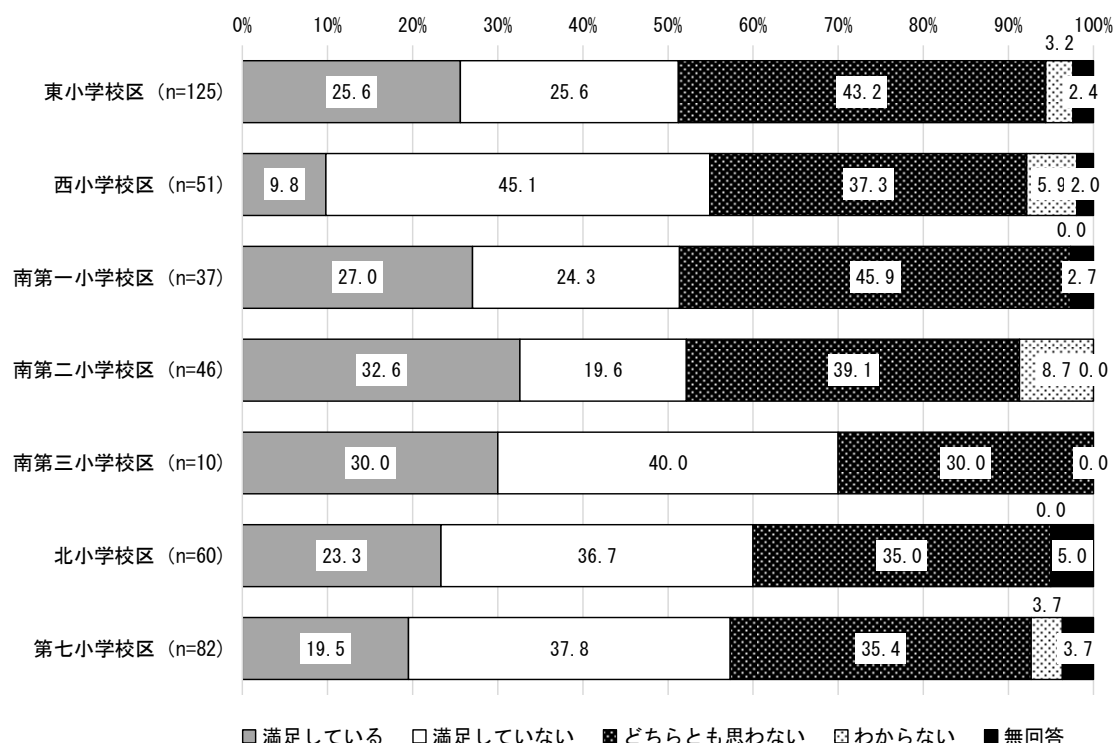
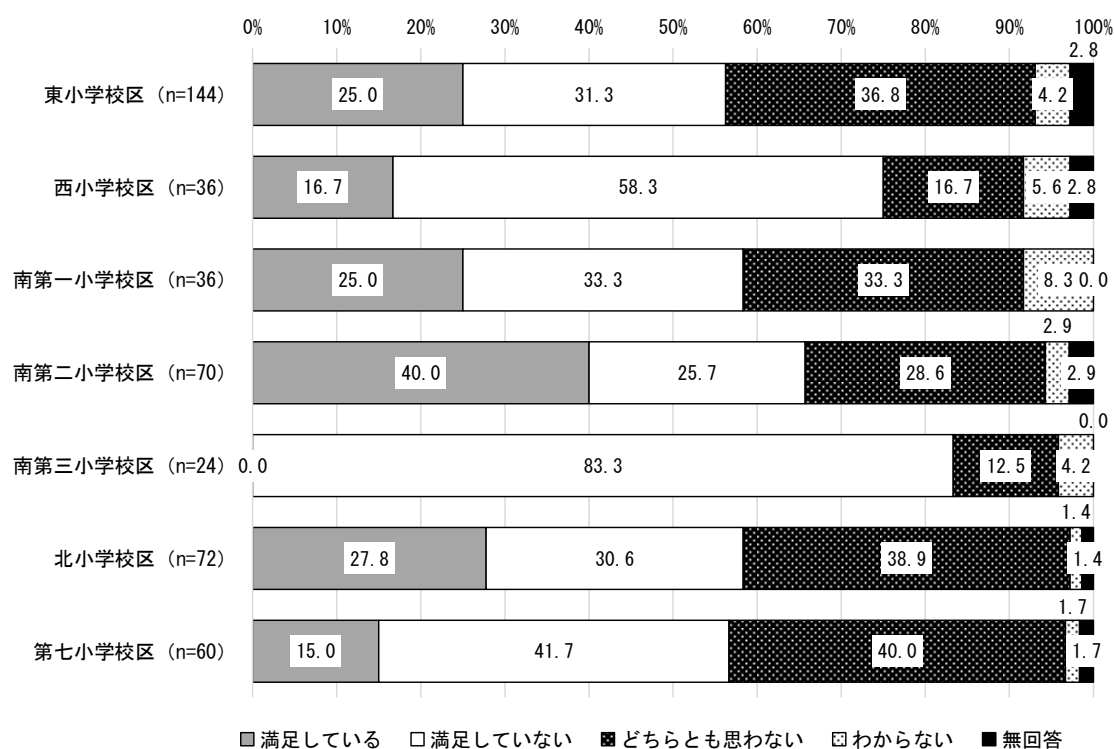


図 居住地（問１）×居住地の子どもの遊び場の満足度（就学児童）

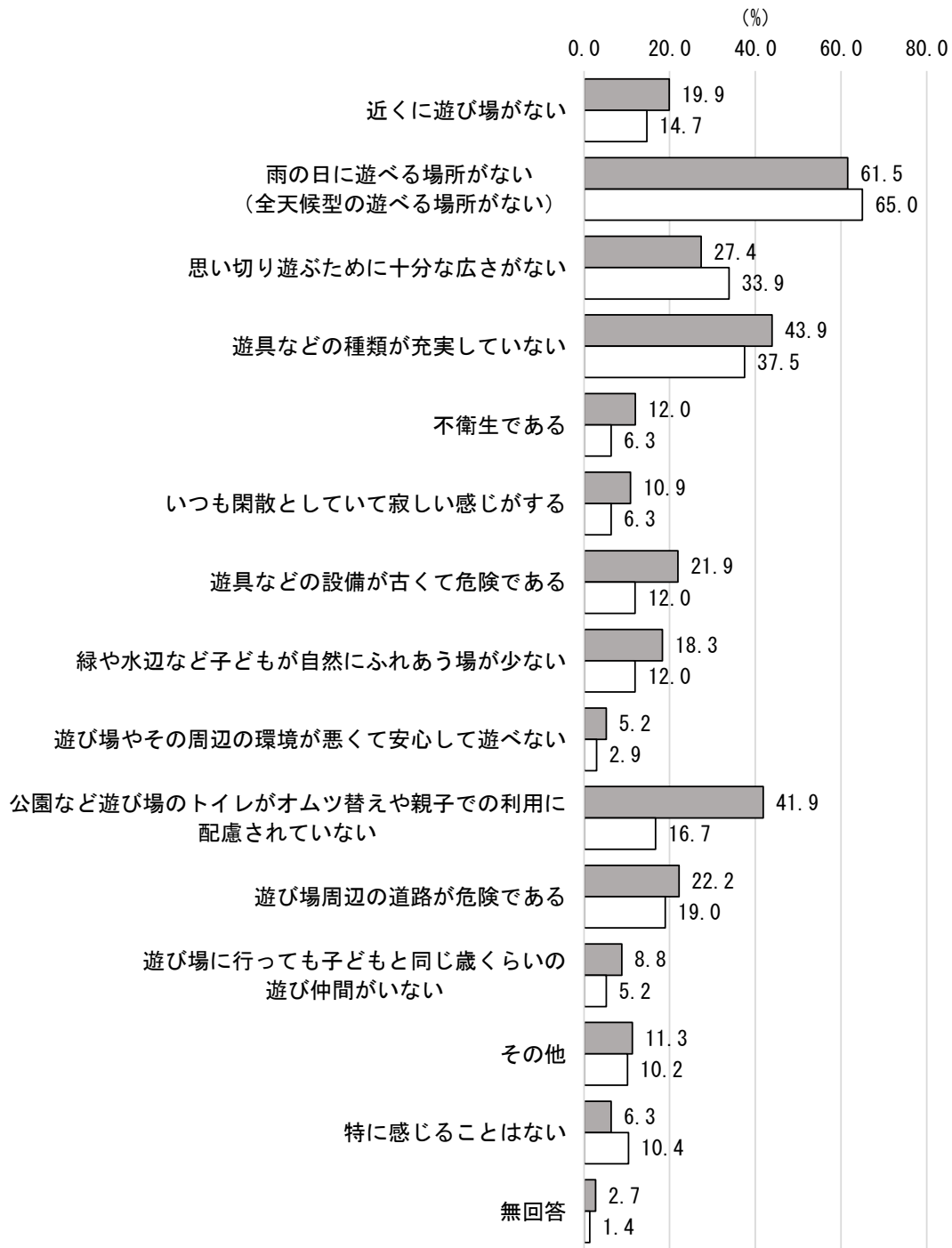


（３）居住地の子どもの遊び場について感じる事

【就学前児童：問34】【就学児童：問28】 ●複数回答

「雨の日に遊べる場所がない（全天候型の遊べる場所がない）」については、就学前児童及び就学児童において最も多く（それぞれ61.5%、65.0%）なっています。就学前児童では、「遊具などの種類が充実していない」（43.9%）、「公園など遊び場のトイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていない」（41.9%）と続いています。就学児童では、「遊具などの種類が充実していない」（37.5%）、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」（33.9%）と続いています。

図 居住地の子どもの遊び場について感じること



■就学前児童 (n=442) □就学児童 (n=443)

(4) 現在の居住地は子どもにとって自然、社会、文化などの体験をしやすい環境か

【就学児童：問23】 ●単一回答

「体験をしやすいと思う」は31.4%となっています。また、居住地域別にクロス集計をかけたところ、特に、南第二小学校区、南第三小学校区、第七小学校区の数値が相対的に低くなっています。

図 現在の居住地は子どもにとって自然、社会、文化などの体験をしやすい環境か（就学児童）

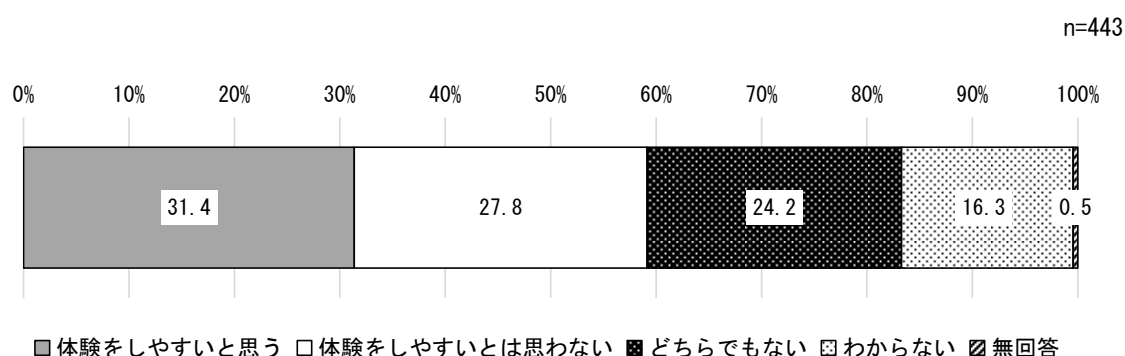
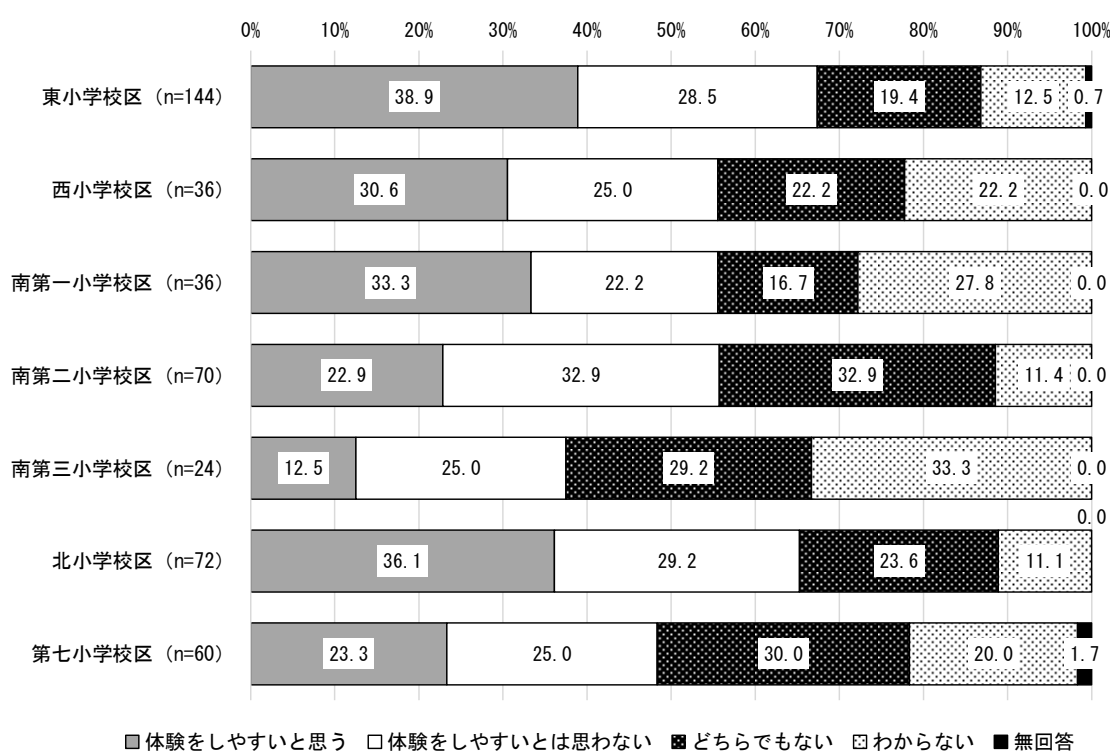


図 居住地域（問1）×現在の居住地は子どもにとって自然、社会、文化などの体験をしやすい環境か（就学児童）

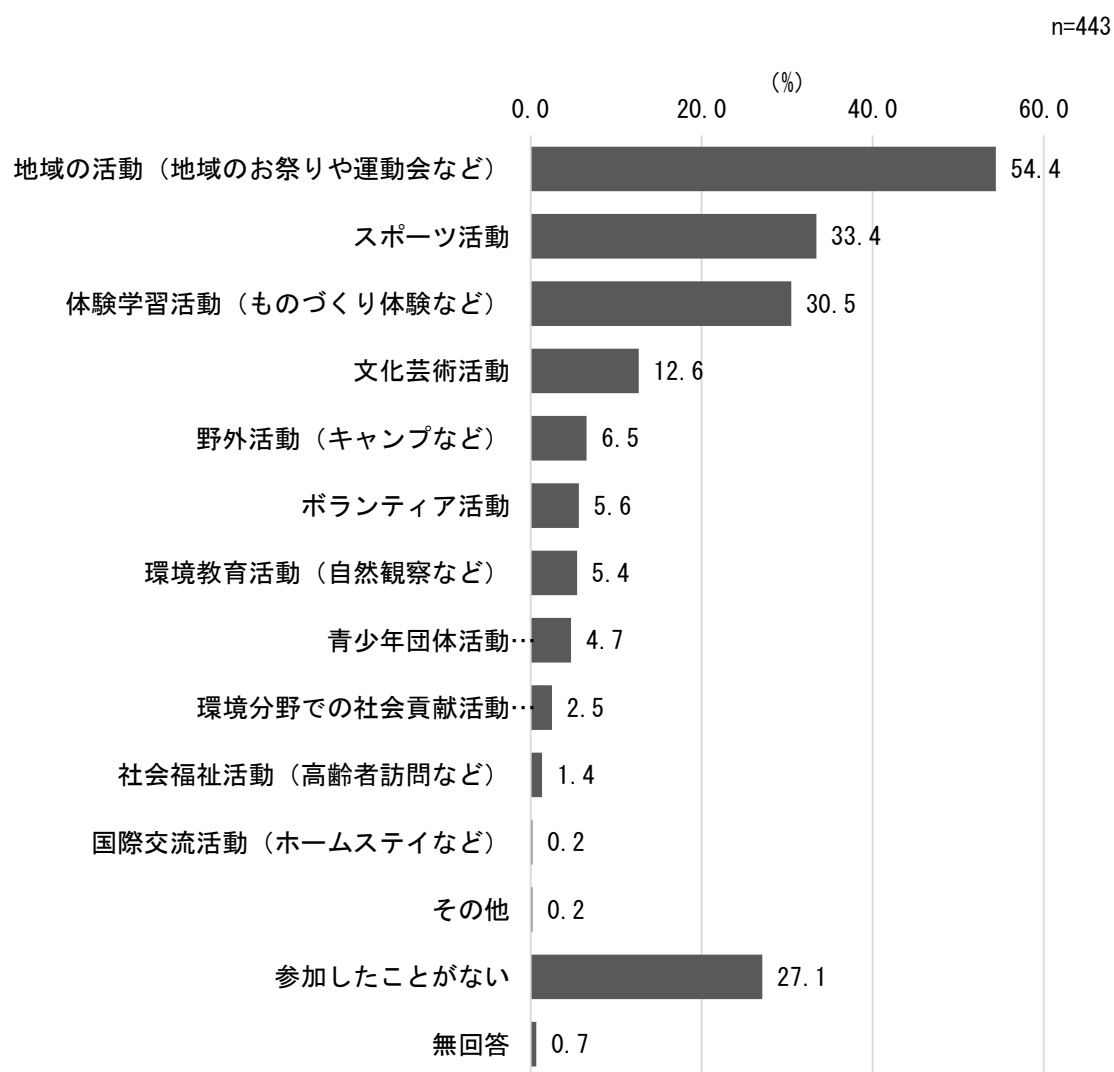


(5) 参加したことがある地域活動

【就学児童：問24】 ●複数回答

「地域の活動（地域のお祭りや運動会など）」が 54.4%と最も多く、「スポーツ活動」（33.4%）、「体験学習活動（ものづくり体験など）」（30.5%）と続いています。また、「参加したことがない」が 27.1%となっています。

図 参加したことがある地域活動（就学児童）



(6) 子どもが参加していない理由

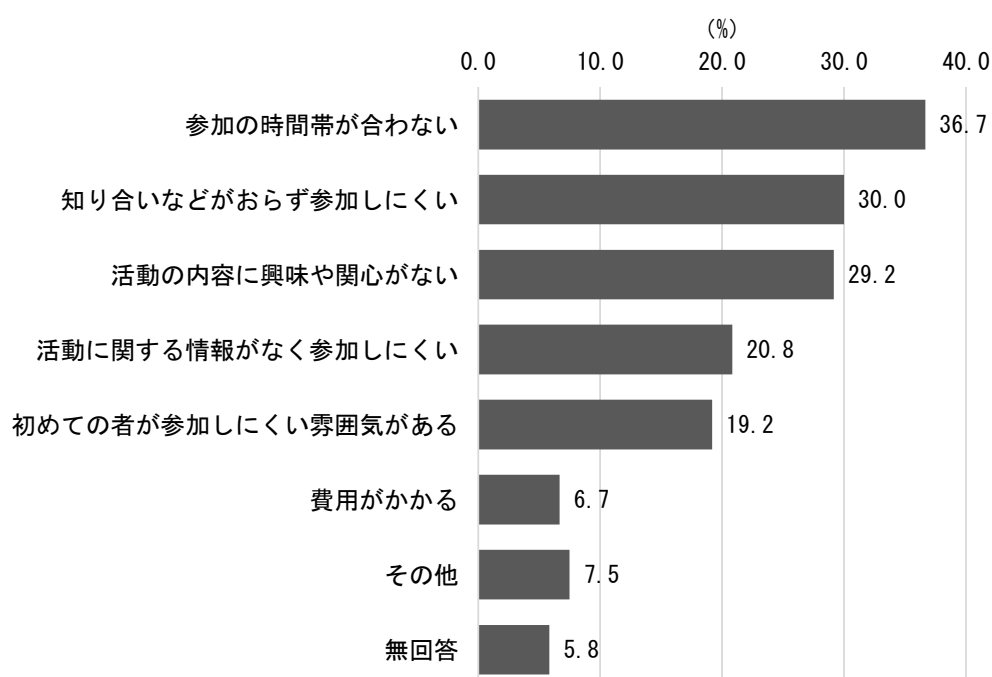
【就学児童：問25】 ●複数回答

問24において「参加したことがない」と答えた方のみ

「参加の時間帯が合わない」が 36.7%と最も多く、「知り合いなどがおらず参加しにくい」(30.0%)、「活動の内容に興味や関心がない」(29.2%)と続いています。

図 子どもが参加していない理由（就学児童）

n=120



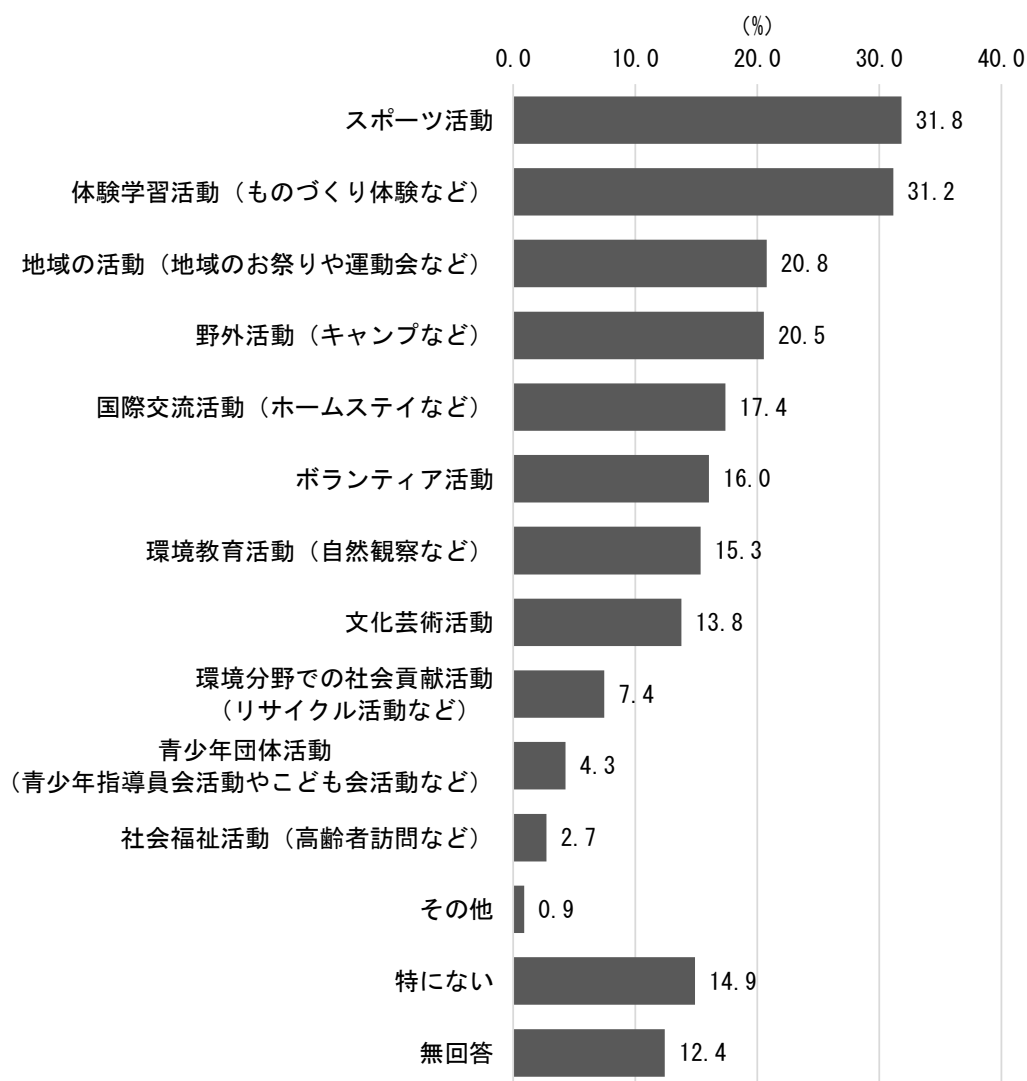
(7) 子どもに今後参加させたい地域活動

【就学児童：問26】 ●複数回答

「スポーツ活動」が 31.8%と最も多く、「体験学習活動（ものづくり体験など）」が 31.2%と続いています。

図 子どもに今後参加させたい地域活動（就学児童）

n=443



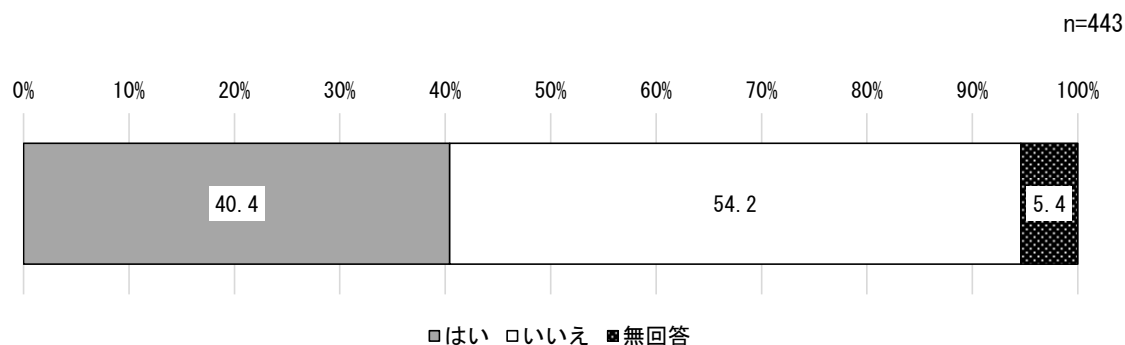
2. 市への要望について

（1）給食費の経済的負担を感じたことの有無

【就学児童：問34】 ●単一回答

学校給食における給食費について、経済的に負担と感じた、またはもっと安かったらいいと思ったことの有無を尋ねたところ、「はい」が40.4%、「いいえ」が54.2%となっています。

図 給食費の経済的負担を感じたことの有無（就学児童）

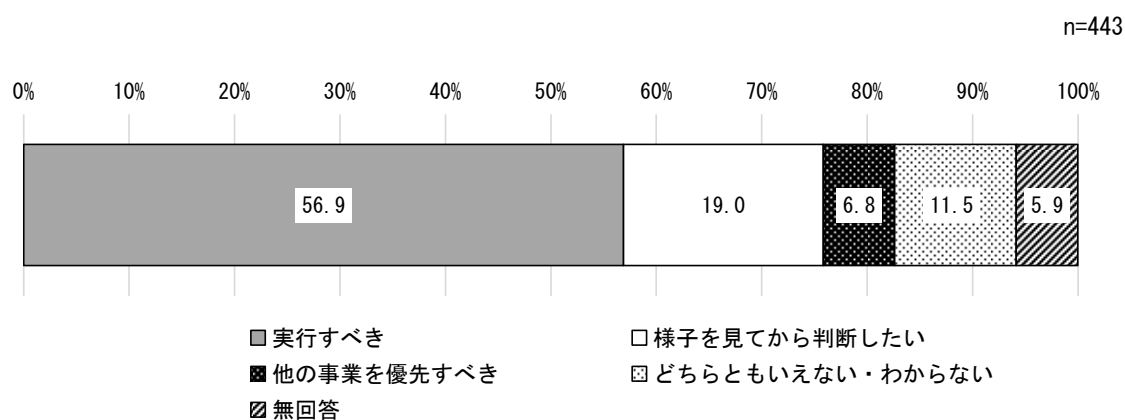


（２）学校給食無償化の市独自施策としての実行について

【就学児童：問35】 ● 単一回答

「実行すべき」が56.9%と最も多くなっています。

図 学校給食無償化の市独自施策としての実行について（就学児童）

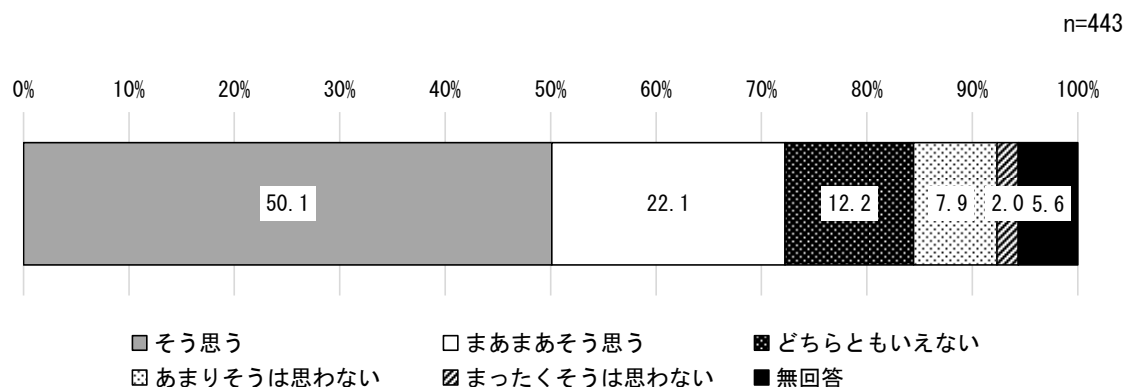


（３）学校給食費無償化で経済的負担の減少はあると思うか

【就学児童：問36】 ● 単一回答

学校給食費無償化による経済的負担の減少について肯定的に捉えている割合（「思う」及び「まあまあ思う」を合わせて）は、72.2%となっています。

図 学校給食費無償化で経済的負担の減少はあると思うか（就学児童）



（４）充実を望む子育て支援サービス

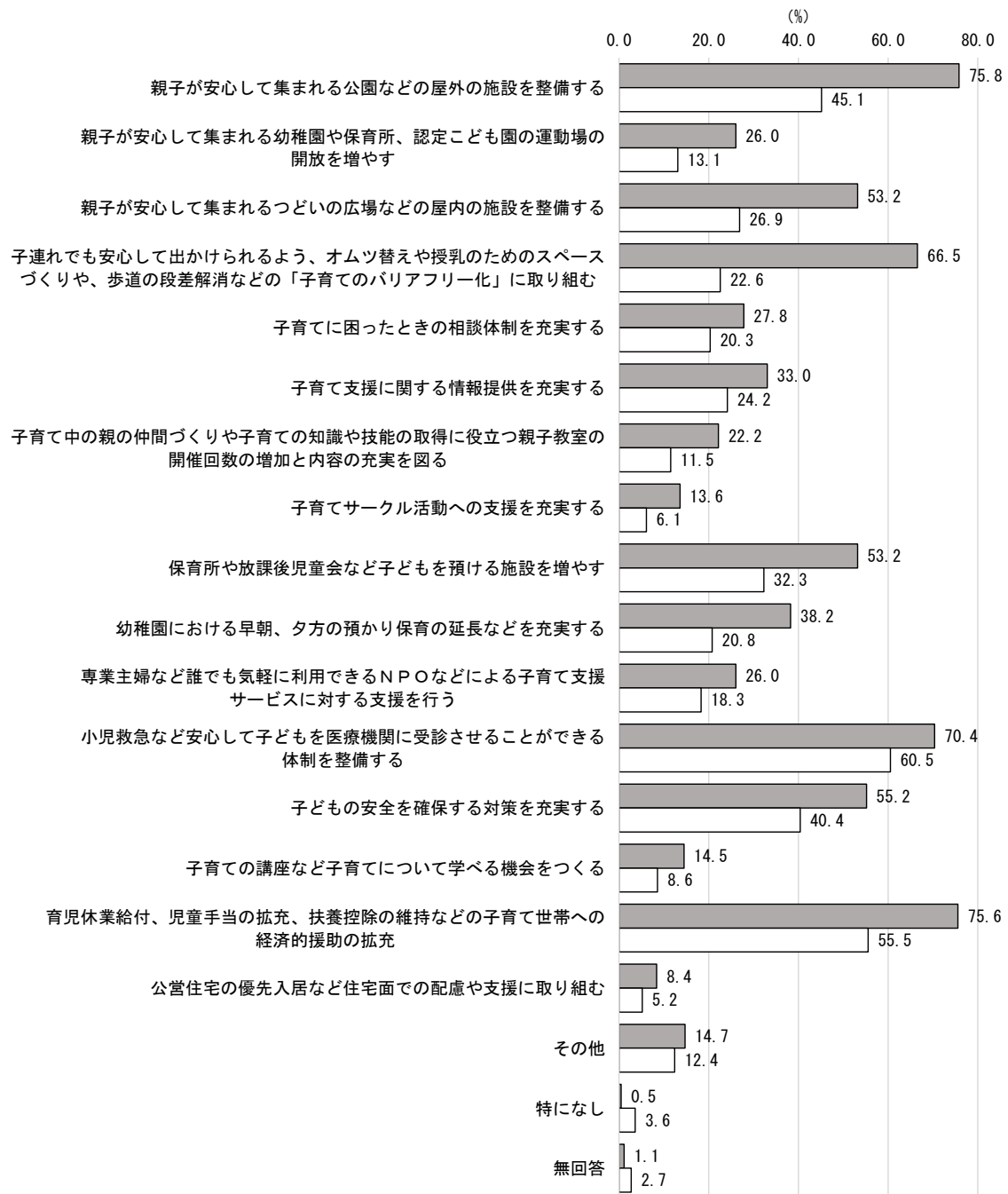
【就学前児童：問30】【就学児童：問20】 ●複数回答

就学前児童では、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」が75.8%と最も多く、「育児休業給付、児童手当の拡充、扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」（75.6%）、「小児救急など安心して子どもを医療機関に受診させることができる体制を整備する」（70.4%）と続いています。

就学児童では、「小児救急など安心して子どもを医療機関に受診させることができる体制を整備する」が60.5%と最も多く、「育児休業給付、児童手当の拡充、扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」（55.5%）、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」（45.1%）と続いています。

居住地域とのクロス集計を行ったところ、特に南第三小学校区が特徴的な結果となっています。具体的には、就学前児童では、「子育て支援に関する情報提供を充実する」及び「幼稚園における早朝、夕方の預かり保育の延長などを充実する」がそれぞれ60.0%と、他の小学校区と比べてある程度顕著に数値が高い項目が見受けられる一方、就学児童では、「子育てに困ったときの相談体制を充実する」が4.2%、「保育所や放課後児童会など子どもを預ける施設を増やす」が8.3%と他の小学校区と比べてある程度顕著に数値が低い項目が見受けられます。

図 充実を望む子育て支援サービス



■就学前児童 (n=442) □就学児童 (n=443)

図 居住地域（問１）×充実を望む子育て支援サービス（就学前児童）

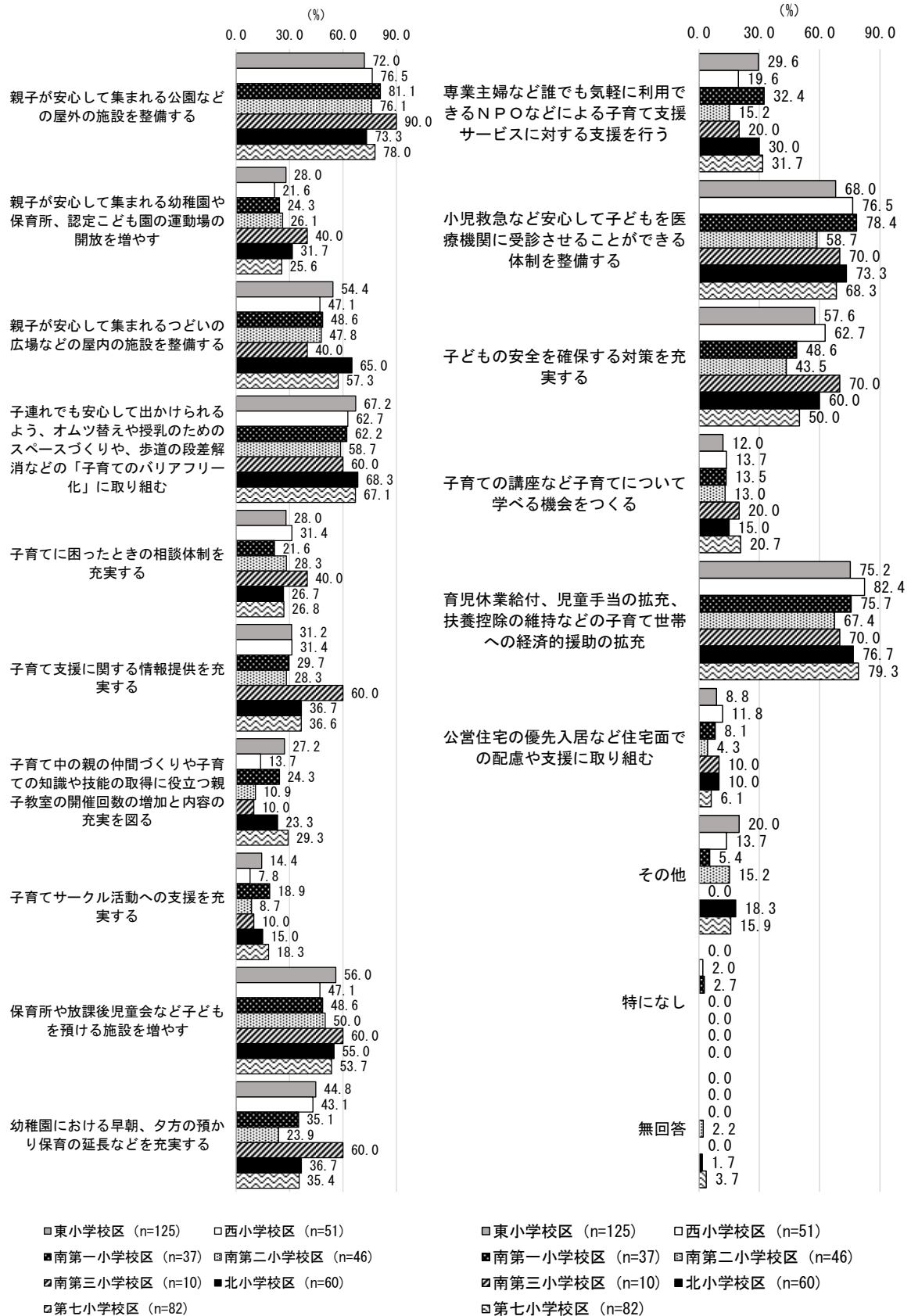
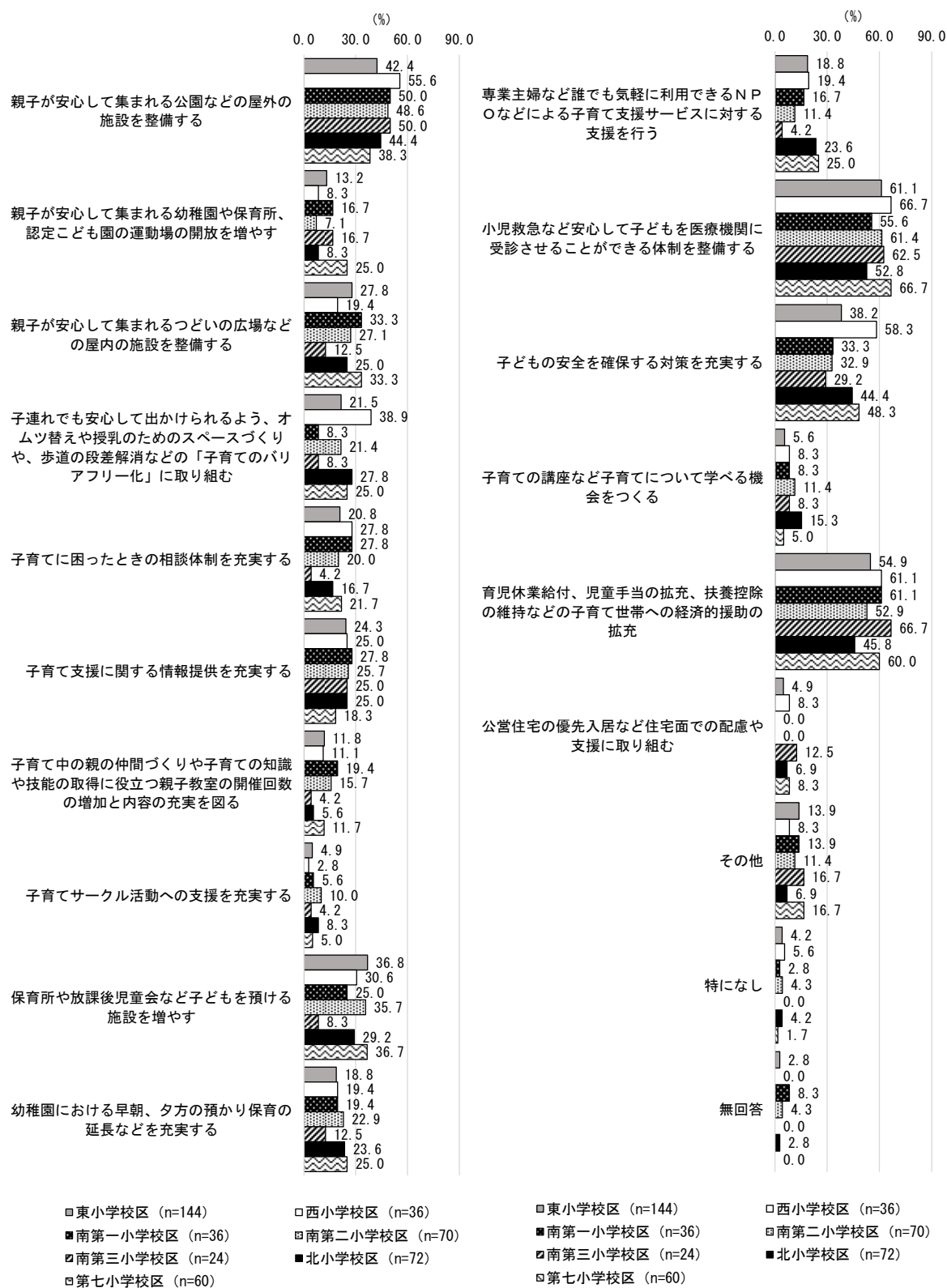


図 居住地域（問１）×充実を望む子育て支援サービス（就学児童）



第6章 考察

本アンケート調査結果から読み取れる特徴的な事柄について章ごとに記してまいります。

1. 第1章について

子どもの人数について尋ねたところ、就学前児童、就学児童ともに「2人」が最も多く（それぞれ45.5%、52.8%）、「1人」（それぞれ36.2%、21.7%）、「3人」（それぞれ12.4%、21.4%）と続いています。また、就学前児童において、望む子どもの数を尋ねたところ、「2人」が44.6%と最も多く「3人」が30.3%と続いています。もう1人以上の子どもがほしいと思うかという設問では38.2%が「ほしいと思う」と回答していることと併せて捉えると、より多くの子どもを望むという未就学児度の親の姿が浮かび上がってきます。

2. 第2章について

- ・子育ての担い手について、就学前児童・就学児童ともに「父母ともに」が最も多い（それぞれ60.4%、61.2%）ものの、「主に母親」の回答がそれぞれ35%台と一定の割合を占めています。こうした結果から、子育ての担い手は母親のウエイトが大きいことが確認できます。
- ・子育ての相談先としては、就学前児童・就学児童ともに、配偶者、自身や配偶者の親、親戚、同居家族の数値が高くなっている（約7割から8.5割程度）ことから、身近な人で占められていることが確認されます。一方、近所の人との割合は就学前児童・就学児童ともに10%台となっていること、民生委員や児童委員といった地域の支援人材、市役所の担当窓口といった支援機関の数値が低いことから、地域において気軽に相談できるところがある、という環境づくりが課題となると考えられます。
- ・保護者の就労状況について、就学前児童の母親では、以前は就業していたが、現在は就業していない、の数値が前回調査実施時と比べるとマイナス15.6ポイント、フルタイムで働いており産休・育休・介護休業中である、がプラス10.0ポイントであることから、就学前の母親にとって就業しやすい環境が整備されてきていることが推察されます。
- ・パート・アルバイトなどで働く母親について、フルタイムへの転換意向の数値がそれぞれ4割周辺となっているものの、そのうちの約3割が実現できる見込みはないと回答しています。よって、フルタイムへの転換が実現できるような環境整備（家庭生活面、職場生活面）が必要であることが考えられます。子育てに必要な支援・対策に係る設問（就学前児童：問36-1、就学児童：問30-1）において、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」の数値が相対的に高いことも

先の結果の証左と言えます。

- ・子育てが地域の人に支えられていると感じるか、という設問において、就学前児童、就学児童ともに約7割が「感じる」と回答しており、具体的には、同じ世代の子どもを持つ保護者、近所の人など、身近な人から支えられていると感じていることが見受けられます。よって、子育てに関する悩み、気になることを解決していくためには、周りの人によるサポートが有効であると考えられます。その一方で、地域の人に支えられていると「感じない」と回答している方が約2.5割となっていることから、周りの人とのつながりを実現させる支援の充実が課題と言えます。また、近所の人については、先述のとおり、子育ての相談先としては10%台となっていることから、子育てについて支えられていると感じているものの、悩み等を打ち明ける関係までは至っていないという状況が見受けられます。

3. 第3章について

- ・平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について、特に、「認定こども園」の数値(39.4%)が前回調査時(23.3%)と比べて高くなっていることから、教育・保育の両機能を有した施設に対するニーズが高まっていることが見受けられます。また、子育て仲間をつくる機会を持ちやすいと考えられる地域子育て支援拠点などの利用については、母親の就業状況では、今は働いていない方、今は仕事を休んでいる方の割合が相対的に高くなっていることから、特に就業している方にとっての子育ての仲間づくりの機会創出が求められていると考えられます。平日に定期的に利用したい施設やサービスについて尋ねた(就学前児童：問15)結果、「地域子育て支援拠点など子育ての仲間が集まる場」が36.2%となっていることも関連事項となると考えられます。
- ・不定期の一時保育の利用について、過去1年間に利用した子どもを預けるサービスでは、「幼稚園の預かり保育」が9.0%、「一時預かり」が7.0%であるのに対し、今後における保育所などでの預かり保育の利用希望では「利用したい」が44.3%となっていることから、これらサービスに対するニーズの高まりが伺えます。利用目的としては「買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュ」が75.5%となっていることから、レスパイト(一時的な休息)に関するニーズが強いと考えられます。
- ・地域子育て支援拠点事業について、「利用している」が29.4%であること、今後の利用希望について「利用していないが、今後利用したい」が15.6%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が11.8%となっていることから、同事業に対するニーズの高まりが伺えます。また、利用したいサービスについては、「常設の子育て親子の交流の場・遊び場の提供」が82.6%と顕著に高いことから、同回答に係るサービスの充実化が期待されます。
- ・子育て支援サービスの認知度・利用度について、特に「家庭教育に関する学級・講座」及び「養育支援家庭訪問事業」が相対的に低く、また「子育ての総合相談窓口」は、利用度

が相対的に低くなっています。先述（第2章）の、気軽に相談できる場所があるという環境づくり、子育てに関する悩み・気になることの解決に係る支援充実の必要性和照らし合わせると、これらのサービスについての認知度向上、利用度向上が求められると言えます。

- ・「こども誰でも通園制度（仮称）」について、約6割が「知らない」と回答されているものの、制度内容を知ったうえ（調査票に制度内容について記述）での利用希望では61.0%が「利用したい」と回答されています。よって、強い潜在のニーズがあるものと考えられます。また、利用したい理由については「リフレッシュ目的」が43.4%と最も多いことから、レスパイトに係るニーズが強いことが推察されます。
- ・子どもが病気で通常の事業が利用できなかった過去1年間の経験が「あった」とする回答は、就学前児童及び就学児童において8～9割程度となっており、過去1年間の対処方法については、約7割が「母親が仕事を休んだ」となっており、「父親が仕事を休んだ」は約3割であることから、母親が担う姿が色濃くなっていることが伺えます。要因としては、フルタイム、パート・アルバイトといった就業形態のほか、性別役割意識による影響も考えられます。
- ・子どもが病気の際における病児・病後児保育事業の利用希望について、就学前児童の方が就学児童よりも強いニーズがあること、さらには、就学前児童において、0歳、1歳といった、より低い年齢層のニーズが強く見受けられます。一方、「利用したいと思わない」と回答した方（就学前児童：54.8%、就学児童：80.4%）における理由について、「病気の子どもを家族以外の人にみてもらうのは不安である」が68.7%と最も高いことから、病児・病後児保育事業に対する不安の解消をサービス改善、的確な情報発信より講じていくことが期待されます。
- ・就業前児童における小学校就学後の放課後の利用希望場所について、特に自宅で過ごすことや習い事が多くなっています。また、放課後児童会では、小学校1～3年生において約6割である一方、小学校4～6年生では約2.5割となっています。このことから、特に小学校生活における中学年から高学年については、放課後において、学校の友達と関わる機会が少なくなる可能性があると考えられます。
- ・就学児童における放課後児童会を利用している割合について、全体の傾向として捉えると、低学年は高く、高学年は低い（1年生：57.5%、6年生：0.0%）といえます。また、小学4年生以降の放課後の過ごし方について望むことを見てみると、「放課後児童会を利用したい」とする回答が約7割と、現在の利用傾向と照らし合わせると異なる結果となっております。その背景として、（平日に放課後児童会を利用している理由として保護者が働いているとする回答が97.3%であることから）特に母親の就業意向が関わっていると考えられます。

4. 第4章について

- ・ 育児休業の取得率を見てみると、母親、父親ともに前回調査時と比べて向上していることが確認できますが、特に男性については、母親と比べると取得率が5分の1程度と低い状況となっていることから、男性の取得率向上が望まれると言えます。その解決策について、育児休業を取らずに働いた理由に関する回答結果をもとに捉えてみると、まずは、職場を育児休業を取りやすい雰囲気にする、育児休業の取得が望まれる従業員がいる場合には、職場として業務調整するなど事業組織側における改善努力が考えられます。次は、「母親が育児休暇を取得する」といった性別役割担当意識に関する事柄について、育児休業の取得に関する偏った考えがある場合はそれを払拭したうえで夫婦間で話し合う機会を設けることが考えられます。また、それがなされるための意識啓発活動の強化も望まれると言えます。また、母親と育児休業について違う観点から捉えてみると、育児休業を取得する段階で「働いていなかった」とする方が32.6%、「育児休業を取らずに離職した」が9.7%となっています。特に「働いていなかった」とする方の一部は、育児休業を取得する時期が訪れる前の段階で離職した可能性も考えられます。これらの結果について、育児休業を取らずに離職した理由の回答結果と照らし合わせてみると、事業組織において育児休業制度に関する正しい認識を持つことと従業員に正しい情報を伝えること、子育てや家事に専念するのは母親、父親の両者が該当する可能性がある（偏りない捉え方をする）ことを理解することが母親の離職回避につながるものと考えます。
- ・ 就学前児童における仕事と子育ての両立について、子どもと一緒に過ごす時間では、平日は母親の方が父親よりも顕著に多く、休日はその差が小さくなるという結果について、父親の就業状況がフルタイムで働いているとする回答が9割であることから、平日は十分な時間を確保できない状況が見受けられます。父親自身も約5割が平日における子どもと一緒に過ごす時間は十分ではない旨の回答がなされ、また、就学児童の父親においても、子どもと一緒に過ごす時間の長さについては、約4割が十分ではない旨の回答がなされています。家事に費やす週平均の時間についても、就学前児童、就学児童ともに父親の方が圧倒的に短い状況です。仕事と子育ての両立で大変だと思ふことの設問において、「残業や出張が入ること」の回答が4割程度と相対的に多く、また「職場の理解や協力が得られないこと」の回答も2割程度となっていることから、事業組織における改善活動が望まれるほか、父親自身の仕事と家事の両立についての意識啓発も求められると考えられます。

5. 第5章について

- ・ 子どもの遊び場について、就学前児童において子どもが外出するときに困ることとして最も多いのが「買い物や用事などの合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」となっています。また、居住地域の子どもの遊び場の満足度では就学前児童、就学児童ともに「満

足している」が20%台前半となっていることから、その充実化が求められていると言えます。その方向性として、居住地域の子ども遊び場について感じることを、その回答結果を踏まえると、雨の日でも遊べる場所があること、遊具などの種類が充実していること、思い切り遊ぶための広さ（広さが確保できない場合はその工夫）があること、特に就学前児童においてはトイレやオムツ替え、親子利用への配慮がなされていること等が挙げられます。

- ・ 地域活動について就学児童に尋ねたところ、約3割が「参加していない」と回答しています。子どもにとって多様な活動を行うことは重要であるとされることから、その改善が求められます。改善の方向として、子どもが地域活動に参加していない理由の回答結果を踏まえると、参加の時間帯の拡充、参加者同士のネットワークづくり、地域活動の情報発信強化等が考えられます。
- ・ 充実を望む子育て支援サービスの回答結果を総じて見てみると、親子が安心して外へ出かけて仲間と集える、子どもを必要なときに預けることができる施設がある、子どもの安全が確保されている、ケガをしたとき、病気になったときも安心して医療機関にかかれる、経済的な負担が抑えられるといったことが特に強く望まれることが見受けられます。